

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン キタトケンキョウシヨ 学校法人 北里研究所								
フリガナ大学の名称	キタトダウガク 北里大学 (Kitasato University)								
大学本部の位置	東京都港区白金5丁目9番1号								
大学の目的	本大学は、北里柴三郎博士の精神に則り、生命科学及び医療科学分野における学術研究と人材育成を通して、広く社会の発展のために寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	地域の医師確保等に早急に対応するため、医学部入学定員を増加し、下記地域の医師不足解消に貢献することを目的とする。 (計16人：茨城県4人、埼玉県2人、神奈川県5人、新潟県3人、山梨県2人)								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	※令和5年9月収容定員変更届出予定 医学部医学科の今回の16名の入学定員の増員は令和6年度のみ臨時定員増である。また、医学部医学科の令和5年度における収容定員は719人である
	薬学部 薬学科(6年制)	6年	260人	—年次人	1,560人	学士(薬学)	平成18年4月第1年次	東京都港区白金5丁目9番1号 神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号(1年次)	
	生命創薬科学科	4	35	—	140	学士(薬科学)	平成18年4月第1年次	同上	
	獣医学部 獣医学科	6	120	—	720	学士(獣医学)	平成19年4月第1年次	青森県十和田市東二十三番町東二十三番町35番1号 神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号(1年次)	
	動物資源科学科	4	110(130)	—	440(520)	学士(農学)	平成19年4月第1年次	同上	
	生物環境科学科	4	90	—	360	学士(農学)	平成19年4月第1年次	神奈川県相模原市南区北里2丁目1番1号	
	医学部 医学科	6	126(110)	—	676(660)	学士(医学)	令和6年4月第1年次	神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号	
	海洋生命科学部 海洋生命科学科	4	180	—	720	学士(水産学)	平成12年4月第1年次	神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号	
	看護学部 看護学科	4	125	—	500	学士(看護学)	昭和61年4月第1年次	神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号	
	理学部 物理学科	4	53	—	212	学士(理学)	平成6年4月第1年次	神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号	
	化学科	4	80	—	320	学士(理学)	平成6年4月第1年次	同上	
	生物科学科	4	80	—	320	学士(理学)	平成6年4月第1年次	同上	

(人)	入学定員	収容定員
令和5年度	125	719
令和6年度	126	726
令和7年度	110	717
令和8年度	110	709
令和9年度	110	701
令和10年度	110	691
令和11年度	110	676
令和12年度	110	660

新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
医療衛生学部 保健衛生学科		4	40	—	160	学士(保健衛生学)	平成18年4月 第1年次	神奈川県相模原市南区 北里1丁目15番1号	
医療検査学科		4	105	—	420	学士(医療検査学)	平成18年4月 第1年次	同上	
医療工学科								同上	
臨床工学専攻		4	45	—	180	学士(臨床工学)	平成6年4月 第1年次	同上	
診療放射線技術科学専攻		4	70	—	280	学士(診療放射線技術科学)		同上	
リハビリテーション学科							平成6年4月 第1年次	同上	
理学療法専攻		4	45	—	180	学士(理学療法)			
作業療法専攻		4	40	—	160	学士(作業療法)			
言語聴覚療法専攻		4	30	—	120	学士(言語聴覚療法)			
視覚機能療法専攻		4	30	—	120	学士(視覚機能療法)			
未来工学部 データサイエンス学科		4	120 (100)	— —	480 (400)	学士(工学)	令和5年4月 第1年次	神奈川県相模原市南区 北里1丁目15番1号	※令和5年9月収容定員変更届出予定
健康科学部 看護学科		4	80 (0)	—	320 (0)	学士(看護学)	令和6年4月 第1年次	新潟県南魚沼市 黒土新田500	※令和5年8月収容定員変更認可／学部設置届出受理
医療検査学科		4	80 (0)	—	320 (0)	学士(医療検査学)	令和6年4月 第1年次	同上	
計			1,944 (1,768)	—	8,708 (8,052)				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		<p>未来工学研究科生命データサイエンス専攻修士課程(10) (令和5年3月認可申請) ※令和5年9月設置認可</p> <p>健康科学部(令和5年6月収容定員変更認可申請／学部設置届出) 看護学科 [定員増] (80) 医療検査学科 [定員増] (80) ※令和5年8月収容定員変更認可／学部設置届出受理</p> <p>北里大学保健衛生専門学院(併設校／専修学校) 臨床検査技師養成科(△80) 管理栄養科(△80) 保健看護科(△80) ※令和6年4月学生募集停止</p> <p>獣医学部動物資源科学科 [定員減] (△20) (令和6年4月) 未来工学部データサイエンス学科 [定員増] (20) (令和6年4月) ※令和5年9月収容定員変更届出予定</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	-	- 科目	- 科目	- 科目	- 科目	- 単位			

教 員 組 設 織 の 分	学 部 等 の 名 称	専任教員等					兼 任 教 員 等	
		教授	准教授	講師	助教	計		助手
新	薬学部 薬学科	18人 (18)	12人 (12)	25人 (25)	53人 (53)	108人 (108)	0人 (0)	271人 (271)
	薬学部 生命創薬科学科	4人 (4)	1人 (1)	4人 (4)	9人 (9)	18人 (18)	0人 (0)	98人 (98)
新	獣医学部 獣医学科	17人 (17)	12人 (12)	12人 (12)	8人 (8)	49人 (49)	1人 (1)	35人 (35)
	獣医学部 動物資源科学科	6人 (6)	7人 (7)	4人 (4)	2人 (2)	19人 (19)	0人 (0)	44人 (44)
新	獣医学部 生物環境科学科	5人 (5)	4人 (4)	1人 (1)	1人 (1)	11人 (11)	0人 (0)	38人 (38)
	獣医学部 その他	1人 (1)	2人 (2)	2人 (2)	3人 (3)	8人 (8)	0人 (0)	0人 (0)
新	医学部 医学科	71人 (71)	36人 (36)	119人 (119)	243人 (243)	469人 (469)	0人 (0)	263人 (263)
	海洋生命科学部 海洋生命科学科	10人 (10)	8人 (8)	10人 (10)	3人 (3)	31人 (31)	0人 (0)	27人 (27)
新	海洋生命科学部 その他	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	1人 (0)	1人 (1)	0人 (0)
	看護学部 看護学科	12人 (12)	8人 (8)	10人 (10)	14人 (14)	44人 (44)	0人 (0)	121人 (121)
新	看護学部 その他	1人 (1)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)
	理学部 物理学科	4人 (4)	2人 (2)	7人 (7)	0人 (0)	13人 (13)	0人 (0)	18人 (18)
新	理学部 化学科	4人 (4)	4人 (4)	4人 (4)	5人 (5)	17人 (17)	0人 (0)	33人 (33)
	理学部 生物科学科	4人 (4)	2人 (2)	5人 (5)	4人 (4)	15人 (15)	0人 (0)	38人 (38)
新	理学部 その他	1人 (1)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	2人 (2)	0人 (0)	1人 (1)
	医療衛生学部 保健衛生学科	4人 (4)	4人 (4)	3人 (3)	1人 (1)	12人 (12)	0人 (0)	43人 (43)
新	医療衛生学部 医療検査学科	8人 (8)	1人 (1)	4人 (4)	5人 (5)	18人 (18)	0人 (0)	142人 (142)
	医療衛生学部 医療工学科 臨床工学専攻	4人 (4)	2人 (2)	4人 (4)	2人 (2)	12人 (12)	0人 (0)	79人 (79)
新	医療衛生学部 医療工学科 診療放射線技術科学専攻	4人 (4)	3人 (3)	3人 (3)	3人 (3)	13人 (13)	0人 (0)	83人 (83)
	医療衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	4人 (4)	3人 (3)	5人 (5)	1人 (1)	13人 (13)	0人 (0)	87人 (87)
新	医療衛生学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	3人 (3)	1人 (1)	3人 (3)	2人 (2)	9人 (9)	1人 (1)	61人 (61)
	医療衛生学部 リハビリテーション学科 言語聴覚療法学専攻	3人 (3)	0人 (0)	3人 (3)	3人 (3)	9人 (9)	0人 (0)	70人 (70)
新	医療衛生学部 リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻	3人 (3)	3人 (3)	2人 (2)	0人 (0)	8人 (8)	1人 (1)	53人 (53)
	医療衛生学部 その他	4人 (4)	4人 (4)	6人 (6)	4人 (4)	18人 (18)	0人 (0)	0人 (0)
新	未来工学部 データサイエンス学科	8人 (6)	3人 (3)	3人 (2)	3人 (3)	17人 (14)	0人 (0)	129人 (121)
	健康科学部 看護学科	6人 (6)	1人 (0)	7人 (6)	1人 (1)	15人 (13)	4人 (4)	41人 (15)
新	健康科学部 医療検査学科	7人 (8)	0人 (0)	4人 (4)	5人 (5)	16人 (17)	1人 (1)	65人 (22)
	計	217人 (216)	125人 (124)	250人 (248)	375人 (375)	967人 (963)	9人 (9)	— (—)

※令和5年8月収容定員変更認可/学部設置届出受理

概	既	一般教育部 自然科学教育センター	5人 (5)	6人 (6)	9人 (9)	2人 (2)	22人 (22)	0人 (0)	9人 (9)
		一般教育部 人間科学教育センター	5人 (5)	6人 (6)	4人 (4)	0人 (0)	15人 (15)	0人 (0)	51人 (51)
		一般教育部 基礎教育センター	5人 (5)	7人 (7)	6人 (6)	0人 (0)	18人 (18)	0人 (0)	39人 (39)
		健康管理センター	1人 (1)	1人 (1)	2人 (2)	5人 (5)	9人 (9)	0人 (0)	0人 (0)
	設	看護キャリア開発・研究センター	0人 (0)	0人 (0)	1人 (1)	0人 (0)	1人 (1)	0人 (0)	100人 (100)
		教職課程センター	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	2人 (2)
		北里大学	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)
		計	18人 (18)	20人 (20)	22人 (22)	7人 (7)	67人 (67)	0人 (0)	— (—)
要	合計	235人 (234)	145人 (144)	272人 (270)	382人 (382)	1,034人 (1030)	9人 (9)	— (—)	
	職 種	専 任		兼 任		計			
教員以外の職員の概要	事務職員	313人 (313)		136人 (136)		449人 (449)			
	技術職員	93人 (93)		98人 (98)		191人 (191)			
	図書館専門職員	20人 (20)		11人 (11)		31人 (31)			
	その他の職員	20人 (20)		27人 (27)		47人 (47)			
	計	446人 (446)		272人 (272)		718人 (718)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		
	校 舎 敷 地	599,917.56㎡	0 ㎡	0 ㎡	599,917.56㎡		
	運 動 場 用 地	115,088.00㎡	0 ㎡	0 ㎡	103,528.00㎡		
	小 計	715,005.56㎡	0 ㎡	0 ㎡	715,005.56㎡		
	そ の 他	11,228,317.19㎡	0 ㎡	0 ㎡	11,228,317.19㎡		
合 計	11,943,322.75㎡	0 ㎡	0 ㎡	11,943,322.75㎡			
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	北里大学保健衛生専門学院（専修学校）と共用 令和6年度収容定員：670人 専修学校設置基準校舎面積：2,360㎡ ※北里大学保健衛生専門学院は令和9年度に廃止予定。	
		254,224.57 ㎡ (241,068.53㎡)	0 ㎡ (10,950.81㎡)	0 ㎡ (2,205.23㎡)	254,224.57 ㎡ (254,224.57㎡)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体	
	197室	102室	298室	14室 (補助職員 4人)	3室 (補助職員 5人)		
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数			
		大学全体		696 室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点
	大学全体	340,548 [53,539] (340,548 [53,539])	243,849 [139,593] (243,849 [139,593])	58,996 [44,179] (58,996 [44,179])	5,506 (5,506)	45,756 (45,756)	149,787 (149,787)
	計	340,548 [53,539] (340,548 [53,539])	243,849 [139,593] (243,849 [139,593])	58,996 [44,179] (58,996 [44,179])	5,506 (5,506)	45,756 (45,756)	149,787 (149,787)
図書館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		
		8,133.65㎡	1,290		742,575		
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体
		11,452.81㎡	○相模原地区 ・野球場 1面 ・テニスコート 7面 ・サッカーコート2面 ・ラグビーコート1面 ・陸上競技場 1面 ・ゴルフ練習場 1箇所 ・弓道場 1箇所		○十和田地区 ・テニスコート 2面 ・馬場 1箇所 ○新潟地区 ・テニスコート 2面		

経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※大学全体 ※図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。	
	教員1人当り研究費等		926千円	926千円	926千円	926千円	926千円	926千円		
	共同研究費等		1,264,411千円	1,264,411千円	1,264,411千円	1,264,411千円	1,264,411千円	1,264,411千円		
	図書購入費	573,407千円								
	設備購入費	1,899,990千円	2,662,550千円	669,550千円	550,550千円	550,550千円	550,550千円	550,550千円		
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	千円	千円	千円	千円	千円	千円				
経費の見積り及び維持方法の概要	薬学部									
	薬学科	2,350千円	2,050千円	2,050千円	2,050千円	2,050千円	2,050千円	2,050千円		
	薬学科 (2年次編入)	—	2,450千円	2,050千円	2,050千円	2,050千円	2,050千円	2,050千円		
	生命創薬科学科	2,070千円	1,670千円	1,670千円	1,670千円	—	—	—		
	生命創薬科学科 (2年次編入)	—	2,070千円	1,670千円	1,670千円	—	—	—		
	獣医学部									
	獣医学科	2,330千円	2,130千円	2,130千円	2,130千円	2,130千円	2,130千円	2,130千円		
	獣医学科 (2年次学士入学)	—	2,430千円	2,130千円	2,130千円	2,130千円	2,130千円	2,130千円		
	動物資源科学科	1,350千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	—	—	—		
	生物環境科学科	1,350千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	—	—	—		
	医学部	9,000千円	6,400千円	6,400千円	5,700千円	5,700千円	5,700千円			
	医学部 (1年次9月学士入学)	5,870千円	6,400千円	6,400千円	5,700千円	5,700千円	5,700千円			
	海洋生命科学部	1,400千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	—	—			
	看護学部	1,900千円	1,700千円	1,700千円	1,700千円	—	—			
	理学部									
	物理学科	1,663千円	1,513千円	1,513千円	1,513千円	—	—			
	化学科	1,663千円	1,513千円	1,513千円	1,513千円	—	—			
	生物科学科	1,713千円	1,613千円	1,613千円	1,613千円	—	—			
	医療衛生学部	1,800千円	1,750千円	1,750千円	1,750千円	—	—			
	医療衛生学部 (2年次編入)	—	1,950千円	1,750千円	1,750千円	—	—			
医療衛生学部 (3年次編入)	—	—	1,950千円	1,750千円	—	—				
医療衛生学部 (4年次編入)	—	—	—	1,950千円	—	—				
未来工学部	1,650千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	—	—				
健康科学部										
看護学科	1,800千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	—	—				
医療検査学科	1,700千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	—	—				

※令和5年8月収容定員変更認可/学部設置届出受理

薬学研究科修士課程	850千円	650千円	—	—	—	—	
薬学研究科博士課程							
薬学専攻	950千円	750千円	750千円	750千円	—	—	
薬科学専攻	950千円	750千円	750千円	—	—	—	
獣医学系研究科修士課程	650千円	450千円	—	—	—	—	
獣医学系研究科博士課程							
獣医学専攻	650千円	450千円	450千円	450千円	—	—	
動物資源科学専攻	650千円	450千円	450千円	—	—	—	
海洋生命科学研究科修士課程	800千円	550千円	—	—	—	—	
海洋生命科学研究科博士課程	800千円	550千円	550千円	—	—	—	
看護学研究科修士課程 (看護学研究コース)	830千円	630千円	—	—	—	—	
看護学研究科修士課程 (高度実践看護学コース)	950千円	750千円	—	—	—	—	
看護学研究科博士課程	950千円	750千円	750千円	—	—	—	
理学研究科修士課程	950千円	750千円	—	—	—	—	
理学研究科博士課程	950千円	750千円	750千円	—	—	—	
医療系研究科修士課程 (臨床心理学コース以外)	985千円	785千円	—	—	—	—	
医療系研究科修士課程 (臨床心理学コース)	1,150千円	950千円	—	—	—	—	
医療系研究科博士課程	985千円	785千円	785千円	785千円	—	—	
感染制御科学府修士課程	950千円	750千円	—	—	—	—	
感染制御科学府博士課程	950千円	750千円	750千円	—	—	—	
未来工学研究科修士課程	950千円	750千円	—	—	—	—	※令和5年8月設置認可

既設大学等の状況	大学の名称		北里大学					開設年度	所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率			
		年	人	年次人	人		倍			
	薬学部		295	—	1,700		1.02		東京都港区白金5丁目9番1号	
	薬学科	6	260	—	1,560	学士(薬学)	1.02	平成18年度		
	生命創薬科学科	4	35	—	140	学士(薬科学)	1.04	平成18年度	神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号(1年次)	
	獣医学部		340		1,600		0.94		青森県十和田市東二十三番町35番1号	
	獣医学科	6	120	—	720	学士(獣医学)	1.09	平成19年度		
	動物資源科学科	4	130	—	520	学士(農学)	0.92	平成19年度	神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号(1年次)	
	生物環境科学科	4	90	—	360	学士(農学)	0.68	平成19年度		
	医学部								神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号	令和2～5年度のみ臨時入学定員減(△1人)
	医学科	6	125	—	719	学士(医学)	1.03	昭和45年度		令和2～3年度のみ臨時入学定員増(9人)
	海洋生命科学部								神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号	令和4年度のみ臨時入学定員増(11人)
	海洋生命科学科	4	180	—	720	学士(水産学)	1.08	平成12年度		令和5年度のみ臨時入学定員増(16人)
	看護学部								神奈川県相模原市南区北里2丁目1番1号	
	看護学科	4	125	—	500	学士(看護学)	1.05	昭和61年度		
	理学部		213	—	852		1.07		神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号	
	物理学科	4	53	—	212	学士(理学)	1.05	平成6年度		
	化学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.10	平成6年度		
	生物科学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.07	平成6年度		
	医療衛生学部		405	—	1,620		1.05		神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号	
	保健衛生学科	4	40	—	160	学士(保健衛生学)	1.05	平成18年度		
	医療検査学科	4	105	—	420	学士(医療検査学)	1.05	平成18年度		
	医療工学科		115	—	460		1.05	平成6年度		
	臨床工学専攻	4	45	—	180	学士(臨床工学)	1.04			
	診療放射線技術学専攻	4	70	—	280	学士(診療放射線技術科学)	1.05			
	リハビリテーション学科		145	—	580		1.05	平成6年度		
	理学療法学専攻	4	45	—	180	学士(理学療法学)	1.06			
	作業療法学専攻	4	40	—	160	学士(作業療法学)	1.03			
	言語聴覚療法学専攻	4	30	—	120	学士(言語聴覚療法学)	1.06			
	視覚機能療法学専攻	4	30	—	120	学士(視覚機能療法学)	1.03			
	未来工学部								神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号	令和5年度開設(100)
	データサイエンス学科	4	100	—	100	学士(工学)	1.05	令和5年度		

大学の名称	北里大学大学院								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	薬学研究科 薬科学専攻修士課程	2	25	—	50	修士（薬科学） 修士（臨床統計学） 修士（医薬開発学）	1.48	平成22年度	東京都港区白金5丁目9番1号
	薬科学専攻博士後期課程	3	6	—	18	博士（薬科学） 博士（臨床統計学） 博士（医薬開発学）	1.27	平成24年度	
	薬学専攻博士課程	4	3	—	12	博士（薬学）	0.83	平成24年度	
	獣医学系研究科 動物資源科学専攻修士課程	2	5	—	10	修士（農学）	1.70	昭和45年度	青森県十和田市東二十三番町35番1号
	生物環境科学専攻修士課程	2	5	—	10	修士（農学）	0.40	昭和62年度	
	動物資源科学専攻博士後期課程	3	3	—	9	博士（農学）	0.77	昭和47年度	
	獣医学専攻博士課程	4	3	—	12	博士（獣医学）	1.50	平成2年度	
	海洋生命科学系研究科 海洋生命科学専攻修士課程	2	21	—	33	修士（水産学）	1.87	平成12年度	神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号
	海洋生命科学専攻博士後期課程	3	3	—	9	博士（水産学）	0.77	平成12年度	
	看護学研究科 看護学専攻修士課程	2	15	—	30	修士（看護学）	1.13	平成2年度	神奈川県相模原市南区北里2丁目1番1号
	看護学専攻博士後期課程	3	4	—	12	博士（看護学）	1.16	平成9年度	
	理学研究科 分子科学専攻修士課程	2	14	—	28	修士（理学） 修士（生命科学）	1.17	平成10年度	神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号
	生物科学専攻修士課程	2	11	—	22	修士（理学） 修士（生命科学）	0.95	平成10年度	
	分子科学専攻博士後期課程	3	2	—	6	博士（理学） 博士（生命科学）	0.16	平成10年度	
	生物科学専攻博士後期課程	3	3	—	9	博士（理学） 博士（生命科学）	0.55	平成10年度	
	医療系研究科 医科学専攻修士課程	2	40	—	80	修士（医科学） 修士（医療科学）	1.85	平成10年度	神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号
	医学専攻博士課程	4	40	—	160	博士（医学） 博士（医科学）	0.81	平成10年度	
	感染制御科学府 感染制御科学専攻修士課程	2	18	—	36	修士（感染制御科学） 修士（生命科学）	1.30	平成14年度	東京都港区白金5丁目9番1号
	感染制御科学専攻博士後期課程	3	4	—	12	博士（感染制御科学） 博士（生命科学）	0.50	平成16年度	

令和5年度入学定員増(9人)

附属施設の概要

名称：北里大学病院
 目的：大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）に定める大学病院及び医療法（昭和23年法律第205号）に定める特定機能病院として、高度な医療の提供、高度な医療技術の開発及び評価並びに医療に関する教育、研修等の諸活動を遂行し、地域医療及び広く人類の健康福祉に貢献する。
 所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
 設置年月：昭和46年4月5日
 規模等：地上14階地下1階 92,776㎡
 診療科 33科
 病床数 1,185床
 外来患者数 2,444.4人／日
 入院患者数 819.0人／日

名称：北里大学北里研究所病院
 目的：医療法による医療機関として北里医学の原点である土筆ヶ岡養生園以来の伝統を継承し、臨床・教育・研究・危機管理の高次の均衡ある医療を実現し、医療全体の発展に寄与する。
 所在地：東京都港区白金五丁目9番1号
 設置年月：平成20年4月1日
 規模等：地上10階地下2階 24,796㎡
 診療科 22科
 病床数 329床
 外来患者数 772.9人／日
 入院患者数 144.3人／日

名称：北里大学メディカルセンター
 目的：医療法による医療機関として地域の医療を担い、また、教育及び研究の施設としての任務を果たすとともに、広く人類の健康福祉に関する学術の研究発展に寄与する。
 所在地：埼玉県北本市荒井6丁目100番地
 設置年月：平成20年4月1日
 規模等：地上6階地下2階 30,770.79㎡
 診療科 24科
 病床数 372床
 外来患者数 649.5人／日
 入院患者数 222.3人／日

名称：北里大学図書館 北里大学白金図書館
 目的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。
 所在地：東京都港区白金五丁目9番1号
 設置年月：昭和39年4月1日
 規模等：面積 1,086.84㎡
 閲覧席数 182席 蔵書数 82,462冊

名称：北里大学図書館 北里大学獣医学部図書館
 目的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。
 所在地：青森県十和田市東二十三番町35番1号
 設置年月：昭和51年3月31日
 規模等：面積 1,302.87㎡
 閲覧席数 222席 蔵書数 28,852冊

名称：北里大学図書館 北里大学医学図書館
 目的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。
 所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
 設置年月：昭和45年6月23日
 規模等：面積 3,042.20㎡
 閲覧席数 486席 蔵書数 52,283冊

名称：北里大学図書館 北里大学海洋生命科学部図書館
 目的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。
 所在地：岩手県大船渡市三陸町越喜来字烏頭160番地4
 設置年月：昭和47年4月1日
 規模等：面積 58.55㎡
 閲覧席数 117席 蔵書数 6,227冊

名称：北里大学図書館 北里大学看護学部図書館
目的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。
所在地：神奈川県相模原市南区北里二丁目1番1号
設置年月：昭和61年4月1日
規模等：面積 430.80㎡
閲覧席数 58席 蔵書数 17,905冊

名称：北里大学図書館 北里大学理学部図書館
目的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成10年4月1日
規模等：面積 314.70㎡
閲覧席数 76席 蔵書数 31,401冊

名称：北里大学図書館 北里大学健康科学部図書館
目的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。
所在地：新潟県南魚沼市黒土新田500
設置年月：令和6年4月1日
規模等：面積 484.78㎡
閲覧席数 76席 蔵書数 22,334冊

名称：北里大学図書館 北里大学教養図書館
目的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：昭和43年4月1日
規模等：面積 1,500.04㎡
閲覧席数 190席 蔵書数 105,311冊

名称：北里大学図書館 北里大学臨床教育研究棟図書館（医学図書館分館）
目的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成29年9月4日
規模等：面積 924.58㎡
閲覧席数 245席 蔵書数 11,500冊

名称：大村智記念研究所
目的：感染症と付随する各種重要疾病の原因・予防・治療法に関する研究と教育を行う。
所在地：東京都港区白金五丁目9番1号
設置年月：平成13年4月1日

名称：北里大学感染制御教育研究センター
目的：感染制御に関する世界最高水準の研究・教育拠点の形成を通じ、学内横断的に感染症の制圧に取組み、もって社会に貢献する。
所在地：東京都港区白金五丁目9番1号
設置年月：令和5年4月1日

名称：北里大学入学センター
目的：学生の入学に関する調査研究，入学試験の実施、学生募集にかかる広報を行う。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成15年7月12日

名称：北里大学健康管理センター
目的：学生及び教職員に係る保健管理・健診事業を実施する。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成13年3月16日

名称：北里大学高等教育開発センター
目的：学士課程教育プログラムや教材の開発及び教育活動の継続的な改善の推進・支援を行う。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成19年4月1日

名称：北里大学農医連携教育開発センター
目的：食糧生産にかかわる農学と人間の健康増進に関わる人材を育成する。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成25年4月1日

名称：北里大学教職課程センター
目的：大学及び大学院の教職課程の基本方針を企画・立案・検討し、教職課程教育の充実及び発展に寄与する。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成25年4月1日

名称：北里大学看護キャリア開発・研究センター
目的：地域看護職者のキャリア支援ならびに看護実践の向上に資する研究事業を実施する。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成19年4月1日

名称：北里大学附属臨床心理相談センター
目的：地域住民の様々なこころの問題などについて相談を受ける。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成24年4月1日

名称：八雲総合実習所
目的：学生の正課教育・課外活動等に利用する。
所在地：北海道二海郡八雲町上八雲751番地
設置年月：昭和53年7月23日
規模等：鉄筋コンクリート造5階建 1,336.98㎡

名称：薬学部附属薬用植物園
目的：標本園、試験圃場及び附属建物を設け、薬用植物に関連する調査及び研究を行うとともに、薬学部及び大学院薬学研究科の教育及び研究に寄与する。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：昭和47年7月1日
規模等：園地 4,826.0㎡
ドーム型温室 145.72㎡
温室管理棟 509.22㎡
植栽植物 891点
生薬・さく葉標本 18,739点

名称：薬学部附属医薬研究施設
目的：医薬品の研究を行う。
所在地：東京都港区白金五丁目9番1号
設置年月：昭和50年9月1日

名称：薬学部附属臨床薬学研究・教育センター
目的：臨床薬学教育を推進する。
所在地：東京都港区白金五丁目9番1号
設置年月：平成7年4月1日

名称：薬学部附属環境管理センター
目的：化学薬品、特に有害化学物質、毒・劇物危険物の管理などを行う。
所在地：東京都港区白金五丁目9番1号
設置年月：平成7年4月1日

名称：薬学部附属東洋医学総合研究所
目的：東洋医学の研究・教育を行うとともに、広く人類の健康福祉に貢献する。
なお、改組に伴い北里大学附属から薬学部附属となった。
所在地：東京都港区白金五丁目9番1号
設置年月：令和5年4月1日

名称：獣医学部附属動物病院
目的：獣医学の教育及び研究の施設としての機能を果たすため、動物の診療を行うとともに、地域社会に貢献する。
所在地：青森県十和田市東二十三番町35番1号
設置年月：昭和43年9月1日
規模等：V10号館 7,693.25㎡内
患畜頭数 13,526頭/年

名称：獣医学部附属フィールドサイエンスセンター 十和田農場
目的：獣医学部の附属教育研究施設として土地、動物、植物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与する。
所在地：青森県十和田市東二十三番町35番1号
設置年月：平成13年4月1日
規模等：農場 112,911.00㎡
飼育家畜数 139頭

名称：獣医学部附属フィールドサイエンスセンター 八雲牧場
目的：獣医学部の附属教育研究施設として土地、動物、植物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与する。
所在地：北海道二海郡八雲町上八雲751番地
設置年月：昭和51年4月
規模等：牧場3,521,932.19㎡
飼育家畜数 377頭

名称：獣医学部附属獣医臨床試験センター
目的：獣医学部附属動物病院における治験を行い、獣医療の質の向上に資する科学的根拠を創り出す治験及び臨床研究を推進、実施する。
所在地：青森県十和田市東二十三番町35番1号
設置年月：令和3年8月1日

名称：医学部附属遺伝子高次機能解析センター
目的：遺伝子高次機構解析を中核とした生命科学領域の基礎研究・応用研究と高度専門教育を行う。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成17年4月1日

名称：医学部附属バイオイメージング研究センター
目的：細胞レベルの形態および体内の活性標的分子の挙動等の解析を中核とした生命科学領域の基礎研究・応用研究を行う。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成18年4月1日

名称：医学部附属医学教育研究開発センター
目的：医学教育を取巻く変革の現状を踏まえて、時代に則した卒前・卒後の臨床医学教育の研究開発を行い、もって医学教育の発展と向上に寄与する。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成17年4月1日

名称：医学部附属臨床研究センター
目的：医療の質向上に資する治験及び臨床研究の推進と人材育成を行う。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成20年4月1日

名称：医学部附属新世紀医療開発センター
目的：先端医療領域開発部門と横断的医療開発部門を置き、臨床教育の活性化を図る。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成25年4月1日

名称：海洋生命科学部附属三陸臨海教育研究センター
目的：三陸海域の生態系・海洋環境及び海洋生物の生産・有効活用に関する総合的な研究の推進を行う。
所在地：岩手県大船渡市三陸町越喜来字烏頭160-4
設置年月：平成26年4月1日

名称：理学部附属疾患プロテオミクス・センター
目的：網羅的モノクローナル抗体作製、抗体産生細胞バンク確立、抗体医薬開発の基礎研究等を行う。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成17年4月1日

名称：医療衛生学部附属再生医療・細胞デザイン研究施設
目的：再生医療及び細胞治療の基礎技術の研究開発及び教育並びに実験動物による研究開発及び教育を行う。
所在地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成18年4月1日

学校法人北里研究所 設置認可等に関する組織の移行表

令和5年度

	入学定員	編入学定員			収容定員
		2年次	3年次	4年次	
薬学部					
薬学科(6年制)	260	-	-	-	1,560
生命創薬科学科	35	-	-	-	140
獣医学部					
獣医学科(6年制)	120	-	-	-	720
動物資源科学科	130	-	-	-	520
生物環境科学科	90	-	-	-	360
医学部(6年制)	110	-	-	-	660
海洋生命科学部	180	-	-	-	720
看護学部	125	-	-	-	500
理学部					
物理学科	53	-	-	-	212
化学科	80	-	-	-	320
生物科学科	80	-	-	-	320
医療衛生学部					
保健衛生学科	40	-	-	-	160
医療検査学科	105	-	-	-	420
医療工学科					
臨床工学専攻	45	-	-	-	180
診療放射線技術科学専攻	70	-	-	-	280
リハビリテーション学科					
理学療法専攻	45	-	-	-	180
作業療法専攻	40	-	-	-	160
言語聴覚療法専攻	30	-	-	-	120
視覚機能療法専攻	30	-	-	-	120
未来工学部					
データサイエンス学科	100	-	-	-	400
大学全体	1,768	-	-	-	8,052

令和6年度

	入学定員	編入学定員			収容定員	変更の事由
		2年次	3年次	4年次		
薬学部						
薬学科(6年制)	260	-	-	-	1,560	
生命創薬科学科	35	-	-	-	140	
獣医学部						
獣医学科(6年制)	120	-	-	-	720	
動物資源科学科	110	-	-	-	440	定員変更(▲20) 【令和5年9月届出予定】
生物環境科学科	90	-	-	-	360	
医学部(6年制)	126	-	-	-	676	定員変更(16)※
海洋生命科学部	180	-	-	-	720	
看護学部	125	-	-	-	500	
理学部						
物理学科	53	-	-	-	212	
化学科	80	-	-	-	320	
生物科学科	80	-	-	-	320	
医療衛生学部						
保健衛生学科	40	-	-	-	160	
医療検査学科	105	-	-	-	420	
医療工学科						
臨床工学専攻	45	-	-	-	180	
診療放射線技術科学専攻	70	-	-	-	280	
リハビリテーション学科						
理学療法専攻	45	-	-	-	180	
作業療法専攻	40	-	-	-	160	
言語聴覚療法専攻	30	-	-	-	120	
視覚機能療法専攻	30	-	-	-	120	
未来工学部						
データサイエンス学科	120	-	-	-	480	定員変更(20) 【令和5年9月届出予定】
健康科学部 学部の設置(届出)						
看護学科	80	-	-	-	320	
医療検査学科	80	-	-	-	320	
大学全体	1,944	-	-	-	8,708	

※医学部の収容定員は、基本計画書「新設学部等の概要」の数値に合わせている。

令和5年度

北里大学大学院	入学定員	編入学定員	収容定員
薬学研究科			
薬科学専攻(M)	25	-	50
薬学専攻(4年制D)	3	-	12
薬科学専攻(D)	6	-	18
獣医学系研究科			
動物資源科学専攻(M)	5	-	10
生物環境科学専攻(M)	5	-	10
獣医学専攻(4年制D)	3	-	12
動物資源科学専攻(D)	3	-	9
海洋生命科学研究所			
海洋生命科学専攻(M)	21	-	42
海洋生命科学専攻(D)	3	-	9
看護学研究科			
看護学専攻(M)	15	-	30
看護学専攻(D)	4	-	12
理学研究科			
分子科学専攻(M)	14	-	28
生物科学専攻(M)	11	-	22
分子科学専攻(D)	2	-	6
生物科学専攻(D)	3	-	9
医療系研究科			
医科学専攻(M)	40	-	80
医学専攻(4年制D)	40	-	160
感染制御科学府			
感染制御科学専攻(M)	18	-	36
感染制御科学専攻(D)	4	-	12

計	225	-	567
---	-----	---	-----

令和5年度

北里大学 保健衛生専門学院	入学定員	編入学定員	収容定員
臨床検査技師養成科(3年制)	80	-	240
管理栄養科(4年制)	80	-	320
保健看護科(4年制)	80	-	320
臨床工学専攻科(1年制)	30	-	30
計	270	-	910

令和5年度

北里大学 看護専門学校	入学定員	編入学定員	収容定員
看護学科(3年制)	40	-	120
計	40	-	120

令和6年度

北里大学大学院	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
薬学研究科				
薬科学専攻(M)	25	-	50	
薬学専攻(4年制D)	3	-	12	
薬科学専攻(D)	6	-	18	
獣医学系研究科				
動物資源科学専攻(M)	5	-	10	
生物環境科学専攻(M)	5	-	10	
獣医学専攻(4年制D)	3	-	12	
動物資源科学専攻(D)	3	-	9	
海洋生命科学研究所				
海洋生命科学専攻(M)	21	-	42	
海洋生命科学専攻(D)	3	-	9	
看護学研究科				
看護学専攻(M)	15	-	30	
看護学専攻(D)	4	-	12	
理学研究科				
分子科学専攻(M)	14	-	28	
生物科学専攻(M)	11	-	22	
分子科学専攻(D)	2	-	6	
生物科学専攻(D)	3	-	9	
医療系研究科				
医科学専攻(M)	40	-	80	
医学専攻(4年制D)	40	-	160	
感染制御科学府				
感染制御科学専攻(M)	18	-	36	
感染制御科学専攻(D)	4	-	12	
未来工学研究科 研究科の設置(認可申請)				
生命データサイエンス専攻(M)	10	-	20	

計	235	-	587	
---	-----	---	-----	--

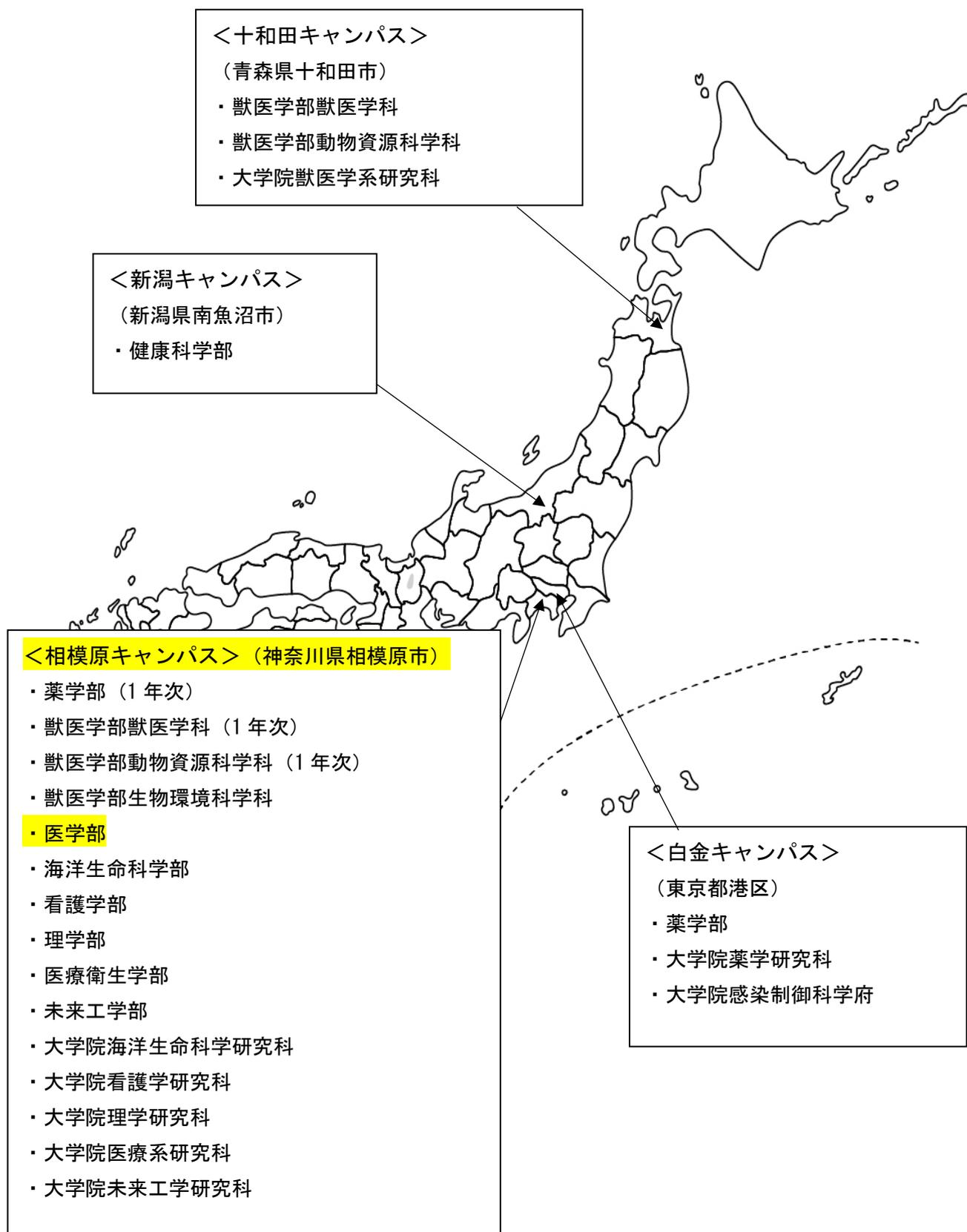
令和6年度

北里大学 保健衛生専門学院	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
臨床検査技師養成科(3年制)	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
管理栄養科(4年制)	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
保健看護科(4年制)	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
臨床工学専攻科(1年制)	30	-	30	
計	30	-	30	

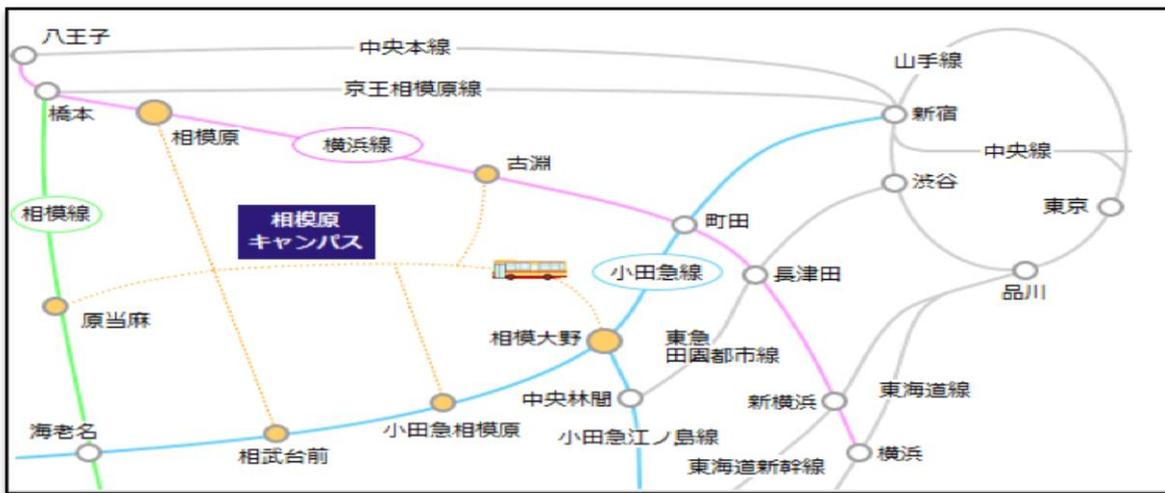
令和6年度

北里大学 看護専門学校	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
看護学科(3年制)	40	-	120	
計	40	-	120	

都道府県内における位置関係の図面



最寄り駅からの距離,交通機関及び所要時間が分かる図面



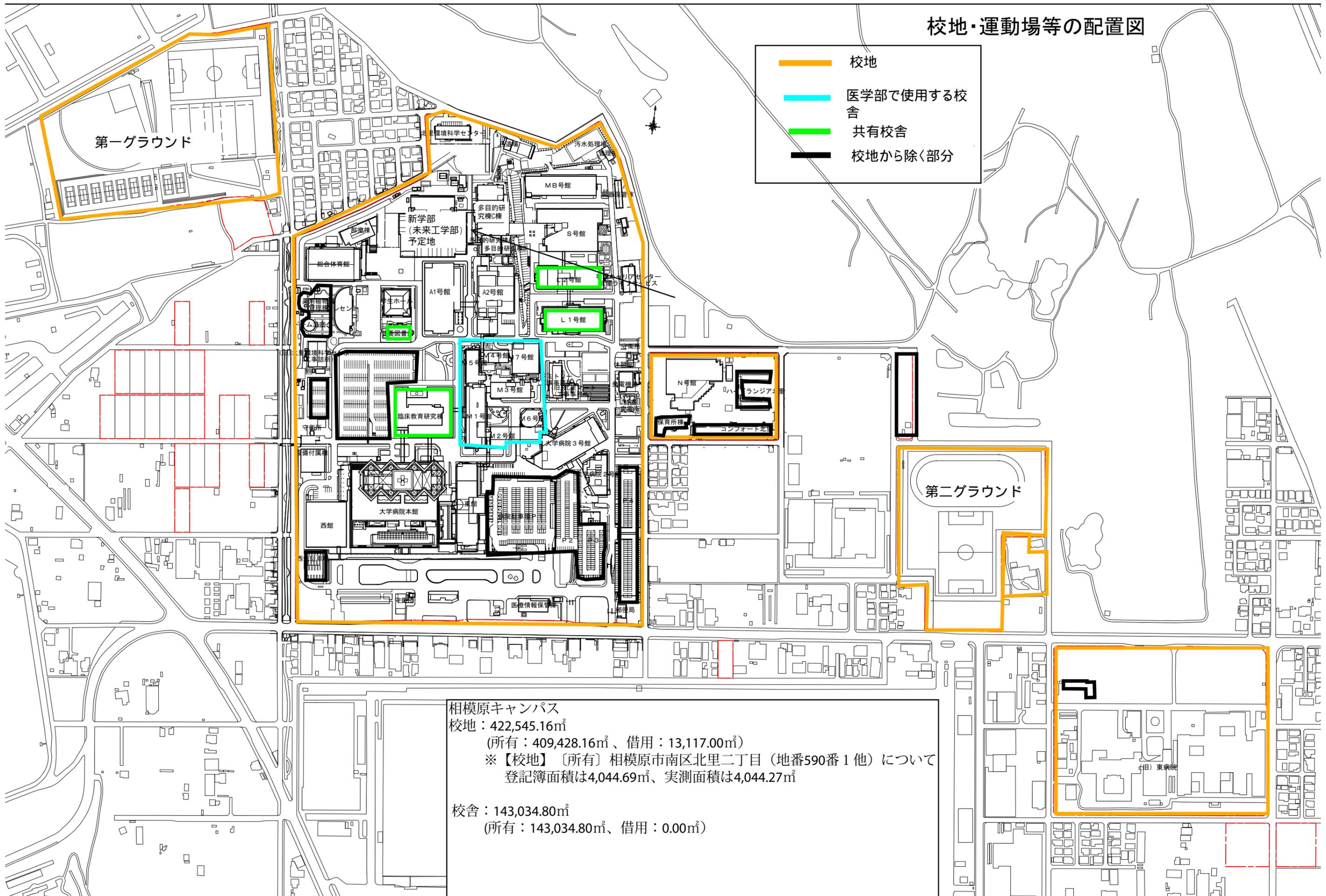
環境図 <https://www.google.co.jp/maps/@35.5397572,139.3938834,15z> より引用

<主な交通手段>

小田急線相模大野駅またはJR相模原駅からバスで約25分(距離:約5km)
(神奈中バス バス停「北里大学病院・北里大学」下車)

校地・運動場等の配置図

- 校地
- 医学部で使用する校舎
- 共有校舎
- 校地から除く部分



相模原キャンパス
 校地：422,545.16㎡
 (所有：409,428.16㎡、借用：13,117.00㎡)
 ※【校地】〔所有〕相模原市南区北里二丁目（地番590番1他）について
 登記簿面積は4,044.69㎡、実測面積は4,044.27㎡

校舎：143,034.80㎡
 (所有：143,034.80㎡、借用：0.00㎡)

2024年度
北里大学学則
(案)

学校法人 北里研究所

北里大学学則

第1章 総 則

(目 的)

第1条 本大学は、北里柴三郎博士の精神に則り、生命科学及び医療科学分野における学術研究と人材育成を通して、広く社会の発展のために寄与することを目的とする。

(教育研究上の目的)

第2条 本大学は、学部、学科又は課程ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定めるものとする。

2 前項の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は別表1のとおりとする。

(自己点検・評価)

第3条 本大学は、教育研究水準の向上を図り、本大学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究等の活動状況について自主的に自己点検・評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 自己点検・評価の実施体制、実施方法、項目、結果の活用等については別に定める。

(教育情報の公表)

第4条 本大学は、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする。

(1) 大学の教育研究上の目的に関すること。

(2) 教育研究上の基本組織に関すること。

(3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。

(4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。

(5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。

(6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。

(7) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。

(8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。

(9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

2 前項各号に掲げる事項のほか、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表するよう努めるものとする。

3 第1項の規定による情報の公表は、適切な体制を整えた上で、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって行うものとする。

4 前各項の公表情報の詳細については別に定める。

第2章 学部、学科、専攻及び大学院

(学部、学科、専攻)

第5条 本大学に次の学部、学科、専攻を置く。

薬 学 部……………薬学科、生命創薬科学科

獣 医 学 部……………獣医学科、動物資源科学科、生物環境科学科

医 学 部……………医学科

海洋生命科学部……………海洋生命科学科

看 護 学 部……………看護学科

理 学 部……………物理学科、化学科、生物科学科

医療衛生学部……………保健衛生学科

医療検査学科

医療工学科 臨床工学専攻、診療放射線技術科学専攻

リハビリテーション学科 理学療法学専攻、作業療法学専攻、

言語聴覚療法学専攻、視覚機能療法学専攻

未 来 工 学 部……………データサイエンス学科

健 康 科 学 部……………看護学科、医療検査学科

2 本大学における一般教育を円滑に実施するため、本大学に一般教育部を置く。一般教育部は自然科学教育

センター、人間科学教育センター、基礎教育センターをもって組織する。一般教育部に関する規程は別に定める。

(大学院)

第6条 本大学に大学院を置く。

2 大学院に関する規則は別に定める。

第3章 修業年限・在学年限及び入学定員・編入学定員・収容定員

(修業年限及び在学年限)

第7条 本大学の修業年限は、薬学部生命創薬科学科、獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部、未来工学部、健康科学部においては4年、薬学部薬学科、獣医学部獣医学科、医学部においては6年とする。

2 卒業までの在学年限は、各学部とも前項の修業年限の2倍を超えることができない。

ただし、編入学、転入学、再入学の場合には、在学すべき年数の2倍を超えることができないものとする。

3 薬学部、獣医学部、医学部、海洋生命科学部、医療衛生学部、未来工学部、健康科学部においては、原則として同一学科同一学年における在学年数を2年以内とする。

(入学定員、編入学定員及び収容定員)

第8条 学生の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科・専攻	入学定員	(編入学定員)			編入学 収容定員	収容定員
			2年次編入	3年次編入	4年次編入		
薬学部	薬学科	260名					1,560名
	生命創薬科学科	35名					140名
	学部計	295名					1,700名
獣医学部	獣医学科	120名					720名
	動物資源科学科	130名					520名
	生物環境科学科	90名					360名
	学部計	340名					1,600名
医学部	医学科	110名					660名
	学部計	110名					660名
海洋生命科学部	海洋生命科学科	180名					720名
	学部計	180名					720名
看護学部	看護学科	125名					500名
	学部計	125名					500名
理学部	物理学科	53名					212名
	化学科	80名					320名
	生物科学科	80名					320名
	学部計	213名					852名
医療衛生学部	保健衛生学科	40名					160名
	医療検査学科	105名					420名
	医療工学科	115名					460名
	臨床工学専攻	45名					180名
	診療放射線技術科学専攻	70名					280名
	リハビリテーション学科	145名					580名
	理学療法学専攻	45名					180名
	作業療法学専攻	40名					160名
	言語聴覚療法学専攻	30名					120名
	視覚機能療法学専攻	30名					120名
	学部計	405名					1,620名
未来工学部	データサイエンス学科	100名					400名
	学部計	100名					400名
健康科学部	看護学科	80名					320名
	医療検査学科	80名					320名
	学部計	160名					640名
	計	1,928名					8,692名

第4章 学年、学期及び休業日

(学 年)

第9条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学 期)

第10条 学年は、これを次の2学期に区分する。

前 期 4月1日から9月30日まで

後 期 10月1日から3月31日まで

2 学長は必要により、各学期の授業の開始日及び終了日を変更することができる。

(休 業 日)

第11条 休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(3) 開校記念日(4月20日)

(4) 北里研究所創立記念日(11月5日)

(5) 春期休業日(3月21日から4月5日まで)

(6) 夏期休業日(7月21日から8月31日まで)

(7) 冬期休業日(12月21日から1月5日まで)

2 学長は、必要により休業日を変更し、若しくは臨時に休業し、又は休業日に実習見学などを行うことができる。

第5章 教育課程

(教育課程)

第12条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目、自由科目に区分し、その内容により1群科目、2群科目、3群科目、4群科目に分類したうえ各年次に配当して構成する。

2 1群科目は幅広い視野と豊かな人間性を形成する科目、2群科目は専門の基礎的知識・技術を形成する科目、3群科目は高度の専門的知識・技術を形成する科目、4群科目は総合的な能力を形成する科目(単位互換科目を含む。)とする。

(授業科目及び単位数等)

第13条 授業科目及び単位数等は別表2、3のとおりとする。

2 年間の履修登録単位数は50単位未満とする。

3 前項に規定する履修登録単位数の上限を緩和する場合には、別に定める。

(単 位)

第14条 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で、本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、特論等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めるものとする。

(1年間の授業期間)

第15条 1年間の授業を行う期間は、35週にわたることを原則とする。

2 各授業科目の授業は、十分な教育効果を上げることができるよう、8週、10週、15週その他の本大学が定める期間を単位として行うものとする。

(授業の方法)

第16条 授業は、講義、演習、実験、実習、実技のいずれかにより又はこれらの併用により行う。

2 本大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 本大学は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても同様とする。

4 本大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、第1項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場

所で行うことができる。

(成績評価基準等の明示等)

第 17 条 本大学は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示する。

2 本大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定にあたっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示する。

3 成績評価基準については、学部において別に定める。

第 18 条 削除

(履修の方法)

第 19 条 学生は、第 7 条第 1 項に定める期間（編入学、転入学、再入学の場合は在学すべき年数。）以上在学し、各学部所定の授業科目を履修しなければならない。

2 各学部所定の授業科目の一部を本大学の他学部他学科他専攻の授業科目の履修をもって代えることができる。

3 前 2 項の履修方法は各学部規則の定めるところによる。

(単位の授与及び評価)

第 20 条 本大学は、一の授業科目を履修した学生に対しては、試験その他の本大学が定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えるものとする。

2 前項の評価は、優・良・可・不可の 4 種をもって表し、優・良・可を合格、不可を不合格とする。

3 前項の成績の原成績(素点)に基づき、成績の数値平均 Grade Point Average(以下「GPA」という。)を算出するものとする。GPA に関し必要な事項は別に定める。

(他の大学、専門職大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第 21 条 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学、専門職大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60 単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下この項において同じ。）又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合に準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第 22 条 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等学校等の専攻科、高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、大学の定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第 1 項及び第 2 項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 23 条 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に大学、専門職大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に行った前条第 1 項に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前 2 項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第 21 条第 1 項及び第 2 項並びに前条第 1 項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(本大学以外での履修の許可)

第 24 条 本大学学生にして、第 21 条及び第 22 条に定める大学等で授業科目の履修を希望する者は、教授会の許可を得なければならない。

(教員の免許状の所要資格の取得)

第 25 条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、別表 4-①及び別表 4-②に従い、教育職員

免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

2 本大学の学部の学科において、当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、次のとおりとする。

獣医学部	動物資源科学科	中学校教諭一種免許状（理科）
	〃	高等学校教諭一種免許状（理科）
	生物環境科学科	高等学校教諭一種免許状（農業）
海洋生命科学部	海洋生命科学科	中学校教諭一種免許状（理科）
	〃	高等学校教諭一種免許状（理科）
看護学部	看護学科	養護教諭一種免許状
理学部	物理学科	中学校教諭一種免許状（理科）
	〃	高等学校教諭一種免許状（理科）
	化学科	中学校教諭一種免許状（理科）
	〃	高等学校教諭一種免許状（理科）
	生物科学科	中学校教諭一種免許状（理科）
	〃	高等学校教諭一種免許状（理科）
未来工学部	データサイエンス学科	高等学校教諭一種免許状（情報）
	（学芸員資格の取得）	

第 26 条 学芸員の資格を取得しようとする者は、別表 5 に従い、博物館法及び博物館法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

2 前項の学芸員の所要資格を得させるための課程を置く学部の学科は海洋生命科学部海洋生命科学科とする。

第 6 章 卒業の要件及び学士の学位

（卒業の要件及び学士の学位）

第 27 条 本大学の薬学部生命創薬科学科、獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部、未来工学部、健康科学部に原則 4 年（編入学、転入学、再入学の場合は在学すべき年数。以下同じ。）以上在学し、若しくは薬学部薬学科、獣医学部獣医学科に原則 6 年以上在学し、別表 2 に定める単位を修得した者、又は医学部に原則 6 年以上在学し、別表 2 に定める単位を修得し、総合試験、共用試験医学系臨床実習後 OSCE に合格した者は卒業とし、次の学士の学位を授与する。

薬学部	薬学科	学士（薬学）
	生命創薬科学科	学士（薬科学）
獣医学部	獣医学科	学士（獣医学）
	動物資源科学科	学士（農学）
	生物環境科学科	学士（農学）
医学部	医学科	学士（医学）
海洋生命科学部	海洋生命科学科	学士（水産学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）
理学部	物理学科	学士（理学）
	化学科	学士（理学）
	生物科学科	学士（理学）
医療衛生学部	保健衛生学科	学士（保健衛生学）
	医療検査学科	学士（医療検査学）
	医療工学科	
	臨床工学専攻	学士（臨床工学）
	診療放射線技術科学専攻	学士（診療放射線技術科学）
	リハビリテーション学科	
	理学療法学専攻	学士（理学療法学）
	作業療法学専攻	学士（作業療法学）
	言語聴覚療法学専攻	学士（言語聴覚療法学）
	視覚機能療法学専攻	学士（視覚機能療法学）
未来工学部	データサイエンス学科	学士（工学）

健康科学部

看護学科

学士（看護学）

医療検査学科

学士（医療検査学）

2 第1項の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第16条第2項の授業の方法により、修得する単位数は60単位を超えないものとする。

ただし、各学部において124単位を超える単位数を卒業の要件としている場合は、同条第1項の授業方法によって64単位以上の修得がなされていれば、同条第2項の授業の方法によって修得する単位数については、60単位を超えることができるものとする。

第7章 入学、編入学、転入学、再入学、転学部、転学科、転専攻、転学、休学、復学、留学、退学及び除籍

（入学の時期）

第28条 入学の時期は、学年の初めとする。

ただし、学長は、必要により学年の途中においても、学生を入学させ及び卒業させることができる。

（入学の資格）

第29条 本大学の学部の第1学年に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定規定による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

（入学の出願、選考、手続き及び許可）

第30条 本大学に入学を志願する者は、入学願書に入学検定料及び別に定める書類を添えて願い出て、本大学が行う選考を受けなければならない。

2 前項の選考に合格した者は、指定された期日までに、第43条に定める入学金、授業料、施設設備費等（以下「学費」という。）に保証人連署の誓約書及び所定の書類を添えて、入学手続きを完了しなければならない。

3 学長は、前項の入学手続きを完了した者について、入学を許可する。

4 前3項の規定は編入学、転入学、再入学の場合にも適用する。

（編入学）

第31条 次の各号の一に該当する者が、本大学に編入学を願い出たときは、第8条の編入学定員の規定により、選考のうえ相当年次に入学を許可する。

ただし、編入学定員を定めていない学部の学科においては、定員に余裕のある場合に限り、選考のうえ相当年次に入学を許可することがある。

- (1) 大学を卒業した者及び学士の学位を有する者
- (2) 大学に2年以上在学し62単位以上を修得した者
- (3) 外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者
- (4) 短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者
- (5) 学校教育法施行規則附則第7条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校等の課程を修了した者又は卒業した者
- (6) 高等学校等の専攻科又は専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者で、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者

2 前項により入学を許可された者の、既に修得した授業科目及び単位数並びに在学すべき年数の認定は、教授会の議を経て行う。

3 前項の規定は転入学、再入学の場合にも適用する。

4 編入学に関する規程は別に定める。

(転入学)

第32条 他大学の学生が、当該大学長の許可を得て本大学に転入学を願い出たときは、定員に余裕のある場合に限り、選考のうえ相当年次に入学を許可することがある。

2 転入学に関する規程は別に定める。

(再入学)

第33条 本大学を退学した者又は除籍された者(第41条第4号乃至第8号の除籍者及び第53条の懲戒退学者を除く。)が、同一学部の同一学科、同一専攻に2年以内に再入学を願い出たときは、選考のうえ相当年次に入学を許可することがある。

2 再入学に関する規程は別に定める。

(転学部、転学科、転専攻)

第34条 本大学の学生で、本大学の他の学部へ転学部を希望する者、又は同一学部内の他の学科及び他の専攻へ転学科、転専攻を希望する者があるときは、定員に余裕のある場合に限り、選考のうえ相当年次にこれを許可することがある。

2 前項により転学部等を許可された者の、既に修得した授業科目及び単位数並びに在学すべき年数の認定は、教授会の議を経て行う。

3 転学部、転学科、転専攻に関する規程は別に定める。

(転学)

第35条 本大学から他の大学へ転学を希望する者は、その事由を具して学長に願い出て、許可を受けなければならない。

(休学)

第36条 薬学部、獣医学部、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部、未来工学部、健康科学部においては、病気その他やむを得ない事由により、次の各号の一に該当する者は、休学願に保証人連署のうえ学長に願い出て、許可を受けなければならない。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添付するものとする。

医学部においては、病気その他やむを得ない事由により、第1号、第2号及び第4号に該当する者は、休学願に保証人連署のうえ学長に願い出て、許可を受けなければならない。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添付するものとする。

(1) 学年初めから学年末まで1年間就学することができない者

(2) 学年初めから引き続き後期授業開始日の前日まで就学することができない者

(3) 学年末まで引き続き6ヵ月以上就学することができない者

(4) 外国人留学生で出身国における兵役等に就く必要がある者

2 第1項第1号により休学をした者は、願い出により許可を得て第2号による休学に変更することができる。

3 第1項第2号により休学した者が復学後に改めて休学を願い出た場合は、許可を得て後期授業開始日から第3号により休学するものとする。

4 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に第21条及び第22条に定める大学等において修得した単位を、60単位を超えない範囲で卒業に必要な単位として認定することができる。

5 第1項第4号による休学を希望する場合は、兵役等に就く事実及び期間を確認できる書類を休学願に添付するものとする。

(休学期間)

第37条 休学の期間は、当該年度限りとして、1年を超えることができない。

ただし、特別の事由があるときは、許可を得て、更に1年以内に限り休学することができる。

2 休学の通算年数は、第7条第1項に定める修業年限の範囲内とする。

3 休学の期間は、在学の期間に算入しない。

4 前条第1項第2号による休学期間は0.5年として扱う。

5 前条第1項第4号による休学の場合は、第1項に定める休学の期間を適用しない。また、その期間は、第

2項に定める休学の通算年数に算入しない。

(復学)

第38条 休学者が復学しようとするときは、復学願に保証人連署のうえ学長に願い出て、許可を受けなければならない。

ただし、休学の事由が疾病の場合は、校医又は医師の診断書を添付するものとする。

2 復学は、学年の初め又は後期授業開始日でなければこれを行うことができない。

3 前項により後期授業開始日に復学をする場合、当該年度における学年末までの在学期間は0.5年として扱う。

(留学)

第39条 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が休学することなく外国の大学又は短期大学に留学することを認めることができる。

2 留学の期間は、1年間に限り在学年数に算入する。

3 留学中に修得した授業科目の単位は、60単位を超えない範囲で卒業に必要な単位として認定することができる。

4 留学に関する規程は別に定める。

(退学)

第40条 退学しようとする者は、退学願にその事由を具して、保証人連署のうえ学長に願い出て、許可を受けなければならない。

(除籍)

第41条 次の各号の一に該当する者は、学長がこれを除籍する。

(1) 正当な事由がなく所定の期日までに学費を納めない者

(2) 休学期間満了後、10日以内に何等の手続きをしない者

(3) 留年したとき、学年開始10日以内に何等の手続きをしない者

(4) 2ヵ月以上も何等の手続きをしないで引き続き欠席した者

(5) 第7条第2項乃至第3項に規定する期間を超えた者

(6) 第37条第1項乃至第2項に規定する期間を超えた者

(7) 死亡が確認された者

(8) 2ヵ年以上も快復が困難で、学業の継続ができない疾病と校医が診断した者

第8章 学 費

(入学検定料等)

第42条 入学検定料等は、別表6-①及び6-②に示すとおりとする。

(学 費)

第43条 学費は別表6-①に示す入学金、授業料、施設設備費、教育充実費及び別表6-②に示す登録料、科目等履修料、別表6-③に示す教職課程及び学芸員養成課程履修料のとおりとする。

2 いったん納入した学費は、別に定める場合を除き、一切返還しない。

3 学費は、社会情勢により、次の年度に進むとき変更することがある。

(納入期日)

第44条 学費は、毎年前期は4月30日までに、後期は10月31日までに所定の額を納入するものとする。

2 学費納入に関する規程は別に定める。

(休学期間中の在籍料)

第45条 休学期間中は、休学期間に応じ、授業料、施設設備費、教育充実費を免除し、在籍料を徴収する。この取り扱いは別に定める。

第9章 単位互換履修生、科目等履修生、研究生及び外国人学生

(単位互換履修生)

第46条 本大学と単位互換協定のある大学及び短期大学の学生で、本大学の授業科目の履修を希望する者は、正規の学生の学修に支障のない限り、教授会の議を経て、単位互換履修生としてこれを許可することができる。

(科目等履修生)

第 47 条 本大学は、本大学の学生以外の者で第 29 条第 1 項に該当する者が本大学の授業科目の一又は複数の科目の履修を願い出たときは、正規の学生の学修に支障のない限り、教授会の議を経て、科目等履修生としてこれを許可することができる。

2 科目等履修生は、別表 6-②に示す審査料及び学費を所定の期日までに納入しなければならない。

3 科目等履修生に対する単位の授与については、第 20 条の規定を準用する。又、願い出があったときは単位修得証明書又は履修証明書を交付する。

(研究生)

第 48 条 学士号又は学士の学位を有する者が、学部において研究、実験、実習を行うことを願い出たときは、正規の学生の学修に支障のない限り、教授会の議を経て、研究生としてこれを許可することができる。

2 研究生の在学期間は 1 年とする。

ただし、研究生が引き続き在学を願い出たときは、在学期間の延長を許可することがある。

3 研究生は、授業料等の学費を次の各号の定めるところにより、所定の期日までに納入しなければならない。

(1) 研究を主たる目的とする研究生にあつては、正規の学生の学費に関する規定を準用する。

(2) 実験、実習を主たる目的とする研究生にあつては、科目等履修生の学費に関する規定を準用する。

(外国人学生)

第 49 条 第 29 条第 1 項に定める入学資格を有する外国人で、本大学に入学を志願する者があつたときは、外務省在外公館又は本邦所在の外国公館の証明のある者に対し、選考のうえ入学を許可することができる。

(規定の準用等)

第 50 条 単位互換履修生、科目等履修生、研究生については、第 9 章の規定のほか、正規の学生に関する規定を準用する。

2 外国人科目等履修生、外国人研究生については、第 47 条又は第 48 条の規定を準用する。

第 10 章 公開講座

(公開講座)

第 51 条 公開講座は、教授会の議を経て随時開設する。

第 11 章 賞 罰

(表彰)

第 52 条 学業が特に優秀な者、又は学生の模範となる行為をした者は、教授会の議を経て学長がこれを表彰することができる。

表彰規程は別に定める。

(懲戒)

第 53 条 本大学の教育の趣旨に背き、又は学生の本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て学長がこれを懲戒する。

懲戒は、けん責、謹慎、受験停止、停学及び退学の処分とし、次の各号の一に該当する場合は、懲戒退学の処分とする。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学業劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由なくして出席常でない者

(4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第 12 章 教職員組織

(学長、学部長等)

第 54 条 本大学に学長及び学部長を置く。

2 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

3 本大学に副学長、学長補佐並びに学部の学科長又は運営委員、一般教育部に一般教育部長を置くことができる。

4 副学長に関する規程は別に定める。

5 学長補佐に関する規程は別に定める。

(教員、事務職員等)

第55条 本大学に教授、准教授、講師、助教、助手を置く。

2 本大学に事務職員、技術職員、技能職員等を置く。

3 教員及び事務職員等に関する規程は別に定める。

(学部長会)

第56条 本大学に学部長会を置き、大学全般にわたる学事に関する事項を協議する。

2 学部長会は、学長、副学長、学部長、一般教育部長、学長補佐、病院長、大学図書館長、大村智記念研究所長、学生指導委員会委員長、健康管理センター長をもって構成する。

3 学部長会は学長が招集し、議長となる。

4 学部長会は次の事項を協議する。

(1) 教育研究の基本方針及び学事計画に関する事項

(2) 学部、学科、専攻、一般教育部、課程、附属施設等の設置、改廃に関する事項

(3) 大学学則及び学事規程に関する事項

(4) 教育研究組織に関する事項

(5) 教育職員の人事に関する事項

(6) 教育課程に関する事項

(7) 学生の課外活動、厚生補導、就職指導に関する事項

(8) その他大学全般にわたる学事に関する重要事項

5 学部長会に関する規程は別に定める。

(学長・副学長会議)

第56条の2 本大学に学長・副学長会議を置き、全学的な教学事項を協議する。

2 学長・副学長会議に関する規程は別に定める。

(教授会)

第57条 本大学の学部に学部教授会を置く。

2 学部教授会は、当該学部の専任教授をもって構成する。

ただし、必要あるときは、当該学部の准教授、専任講師、助教を加えることができる。

3 学部教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ議事を開くことができない。

4 学部教授会は、当該学部における教育研究に関する次の各号に掲げる事項を審議し、学長に意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの(学長裁定)

5 各学部と一般教育部との関係協調を図るため、一般教育部に一般教育連合教授会を置く。

6 学部教授会、一般教育連合教授会に関する規程は別に定める。

(教授会に設置される委員会等)

第58条 学部教授会及び一般教育連合教授会は、その定めるところにより、教授会構成員の一部の者をもって構成される運営委員会、専門委員会等を置くことができる。

2 教授会は、その定めるところにより、運営委員会、専門委員会等の議決をもって教授会の議決とすることができる。

(名誉学長)

第59条 本大学は、本大学の教育・研究その他について助言を受ける必要があると認めるときは、学長として勤務した者をもって北里大学名誉学長(以下「名誉学長」という。)を委嘱することができる。名誉学長の委嘱期間は当該学長の在任期間とする。

(名誉教授)

第60条 本大学は、本大学に学長、副学長、学部長、教授、准教授又は講師として勤務した者であって、教育上又は学術上特に功績のあった者に対し、本大学の定めるところにより、北里大学名誉教授の称号を授与することができる。

2 名誉教授に関する規程は別に定める。

第13章 厚生補導

(学生指導委員会)

第61条 本大学における学生の厚生補導の充実を図るため、学部に学生の指導機関を置き、かつ全学的組織として、学生指導委員会を置く。

2 学生指導委員会規程は別に定める。

(課外活動組織)

第62条 本大学における課外教育を推進するため、教職員及び学生よりなる課外活動組織を置く。

2 課外活動組織に関する規程は別に定める。

(校医及び健康管理センター、保健室)

第63条 本大学に校医及び北里大学健康管理センター、北里大学保健室を置き、学生及び教職員の保健教育及び保健管理を行う。

2 校医及び北里大学健康管理センター、北里大学保健室に関する規程は別に定める。

第14章 附属施設

(附属施設)

第64条 本大学に次の附属施設を置く。

北里大学附属施設	各学部等附属施設
北里大学病院	薬学部附属薬用植物園
北里大学北里研究所病院	薬学部附属医薬研究施設
北里大学メディカルセンター	薬学部附属臨床薬学研究・教育センター
北里大学図書館	薬学部附属環境管理センター
北里大学白金図書館	薬学部附属東洋医学総合研究所
北里大学獣医学部図書館	獣医学部附属動物病院
北里大学医学図書館	獣医学部附属フィールドサイエンスセンター
北里大学海洋生命科学部図書館	十和田農場
北里大学看護学部図書館	八雲牧場
北里大学理学部図書館	獣医学部附属獣医臨床試験センター
北里大学健康科学部図書館	医学部附属遺伝子高次機能解析センター
北里大学教養図書館	医学部附属バイオイメージング研究センター
北里大学大村智記念研究所	医学部附属医学教育研究開発センター
北里大学感染制御教育研究センター	医学部附属臨床研究センター
北里大学入学センター	医学部附属新世紀医療開発センター
北里大学健康管理センター	海洋生命科学部附属三陸臨海教育研究センター
北里大学高等教育開発センター	理学部附属疾患プロテオミクス・センター
北里大学農医連携教育研究センター	医療衛生学部附属再生医療・細胞デザイン研究施設
北里大学教職課程センター	
北里大学看護キャリア開発・研究センター	
北里大学附属臨床心理相談センター	
北里大学八雲総合実習所	

2 附属施設に関する規程は別に定める。

第15章 補 則

(細 則)

第65条 この学則の実施に関し必要な細則は別に定める。

第16章 雑 則

(組織的な研修等)

第66条 本大学は、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、所属職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修（次項に規定する研修に該当するものを除く。）の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする。

2 本大学は、学生に対する教育の充実を図るため、当該大学の授業の内容及び方法を改善するために組織的

な研修及び教育を行うものとする。

3 本大学は、指導補助者（教員を除く。）に対し、必要な研修を行うものとする。

4 前3項の研修等に関し、必要な事項は別に定める。

（教員と事務職員等の連携及び協働）

第67条 本大学は、教育研究活動等の組織的かつ効果的な運営を図るため、教員と事務職員等との適切な役割分担の下で、これらの者の間の連携体制を確保し、これらの者の協働によりその職務が行われるよう留意するものとする。

附則

1 この学則は、昭和54年4月1日から施行する。

2 第43条（学費）並びに第47条第2項については、昭和54年度入学者から適用する。

附則

1 この学則は、昭和55年4月1日から施行する。

2 第43条（学費）並びに第47条第2項については、昭和55年度入学者から適用する。

附則

1 この学則は、昭和56年4月1日から施行する。

2 第43条（学費）並びに第47条第2項については、昭和56年度入学者から適用する。

附則

1 この学則は、昭和57年4月1日から施行する。

2 第43条（学費）並びに第47条第2項については、昭和57年度入学者から適用する。

附則

1 この学則は、昭和58年4月1日から施行する。

2 第42条（入学検定料等）及び第43条（学費）並びに第47条第2項については、昭和58年度入学者から適用する。

附則

1 この学則は、昭和59年4月1日から施行する。

2 第42条（入学検定料等）及び第43条（学費）並びに第47条第2項については、昭和59年度入学者から適用する。

附則

1 この学則は、昭和60年4月1日から施行する。

2 第42条（入学検定料等）及び第43条（学費）並びに第47条第2項については、昭和60年度入学者から適用する。

附則

1 この学則は、昭和61年4月1日から施行する。

2 第43条（学費）については、昭和61年度入学者から適用する。

附則

1 この学則は、昭和62年4月1日から施行する。

2 第43条（学費）並びに第47条第2項については、昭和62年度入学者から適用する。

附則

1 この学則は、昭和63年4月1日から施行する。

2 第42条（入学検定料等）並びに第43条（学費）については、昭和63年度入学者から適用する。

附則

1 この学則は、平成元年4月1日から施行する。

2 第43条（学費）並びに第47条第2項については、平成元年度入学者から適用する。

附則

1 この学則は、平成2年4月1日から施行する。

2 第42条（入学検定料等）については、平成2年度入学者から適用する。

附則

1 この学則は、平成3年4月1日から施行する。

2 第43条(学費)については、平成3年度入学者から適用する。

附則

この学則中第27条(卒業の要件及び学士の学位)については、平成3年7月1日から、第43条(学費)、第47条(科目等履修生)、第48条(研究生)、第49条(外国人学生)の学費については、平成3年10月1日から適用する。

附則

- 1 この学則は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 第43条関係別表6のうち看護学部の入学金及び授業料等については、平成4年度入学者から適用する。

附則

- 1 この学則は、平成5年4月1日から施行する。
- 2 第43条関係別表6のうち看護学部の授業料については、平成5年度入学者から適用する。

附則

- 1 この学則は、平成6年4月1日から施行する。
- 2 第8条(入学定員、編入学定員及び収容定員)の規定にかかわらず、平成6年度から平成10年度までの間の理学部生物科学科の入学定員は60名、収容定員は240名とする。
- 3 第42条(入学検定料等)及び第43条(学費)の規定については、平成6年度入学者から適用する。
- 4 平成6年度より衛生学部の学生募集を停止する。
- 5 医学部医学科入学定員の変更にともない、第8条(入学定員、編入学定員及び収容定員)の規定にかかわらず、医学部医学科の収容定員は次のとおりとする。

学 科	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度
医 学 科	700	680	660	640	620
収容定員合計	700	680	660	640	620

附則

- 1 この学則は、平成7年4月1日から施行する。
- 2 第43条(学費)に定める別表6-①の薬学部施設設備費及び海洋生命科学部授業料、看護学部授業料については、平成7年度入学者から適用する。
- 3 第42条(入学検定料等)及び第43条(学費)に定める別表6-②は、平成7年度科目等履修生から適用する。

附則

- 1 この学則は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 第43条(学費)に定める別表6-①の薬学部施設設備費及び看護学部授業料、実験実習費、施設設備費については、平成8年度入学者から適用する。

附則

- 1 この学則は、平成9年4月1日から施行する。
- 2 平成9年5月30日をもって衛生学部を廃止する。
- 3 衛生学部の廃止にともない、第5条(学部、学科、専攻)、第7条(修業年限及び在学年限)、第8条(入学定員、編入学定員及び収容定員)、第13条(授業科目及び単位数等)に定める別表2、3、第25条(教員の免許状の所要資格の取得)及び同条に定める別表4、第27条(卒業の要件及び学士の学位)、第42条(入学検定料等)及び第43条(学費)に定める別表6-①、6-②、第64条(附属施設)、平成2年4月1日施行の附則第2項、平成6年4月1日施行の附則第5項から衛生学部関係条項を削除する。
- 4 第43条(学費)に定める別表6-①の薬学部施設設備費、看護学部授業料、施設設備費については、平成9年度入学者から適用する。

附則

- 1 この学則は、平成10年4月1日から施行する。
- 2 第43条(学費)に定める別表6-①の薬学部授業料、海洋生命科学部授業料、理学部授業料、実験実習費、施設設備費、医療衛生学部入学金、授業料、施設設備費については、平成10年度入学者から適用する。

附則

- 1 この学則は、平成11年4月1日から施行する。

- 2 第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、平成 11 年度の理学部生物科学科の入学定員は 60 名、収容定員は 240 名とする。
- 3 第 25 条（教員の免許状の所要資格の取得）に定める別表 4 については、理学部物理学科・化学科・生物科学科の平成 11 年度入学者から適用する。
- 4 第 42 条（入学検定料等）に定める別表 6-①の入学検定料及び第 43 条（学費）に定める別表 6-③の教職課程履修料については、平成 11 年度入学者から適用する。

附則

- 1 この学則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる海洋生命科学部海洋生命科学科の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学 科	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
海洋生命科学科	160	320	480	640

- 3 平成 12 年度より水産学部水産増殖学科、水産食品学科の学生募集を停止する。
- 4 第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医療衛生学部の編入学収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学 部	学科・専攻	平成12年度	平成13年度	平成14年度
医療衛生学部	リハビリテーション学科			
	理 学 療 法 学 専 攻	6	10	12
	作 業 療 法 学 専 攻	6	10	12
	言 語 聴 覚 療 法 学 専 攻	6	10	12
	視 覚 機 能 療 法 学 専 攻	6	10	12
	計	24	40	48
	医療工学科			
	臨 床 工 学 専 攻	6	10	12
	診 療 放 射 線 技 術 科 学 専 攻	9	15	18
	計	15	25	30
編入学収容定員合計		39	65	78

- 5 第 43 条（学費）に定める別表 6-①の医学部教育充実費については、平成 12 年度入学者から適用する。
- 6 平成元年 4 月 1 日施行の附則第 3 項に定める別表 7 を削除し、これに係わる各年の附則の該当箇所を削除する。

附則

- 1 この学則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3 については平成 13 年度入学者から、第 19 条（履修の方法）第 2 項については薬学部、海洋生命科学部、医療衛生学部にあつては平成 13 年度入学者及び在学者から、理学部にあつては平成 13 年度在学者から適用する。
- 3 第 25 条（教員の免許状の所要資格の取得）に定める別表 4 の「教職総合演習」については、平成 13 年度入学者及び在学者から適用する。
- 4 第 43 条（学費）乃至第 45 条（休学期間中の学費）については、平成 13 年度入学者及び在学者から適用する。

附則

- 1 この学則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 43 条（学費）に定める別表 6-①の薬学部授業料については、平成 14 年度入学者から適用する。
- 3 平成 14 年 3 月 31 日薬学部薬学科及び製薬学科の中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状課程の終了にともない、第 25 条（教員の免許状の所要資格の取得）から薬学部薬学科及び製薬学科の関係条項を削除する。
- 4 第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3 及び第 19 条（履修の方法）第 2 項については、看護学部にあつては平成 14 年度入学者及び在学者から適用する。

附則

- 1 この学則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

- 2 平成 15 年 3 月 31 日をもって水産学部水産増殖学科、水産食品学科を廃止する。
- 3 水産学部水産増殖学科、水産食品学科の廃止にともない、第 5 条（学部、学科、専攻）、第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）、第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3、第 25 条（教員の免許状の所要資格の取得）及び同条に定める別表 4、第 26 条（学芸員資格の取得）、第 27 条（卒業の要件及び学士の学位）、平成 11 年 4 月 1 日施行の附則第 5 項、平成 12 年 4 月 1 日施行の附則第 4 項から水産学部水産増殖学科、水産食品学科関係条項を削除する。

附則

- 1 この学則は、平成 15 年 8 月 1 日から施行する。
- 2 この学則中第 59 条（名誉学長）、第 60 条（名誉教授）及び第 64 条（附属施設）第 1 項第 6 号については、平成 15 年 8 月 1 日から適用する。

附則

- 1 この学則は平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 43 条（学費）に定める別表 6-①の薬学部授業料、医学部教育充実費については、平成 16 年度入学者から適用する。
- 3 獣医畜産学部獣医学科の中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状課程並びに学芸員資格を付与する課程を廃止することにもない、第 25 条（教員の免許状の所要資格の取得）及び同条に定める別表 4、第 26 条（学芸員資格の取得）及び同条に定める別表 5、第 43 条（学費）に定める別表 6-③、平成 11 年 4 月 1 日施行の附則第 5 項から獣医畜産学部獣医学科関係条項を削除する。

ただし、当該課程は獣医畜産学部獣医学科の履修者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

- 4 第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3 については、医学部にあつては平成 16 年度入学者及び在学者から適用する。

附則

- 1 この学則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3 については、医学部及び海洋生命科学部にあつては平成 17 年度入学者及び在学者から適用する。また、理学部にあつては平成 17 年度入学者から適用し、在学者にも一部適用する。
- 3 第 30 条（入学の出願、選考、手続き及び許可）第 2 項については平成 17 年度入学者から、第 43 条（学費）第 1 項及び同項に定める別表 6-①、第 45 条（休学期間中の学費）については平成 17 年度入学者及び在学者から適用する。

附則

- 1 この学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 18 年度より薬学部薬学科（4 年制）、製薬学科の学生募集を停止する。
ただし、薬学部薬学科（4 年制）、製薬学科は、第 5 条（学部、学科、専攻）の規定にかかわらず、当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 医療衛生学部衛生技術学科の学生募集停止の時期は次のとおりとする。

専攻	臨床検査学専攻				産業衛生学専攻
	1 年次	編入学			
		2 年次	3 年次	4 年次	
学生募集停止の時期	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成18年度

ただし、医療衛生学部衛生技術学科臨床検査学専攻及び産業衛生学専攻は、第 5 条（学部、学科、専攻）の規定にかかわらず、当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

- 4 第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる薬学部及び医療衛生学部の編入学収容定員、収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科・専攻	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
薬学部	薬学科	260	520	780	1,040	1,290	1,540
	生命創薬科学科	20	40	60	80	95	110
	合計	280	560	840	1,120	1,385	1,650

学部	学科・専攻		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
医療衛生学部	健康科学科	収容定員	40	80	120	160
	医療検査学科	編入学収容定員	0	2	6	10
		収容定員	90	182	276	370
	医療工学科					
	臨床工学専攻	編入学収容定員	12	12	12	12
		収容定員	140	148	156	164
	診療放射線技術科学専攻	編入学収容定員	15	13	12	12
		収容定員	225	233	242	252
	計	編入学収容定員	27	25	24	24
		収容定員	365	381	398	416
	リハビリテーション学科					
	理学療法学専攻	編入学収容定員	8	6	6	6
		収容定員	136	142	150	158
	作業療法学専攻	編入学収容定員	8	6	6	6
		収容定員	136	142	150	158
	言語聴覚療法学専攻	編入学収容定員	8	6	6	6
		収容定員	96	102	110	118
	視覚機能療法学専攻	編入学収容定員	8	6	6	6
		収容定員	96	102	110	118
	計	編入学収容定員	32	24	24	24
		収容定員	464	488	520	552
編入学収容定員合計			59	51	54	58
収容定員合計			959	1,131	1,314	1,498

5 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2、3については、医療衛生学部医療工学科及びリハビリテーション学科にあつては平成18年度入学者から、看護学部にあつては平成18年度入学者及び在学者から適用する。また、医学部、海洋生命科学部、理学部にあつては平成18年度入学者から適用し、在学者にも一部適用する。

附則

- この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる獣医学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学 科	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
獣 医 学 科	120名	240名	360名	480名	600名	720名
動物資源科学科	120名	240名	360名	480名	480名	480名
生物環境科学科	80名	160名	240名	320名	320名	320名
合 計	320名	640名	960名	1,280名	1,400名	1,520名

- 第5条第1項の獣医学部生物環境科学科には生態環境コース及び環境修復コースを置く。学生定員は各コースとも一学年あたり40名とする。同学科は学科として学生を募集し、3年次進級の際に各コースに振り分ける。
- 平成19年度より獣医畜産学部獣医学科、動物資源科学科、生物生産環境学科の学生募集を停止する。
- 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2、3については、薬学部薬学科・生命創薬科学科、海洋生命科学部、理学部にあつては平成19年度入学者から、看護学部にあつては平成19年度入学者及び在学者から適用する。また医療衛生学部医療検査学科にあつては平成19年度入学者から適用し、在学者にも一部適用する。

附則

- この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 平成20年4月1日をもって水産学部水産生物科学科の学部学科名称を海洋生命科学部海洋生命科学科に変更し、平成20年度入学者から適用する。

ただし、水産学部水産生物科学科は、第5条（学部、学科、専攻）の規定にかかわらず、平成20年3月31日に当該学部在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

- 3 水産学部水産生物科学科の学部学科名称変更にともない、第5条（学部、学科、専攻）、第7条（修業年限及び在学年限）、第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）、第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2、3、第25条（教員の免許状の所要資格の取得）及び同条に定める別表4、第26条（学芸員資格の取得）及び同条に定める別表5、第27条（卒業の要件及び学士の学位）、第42条（入学検定料等）及び第43条（学費）に定める別表6-①、第64条（附属施設）、平成7年4月1日施行の附則第2項、平成10年4月1日施行の附則第2項、平成12年4月1日施行の附則第2項、平成13年4月1日施行の附則第2項、平成17年4月1日施行の附則第3項、平成18年4月1日施行の附則第5項、平成19年4月1日施行の附則第6項の名称を変更する。
- 4 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2、3については、薬学部、看護学部、医療衛生学部にあつては平成20年度入学者から、医学部にあつては平成20年度入学者及び在学者から、理学部物理学科、化学科にあつては平成20年度入学者及び在学者（平成18年度以降入学者）から適用する。また、理学部生物科学科にあつては平成20年度入学者から適用し、在学者にも一部適用する。

附則

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 平成21年3月31日をもって医療衛生学部衛生技術学科臨床検査学専攻・産業衛生学専攻を廃止する。
- 3 医療衛生学部衛生技術学科臨床検査学専攻・産業衛生学専攻の廃止にともない、第5条（学部、学科、専攻）、第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）、第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2、3、第27条（卒業の要件及び学士の学位）、平成12年4月1日施行の附則第5項、平成18年4月1日施行の附則第4項、平成19年4月1日施行の附則第6項から医療衛生学部衛生技術学科臨床検査学専攻・産業衛生学専攻関係条項を削除する。
- 4 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部医学科の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学 科	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
医 学 科	610	620	630	640	650	660

- 5 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2、3については、薬学部にあつては平成21年度在学者（平成18年度・19年度入学者）に適用する。獣医学部動物資源科学科にあつては平成21年度入学者から適用し、在学者にも自由科目として一部適用する。海洋生命科学部にあつては、平成21年度入学者から適用し、在学者にも一部適用する。看護学部にあつては平成21年度入学者から適用する。また、理学部にあつては平成21年度入学者及び在学者から適用する。
- 6 第25条（教員の免許状の所要資格の取得）に定める別表4-②については、平成21年度入学者から適用する。
- 7 第43条（学費）に定める別表6-③の教職課程履修料については、平成21年度入学者から適用する。

附則

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年4月1日をもって薬学部薬科学科の学科名称を生命創薬科学科に変更し、平成22年度入学者から適用する。
ただし、薬学部薬科学科は、第5条（学部、学科、専攻）の規定にかかわらず、平成22年3月31日に当該学部在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 薬学部薬科学科の学科名称変更にともない、第5条（学部、学科、専攻）、第7条（修業年限及び在学年限）、第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）、第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2、3、第27条（卒業の要件及び学士の学位）、第42条（入学検定料等）及び第43条（学費）に定める別表6-①、平成18年4月1日施行の附則第4項、平成19年4月1日施行の附則第6項の名称を変更する。
- 4 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる薬学部、医学部及び看護学部の編入学収容定員、収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学 部	学 科	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
薬学部	薬学科	1,290	1,540	1,530	1,520	1,510	1,500
	生命創薬科学科	95	110	125	140	140	140
	合 計	1,385	1,650	1,655	1,660	1,650	1,640

学 部	学 科	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
医 学 部	医 学 科	622	634	646	658	670	672

学 部	学 科	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
看護学部	看護学科	編入学収容定員	10	20	30
		収容定員	410	420	430

- 5 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2、3については、薬学部、理学部物理学科にあつては平成22年度入学者から適用する。
- 6 第25条（教員の免許状の所要資格の取得）に定める別表4-①「教職実践演習（中等）」及び別表4-②「教職実践演習（養護）」については、平成22年度入学者から適用する。
- 7 第42条（入学検定料等）に定める別表6-①の薬学部生命創薬科学科入学検定料及び第43条（学費）に定める別表6-①の薬学部生命創薬科学科授業料、施設設備費、実験実習費及び看護学部授業料については、平成22年度入学者から適用する。

附則

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2、3については、獣医学部動物資源科学科にあつては、平成23年度入学者から適用し、在学者にも一部適用する。薬学部、医学部、医療衛生学部健康科学科にあつては、平成23年度入学者から適用する。

附則

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 文部科学大臣に届け出た日をもって薬学部薬学科（4年制）、製薬学科を廃止する。
- 3 薬学部薬学科（4年制）、製薬学科の廃止にともない、第5条（学部、学科、専攻）、第7条（修業年限及び在学年限）、第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）、第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2、3、第27条（卒業の要件及び学士の学位）、平成17年4月1日施行の附則第2項、平成18年4月1日施行の附則第4項及び第5項から薬学部薬学科（4年制）、製薬学科関係条項を削除する。
- 4 平成23年4月15日をもって獣医畜産学部動物資源科学科、生物生産環境学科を廃止する。
- 5 獣医畜産学部動物資源科学科、生物生産環境学科の廃止にともない、第5条（学部、学科、専攻）、第7条（修業年限及び在学年限）、第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）、第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2、3、第27条（卒業の要件及び学士の学位）、第43条（学費）に定める別表6-①、昭和61年4月1日施行の附則第2項、平成8年4月1日施行の附則第2項、平成9年4月1日施行の附則第4項、平成11年4月1日施行の附則第2・3項、平成12年4月1日施行の附則第4項、平成14年4月1日施行の附則第2項、平成17年4月1日施行の附則第3項、平成19年4月1日施行の附則第5項から獣医畜産学部動物資源科学科、生物生産環境学科関係条項を削除する。
- 6 文部科学大臣に届け出た日をもって獣医畜産学部を廃止する。
- 7 獣医畜産学部の廃止にともない、第5条（学部、学科、専攻）、第7条（修業年限及び在学年限）、第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）、第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2、3、第27条（卒業の要件及び学士の学位）、第43条（学費）に定める別表6-①及び6-②、平成4年4月1日施行の附則第2項、平成9年4月1日施行の附則第4項、平成12年4月1日施行の附則第6項、平成13年4月1日施行の附則第2項、平成16年4月1日施行の附則第2項、平成18年4月1日施行の附則第5項から獣医畜産学部関係条項を削除する。
- 8 第26条（学芸員資格の取得）に定める別表5における学芸員資格を付与する課程は平成24年度入学者から適用する。
- ただし、旧課程は獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科及び海洋生命科学部海洋生命科学科における履修者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 9 獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科の学芸員養成課程を廃止することにともない、第26条（学芸員資格の取得）及び同条に定める別表5から獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科の文言を削除するとともに、第43条（学費）に定める別表6-③から獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科の学芸員養成課程の履修料の記載を削除する。
- ただし、当該学科の学芸員養成課程は獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科の履修者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

10 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2、3については、薬学部、獣医学部、海洋生命科学部、看護学部、理学部にあつては平成24年度入学者から、医学部にあつては平成24年度入学者及び在学者から適用する。

また、医療衛生学部にあつては別表2は平成24年度入学者から、別表3は平成24年度入学者及び在学者から適用する。

11 第43条（学費）に定める別表6-①の看護学部保健師教育課程指定科目履修料については、平成24年度入学者から適用する。

12 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
医学部	医学科	651	668	685	692	697	702

附則

1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。

2 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる理学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
理学部	物理学科	170	180	190	200
	化学科	320	320	320	320
	生物科学科	250	260	270	280

3 第42条（入学検定料等）に定める別表6-①の入学検定料及び第43条（学費）に定める別表6-③の教職課程履修料、別表6-④に示す臨床検査技師課程履修料については、平成25年度入学者から適用する。

4 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
医学部	医学科	670	689	698	705	712	714

5 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2については、薬学部、獣医学部、海洋生命科学部、理学部にあつては平成25年度入学者から、医学部、医療衛生学部にあつては平成25年度入学者及び在学者から適用する。

6 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表3については、薬学部、獣医学部、海洋生命科学部、看護学部、理学部にあつては平成25年度入学者から、医学部、医療衛生学部にあつては、平成25年度入学者及び在学者から適用する。

附則

1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。

2 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2については、薬学部、獣医学部にあつては平成26年度入学者から適用する。

3 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表3については、薬学部、獣医学部、医療衛生学部にあつては平成26年度入学者から適用する。

附則

1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。

2 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2については、薬学部、獣医学部にあつては平成27年度入学者から、医学部、医療衛生学部にあつては平成27年度入学者及び在学者から適用する。

3 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表3については、薬学部、獣医学部、理学部生物科学科にあつては平成27年度入学者から、医学部、理学部化学科、医療衛生学部にあつては平成27年度入学者及び在学者から適用する。

附則

1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。

2 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2については、薬学部、獣医学部、医療衛生学部にあつては平成28年度入学者から、医学部にあつては平成28年度入学者及び在学者から適用する。

3 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表3については、薬学部、獣医学部獣医学科・動物資源科学

科、海洋生命科学部、理学部、医療衛生学部にあつては平成 28 年度入学者から、医学部、看護学部にあつては平成 28 年度入学者及び在学者から、獣医学部生物環境科学科にあつては平成 28 年度入学者及び在学者（2 年次生）から適用する。

附則

この学則は、平成 28 年 5 月 20 日から施行する。

附則

この学則は、平成 28 年 11 月 1 日から施行する。

附則（北学総第 28-11367 号）

- この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
- 第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる薬学部、獣医学部、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科・専攻	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	
薬学部	薬学科	1,510名	1,520名	1,530名	1,540名	1,550名	1,560名	
	生命創薬科学科	140名	140名	140名	140名	140名	140名	
	学部計	1,650名	1,660名	1,670名	1,680名	1,690名	1,700名	
獣医学部	獣医学科	720名	720名	720名	720名	720名	720名	
	動物資源科学科	490名	500名	510名	520名	520名	520名	
	生物環境科学科	330名	340名	350名	360名	360名	360名	
	学部計	1,540名	1,560名	1,580名	1,600名	1,600名	1,600名	
海洋生命科学部	海洋生命科学科	660名	680名	700名	720名	720名	720名	
	学部計	660名	680名	700名	720名	720名	720名	
看護学部	看護学科	450名	470名	490名	510名	510名	510名	
	学部計	450名	470名	490名	510名	510名	510名	
理学部	物理学科	203名	206名	209名	212名	212名	212名	
	化学科	320名	320名	320名	320名	320名	320名	
	生物科学科	290名	300名	310名	320名	320名	320名	
	学部計	813名	826名	839名	852名	852名	852名	
医療衛生学部	保健衛生学科	160名	160名	160名	160名	160名	160名	
	医療検査学科	381名	392名	405名	420名	420名	420名	
	医療工学科	臨床工学専攻	165名	168名	173名	180名	180名	180名
		診療放射線技術科学専攻	256名	262名	270名	280名	280名	280名
	リハビリテーション学科	理学療法学専攻	557名	562名	567名	580名	580名	580名
		理学療法学専攻	163名	168名	173名	180名	180名	180名
		作業療法学専攻	158名	158名	158名	160名	160名	160名
		言語聴覚療法学専攻	118名	118名	118名	120名	120名	120名
	視覚機能療法学専攻	118名	118名	118名	120名	120名	120名	
	学部計	1,519名	1,544名	1,575名	1,620名	1,620名	1,620名	

- 第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2 については、獣医学部生物環境科学科、海洋生命科学部、医療衛生学部にあつては平成 29 年度入学者から、薬学部、獣医学部動物資源科学科、医学部、理学部にあつては平成 29 年度入学者及び在学者から適用する。
- 第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 3 については、獣医学部生物環境科学科、海洋生命科学部、医療衛生学部にあつては平成 29 年度入学者から、薬学部、獣医学部動物資源科学科、医学部、理学部にあつては平成 29 年度入学者及び在学者から適用する。

附則（北学総第 29-12607 号）

- この学則は、2017 年 9 月 1 日から施行する。
- 第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2 及び別表 3 については、医療衛生学部にあつては 2017 年度在学者から適用する。

附則（北学総第 29-9539 号、北学総第 29-12607 号）

- この学則は、2018 年 4 月 1 日から施行する。
- 第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2 及び別表 3 については、医学部、理学部にあつては、2018 年度入学者及び一部在学者から、医療衛生学部医療検査学科、医療工学科（全専攻）及びリハビリテーション学科（全専攻）にあつては 2018 年度入学者及び在学者から、薬学部、医療衛生学部保健衛生学科にあつては 2018 年度入学者から適用し、医療衛生学部保健衛生学科の 2018 年度在学者に適用する医療衛生学 4 群科目（保健衛生学科）については、学部において別に定める。
- 第 43 条（学費）に定める別表 6-①については、医学部、看護学部にあつては 2018 年度入学者から適用

する。

附則（北学総第 2018-06561 号、北学総第 2018-13684 号）

- 1 この学則は、2019 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2 及び別表 3 について、医学部にあっては 2019 年度入学者及び一部在学者から、理学部、医療衛生学部医療検査学科、医療工学科（全専攻）及びリハビリテーション学科（全専攻）にあっては 2019 年度入学者及び在学者から、薬学部、看護学部及び医療衛生学部保健衛生学科にあっては 2019 年度入学者から適用し、看護学部の在学者適用及び医療衛生学部保健衛生学科の 2019 年度在学者に適用する医療衛生学 4 群科目（保健衛生学科）については、学部において別に定める。
- 3 第 20 条（単位の授与及び評価）第 3 項については、2019 年度入学者及び在学者から適用する。
- 4 第 25 条（教員の免許状の所要資格の取得）に定める別表 4-①及び別表 4-②については、2019 年度入学者から適用する。
- 5 第 43 条（学費）に定める別表 6-①については、海洋生命科学部及び理学部にあっては 2019 年度入学者から適用する。
- 6 第 45 条（休学中の学費）については、2019 年度入学者及び在学者から適用する。

附則（北学総第 2019-01219 号、北学総第 2019-03539 号、北学総第 2019-07123 号、北学総第 2019-07444 号、北学総第 2019-13334 号）

- 1 この学則は、2020 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、2020 年度から 2021 年度までの医学部の入学定員を 118 名とする。また、2022 年度から 2023 年度までの医学部の入学定員を 109 名とする。
- 3 第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部及び看護学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
医学部	医学科	713名	712名	702名	692名	683名	674名	666名	658名	659名	660名
看護学部	看護学科	505名	500名	495名	500名						

- 4 第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2 及び別表 3 について、獣医学部動物資源科学科にあっては 2020 年度入学者から、医学部にあっては 2020 年度入学者及び在学者から、理学部及び医療衛生学部にあつては 2020 年度入学者及び一部在学者から適用する。

附則（北学総第 2020-03578 号、北学総第 2020-06214 号）

この学則は、2020 年 7 月 1 日から施行する。

附則（北学総第 2020-07168 号）

この学則は、2020 年 11 月 1 日から施行する。

附則（北学総第 2020-04276 号、北学総第 2020-13397 号）

- 1 この学則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 2021 年 4 月 1 日をもって、医療衛生学部健康科学科を医療衛生学部保健衛生学科に名称変更し、2021 年度入学者及び在学者から適用する。
医療衛生学部保健衛生学科への名称変更に伴い、第 2 条（教育研究上の目的）に定める別表 1、第 5 条（学部、学科、専攻）、第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）、第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2, 3、第 27 条（卒業の要件及び学士の学位）、平成 29 年 4 月 1 日施行の附則第 2 項、2018 年 4 月 1 日施行の附則第 2 項及び 2019 年 4 月 1 日施行の附則第 2 項の名称を変更する。
- 3 第 10 条（学期）、第 36 条（休学）、第 37 条（休学期間）及び第 38 条（復学）については、2021 年度入学者及び在学者から適用する。
- 4 第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2, 3 については、獣医学部生物環境科学科、海洋生命科学部及び医療衛生学部保健衛生学科にあっては 2021 年度入学者から適用する。ただし、医療衛生学 4 群科目については、医療衛生学部（全学科）の 2021 年度入学者及び在学者から適用する。
- 5 第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 3 については、理学部生物科学科にあっては 2021 年度入学者及び一部在学者から適用する。
- 6 第 15 条（1 年間の授業期間）第 2 項については、2021 年度入学者及び在学者から適用する。
- 7 第 27 条（卒業の要件及び学士の学位）については、2021 年度入学者及び在学者から適用する。

附則（北学総第 2021-04593 号）

この学則は、2021年8月1日から施行する。

附則（北学総第 2021-03403 号、北学総第 2021-04597 号、北学総第 2021-06352 号、北学総第 2021-10214 号、北学総第 2021-11472 号）

- この学則は、2022年4月1日から施行する。
- 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、2022年度の医学部の入学定員を120名とする。また、2023年度の医学部の入学定員を109名とする。
- 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
医学部	医学科	713名	703名	694名	685名	677名	669名	659名	660名

- 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2,3については、獣医学部獣医学科及び医学部にあつては2022年度入学者及び在学者から、獣医学部生物環境科学科、看護学部及び医療衛生学部にあつては2022年度入学者から適用する。ただし、医療衛生学4群科目については、医療衛生学部（全学科）の2022年度入学者及び在学者から適用する。
- 第25条（教員の免許状の所要資格の取得）に定める別表4-①については、2022年度入学者から適用する。
- 第36条（休学）、第37条（休学期間）及び第45条（休学期間中の在籍料）については2022年度入学者及び在学者から適用する。
- 第43条（学費）について、薬学部にあつては2022年度入学者から適用する。

附則（北学総第 2022-05067 号、北学総第 2022-15518 号）

- この学則は、2023年4月1日から施行する。
- 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、2023年度の医学部の入学定員を125名とする。
- 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部及び未来工学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
医学部	医学科	719名	710名	701名	693名	685名	675名	660名
未来工学部	データサイエンス学科	100名	200名	300名	400名			

- 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2,3については、医学部にあつては2023年度入学者及び在学者から、理学部及び医療衛生学部にあつては2023年度入学者から適用する。ただし、医療衛生学4群科目については、医療衛生学部（全学科）の2023年度入学者及び在学者から適用する。

附則（北学総第 2023-05478 号）

- この学則は、2023年8月1日から施行する。
- 第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2,3における医療衛生学4群科目については、医療衛生学部（全学科）の2023年度入学者及び在学者から適用する。

附則（北学総第 2023-****号）

- この学則は、2024年4月1日から施行する。
- 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、2024年度の医学部の入学定員を126名とする。
- 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部、健康科学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
医学部	医学科	726名	717名	709名	701名	691名	676名	660名
健康科学部	看護学科	80名	160名	240名	320名			
	医療検査学科	80名	160名	240名	320名			

別表1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

薬学部	<p>【薬学部】</p> <p>薬学部では、最新の薬学的知識・技能のみならず、豊かな人間性と高い倫理観を備え、社会における様々な活動に、「薬」の視点を持って積極的に参加できる人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 基礎と臨床を両輪としたバランスのとれた薬学教育の展開、(2) 豊かな人間性と倫理観を醸成する教育の推進、(3) コミュニケーション能力を修得させる教育の推進、(4) 基礎と臨床が一体となった研究の展開とします。</p>
	<p>【薬学科】</p> <p>薬学部薬学科では、高度化・細分化された医療の中で、医薬品の適正使用を通して、医療の質を確保するための「薬の専門家」として活躍する薬剤師を養成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 臨床薬学に関連した高度な専門教育と実務教育の充実、(2) 豊かな人間性と医療人としての高い倫理観を醸成する教育の推進、(3) チーム医療に資するためのコミュニケーション能力を修得させる教育の推進、(4) 薬学・医療の進歩と改善に資するための研究遂行意欲と課題発見・問題解決能力を涵養する教育、(5) 生涯にわたる自己研鑽と次世代育成への意欲と態度を培う教育の推進とします。</p>
	<p>【生命創薬科学科】</p> <p>薬学部生命創薬科学科では、薬学関連領域における多様な人材需要に応えるため、薬剤師としてではなく、薬学の基礎的な知識・技能を基盤に、社会の多様な分野で活躍できる人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 薬学関連領域における基本的な知識・技能を修得させる教育の充実、(2) 豊かな人間性と倫理観を醸成する教育の推進、(3) 「考える力」(薬学の進歩と改善に資するための研究遂行意欲と課題発見・問題解決能力)を涵養する教育の推進、(4) 科学的なコミュニケーション能力を修得させる教育の推進、(5) 科学的探究心を向上させる教育の推進とします。</p>
獣医学部	<p>【獣医学部】</p> <p>獣医学部では、動物生命科学を基盤とする高度な専門知識や技術・資格と豊かな人間性を備え、人類の健康と福祉の向上及び持続可能な社会の創生に向け、多様な課題を解決できる人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 動物の疾病の予防・治療及び生命現象の科学的解明、(2) 動植物資源の利用と開発、(3) 持続型社会を志向した食料生産と環境保全、(4) 公衆衛生の向上、(5) 農と医の学際的領域の知識・技術の習得とします。</p>
	<p>【獣医学科】</p> <p>獣医学部獣医学科では、獣医学に関する高度な知識と技術及び豊かな人間性を身につけ、適切な問題解決能力を備え、動物と人類の健康と福祉の増進に貢献できる人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 動物生命科学、(2) 各種動物の疾病診断・治療・予防、(3) 伴侶動物の高度先端医療、(4) 人獣共通感染症、食の安全を始めとする公衆衛生、(5) 野生動物・環境保全など広範囲な領域における基礎・応用科学基盤を構築し、真理の深奥を究めることとします。</p>
	<p>【動物資源科学科】</p> <p>獣医学部動物資源科学科では、生命科学や医学と接点を持つ動物資源科学に関する高い専門的能力や問題解決能力を身に付け、自然と共生・共栄する人間社会に貢献できる人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 動物資源・食料資源の開発・利用を発展させるための専門的能力の習得、(2) 「農」と「医」の複眼的視点の獲得と異分野へ転移可能な汎用的能力の習得、(3) 知識、技能、行動から構成される総合的な実践力の習得とします。</p>
	<p>【生物環境科学科】</p> <p>獣医学部生物環境科学科では、野生動物と人との共存環境の創出やビオトープなど環境の保全や修復について具体的な提言や技術提供ができる人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 持続可能な食料生産環境の確保 (2) 環境保全の推進 (3) 生物多様性の維持など、地球及び地域の環境に調和した生物生産活動と環境保全や環境修復に関する知識・技術とともに環境倫理観の習得とします。</p>
医学部	<p>【医学部医学科】</p> <p>医学部では、広く体系的な知識と確実な技術を持ち、それを深化させるよう最先端の医学知識を意欲的に吸収できるような自己研鑽学習を継続する人材を育成するとともに、開学以来実践されてきた「チーム医療」の実践家となるため、他者に共感し、協働して物事に取り組むことができ、倫理観を持って広く社会に貢献できる人材の育成を目的としています。</p> <p>そのための教育研究上の目的として、(1) 人間性豊かで優れた医師の養成 (2) 学際領域を含む医学研究の推進 (3) 国際貢献の推進と地域医療への協力 (4) 予防医学の推進、の4項目をあげ、教育の基本理念としています。</p>

海洋生命科学部	<p>【海洋生命科学部海洋生命科学科】</p> <p>海洋生命科学部では、海洋生命科学一般の専門技術とその基盤となる学門領域を理解し、国際的な視野を持ち、これらを基に自らの意見を伝える能力、判断力、実践力を持つ人材の育成を目的とします。</p> <p>そのための教育研究上の目的は、(1) 多面的思考能力 (2) 自然科学の基礎知識・理論 (3) 専門分野の知識・技術 (4) 問題解決能力 (5) 実務遂行能力 (6) コミュニケーション能力 (7) 技術者倫理 (8) 継続的学習能力の獲得、達成とします。</p>
看護学部	<p>【看護学部看護学科】</p> <p>看護学部では、生命科学系総合大学のなかで他学部との連携のもとに、高度医療、医療安全の確保、予防医療、介護予防など、多様化した保健医療に対する社会の要請に応えうる幅広い知識と技能を備え、看護専門職者としてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的として、看護職者の具体的能力である (1) 人間性、(2) 思考力、(3) 表現能力、(4) 看護実践能力、(5) 改革能力の5つを強化することとしています。</p>
理学部	<p>【理学部】</p> <p>理学部では、物理学・化学・生物科学の分野における高水準の知識と実験技術を身に付け、幅広い視野と柔軟な思考力を兼ね備えた研究者・専門技術者・教育者となる人材を育成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 講義、実験、演習を通して、専門分野の高度な研究を遂行するための基礎として必要な知識と実験技術を教授する、(2) 自然現象を論理的にとらえる科学的思考力を育成し、研究遂行における課題の設定能力、問題解決能力を身に付けさせることとします。</p>
	<p>【物理学科】</p> <p>理学部物理学科では、自然現象に潜む原理や法則を理解し、多彩な自然現象や物質の性質を解明するための基礎力を身に付け、宇宙論から生命現象まで、さまざまな分野において未知の領域に切り込んでいく力を備えた人材を育成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 多様な物理領域の研究を展開するために必要な基礎知識と技術を教授する、(2) 身に付けた知識と技術を基礎研究、応用研究の場で活用できる能力を育成することとします。</p>
	<p>【化学科】</p> <p>理学部化学科では、実社会における多様な製品の生産基盤である物質の性質とその変化に関する基礎知識（構造、反応、機能、合成）を教授し、実践を通して生命科学や環境科学から医療、教育にわたる幅広い分野での研究・開発で活躍できる人材を育成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、基礎知識の教授（講義）と実践（実習と演習）による (1) 科学的論理に基づく判断力、(2) 多角的な視点から物質を評価する能力、(3) 能動的な立案、実行力を養成することとします。</p>
	<p>【生物科学科】</p> <p>理学部生物科学科では、生命科学についての高度な知識と研究技能を有するとともに、普遍的な生命現象のしくみを理解し、生物学や基礎医学などの多岐にわたる分野で活躍できる科学的思考能力を備えた人材を育成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 最先端の専門的研究を開始するために必要な基礎知識、実験能力、思考力、(2) 生命科学の知識や技術に基づいて複雑な生命活動を分子レベルで解明する能力を養うこととします。</p>
医療衛生学部	<p>【医療衛生学部】</p> <p>医療衛生学部では、高度医療現場においては、チーム医療を支えるメディカルスタッフとして、医療現場の外においては、予防医学と健康科学を主とした人の健康を支えるスタッフとして、幅広い教養と豊かな創造性に富む高度な専門知識と技術の実践力を兼ね備えた人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 高度な知識、技術を有する医療従事者の養成、(2) 学際的スペシャリストの養成、(3) 国際的視野を持ち国際社会に通用する人材の養成です。</p>
	<p>【保健衛生学科】</p> <p>医療衛生学部保健衛生学科では、健康な人を対象に、健康の保持・増進のための健康科学や予防医学の観点から、環境・食・労働・こころと健康の関係についての知識を身に付け、衛生的で安全な環境づくりに向けたマネジメント力を備えた人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 労働環境その他日常の社会生活の中で起こる種々の健康影響因子のリスク解析やその改善に向けた知識と技術の修得、(2) 職場及び地域社会における安全衛生管理から地球環境の保全までをマネジメントするための幅広い知識と技術の修得です。</p>
	<p>【医療検査学科】</p> <p>医療衛生学部医療検査学科では、人の健康や医療に関わる専門知識と高度な技術を修得し、医療現場においてはチーム医療を理解し実践でき、検体検査や画像診断によって得られた検査データを正確に医師に提供する臨床検査技師の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 幅広い教養と豊かな人間性、確固たる倫理観の修得、(2) 臨床検査の基礎となるバイオサイエンス関連知識と研究技術の修得、(3) 病気の診断に不可欠な臨床検査の理論から実際までの修得、(4) 医療現場におけるチーム医療の一員としての重要性の理解と実践力、(5) 問題解決能力の修得です。</p>

	<p>【医療工学科・臨床工学専攻】</p> <p>医療衛生学部医療工学科臨床工学専攻では、生命維持管理装置を中心とした最先端医療機器の操作及び保守点検を的確に行え、医療及び医療技術の変化に対応し、チーム医療の一員として医療に貢献できる臨床工学技士の養成、及び大学、企業、公共機関等で、研究開発、後進の指導的役割を担える人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 基礎工学、基礎医学、臨床医学、医療機器学等の学習、(2) 専門知識と技術の修得、(3) チーム医療の一員として必要な知識と技術の修得、(4) 臨床工学の未来に貢献できる研究能力の涵養です。</p>
	<p>【医療工学科・診療放射線技術科学専攻】</p> <p>医療衛生学部医療工学科診療放射線技術科学専攻では、人間の生命や生活の質を理解できる豊かな人間性ととともに、専門的職業人としての高度で専門的な画像検査・放射線治療の知識と技術を備え、医療の質を高めるチーム医療、研究開発、教育指導、地域医療に貢献できる診療放射線技師及び医療従事者の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 豊かな人間性の涵養、(2) 放射線の性質や人体への影響等の放射線技術の進歩に即応した放射線基礎科学の学習、(3) 地域社会のニーズに対応する画像検査と放射線治療の体系的学習、(4) 臨床実習を通じた実践的な技術とチーム医療等の専門的知識・技術の修得です。</p>
医療衛生学部	<p>【リハビリテーション学科・理学療法専攻】</p> <p>医療衛生学部リハビリテーション学科理学療法専攻では、医療と福祉の現場のみならず、地域住民の健康増進や疾病予防など高度で多様化した社会的ニーズに対応できる人材の養成を目的としています。そのため教育研究上の目的は、(1) 高い倫理観を身につけ、自ら考え開拓する力、(2) 年齢や障害の有無に関わらず、対象者の生活機能を客観的に評価する力、(3) 科学的根拠に基づいた理学療法を実践する力、を育てることとします。</p>
	<p>【リハビリテーション学科・作業療法専攻】</p> <p>医療衛生学部リハビリテーション学科作業療法専攻では、人々の健康と幸福を促進するために、作業療法の専門性を高度に備え、保健・医療・福祉・教育・産業等の分野でリーダーとして貢献できる人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 人間の「作業 (occupation)」の特性と作業的存在としての対象者を理解する力、(2) 作業遂行障害を適切に評価・介入する力、(3) 高度な臨床的思考能力、(4) 多職種連携のチーム医療および国際的視点を持った実践ができる力、(5) 発展的自己学習能力と高い人権意識・倫理観を育成することとします。</p>
	<p>【リハビリテーション学科・言語聴覚療法学専攻】</p> <p>医療衛生学部リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻では、言語、聴覚、コミュニケーション、摂食・嚥下などに障害がある人たちが豊かで質の高い生活を送れるように、専門職として支援し、医療・保健福祉・教育に貢献できる言語聴覚士の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 関連医学領域、言語学・心理学・音響学等の多彩な専門基礎科目の学習 (2) 適切な評価・介入及び指導を実施するための専門科目の知識・技術の修得です。</p>
	<p>【リハビリテーション学科・視覚機能療法学専攻】</p> <p>医療衛生学部リハビリテーション学科視覚機能療法学専攻では、眼の構造から疾患までの幅広い知識と視機能評価法を修得し、医師と共に適切な治療プログラムを組み、研究を遂行する力を備え、新しい分野の教育・研究ができる視能訓練士の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 疾患から最新の研究まで眼の多面的な学習、(2) 視能訓練士に必要な視覚の基礎知識から検査・治療の実践までの段階的修得です。</p>
未来工学部	<p>【未来工学部データサイエンス学科】</p> <p>未来工学部では、「今ここにある問題」のさらに先にある、まだ起きていない未来の課題を工学的手法でいち早く見出し、技術の問題だけにとどまらない複雑で広範囲な社会課題に取り組むとともに、新たな価値を創造する人材の育成を目的とします。</p> <p>データサイエンス学科では、「現在と過去からの蓄積である様々なデータを読み解き、今ある課題を適切に解決するだけでなく、顕在化していない将来の課題を見出す力」を習得した人材を輩出します。そのためには現在そして将来社会に求められる高度なAI技術の知識と技術、データを解析しモデル化することにより深く理解するだけでなく、新たなデータ解析やモデリングのアイデアをプログラムとして実装する能力を身に付けた人材の育成を目的とします。そのための具体的な教育研究上の目的は、(1) 講義、実習、演習を通じ、ライフサイエンスなどの専門分野でのデータサイエンス研究・実務を遂行するための基礎となる知識を習得し、プログラミングをはじめ実験技術を教授する、(2) データサイエンスの教理的背景を理解させ、研究・実務遂行における課題の設定能力、問題解決能力を身に付けさせることとします。</p>

健康科学部	<p>【健康科学部】</p> <p>健康科学部では、社会の要請に応えうる、高度医療現場でチーム医療を支えるメディカルスタッフに必要とされる高度な医療技術、知識を有し、地域医療を展開できる人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 社会の要請に応えうる幅広い医療知識と技能の修得、(2) チーム医療における高度な実践力の修得としています。</p>
	<p>【看護学科】</p> <p>健康科学部看護学科では、高度医療、地域医療、医療安全の確保、予防医療、介護予防など、多様化した保健医療に対する社会の要請に応えうる幅広い知識と技能を備え、看護専門職者としてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的とし、「生命科学系 総合大学」という本学の特長を活かして他学部との連携のもとに教育を行っていきます。</p> <p>そのための教育研究上の目的として、看護職者の具体的能力である (1) 人間性、(2) 思考力、(3) 表現能力、(4) 看護実践能力、(5) 改革能力の5つを強化することとしています。</p>
	<p>【医療検査学科】</p> <p>健康科学部医療検査学科では、医学検査を実践するために必要な基礎的・専門的知識と技術を修得し、検体検査や生理検査によって得られた精度の高い検査データを医師に提供するとともに、医療現場でチーム医療を実践し、地域医療に貢献できる臨床検査技師の養成を目的としています。</p> <p>そのための教育研究上の目的は、(1) 医療人の一員として求められる幅広い教養と豊かな人間性、確固たる倫理観に裏打ちされた使命感の修得、(2) 臨床検査の基盤となるバイオサイエンスの理論や技術の修得、(3) 臨床診断に不可欠な臨床検査技術の理論および実践力の修得、(4) 医療現場におけるチーム医療の一員としての重要性の理解と実践力の修得、(5) 地域・在宅医療にも対応できる臨床検査技術の修得としています。</p>
一般教育部	<p>【一般教育部】</p> <p>一般教育部では、幅広い視野および豊かな人間性と倫理観を備え、全人的な教養を身につけた生命科学を志向する人材の育成を目的としています。そのための教育研究上の目的は (1) 自然科学分野の幅広い知識、社会人としての教養、語学、数学および情報処理などの基礎知識を教授し、(2) 意思疎通、自己表現のためのコミュニケーション能力を育成するとともに、(3) 学部教育へのスムーズな橋渡しを可能にする教育を実践することとします。</p>

別表2

学部	学科	授業科目	単位数			履修方法	卒業要件単位		
			必修	選択	自由		必修	選択	計
薬学部	薬学科	薬学1群科目	15	103	3		15	16	31
		文化の領域		24		文化、社会の領域と総合領域科目の選択科目より8単位選択必修 健康の領域、教養演習系及び数理・情報系（情報科学A、B、C）の選択科目より4単位選択必修 数学または発展数学(A+B)のいずれか4単位選択必修		8	8
		社会の領域		40					
		総合領域	1	2			1		1
		健康の領域		14				4	4
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系		14				4	4
		自然科学系	10		3		10		10
	教養演習系		9						
	薬学2群科目	10				10		10	
	薬学3群科目	142	40	7		142	6	148	
	薬学4群科目※			4					
	計	167	143	14		167	22	189	
						卒業要件189単位以上			
	生命創薬科学科	薬学1群科目	16	102	3		16	16	32
		文化の領域		24		文化、社会の領域と総合領域科目の選択科目より8単位選択必修 健康の領域、教養演習系及び数理・情報系（情報科学A、B、C）の選択科目より4単位選択必修 数学または発展数学(A+B)のいずれか4単位選択必修		8	8
		社会の領域		40					
総合領域		2	1		2			2	
健康の領域			14				4	4	
外国語系		4			4			4	
数理・情報系			14				4	4	
自然科学系		10		3	10			10	
教養演習系		9							
薬学2群科目	10				10		10		
薬学3群科目	71	56			71	17	88		
薬学4群科目※			1						
計	97	158	4		97	33	130		
					卒業要件130単位以上				

※薬学4群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目を表す。

学部	学科	授業科目	単位数			履修方法	卒業要件単位			
			必修	選択	自由		必修	選択	計	
獣医学部	獣医学科	獣医学1群科目	14	115	5		14	22	36	
		文化の領域		24		選択科目より6単位選択必修		6	6	
		社会の領域		40		選択科目より6単位選択必修		6	6	
		健康の領域		14		選択科目より2単位選択必修		2	2	
		総合領域		3						
		外国語系	4			総合領域、数理・情報系、自然科学系、教養演習系の選択科目より8単位選択必修	4	8	12	
		数理・情報系		18	2					
		自然科学系	10	5	3		10		10	
		教養演習系		11						
		獣医学2群科目	11	7		選択科目より4単位選択必修	11	4	15	
	獣医学3群科目	126	12			126	6	132		
	生体機構系	41				41		41		
	予防衛生系	31				31		31		
	臨床系	38	6		エキゾチックアニマル又はプロダクションメディスンより1単位、小動物参加型臨床実習Ⅰ、Ⅱ及び大動物参加型臨床実習Ⅰ、Ⅱより2単位選択必修	38	3	41		
	共通	16	6		選択科目より3単位選択必修	16	3	19		
	獣医学4群科目※									
	計	151	134	5		151	32	183		
								卒業要件183単位以上		
	動物資源科学科	獣医学1群科目	14	111	12		14	20	34	
		文化の領域		24		文化の領域、社会の領域、総合領域から12単位選択必修		12	12	
		社会の領域		40						
		健康の領域		14		選択科目より2単位選択必修		2	2	
		総合領域		3						
		外国語系	4				4		4	
		数理・情報系		20		数理・情報系、自然科学系及び教養演習系の選択科目より6単位選択必修		6	6	
		自然科学系	10	5	8		10		10	
		教養演習系		5	4					
獣医学2群科目		18	7			18		18		
獣医学3群科目	45	42		2群、3群の選択科目より27単位選択必修	45		45			
						27	27			
獣医学4群科目※										
計	77	160	12		77	47	124			
							卒業要件124単位以上			
生物環境科学科	獣医学1群科目	23	86	23		23	12	35		
	文化の領域		24		選択科目より4単位選択必修		4	4		
	社会の領域		40		選択科目より4単位選択必修		4	4		
	健康の領域		14		選択科目より2単位選択必修		2	2		
	総合領域		3		選択科目より1単位選択必修		1	1		
	外国語系	4				4		4		
	数理・情報系	4		16		4		4		
	自然科学系	15		3		15		15		
	教養演習系		5	4	選択科目より1単位選択必修		1	1		
	獣医学2群科目	19	3	2		19		19		
獣医学3群科目	48	34		2群、3群の選択科目より22単位選択必修	48		48			
						22	22			
獣医学4群科目※										
計	90	123	25		90	34	124			
							卒業要件124単位以上			

※獣医学4群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目を表す。

学部	学科	授業科目	単位数			履修方法	卒業要件単位			
			必修	選択	自由		必修	選択	計	
医学部	医学科	医学1群科目	26単位	75単位	5単位		26単位	10単位	36単位	
		文化の領域		24単位		文化、社会、健康(健康の科学A、B、C)、総合領域の選択科目より8単位選択必修 教養演習系科目の言語と文化Aでは、ドイツ語、フランス語のうち、いずれか一方を選択必修		8単位	8単位	
		社会の領域		40単位						
		健康の領域	2単位	6単位			2単位		2単位	
		総合領域		3単位						
		外国語系	4単位				4単位		4単位	
		数理・情報系	8単位				8単位		8単位	
自然科学系	12単位			12単位			12単位			
教養演習系		2単位	5単位			2単位	2単位			
		医学2群科目	210時間			210時間		210時間		
		医学3群科目	4,026時間	3,939時間		選択科目より6科目606時間選択必修	4,026時間	606時間	4,632時間	
		2群・3群 時間数計	4,236時間	3,939時間		4,236時間	606時間	4,842時間		
		備考	1群科目は単位数で、2群・3群科目は時間数で表す。							
海洋生命科学部	海洋生命科学科	海洋生命科学1群科目	14	107	16		14	18	32	
		文化の領域		24		文化、社会、健康の領域、数理・情報系(数学の基礎)、自然科学系(物理学、物理学実験)、教養演習系(言語と文化A、Bを除く)より11単位選択必修 総合領域の選択科目より1単位選択必修 数学または発展数学A、Bより4単位、情報科学A、B、Cより2単位選択必修				
		社会の領域		40						
		健康の領域		14				11	11	
		総合領域		3				1	1	
		外国語系	4				4		4	
		数理・情報系		16	4			6	6	
		自然科学系	10	5	8			10	10	
		教養演習系		5	4					
				海洋生命科学2群科目	41		3		41	
		海洋生命科学3群科目	34	32	1		2群、3群の選択科目より18単位選択必修	34		34
		海洋生命科学4群科目※					18	18		
		計	89	142	17	89	36	125		
			卒業要件125単位以上							
看護学部	看護学科	看護学1群科目	4	117	8		4	22	26	
		文化の領域		24		選択科目より4単位選択必修 選択科目より4単位選択必修 選択科目より4単位選択必修 選択科目より4単位選択必修 選択科目より4単位選択必修 選択科目より4単位選択必修 選択科目より2単位選択必修		4	4	
		社会の領域		40				4	4	
		健康の領域		14				4	4	
		外国語系	4				4		4	
		数理・情報系		20				4	4	
		自然科学系		12	3			4	4	
		総合領域		3	5					
		教養演習系		4					2	2
				看護学2群科目	22		13		3群の選択科目より4単位選択必修、	22
		看護学3群科目	70	19	34		その他2群、3群それぞれの選択科目より6単位選択必修	70		70
		看護学4群科目※					10	10		
		計	96	149	42	96	32	128		
			卒業要件128単位以上							

※海洋生命科学4群科目、看護学4群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目を表す。

学部	学科	授業科目	単位数			履修方法	卒業要件単位			
			必修	選択	自由		必修	選択	計	
理学部	物理学科	理学1群科目	4	96			4	12	16	
		文化の領域		24		1群の選択科目より12単位選択必修 12単位のうち、4単位以上は文化、社会、健康、総合領域科目から選択必修		12	12	
		社会の領域		40						
		健康の領域		14						
		総合領域		3						
		外国語系	4				4		4	
		数理・情報系		6						
		教養演習系		9						
		理学2群科目	14	5			14		14	
		理学3群科目	70	52	2	2群、3群の選択科目より24単位選択必修	70		70	
							24	24		
	理学4群科目※			1						
	計	88	153	3		88	36	124		
								卒業要件124単位以上		
	化学科	理学1群科目	4	96			4	12	16	
		文化の領域		24		1群の選択科目より12単位選択必修 12単位のうち、4単位以上は文化、社会、健康、総合領域科目から選択必修		12	12	
		社会の領域		40						
		健康の領域		14						
総合領域			3							
外国語系		4			4			4		
数理・情報系			6							
教養演習系			9							
理学2群科目		18	7			18		18		
理学3群科目		68	46	2	2群、3群の選択科目より22単位選択必修	68		68		
						22	22			
理学4群科目※			1							
計	90	149	3		90	34	124			
							卒業要件124単位以上			
生物科学科	理学1群科目	4	96			4	12	16		
	文化の領域		24		1群の選択科目より12単位選択必修 12単位のうち、4単位以上は文化、社会、健康、総合領域科目から選択必修		12	12		
	社会の領域		40							
	健康の領域		14							
	総合領域		3							
	外国語系	4				4		4		
	数理・情報系		6							
	教養演習系		9							
	理学2群科目	16	11			16		16		
	理学3群科目	66	56	2	2群、3群の選択科目より26単位選択必修	66		66		
						26	26			
理学4群科目※			1							
計	86	163	3		86	38	124			
							卒業要件124単位以上			

※理学4群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目、単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目及び総合的な能力を形成する科目を表す。

学部	学科	授業科目	単位数			履修方法	卒業要件単位		
			必修	選択	自由		必修	選択	計
医療衛生学部	保健衛生学科 (環境保健学コース)	医療衛生学1群科目	16	100	15		16	17	33
		文化の領域		24		文化の領域、総合領域科目、教養演習系の選択科目より4単位選択必修		4	4
		社会の領域		40		選択科目より4単位選択必修		4	4
		健康の領域		8	6	選択科目より2単位選択必修		2	2
		総合領域		3		文化の領域、総合領域科目、教養演習系の選択科目より4単位選択必修			
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系	7	6	6	選択科目より2単位選択必修	7	2	9
		自然科学系	5	10	3	選択科目より5単位選択必修	5	5	10
		教養演習系		9		文化の領域、総合領域科目、教養演習系の選択科目より4単位選択必修			
		医療衛生学2群科目	38	16		2群、3群の選択科目より32単位を選択必修	38		38
	医療衛生学3群科目	25	25	1		25		25	
							32	32	
	医療衛生学4群科目※			12					
	計	79	141	28		79	49	128	
						卒業要件128単位以上			
	保健衛生学科 (臨床心理学コース)	医療衛生学1群科目	20	96	15		20	15	35
		文化の領域		24		文化の領域、総合領域科目、教養演習系の選択科目より4単位選択必修		4	4
		社会の領域	4	36		選択科目より2単位選択必修	4	2	6
		健康の領域		8	6	選択科目より2単位選択必修		2	2
		総合領域		3		文化の領域、総合領域科目、教養演習系の選択科目より4単位選択必修			
外国語系		4				4		4	
数理・情報系		7	6	6	選択科目より2単位選択必修	7	2	9	
自然科学系		5	10	3	選択科目より5単位選択必修	5	5	10	
教養演習系			9		文化の領域、総合領域科目、教養演習系の選択科目より4単位選択必修				
医療衛生学2群科目		36	24		2群、3群の選択科目より21単位を選択必修	36		36	
医療衛生学3群科目	32	27			32		32		
						21	21		
医療衛生学4群科目※			12						
計	88	147	27		88	36	124		
					卒業要件124単位以上				

※医療衛生学4群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目等を表す。

学部	学科	授業科目	単位数			履修方法	卒業要件単位		
			必修	選択	自由		必修	選択	計
医療衛生学部	医療検査学科	医療衛生学1群科目	12	108	11		12	21	33
		文化の領域		24		選択科目より4単位選択必修		4	4
		社会の領域		40		選択科目より2単位選択必修		2	2
		健康の領域		8	6	選択科目より2単位選択必修		2	2
		総合領域		3		総合領域科目、教養演習系科目の選択科目より2単位選択必修		2	2
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系	3	14	2	選択科目より6単位選択必修	3	6	9
		自然科学系	5	10	3	選択科目より5単位選択必修	5	5	10
		教養演習系		9		総合領域科目、教養演習系科目の選択科目より2単位選択必修			
		医療衛生学2群科目	28				28		28
医療衛生学3群科目	78		7		78		78		
医療衛生学4群科目※			12						
計	118	108	30		118	21	139		
							卒業要件139単位以上		

※医療衛生学4群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目等を表す。

学部 学科	専攻	授業科目	単位数			履修方法	卒業要件単位		
			必修	選択	自由		必修	選択	計
医療衛生学部	臨床工学専攻	医療衛生学1群科目	22	83	28		22	10	32
		文化の領域		24		文化の領域、総合領域科目の選択科目		2	2
		社会の領域		40		選択科目より2単位選択必修		2	2
		健康の領域		8	6	選択科目より2単位選択必修		2	2
		総合領域		3		文化の領域、総合領域科目の選択科目			
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系	3	8	10	選択科目より4単位選択必修	3	4	7
		自然科学系	15		3		15		15
		教養演習系			9				
		医療衛生学2群科目	40		4		40		40
	医療衛生学3群科目	64				64		64	
	医療衛生学4群科目※			12					
	計	126	83	44		126	10	136	
						卒業要件136単位以上			
	診療放射線技術科学専攻	医療衛生学1群科目	7	98	28		7	20	27
		文化の領域		24		文化の領域、総合領域科目の選択科目より2単位選択必修		2	2
		社会の領域		40		選択科目より2単位選択必修		2	2
		健康の領域		8	6	選択科目より2単位選択必修		2	2
		総合領域		3		文化の領域、総合領域科目の選択科目より2単位選択必修			
		外国語系	4				4		4
数理・情報系		3	8	10	選択科目より4単位選択必修	3	4	7	
自然科学系			15	3	選択科目より10単位選択必修		10	10	
教養演習系				9					
医療衛生学2群科目		21	3			21		21	
医療衛生学3群科目	88	4	1	2群、3群の選択科目より3単位選択必修	88		88		
						3	3		
医療衛生学4群科目※			12						
計	116	105	41		116	23	139		
					卒業要件139単位以上				

※医療衛生学4群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目等を表す。

学部 学科	専攻	授 業 科 目	単 位 数			履 修 方 法	卒 業 要 件 単 位			
			必修	選択	自由		必修	選択	計	
医療衛生学部 リハビリテーション学科	理学療法学専攻	医療衛生学1群科目	16	86	31		16	15	31	
		文化の領域		24		文化の領域、総合領域科目、教養演習系科目の選択科目より4単位選択必修		4	4	
		社会の領域		40		選択科目より4単位選択必修		4	4	
		健康の領域	2		12		2		2	
		総合領域		3		文化の領域、総合領域科目、教養演習系科目の選択科目より4単位選択必修				
		外国語系	4				4		4	
		数理・情報系	5	8	8	選択科目より2単位選択必修	5	2	7	
		自然科学系	5	10	3	選択科目より5単位選択必修	5	5	10	
		教養演習系		1	8	文化の領域、総合領域科目、教養演習系科目の選択科目より4単位選択必修				
		医療衛生学2群科目	38	10		選択科目より2単位選択必修	38	2	40	
	医療衛生学3群科目	64	7	1	選択科目より3単位選択必修	64	3	67		
	医療衛生学4群科目※			12						
	計	118	103	44		118	20	138		
								卒業要件138単位以上		
	作業療法学専攻	医療衛生学1群科目	18	100	15		18	14	32	
		文化の領域		24		文化の領域、総合領域科目の選択科目より2単位選択必修		2	2	
		社会の領域	4	36		選択科目より2単位選択必修	4	2	6	
		健康の領域		8	6	選択科目より2単位選択必修		2	2	
		総合領域		3		文化の領域、総合領域科目の選択科目より2単位選択必修				
		外国語系	4				4		4	
数理・情報系		9	6	6	選択科目より2単位選択必修	9	2	11		
自然科学系			15	3	選択科目より5単位選択必修		5	5		
教養演習系		1	8		選択科目より1単位選択必修	1	1	2		
医療衛生学2群科目		32	15		選択科目より3単位選択必修	32	3	35		
医療衛生学3群科目	64	4	1	選択科目より2単位選択必修	64	2	66			
医療衛生学4群科目※			12							
計	114	119	28		114	19	133			
							卒業要件133単位以上			

※医療衛生学4群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目等を表す。

学部 学科	専攻	授業科目	単位数			履修方法	卒業要件単位			
			必修	選択	自由		必修	選択	計	
医療衛生学部 リハビリテーション学科	言語聴覚療法学専攻	医療衛生学1群科目	9	97	27		9	16	25	
		文化の領域		24		文化の領域、総合領域科目、教養演習系科目の選択科目より4単位選択必修		4	4	
		社会の領域		40		選択科目より4単位選択必修		4	4	
		健康の領域		8	6	選択科目より2単位選択必修		2	2	
		総合領域		3		文化の領域、総合領域科目、教養演習系科目の選択科目より4単位選択必修				
		外国語系	4				4		4	
		数理・情報系	5	6	10	選択科目より2単位選択必修	5	2	7	
		自然科学系		15	3	選択科目より4単位選択必修		4	4	
		教養演習系		1	8	文化の領域、総合領域科目、教養演習系科目の選択科目より4単位選択必修				
		医療衛生学2群科目	45	4		選択科目より2単位選択必修	45	2	47	
	医療衛生学3群科目	59				59		59		
	医療衛生学4群科目※			12						
	計	113	101	39		113	18	131		
								卒業要件131単位以上		
	視覚機能療法学専攻	医療衛生学1群科目	14	91	28		14	14	28	
		文化の領域		24		文化の領域、総合領域科目の選択科目より2単位選択必修		2	2	
		社会の領域		40		選択科目より2単位選択必修		2	2	
		健康の領域		8	6	選択科目より2単位選択必修		2	2	
		総合領域		3		文化の領域、総合領域科目の選択科目より2単位選択必修				
		外国語系	4				4		4	
数理・情報系		5	8	8	選択科目より4単位選択必修	5	4	9		
自然科学系		5	8	5	選択科目より4単位選択必修	5	4	9		
教養演習系				9						
医療衛生学2群科目		45		3		45		45		
医療衛生学3群科目	44	20			44	10	54			
医療衛生学4群科目※			12							
計	103	111	43		103	24	127			
							卒業要件127単位以上			

※医療衛生学4群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目等を表す。

学部	学科	授 業 科 目	単 位 数			履 修 方 法	卒 業 要 件 単 位			
			必修	選択	自由		必修	選択	計	
未来工学部	データサイエンス学科	未来工学1群科目	24	79	11		24	8	32	
		文化の領域		24		1群科目から8単位選択必修 8単位のうち、4単位は文化の領域、 社会の領域、健康の領域、総合領域科 目から選択必修		8	8	
		社会の領域		40						
		健康の領域		8						
		総合領域		3						
		外国語系	4					4		4
		数理・情報系	10	4				10		10
		自然科学系	10		2			10		10
		教養演習系			9					
		未来工学2群科目	20	6		2群、3群の選択科目から28単位 選択必修	20		20	
未来工学3群科目	44	39			44		44			
						28	28			
未来工学4群科目※										
計	88	124	11		88	36	124			
							卒業要件124単位以上			

※未来工学4群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目等を表す。

学部 学科	専攻	授業科目	単位数			履修方法	卒業要件単位			
			必修	選択	自由		必修	選択	計	
健康科学部	看護学科	健康科学1群科目	20	14		選択科目より10単位選択必修。ただし、「北里の世界」または「農医連携論」のどちらかは必ず選択すること。	20	10	30	
		健康科学2群科目	23				23		23	
		健康科学3群科目	71	9	17		71		71	
		健康科学4群科目※								
		計	114	23	17		114	10	124	
								卒業要件124単位以上		
	医療検査学科	健康科学1群科目	24	2		「北里の世界」または「農医連携論」のどちらかを選択必修。	24	1	25	
		健康科学2群科目	22				22		22	
		健康科学3群科目	91		3		91		91	
		健康科学4群科目※								
		計	137	2	3		137	1	138	
								卒業要件138単位以上		

※健康科学4群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目等を表す。

別表 3

- (1) ◎印は必修科目、無印は選択科目、※印は自由科目を表す。
 (2) 数字は単位数を表す。(医学3群科目においては時間数を表す。)
 (3) 自由科目は卒業単位に含まない。
 (4) 履修方法は各学部規則の定めるところによる。

薬学1群科目(薬学科)

人間形成の基礎科目		日本と国際社会 A	2	数理・情報系	
文化の領域		日本と国際社会 B	2	数学	4
哲学の楽しみ A	2	環境を考える A	2	発展数学 A	2
哲学の楽しみ B	2	環境を考える B	2	発展数学 B	2
科学を考える A	2	歴史と人間 A	2	情報科学 A	2
科学を考える B	2	歴史と人間 B	2	情報科学 B	2
芸術の楽しみ A	2	心理学 A	2	情報科学 C	2
芸術の楽しみ B	2	心理学 B	2	自然科学系	
倫理学 A	2	健康の領域		◎ 物理学	4
倫理学 B	2	健康の科学 A	2	◎ 物理学実験	1
文学の楽しみ A	2	健康の科学 B	2	◎ 生物学	4
文学の楽しみ B	2	健康の科学 C	2	◎ 生物学実験	1
信仰と救い A	2	健康とスポーツ演習	2	※ 物理学要習	1
信仰と救い B	2	ライフスポーツ演習 A	2	※ 化学要習	1
社会の領域		ライフスポーツ演習 B	2	※ 生物学要習	1
日本国憲法 A	2	ライフスポーツ演習 C	2	教養演習系科目	
日本国憲法 B	2	総合領域科目		教養演習系	
法律の役割 A	2	総合領域		教養演習 A	2
法律の役割 B	2	◎ 北里の世界	1	教養演習 B	1
経済のしくみ A	2	仕事と人生	1	教養演習 C	1
経済のしくみ B	2	農医連携論	1	大学基礎演習	1
個人と社会 A	2	基礎教育科目		言語と文化 A	2
個人と社会 B	2	外国語系		言語と文化 B	2
政治のしくみ A	2	◎ 英語 A I	1		
政治のしくみ B	2	◎ 英語 A II	1		
文化人類学 A	2	◎ 英語 B I	1		
文化人類学 B	2	◎ 英語 B II	1		

※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。

薬学1群科目（生命創薬科学科）

人間形成の基礎科目	日本と国際社会A	2	数理・情報系	
文化の領域	日本と国際社会B	2	数学	4
哲学の楽しみA	環境を考えるA	2	発展数学A	2
哲学の楽しみB	環境を考えるB	2	発展数学B	2
科学を考えるA	歴史と人間A	2	情報科学A	2
科学を考えるB	歴史と人間B	2	情報科学B	2
芸術の楽しみA	心理学A	2	情報科学C	2
芸術の楽しみB	心理学B	2	自然科学系	
倫理学A	健康の領域		◎ 物理学	4
倫理学B	健康の科学A	2	◎ 物理学実験	1
文学の楽しみA	健康の科学B	2	◎ 生物学	4
文学の楽しみB	健康の科学C	2	◎ 生物学実験	1
信仰と救いA	健康とスポーツ演習	2	※ 物理学要習	1
信仰と救いB	ライフスポーツ演習A	2	※ 化学要習	1
社会の領域	ライフスポーツ演習B	2	※ 生物学要習	1
日本国憲法A	ライフスポーツ演習C	2	教養演習系科目	
日本国憲法B	総合領域科目		教養演習系	
法律の役割A	総合領域		教養演習A	2
法律の役割B	◎ 北里の世界	1	教養演習B	1
経済のしくみA	◎ 仕事と人生	1	教養演習C	1
経済のしくみB	農医連携論	1	大学基礎演習	1
個人と社会A	基礎教育科目		言語と文化A	2
個人と社会B	外国語系		言語と文化B	2
政治のしくみA	◎ 英語A I	1		
政治のしくみB	◎ 英語A II	1	※印は自由科目であり、卒業要件 単位に含まない。	
文化人類学A	◎ 英語B I	1		
文化人類学B	◎ 英語B II	1		

薬学2群科目（薬学科・生命創薬科学科共通）

◎ 化学	1	◎ 有機化学 I	1	◎ 英語C II	1
◎ 基礎有機化学	1	◎ 情報リテラシー I	1	◎ 医薬品構造学 I	1
◎ 代数学	1	◎ 情報リテラシー II	1		
◎ 統計学	1	◎ 英語C I	1		

薬学3群科目（薬学科）

◎ 薬学概論	1	◎ 薬物治療学Ⅰ	1	文献講読ゼミC	1
◎ 薬用植物学	1	◎ 医療心理学	1	医療ボランティア実習C	1
◎ 薬と仕事Ⅰ	1	◎ 臨床検査学Ⅰ	1	◎ 医薬品安全性学Ⅱ	1
◎ 解剖学	1	◎ 公衆衛生学Ⅰ	1	◎ 医薬関連制度	1
◎ 生化学Ⅰ	1	◎ 微生物学実習Ⅰ	1	◎ 臨床薬物動態学	1
◎ 生理学Ⅰ	1	◎ 微生物学実習Ⅱ	1	◎ 薬物治療学Ⅳ	1
◎ チーム医療論	1	◎ 物理薬剤学実習	1	◎ 地域医療薬学Ⅲ	1
◎ 有機化学Ⅱ	1	薬学英语Ⅰ	1	◎ 医療倫理学	1
◎ 分析科学Ⅰ	1	細胞生物学	1	◎ 病院・薬局実習事前実習	4
◎ 生薬学Ⅰ	1	構造生命科学	1	薬品製造化学	1
◎ 生命物理化学Ⅰ	1	放射薬品学実習	1	臨床試験総論	1
◎ 生化学Ⅱ	1	文献講読ゼミA	1	臨床栄養学	1
◎ 微生物学Ⅰ	1	医療ボランティア実習A	1	救急治療・臨床中毒学	1
◎ 生理学Ⅱ	1	◎ 製剤学	1	創薬化学	1
◎ 薬理学Ⅰ	1	◎ 合成化学Ⅱ	1	リハビリテーション論	1
◎ 病理学	1	◎ 東洋医学概論	1	文献講読ゼミD	1
◎ 薬学統計学	1	◎ 生物薬剤学	1	医療ボランティア実習D	1
◎ 薬と仕事Ⅱ	1	◎ 衛生化学Ⅱ	1	◎ 病院・薬局実習	20
健康科学	1	◎ 臨床医学概論Ⅱ	1	◎ 薬事行政	1
◎ 医薬品化学実習	1	◎ 疾病解析学	1	臨床統計学	1
◎ 有機分析実習	1	◎ 薬物治療学Ⅱ	1	ケミカルバイオロジー論	1
◎ 定量分析実習	1	◎ 調剤学	1	香粧品学	1
◎ 社会薬学実習	1	◎ 地域医療薬学Ⅰ	1	医薬品マーケティング論	1
◎ 有機化学Ⅲ	1	◎ 衛生化学実習	1	医療薬学英语	1
◎ 分析科学Ⅱ	1	◎ 公衆衛生学実習	1	終末期・緩和医療論	1
◎ 生薬学Ⅱ	1	◎ 薬理学実習Ⅰ	1	生薬・東洋医学精説	1
◎ 生命物理化学Ⅱ	1	◎ 薬理学実習Ⅱ	1	感染制御学	1
◎ 生化学Ⅲ	1	薬学英语Ⅱ	1	◎ 薬物治療学演習Ⅰ	1
◎ 微生物学Ⅱ	1	医薬品構造学Ⅱ	1	◎ 薬物治療学演習Ⅱ	1
◎ 化学療法学Ⅰ	1	臨床生理学Ⅰ	1	◎ チーム医療演習	1
◎ 薬理学Ⅱ	1	臨床生化学	1	医療コミュニケーション演習	1
◎ 病態評価学	1	文献講読ゼミB	1	薬局管理学	1
◎ 医療コミュニケーション論	1	医療ボランティア実習B	1	臨床検査学Ⅱ	1
◎ ゲノム医学	1	◎ 医薬品化学	1	臨床病理学	1
◎ 生命物理化学実習	1	◎ 薬物速度論	1	◎ 薬学卒業特別実習	10
◎ 生薬学実習	1	◎ 公衆衛生学Ⅱ	1	◎ 薬学総合演習	20
◎ 生化学実習	1	◎ 臨床医学概論Ⅲ	1	※ 初級太極拳演習（養生法演習）	1
◎ 有機合成実習	1	◎ 医薬品安全性学Ⅰ	1	※ 漢方調剤薬局実務演習	1
◎ 分析科学Ⅲ	1	◎ 医薬品情報学	1	※ 臨床生理学実習	1
◎ 合成化学Ⅰ	1	◎ 薬事関係法規	1	※ 臨床検査学実習	1
◎ 衛生化学Ⅰ	1	◎ 薬物治療学Ⅲ	1	※ 臨床化学実習	1
◎ 放射薬品学	1	◎ 地域医療薬学Ⅱ	1	※ 医用工学概論実習	1
◎ 免疫学	1	◎ 医療薬学	1	※ 臨床検査総論実習	1
◎ 化学療法学Ⅱ	1	◎ プレゼンテーション実習	1		
◎ 薬理学Ⅲ	1	看護学	1		
◎ 臨床医学概論Ⅰ	1	物理薬剤学Ⅱ	1		
◎ 物理薬剤学Ⅰ	1	健康食品論	1		
臨床心理学入門	1	臨床生理学Ⅱ	1		

※印は自由科目（臨床検査技師課程に関する科目を含む）であり、卒業要件単位に含まない。

薬学4群科目（薬学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目			
実践医療薬学A	1	実践医療薬学B	1
基礎有機化学演習	1	実践医療薬学C	1

薬学3群科目（生命創薬科学科）

◎ 薬学概論	1	◎ 衛生化学Ⅰ	1	医薬品化学	1
◎ 薬用植物学	1	◎ 放射薬品学	1	公衆衛生学Ⅱ	1
◎ 創薬科学への招待	1	◎ 免疫学	1	医薬品安全性学Ⅰ	1
◎ 解剖学	1	◎ 化学療法学Ⅱ	1	医薬品情報学	1
◎ 生化学Ⅰ	1	◎ 薬理学Ⅲ	1	薬物速度論	1
◎ 生理学Ⅰ	1	◎ 細胞生物学	1	臨床医学概論Ⅲ	1
◎ 生命創薬科学研究概説	1	◎ 構造生命科学	1	看護学	1
チーム医療論	1	◎ 創薬情報科学	1	物理薬剤学Ⅱ	1
◎ 有機化学Ⅱ	1	◎ 公衆衛生学Ⅰ	1	健康食品論	1
◎ 分析科学Ⅰ	1	◎ 文献講読ゼミA	1	臨床病理学	1
◎ 生薬学Ⅰ	1	◎ 微生物学実習Ⅰ	1	臨床統計学	1
◎ 生命物理化学Ⅰ	1	◎ 微生物学実習Ⅱ	1	ケミカルバイオロジー論	1
◎ 生化学Ⅱ	1	◎ 物理薬剤学実習	1	香粧品学	1
◎ 微生物学Ⅰ	1	物理薬剤学Ⅰ	1	医薬品マーケティング論	1
◎ 生理学Ⅱ	1	薬物治療学Ⅰ	1	生薬・東洋医学精説	1
◎ 薬理学Ⅰ	1	医療心理学	1	感染制御学	1
◎ 薬学統計学	1	臨床医学概論Ⅰ	1	薬物治療学Ⅲ	1
◎ 生命創薬科学Ⅰ	1	薬学英语Ⅰ	1	地域医療薬学Ⅱ	1
病理学	1	放射薬品学実習	1	医療薬学	1
健康科学	1	◎ 合成化学Ⅱ	1	臨床生理学Ⅱ	1
◎ 医薬品化学実習	1	◎ 衛生化学Ⅱ	1	◎ 医薬関連制度	1
◎ 有機分析実習	1	◎ 衛生化学実習	1	医薬品安全性学Ⅱ	1
◎ 定量分析実習	1	◎ 公衆衛生学実習	1	薬品製造化学	1
社会薬学実習	1	◎ 薬理学実習Ⅰ	1	臨床薬物動態学	1
◎ 有機化学Ⅲ	1	◎ 薬理学実習Ⅱ	1	臨床試験総論	1
◎ 分析科学Ⅱ	1	◎ 文献講読ゼミB	1	臨床栄養学	1
◎ 生薬学Ⅱ	1	製剤学	1	救急治療・臨床中毒学	1
◎ 生命物理化学Ⅱ	1	東洋医学概論	1	リハビリテーション論	1
◎ 生化学Ⅲ	1	生物薬剤学	1	薬物治療学Ⅳ	1
◎ 微生物学Ⅱ	1	臨床医学概論Ⅱ	1	地域医療薬学Ⅲ	1
◎ 化学療法学Ⅰ	1	疾病解析学	1	医療倫理学	1
◎ 薬理学Ⅱ	1	薬学英语Ⅱ	1	◎ 生命創薬科学特別演習	2
◎ ゲノム医学	1	医薬品構造学Ⅱ	1	◎ 生命創薬科学卒業特別実習	10
◎ 生命創薬科学Ⅱ	1	臨床生理学Ⅰ	1		
◎ 生命物理化学実習	1	臨床生化学	1		
◎ 生薬学実習	1	理論分子設計学	1		
◎ 生化学実習	1	創薬化学	1		
◎ 有機合成実習	1	薬物治療学Ⅱ	1		
病態評価学	1	調剤学	1		
医療コミュニケーション論	1	地域医療薬学Ⅰ	1		
◎ 分析科学Ⅲ	1	◎ 薬事行政	1		
◎ 合成化学Ⅰ	1	◎ 薬事関係法規	1		

薬学4群科目（生命創薬科学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目		
基礎有機化学演習	1	

獣医学1群科目（獣医学科）

人間形成の基礎科目	歴史と人間A	2	情報科学C	2
文化の領域	歴史と人間B	2	自然科学系	
哲学の楽しみA	心理学A	2	物理学	4
哲学の楽しみB	心理学B	2	物理学実験	1
科学を考えるA	健康の領域		◎ 化学	4
科学を考えるB	健康の科学A	2	◎ 化学実験	1
芸術の楽しみA	健康の科学B	2	◎ 生物学	4
芸術の楽しみB	健康の科学C	2	◎ 生物学実験	1
倫理学A	健康とスポーツ演習	2	※ 物理学要習	1
倫理学B	ライフスポーツ演習A	2	※ 化学要習	1
文学の楽しみA	ライフスポーツ演習B	2	※ 生物学要習	1
文学の楽しみB	ライフスポーツ演習C	2	教養演習系科目	
信仰と救いA	総合領域科目		教養演習系	
信仰と救いB	総合領域		教養演習A	2
社会の領域	北里の世界	1	教養演習B	1
日本国憲法A	仕事と人生	1	教養演習C	1
日本国憲法B	農医連携論	1	大学基礎演習	1
法律の役割A	基礎教育科目		言語と文化A	2
法律の役割B	外国語系		言語と文化B	2
経済のしくみA	◎ 英語A I	1		
経済のしくみB	◎ 英語A II	1		
個人と社会A	◎ 英語B I	1		
個人と社会B	◎ 英語B II	1		
政治のしくみA	数理・情報系			
政治のしくみB	数学	4		
文化人類学A	統計学A	4		
文化人類学B	※ 数学の基礎	2		
日本と国際社会A	発展数学A	2		
日本と国際社会B	発展数学B	2		
環境を考えるA	情報科学A	2		
環境を考えるB	情報科学B	2		

※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。

獣医学2群科目（獣医学科）

◎ 獣医学入門	1	◎ 獣医専門英語Ⅱ	1	病院経営学	1
◎ 獣医学入門実習	1	◎ 獣医専門英語Ⅲ	1	検定英語	1
◎ 動物分類学	1	◎ 獣医専門英語Ⅳ	1		
◎ 生物統計学	1	動物品種論	1		
◎ 畜産学概論	1	動物育種学	1		
◎ 動物栄養学	1	家畜飼育学	1		
◎ 生命工学	1	畜産物利用学	1		
◎ 獣医専門英語Ⅰ	1	海棲哺乳動物学	1		

獣医学3群科目（獣医学科）

生体機構系科目		◎ 獣医ウイルス学実習	1	◎ 獣医臨床放射線学実習	1.5
◎ 動物遺伝学	1	◎ 獣医免疫学Ⅰ	1	◎ 小動物総合臨床学Ⅰ	2
◎ 動物行動学	1	◎ 獣医免疫学Ⅱ	1	◎ 小動物総合臨床学Ⅱ	2
◎ 獣医解剖学Ⅰ	1	◎ 獣医寄生虫病学Ⅰ	1	◎ 小動物総合臨床学Ⅲ	2
◎ 獣医解剖学Ⅱ	2	◎ 獣医寄生虫病学Ⅱ	2	◎ 小動物総合臨床学実習Ⅰ	1
◎ 獣医解剖学Ⅲ	2	◎ 獣医寄生虫病学実習	1	◎ 小動物総合臨床学実習Ⅱ	1
◎ 獣医解剖学実習Ⅰ	1	◎ 獣医感染症学Ⅰ	1	◎ 小動物総合臨床学実習Ⅲ	1
◎ 獣医解剖学実習Ⅱ	1	◎ 獣医感染症学Ⅱ	1	◎ 小動物病院実習	2
◎ 獣医解剖学実習Ⅲ	1	◎ 獣医感染症学Ⅲ	1	◎ 大動物総合臨床学Ⅰ	2
◎ 獣医生理学Ⅰ	1	◎ 獣医感染症学実習	1	◎ 大動物総合臨床学Ⅱ	2
◎ 獣医生理学Ⅱ	2	◎ 鳥類疾病学	2	◎ 大動物総合臨床学Ⅲ	2
◎ 獣医生理学Ⅲ	2	◎ 鳥類疾病学実習	1	◎ 大動物総合臨床学実習Ⅰ	1
◎ 獣医生理学実習Ⅰ	1	◎ 獣医公衆衛生学総論	1	◎ 大動物総合臨床学実習Ⅱ	1
◎ 獣医生理学実習Ⅱ	1	◎ 食品衛生学	1	◎ 大動物総合臨床学実習Ⅲ	1
◎ 獣医生化学Ⅰ	1	◎ 環境衛生学	1	◎ 大動物病院実習	1
◎ 獣医生化学Ⅱ	2	◎ 獣医公衆衛生学実習Ⅰ	1	エキゾチックアニマル	1
◎ 獣医生化学実習	1	◎ 獣医公衆衛生学実習Ⅱ	1	プロダクションメディスン	1
◎ 分子生物学	1	◎ 獣医衛生学Ⅰ	1	小動物参加型臨床実習Ⅰ	1
◎ 獣医基礎放射線学	1	◎ 獣医衛生学Ⅱ	1	小動物参加型臨床実習Ⅱ	1
◎ 獣医薬理学Ⅰ	1	◎ 獣医衛生学実習	1	大動物参加型臨床実習Ⅰ	1
◎ 獣医薬理学Ⅱ	2	◎ 人獣共通感染症学	1	大動物参加型臨床実習Ⅱ	1
◎ 獣医薬理学実習Ⅰ	1	◎ 獣医疫学	1		
◎ 獣医薬理学実習Ⅱ	1	◎ 魚病学	1	◎ 獣医学概論	1
◎ 獣医病理学Ⅰ	2	◎ 野生動物学	1	共◎ 獣医倫理・動物福祉学	1
◎ 獣医病理学Ⅱ	2	臨床系科目		◎ 獣医畜産関係法規	1
◎ 獣医病理学実習Ⅰ	2	◎ 臨床栄養学	1	◎ 総合獣医学	5
◎ 獣医病理学実習Ⅱ	1	◎ 獣医内科学	2	◎ 卒業論文	8
◎ 実験動物学	2	◎ 獣医内科学実習	1	特定講義Ⅰ	1
◎ 実験動物学実習	1	◎ 獣医外科学	2	特定講義Ⅱ	1
◎ 毒性学	2	◎ 獣医外科学実習	1	特定講義Ⅲ	1
◎ 毒性学実習	1	◎ 麻酔学・救急医療学	1	特定講義Ⅳ	1
予防衛生系科目		◎ 麻酔学・救急医療学実習	0.5	学外実習Ⅰ	1
◎ 獣医微生物学総論Ⅰ	1	◎ 獣医臨床繁殖学	2	学外実習Ⅱ	1
◎ 獣医微生物学総論Ⅱ	1	◎ 獣医臨床繁殖学実習	1		
◎ 獣医細菌学	1	◎ 獣医臨床病理学	1		
◎ 獣医細菌学実習	1	◎ 獣医臨床病理学実習	1		
◎ 獣医ウイルス学	1	◎ 獣医臨床放射線学	2		

獣医学4群科目（獣医学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

獣医学1群科目（動物資源科学科）

人間形成の基礎科目	心理学A	2	◎ 化学	4
文化の領域	心理学B	2	◎ 化学実験	1
哲学の楽しみA	健康の領域		◎ 生物学	4
哲学の楽しみB	健康の科学A	2	◎ 生物学実験	1
科学を考えるA	健康の科学B	2	※ 物理学要習	1
科学を考えるB	健康の科学C	2	※ 化学要習	1
芸術の楽しみA	健康とスポーツ演習	2	※ 生物学要習	1
芸術の楽しみB	ライフスポーツ演習A	2	※ 地学	4
倫理学A	ライフスポーツ演習B	2	※ 地学実験	1
倫理学B	ライフスポーツ演習C	2	教養演習系科目	
文学の楽しみA	総合領域科目		教養演習系	
文学の楽しみB	総合領域		教養演習A	2
信仰と救いA	北里の世界	1	教養演習B	1
信仰と救いB	仕事と人生	1	教養演習C	1
社会の領域	農医連携論	1	大学基礎演習	1
日本国憲法A	基礎教育科目		※ 言語と文化A	2
日本国憲法B	外国語系		※ 言語と文化B	2
法律の役割A	◎ 英語A I	1		
法律の役割B	◎ 英語A II	1		
経済のしくみA	◎ 英語B I	1		
経済のしくみB	◎ 英語B II	1		
個人と社会A	数理・情報系			
個人と社会B	数学	4		
政治のしくみA	統計学A	4		
政治のしくみB	数学の基礎	2		
文化人類学A	発展数学A	2		
文化人類学B	発展数学B	2		
日本と国際社会A	情報科学A	2		
日本と国際社会B	情報科学B	2		
環境を考えるA	情報科学C	2		
環境を考えるB	自然科学系		※印は自由科目（教職課程の教科 に関する科目を含む）であり、卒 業要件単位に含まない。	
歴史と人間A	物理学	4		
歴史と人間B	物理学実験	1		

獣医学2群科目（動物資源科学科）

◎ 動物資源科学概論1	2	◎ 分子生物学	2	人と動物関係学	1
◎ 動物資源科学概論2	2	◎ 分子生物学実習	1	動物福祉論	2
◎ 生物有機化学	2	◎ 生物統計学	2	検定英語	1
◎ 家畜品種論	2	◎ 専門英語	2		
◎ 牧場実習	1	野生動物学	2		
◎ 免疫学	2	食と健康関係学	1		

獣医学 3 群科目（動物資源科学科）

◎ 動物生理学	2	◎ 動物健康情報学実習	1	農医連携特定講義 1	1
◎ 動物解剖学	2	◎ 卒業論文	8	農医連携特定講義 2	1
◎ 動物解剖学実習	1	草地学	2	生命倫理学	2
◎ 動物飼育管理学	2	飼料学	2	農医連携特定実習 1	1
◎ 動物飼育管理学実習	1	家畜飼育管理学各論	2	農医連携特定実習 2	1
◎ 食品科学	2	伴侶動物行動学	1	農医連携特定実習 3	1
◎ 食品科学実習	1	人工授精・胚移植論	1	農医連携特定実習 4	1
◎ 食品機能安全学	2	家畜審査論	1		
◎ 食品機能安全学実習	1	動物検査学	1		
◎ 動物栄養学	2	畜産食品化学	2		
◎ 動物栄養学実習	1	動物微生物学	2		
◎ 分析化学	2	代謝機能学	2		
◎ 動物生殖学	2	家畜病理学	2		
◎ 動物生殖学実習	1	生体情報学	2		
◎ 動物生化学	2	実験動物学	2		
◎ 動物生化学実習	1	発生工学	2		
◎ 動物感染予防学	2	食品衛生学	2		
◎ 動物感染予防学実習	1	応用微生物学	2		
◎ 応用動物行動学	2	生体分子機能学	1		
◎ 応用動物行動学実習	1	食品製造保蔵学	2		
◎ 動物育種学	2	動物資源科学特定講義 1	1		
◎ 細胞工学	2	動物資源科学特定講義 2	1		
◎ 細胞工学実習	1	インターンシップ	1		

獣医学 4 群科目（動物資源科学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

獣医学1群科目（生物環境科学科）

人間形成の基礎科目	心理学A	2	◎ 化学	4
文化の領域	心理学B	2	◎ 化学実験	1
哲学の楽しみA	健康の領域		◎ 生物学	4
哲学の楽しみB	健康の科学A	2	◎ 生物学実験	1
科学を考えるA	健康の科学B	2	※ 物理学要習	1
科学を考えるB	健康の科学C	2	※ 化学要習	1
芸術の楽しみA	健康とスポーツ演習	2	※ 生物学要習	1
芸術の楽しみB	ライフスポーツ演習A	2	教養演習系科目	
倫理学A	ライフスポーツ演習B	2	教養演習系	
倫理学B	ライフスポーツ演習C	2	教養演習A	2
文学の楽しみA	総合領域科目		教養演習B	1
文学の楽しみB	総合領域		教養演習C	1
信仰と救いA	北里の世界	1	大学基礎演習	1
信仰と救いB	仕事と人生	1	※ 言語と文化A	2
社会の領域	農医連携論	1	※ 言語と文化B	2
日本国憲法A	基礎教育科目			
日本国憲法B	外国語系			
法律の役割A	◎ 英語A I	1		
法律の役割B	◎ 英語A II	1		
経済のしくみA	◎ 英語B I	1		
経済のしくみB	◎ 英語B II	1		
個人と社会A	数理・情報系			
個人と社会B	◎ 数学	4		
政治のしくみA	※ 統計学A	4		
政治のしくみB	※ 数学の基礎	2		
文化人類学A	※ 発展数学A	2		
文化人類学B	※ 発展数学B	2		
日本と国際社会A	※ 情報科学A	2		
日本と国際社会B	※ 情報科学B	2		
環境を考えるA	※ 情報科学C	2		
環境を考えるB	自然科学系			
歴史と人間A	◎ 物理学	4		
歴史と人間B	◎ 物理学実験	1		

※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。

獣医学2群科目（生物環境科学科）

◎ 生物環境科学概論 I	2	* ◇ 応用力学演習	1	
◎ 生物環境科学概論 II	2	* ◎ 応用統計学	2	※印は教職課程の教科に関する科目であり、卒業要件単位に含まない。
◎ 環境倫理・法規	2	◎ データサイエンス	2	*印は測量士補の資格を得る為に必要な測量専修の科目である。
◎ 生物環境科学実習	1	◎ データサイエンス実習	1	◇印は修習技術者の資格を得る為に必要な科目である。
◎ 基礎生態学	2	◎ 動物科学概論	2	
◎ 植物科学概論	2	◎ 専門英語	1	
* ◇ 応用力学	2	※ 職業指導	2	

獣医学3群科目（生物環境科学科）

* ◎ 水環境学	2	* ◇ 応用数学演習	1	応用動物行動学	2
* ◎ 水環境学実験	1	水棲動物学	1	動物環境衛生学	2
◎ 緑地保全学	2	◎ 環境分析学	2	◇ 環境マテリアル・施工学	2
◎ 緑地保全学実験	1	環境分析学実験	1	* ◎ 生態リモートセンシング*	2
* ◎ 測量学Ⅰ	2	* ◇ 測量学Ⅱ	2	気象環境学	2
* ◎ 測量学実習Ⅰ	1	* ◇ 測量学実習Ⅱ	1	◇ 環境経済学	1
* ◇ 水理学	2	◇ CAD演習	1	◇ 生物環境科学特定講義Ⅰ	1
* ◎ 土壌環境学	2	* 生態計測学	2	◇ 生物環境科学特定講義Ⅱ	1
* ◎ 土壌環境学実験	1	◎ 分子生物学	2		
◎ 野生動物学	2	* ◎ 地域資源利用学	2		
◎ 野生動物学実習	1	* ◇ 環境情報解析学演習	1		
◎ 環境情報学	2	◇ インターンシップ	1		
* ◎ 環境計画学	2	◇ 災害復興学	1		
* ◇ 土壌物理学	2	◎ 卒業論文	8		
* ◎ 環境情報学実験	1	動物生体機構学	2		
◎ 植物生態環境学	2	* ◇ 水理学演習	1		
環境微生物学	2	◎ 狩猟学	2		
* ◎ 水文学	2	◎ 動物生態学	2		
* ◇ 土質工学	2	◎ 里山生態学	2		
◎ 土壌科学概論	2				

*印は測量士補の資格を得る為に必要な測量専修の科目である。

◇印は修習技術者の資格を得る為に必要な科目である。

獣医学4群科目（生物環境科学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

医学1群科目（医学科）

人間形成の基礎科目		歴史と人間A	2	教養演習系科目	
文化の領域		歴史と人間B	2	教養演習系	
哲学の楽しみA	2	心理学A	2	※ 教養演習A	2
哲学の楽しみB	2	心理学B	2	※ 教養演習B	1
科学を考えるA	2	健康の領域		※ 教養演習C	1
科学を考えるB	2	健康の科学A	2	※ 大学基礎演習	1
芸術の楽しみA	2	健康の科学B	2	言語と文化A	2
芸術の楽しみB	2	健康の科学C	2		
倫理学A	2	◎ 健康とスポーツ演習	2		
倫理学B	2	総合領域科目			
文学の楽しみA	2	総合領域			
文学の楽しみB	2	北里の世界	1		
信仰と救いA	2	仕事と人生	1		
信仰と救いB	2	農医連携論	1		
社会の領域		基礎教育科目			
日本国憲法A	2	外国語系			
日本国憲法B	2	◎ 英語A I	1		
法律の役割A	2	◎ 英語A II	1		
法律の役割B	2	◎ 英語B I	1		
経済のしくみA	2	◎ 英語B II	1		
経済のしくみB	2	数理・情報系			
個人と社会A	2	◎ 数学	4		
個人と社会B	2	◎ 統計学A	4		
政治のしくみA	2	自然科学系			
政治のしくみB	2	◎ 物理学	3		
文化人類学A	2	◎ 物理学実験	1		
文化人類学B	2	◎ 化学	3		
日本と国際社会A	2	◎ 化学実験	1		
日本と国際社会B	2	◎ 生物学	3		
環境を考えるA	2	◎ 生物学実験	1		
環境を考えるB	2			※印は自由科目であり、卒業要件 単位に含まない。	

医学2群科目（医学科）（数字は授業時間数）

◎ 医学原論・医学原論演習	47	◎ タンパク質化学	23	◎ 医学英語II	39
◎ 生化学序説	18	◎ 放射線健康リスク科学	12		
◎ 細胞生物学	30	◎ 医学英語I	41		

医学3群科目（医学科）（数字は授業時間数）

基礎医学		
(解剖学) ◎ 組織学 35 ◎ 組織学実習 57 ◎ 解剖・発生学Ⅰ 30 ◎ 解剖・発生学Ⅱ 15 ◎ 解剖・発生学Ⅲ 15 ◎ 解剖学実習 138 ◎ 神経解剖学・実習 27	(生理学) ◎ 生理学 78 ◎ 生理学実習 33	(生化学) ◎ 代謝学 42 ◎ 医化学・栄養学 36 ◎ 分子医化学実習 24
(微生物学) ◎ 微生物学総論・実習 57	(寄生虫学・熱帯医学) ◎ 寄生虫学・熱帯医学 24	(病理学) ◎ 病理学総論 24 ◎ 病理学総論実習 24
(薬理学) ◎ 薬理学総論 30 ◎ 薬理学実習 26	(分子遺伝学) ◎ 臨床遺伝学 15 ◎ 遺伝子学 30	(免疫学) ◎ 免疫学総論・実習 39
(実験動物学) ◎ 実験動物学・実習 15	◎ 統合基礎医学 12	
器官系別総合		
◎ 神経系 36 ◎ 循環器系 35 ◎ 呼吸器系 36 ◎ 消化器系 32 ◎ 血液造血器系 24 ◎ 内分泌・代謝系 29 ◎ 生殖機能妊娠分娩系 24 ◎ 運動器系 14 ◎ 腎尿路系 26 ◎ 基礎腫瘍系 12 ◎ 臨床腫瘍系 23	◎ 老年医学 12 ◎ 感染症・免疫系診断・治療学 39 ◎ 神経系診断・治療学 48 ◎ 循環器系診断・治療学 60 ◎ 呼吸器系診断・治療学 38 ◎ 消化器系診断・治療学 74 ◎ 血液造血器系診断・治療学 23 ◎ 内分泌・代謝系診断・治療学 35 ◎ 生殖機能妊娠分娩系診断・治療学 51	◎ 成長発達系診断・治療学 48 ◎ 運動器系診断・治療学 17 ◎ 腎尿路系診断・治療学 27 ◎ 画像・臨床検査診断学 24 ◎ 精神系診断・治療学 36 ◎ 皮膚系診断・治療学 18 ◎ 視覚系診断・治療学 24 ◎ 耳鼻咽喉・頭頸部系診断・治療学 27 ◎ 救急侵襲医療系診断・治療学 32
社会医学		
(衛生学・公衆衛生学) ◎ 予防医学系 48 ◎ 衛生・公衆衛生実習 31 公衆衛生実習(選択実習) 101	(法医学) ◎ 法医学系 38 法医学実習(選択実習) 101	(医療安全・管理学) ◎ 医療安全・管理学 12

臨床医学		
(内科学)	(外科学)	(小児科学)
◎ 内科学総論(臨床実習入門含) 120	◎ 外科学総論 21	◎ 小児科実習 101
◎ 消化器内科実習 66	◎ 外科実習 136	小児科実習(選択実習) 101
◎ 内分泌・代謝内科実習 66	外科実習(選択実習) 101	
◎ 循環器内科実習 66		
◎ 脳神経内科実習 66		
◎ 血液内科実習 66		
◎ 腎臓内科実習 66		
◎ 呼吸器内科実習 66		
◎ 膠原病・感染内科実習 66		
消化器内科実習(選択実習) 101		
内分泌・代謝内科実習(選択実習) 101		
循環器内科実習(選択実習) 101		
脳神経内科実習(選択実習) 101		
血液内科実習(選択実習) 101		
腎臓内科実習(選択実習) 101		
呼吸器内科実習(選択実習) 101		
膠原病・感染内科実習(選択実習) 101		
(産婦人科学)	(臨床検査診断学)	(形成外科・美容外科学)
◎ 産婦人科実習 101	◎ 臨床検査診断学実習 31	◎ 形成外科・美容外科実習 31
産婦人科実習(選択実習) 101	臨床検査診断学実習(選択実習) 101	形成外科・美容外科実習(選択実習) 101
(救命救急医学)	(心臓血管外科学)	(呼吸器外科学)
◎ 救命救急医学実習 31	◎ 心臓血管外科実習 31	◎ 呼吸器外科実習 31
救命救急医学実習(選択実習) 101	心臓血管外科実習(選択実習) 101	呼吸器外科実習(選択実習) 101
(脳神経外科学)	(放射線科学)	(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)
◎ 脳神経外科実習 31	◎ 放射線科実習 31	◎ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科実習 31
脳神経外科実習(選択実習) 101	画像診断学実習(選択実習) 101	耳鼻咽喉科・頭頸部外科実習(選択実習) 101
	放射線腫瘍学実習(選択実習) 101	
(眼科学)	(整形外科科学)	(泌尿器科学)
◎ 眼科実習 31	◎ 整形外科実習 31	◎ 泌尿器科実習 31
眼科実習(選択実習) 101	整形外科実習(選択実習) 101	泌尿器科実習(選択実習) 101
(皮膚科学)	(精神科学)	(麻醉科学)
◎ 皮膚科実習 31	◎ 精神科実習 101	◎ 麻醉科実習 31
皮膚科実習(選択実習) 101	精神科実習(選択実習) 101	麻醉科実習(選択実習) 101
(病理学)	(総合診療医学)	(東洋医学)
◎ 病理学臨床実習 31	◎ 総合診療医学実習 101	東洋医学実習(選択実習) 101
病理実習(選択実習) 101	総合診療医学実習(選択実習) 101	
(臨床解剖学)	学外実習Ⅰ(選択実習) 101	学外実習Ⅳ(選択実習) 101
臨床解剖学実習(選択実習) 101	学外実習Ⅱ(選択実習) 101	学外実習Ⅴ(選択実習) 101
	学外実習Ⅲ(選択実習) 101	学外実習Ⅵ(選択実習) 101
臨床実習(KMC・北研病院)(選択実習) 101		
◎ 総合講義 195		
関連科目		
◎ テュートリアル教育Ⅰ 18	◎ 医学研究入門Ⅱ 120	◎ 行動科学・医療面接 20
◎ テュートリアル教育Ⅱ 21	◎ 早期体験学習Ⅰ 15	◎ 医用情報学 15
◎ 医学研究入門Ⅰ 15	◎ 早期体験学習Ⅱ 62	◎ チーム医療論 23

海洋生命科学1群科目（海洋生命科学科）

人間形成の基礎科目		心理学A	2	◎ 化学	4
文化の領域		心理学B	2	◎ 化学実験	1
哲学の楽しみA	2	健康の領域		◎ 生物学	4
哲学の楽しみB	2	健康の科学A	2	◎ 生物学実験	1
科学を考えるA	2	健康の科学B	2	※ 物理学要習	1
科学を考えるB	2	健康の科学C	2	※ 化学要習	1
芸術の楽しみA	2	健康とスポーツ演習	2	※ 生物学要習	1
芸術の楽しみB	2	ライフスポーツ演習A	2	※ 地学	4
倫理学A	2	ライフスポーツ演習B	2	※ 地学実験	1
倫理学B	2	ライフスポーツ演習C	2	教養演習系科目	
文学の楽しみA	2	総合領域科目		教養演習系	
文学の楽しみB	2	総合領域		教養演習A	2
信仰と救いA	2	北里の世界	1	教養演習B	1
信仰と救いB	2	仕事と人生	1	教養演習C	1
社会の領域		農医連携論	1	大学基礎演習	1
日本国憲法A	2	基礎教育科目		※ 言語と文化A	2
日本国憲法B	2	外国語系		※ 言語と文化B	2
法律の役割A	2	◎ 英語A I	1		
法律の役割B	2	◎ 英語A II	1		
経済のしくみA	2	◎ 英語B I	1		
経済のしくみB	2	◎ 英語B II	1		
個人と社会A	2	数理・情報系			
個人と社会B	2	数学	4		
政治のしくみA	2	※ 統計学A	4		
政治のしくみB	2	数学の基礎	2		
文化人類学A	2	発展数学A	2		
文化人類学B	2	発展数学B	2		
日本と国際社会A	2	情報科学A	2		
日本と国際社会B	2	情報科学B	2		
環境を考えるA	2	情報科学C	2		
環境を考えるB	2	自然科学系			
歴史と人間A	2	物理学	4		
歴史と人間B	2	物理学実験	1		

※印は自由科目（教職課程の教科に関する科目を含む）であり、卒業要件単位に含まない。

海洋生命科学 2 群科目 (海洋生命科学科)

◎ 海洋生命科学概論	2	◎ 発生生物学	2	◎ 海洋生命科学実験Ⅲ	3
◎ ラーニング・スキル	1	◎ 遺伝学	1	海洋実習	1
◎ 生物海洋学	2	◎ 免疫学	1	インターンシップ	1
◎ 微生物学	2	◎ 生物統計学	2	P C 演習	1
◎ 有機化学	2	◎ プレゼンテーション	1		
◎ 分子生物学	2	◎ 科学英語 I A	1		
◎ 無脊椎動物学	2	◎ 科学英語 I B	1		
◎ 魚類学	2	◎ 科学英語 II A	1		
◎ 分析化学	2	◎ 科学英語 II B	1		
◎ 解剖生理学	2	◎ 海洋生命科学実験 I	3		
◎ 生化学	2	◎ 海洋生命科学実験 II	3		

海洋生命科学 3 群科目 (海洋生命科学科)

◎ 水族生理学	2	海洋分子内分泌学	1	特別講義Ⅱ	1
◎ 環境科学	2	水族育種学	1	体験実習	1
◎ 水圏植物学	2	食品安全学	1	※ 水産学特論	1
◎ 浮遊生物学	2	食品微生物学	1		
◎ 海洋生物利用学	2	海洋生物資源化学	1		
◎ 水圏生態学	2	食品機能成分論	1		
◎ 栄養科学	1	魚病学	1		
◎ 食品衛生学	2	資源解析学	2		
◎ 水族増殖学	2	海洋生命工学	2		
◎ 海洋生物化学	2	魚類栄養学	1		
◎ 技術者倫理	1	有毒有害生物論	1		
◎ 海洋生命科学演習	4	持続的資源利用論	2		
◎ 卒業論文	10	深海生物学	1		
漁業学	2	水産物流通論	1		
水生動物行動学	1	水産経済学	1	※印は自由科目であり、卒業要件 単位に含まない。	
海産哺乳動物学	1	水産法規	1		
海洋化学生態学	1	国際海洋政策	1		
病原微生物学	2	環境修復論	1		
魚類行動生理学	1	特別講義 I	1		

海洋生命科学 4 群科目 (海洋生命科学科)

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

看護学1群科目（看護学科）

人間形成の基礎科目		環境を考えるB	2	情報科学A	2
文化の領域		歴史と人間A	2	情報科学B	2
哲学の楽しみA	2	歴史と人間B	2	情報科学C	2
哲学の楽しみB	2	心理学A	2	自然科学系	
科学を考えるA	2	心理学B	2	物理学	4
科学を考えるB	2	健康の領域		化学	4
芸術の楽しみA	2	健康の科学A	2	生物学	4
芸術の楽しみB	2	健康の科学B	2	※物理学要習	1
倫理学A	2	健康の科学C	2	※化学要習	1
倫理学B	2	健康とスポーツ演習	2	※生物学要習	1
文学の楽しみA	2	ライフスポーツ演習A	2	教養演習系科目	
文学の楽しみB	2	ライフスポーツ演習B	2	教養演習系	
信仰と救いA	2	ライフスポーツ演習C	2	教養演習A	2
信仰と救いB	2	総合領域科目		教養演習B	1
社会の領域		総合領域		教養演習C	1
日本国憲法A	2	北里の世界	1	※大学基礎演習	1
日本国憲法B	2	仕事と人生	1	※言語と文化A	2
法律の役割A	2	農医連携論	1	※言語と文化B	2
法律の役割B	2	基礎教育科目			
経済のしくみA	2	外国語系			
経済のしくみB	2	◎英語A I	1		
個人と社会A	2	◎英語A II	1		
個人と社会B	2	◎英語B I	1		
政治のしくみA	2	◎英語B II	1		
政治のしくみB	2	数理・情報系			
文化人類学A	2	数学	4		
文化人類学B	2	統計学A	4		
日本と国際社会A	2	数学の基礎	2		
日本と国際社会B	2	発展数学A	2		
環境を考えるA	2	発展数学B	2		

※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。

看護学2群科目（看護学科）

◎看護機能形態学I	2	◎健康情報分析学	1	教育心理学	2
◎看護機能形態学II	2	◎臨床薬理学	2	教育原論	2
◎看護機能形態学III	2	◎症候・病態疾病論II	2	疫学	2
◎看護機能形態学IV	2	◎症候・病態疾病論III	2	教育相談論	2
◎看護機能形態学実験	1	◎環境保健科学	2	保健医療福祉行政論	1
◎症候・病態疾病論I	2	臨床心理学	2	先端医療論	1
◎看護福祉政策論	2	専門英語演習	1		

看護学3群科目（看護学科）

◎ 看護学原論	2	◎ 国際看護論	1	公衆衛生看護学Ⅰ	2
◎ 基礎看護技術Ⅰ	1	◎ 健康教育学	1	看護キャリア開発論	1
◎ 基礎看護技術Ⅱ	1	◎ 看護倫理	1	助産学概論	1
◎ 基礎看護技術Ⅲ	1	◎ 看護マネジメント論	1	学校保健学	1
◎ 看護過程演習	1	◎ チーム医療論演習Ⅱ	1	女性の健康援助論	1
◎ 感染看護学	2	◎ 災害看護学	1	基礎助産学	1
◎ 生涯発達看護学	1	◎ 課題研究	2	国際看護論演習	2
◎ 看護課題解決技法演習	1	◎ 看護基礎実習Ⅰ	1	感染管理論	1
◎ 地域ケアシステム論	1	◎ 看護基礎実習Ⅱ	2	地域アセスメント論Ⅰ	1
◎ フィジカルアセスメント演習	1	◎ 感染看護学実習	1	創造的看護論	1
◎ 慢性期看護学	2	◎ 慢性期看護学実習	3	臨床看護総習	2
◎ 精神保健学	2	◎ 急性期看護学実習	3	※ 公衆衛生看護学Ⅱ	2
◎ 健康相談論	1	◎ 生涯発達看護学実習	1	※ 地域アセスメント論Ⅱ	2
◎ 緩和ケア看護論	2	◎ 小児生涯発達看護学演習	1	※ 公衆衛生看護学実習	4
◎ 家族看護論	1	◎ 小児生涯発達看護学実習	2	※ 助産診断・技術学Ⅰ	2
◎ 看護研究論	1	◎ 母性生涯発達看護学演習	1	※ 助産診断・技術学Ⅱ	2
◎ 臨床看護技術演習Ⅰ	1	◎ 母性生涯発達看護学実習	2	※ 助産診断・技術学演習	1
◎ 臨床看護技術演習Ⅱ	1	◎ 老年生涯発達看護学実習	3	※ 助産管理学	1
◎ 急性期看護学	2	◎ 精神看護学実習	3	※ 助産学実習Ⅰ	1
◎ 小児生涯発達看護学	2	◎ 在宅看護学実習	2	※ 助産学実習Ⅱ	10
◎ 母性生涯発達看護学	2	◎ 統合実習	2	※ 養護概説	2
◎ 老年生涯発達看護学	2	チーム医療論演習Ⅰ	1	※ 養護実習	5
◎ 精神看護学	2	看護コミュニケーション論	2	※ 教職実践演習（養護）	2
◎ 在宅看護学	2	女性の健康科学	2		

※印は自由科目（教職課程の教科に関する科目を含む）であり、卒業要件単位に含まない。

看護学4群科目（看護学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

理学1群科目（物理学科）

人間形成の基礎科目		日本と国際社会A	2	数理・情報系	
文化の領域		日本と国際社会B	2	情報科学A	2
哲学の楽しみA	2	環境を考えるA	2	情報科学B	2
哲学の楽しみB	2	環境を考えるB	2	情報科学C	2
科学を考えるA	2	歴史と人間A	2	教養演習系科目	
科学を考えるB	2	歴史と人間B	2	教養演習系	
芸術の楽しみA	2	心理学A	2	教養演習A	2
芸術の楽しみB	2	心理学B	2	教養演習B	1
倫理学A	2	健康の領域		教養演習C	1
倫理学B	2	健康の科学A	2	大学基礎演習	1
文学の楽しみA	2	健康の科学B	2	言語と文化A	2
文学の楽しみB	2	健康の科学C	2	言語と文化B	2
信仰と救いA	2	健康とスポーツ演習	2		
信仰と救いB	2	ライフスポーツ演習A	2		
社会の領域		ライフスポーツ演習B	2		
日本国憲法A	2	ライフスポーツ演習C	2		
日本国憲法B	2	総合領域科目			
法律の役割A	2	総合領域			
法律の役割B	2	北里の世界	1		
経済のしくみA	2	仕事と人生	1		
経済のしくみB	2	農医連携論	1		
個人と社会A	2	基礎教育科目			
個人と社会B	2	外国語系			
政治のしくみA	2	◎ 英語A I	1		
政治のしくみB	2	◎ 英語A II	1		
文化人類学A	2	◎ 英語B I	1		
文化人類学B	2	◎ 英語B II	1		

理学2群科目（物理学科）

◎ 基礎化学 I	2	◎ 英語C I	1	地学	2
◎ 基礎化学 II	2	◎ 英語C II	1	地学実験	1
◎ 基礎化学実験	1	◎ 基礎生物学実験	1	統計学	2
◎ 基礎生物学 I	2	◎ 科学英語 I	1		
◎ 基礎生物学 II	2	◎ 科学英語 II	1		

理学3群科目（物理学科）

◎ 線形代数Ⅰ	2	◎ 理学特別講義	2	プログラミング演習Ⅱ-B	1
◎ 線形代数Ⅱ	2	◎ ゼミナール	4	反応機構学Ⅰ	2
◎ 力学Ⅰ	2	◎ 卒業研究	8	量子化学Ⅰ	2
◎ 力学Ⅱ	2	◎ 生物物理学序論	2	生物化学Ⅰ	2
◎ 情報科学	2	◎ 電磁気学Ⅱ	2	生物化学Ⅱ	2
◎ 微分積分Ⅰ	2	◎ 電磁気学演習Ⅱ	2	量子化学Ⅱ	2
◎ 微分積分Ⅱ	2	◎ 解析力学	2	分子構造学	2
◎ 力学演習Ⅰ	2	◎ 熱統計力学演習	2	放射化学	2
◎ 力学演習Ⅱ	1	◎ 量子力学演習Ⅰ	2	地球化学	2
◎ 物理学概論	1	生物物理学Ⅰ	2	進化系統学	2
◎ 物理計測入門	1	物理数学Ⅱ	2	分子生物学	2
◎ 電磁気学Ⅰ	2	熱統計力学Ⅱ	2	細胞生物学Ⅰ	2
◎ 熱統計力学Ⅰ	2	量子力学Ⅱ	2	生体機能学	2
◎ 物理数学Ⅰ	2	量子エレクトロニクス	2	※ 知的財産論	2
◎ 物質科学Ⅰ	2	物質科学Ⅱ	2		
◎ 現代物理学	2	相対性理論	2		
◎ 電磁気学演習Ⅰ	2	固体物理学	2		
◎ プログラミング演習Ⅰ	2	生物物理化学	2		
◎ 物理実験学	2	生物物理学Ⅱ	2		
◎ 物理学実験A	2	量子力学演習Ⅱ	2		
◎ 量子力学Ⅰ	2	生物システム学演習Ⅰ	2	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含めない。	
◎ 物理学実験B	3	生物システム学演習Ⅱ	2		
◎ 物理学実験演習	2	プログラミング演習Ⅱ-A	1		

理学4群科目（物理学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目、単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目及び総合的な能力を形成する科目					
※ 海外短期留学プログラム	1	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含めない。			

理学1群科目（化学科）

人間形成の基礎科目		日本と国際社会A	2	数理・情報系	
文化の領域		日本と国際社会B	2	情報科学A	2
哲学の楽しみA	2	環境を考えるA	2	情報科学B	2
哲学の楽しみB	2	環境を考えるB	2	情報科学C	2
科学を考えるA	2	歴史と人間A	2	教養演習系科目	
科学を考えるB	2	歴史と人間B	2	教養演習系	
芸術の楽しみA	2	心理学A	2	教養演習A	2
芸術の楽しみB	2	心理学B	2	教養演習B	1
倫理学A	2	健康の領域		教養演習C	1
倫理学B	2	健康の科学A	2	大学基礎演習	1
文学の楽しみA	2	健康の科学B	2	言語と文化A	2
文学の楽しみB	2	健康の科学C	2	言語と文化B	2
信仰と救いA	2	健康とスポーツ演習	2		
信仰と救いB	2	ライフスポーツ演習A	2		
社会の領域		ライフスポーツ演習B	2		
日本国憲法A	2	ライフスポーツ演習C	2		
日本国憲法B	2	総合領域科目			
法律の役割A	2	総合領域			
法律の役割B	2	北里の世界	1		
経済のしくみA	2	仕事と人生	1		
経済のしくみB	2	農医連携論	1		
個人と社会A	2	基礎教育科目			
個人と社会B	2	外国語系			
政治のしくみA	2	◎ 英語A I	1		
政治のしくみB	2	◎ 英語A II	1		
文化人類学A	2	◎ 英語B I	1		
文化人類学B	2	◎ 英語B II	1		

理学2群科目（化学科）

◎ 基礎数学 I	2	◎ 基礎物理学実験	1	地学	2
◎ 基礎数学 II	2	◎ 基礎生物学実験	1	地学実験	1
◎ 基礎物理学 I	2	◎ 英語C I	1	基礎物理学III	2
◎ 基礎物理学 II	2	◎ 英語C II	1	統計学	2
◎ 基礎生物学 I	2	◎ 科学英語 I	1		
◎ 基礎生物学 II	2	◎ 科学英語 II	1		

理学3群科目（化学科）

◎ 物理化学概論	2	◎ 分子機能化学	2	天然物化学	2
◎ 物質化学概論	2	◎ 分子構造学	2	量子力学Ⅰ	2
◎ 基礎化学演習	2	◎ 機器分析学演習	1	熱統計力学Ⅰ	2
◎ 物理化学Ⅰ	2	◎ 物理化学演習	2	熱統計力学Ⅱ	2
◎ 有機化学Ⅰ	2	◎ 無機化学演習	2	生物物理学序論	2
◎ 無機化学Ⅰ	2	◎ 物理化学実験	2	生物物理学Ⅱ	2
◎ 化学実験	1	◎ 機器分析実践演習	2	量子エレクトロニクス	2
◎ 物理化学Ⅱ	2	◎ 理学特別講義	2	分子生物学	2
◎ 量子化学Ⅰ	2	◎ ゼミナール	4	遺伝子工学	2
◎ 反応機構学Ⅰ	2	◎ 卒業研究	8	分子発生学Ⅰ	2
◎ 機器分析学	2	放射化学	2	生体防御学	2
◎ 有機化学Ⅱ	2	地球化学	2	生体機能学	2
◎ 無機化学Ⅱ	2	基礎情報科学演習	2	※ 知的財産論	2
◎ 分子構築学	2	有機光化学	2		
◎ 生物化学Ⅰ	2	構造有機化学	2		
◎ 有機化学演習	2	錯体化学	2		
◎ 無機化学実験	2	界面化学	2		
◎ 有機化学実験	2	高分子化学	2		
◎ 合成有機化学	2	微生物化学	2		
◎ 生物化学Ⅱ	2	量子化学Ⅱ	2	※印は自由科目であり、卒業要件 単位に含めない。	
◎ 反応機構学Ⅱ	2	物理化学Ⅲ	2		

理学4群科目（化学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目、単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目及び総合的な能力を形成する科目

※ 海外短期留学プログラム 1

※印は自由科目であり、卒業要件単位に含めない。

理学1群科目（生物科学科）

人間形成の基礎科目		日本と国際社会A	2	数理・情報系	
文化の領域		日本と国際社会B	2	情報科学A	2
哲学の楽しみA	2	環境を考えるA	2	情報科学B	2
哲学の楽しみB	2	環境を考えるB	2	情報科学C	2
科学を考えるA	2	歴史と人間A	2	教養演習系科目	
科学を考えるB	2	歴史と人間B	2	教養演習系	
芸術の楽しみA	2	心理学A	2	教養演習A	2
芸術の楽しみB	2	心理学B	2	教養演習B	1
倫理学A	2	健康の領域		教養演習C	1
倫理学B	2	健康の科学A	2	大学基礎演習	1
文学の楽しみA	2	健康の科学B	2	言語と文化A	2
文学の楽しみB	2	健康の科学C	2	言語と文化B	2
信仰と救いA	2	健康とスポーツ演習	2		
信仰と救いB	2	ライフスポーツ演習A	2		
社会の領域		ライフスポーツ演習B	2		
日本国憲法A	2	ライフスポーツ演習C	2		
日本国憲法B	2	総合領域科目			
法律の役割A	2	総合領域			
法律の役割B	2	北里の世界	1		
経済のしくみA	2	仕事と人生	1		
経済のしくみB	2	農医連携論	1		
個人と社会A	2	基礎教育科目			
個人と社会B	2	外国語系			
政治のしくみA	2	◎ 英語A I	1		
政治のしくみB	2	◎ 英語A II	1		
文化人類学A	2	◎ 英語B I	1		
文化人類学B	2	◎ 英語B II	1		

理学2群科目（生物科学科）

◎ 基礎数学 I	2	◎ 基礎物理学実験	1	基礎物理学Ⅲ	2
◎ 基礎数学 II	2	◎ 基礎化学実験	1	現代化学 I	2
◎ 基礎物理学 I	2	◎ 英語C I	1	現代化学 II	2
◎ 基礎物理学 II	2	◎ 英語C II	1	統計学	2
◎ 基礎化学 I	2	地学	2		
◎ 基礎化学 II	2	地学実験	1		

理学3群科目（生物科学科）

◎ 生物科学入門Ⅰ	2	◎ 生体機能学	2	生物物理学Ⅱ	2
◎ 生物科学入門Ⅱ	2	◎ 免疫学Ⅰ	2	化学熱力学	2
◎ 生物化学	2	◎ 免疫学Ⅱ	2	反応機構学Ⅰ	2
◎ 微生物学	2	◎ 遺伝子工学実験	1	有機化学Ⅰ	2
◎ 生物科学原著講読Ⅰ	2	◎ 分子発生学実験Ⅱ	1	有機化学Ⅱ	2
◎ 生物科学原著講読Ⅱ	2	◎ 生体防御学実験Ⅱ	1	分子構築学	2
◎ 分子発生学Ⅰ	2	◎ 細胞生物学実験	1	構造有機化学	2
◎ 分子発生学Ⅱ	2	◎ 理学特別講義	2	機器分析学	2
◎ 細胞生物学Ⅰ	2	◎ ゼミナール	4	放射化学	2
◎ 分子生物学	2	◎ 卒業研究	8	地球化学	2
◎ 遺伝子工学	2	遺伝学	2	分子構造学	2
◎ 生体防御学	2	進化系統学	2	高分子化学	2
◎ 生物化学実験	1	生理学	2	錯体化学	2
◎ 分子生物学実験	1	基礎情報科学演習	2	界面化学	2
◎ 分子発生学実験Ⅰ	1	生物科学特別講義Ⅰ	2	微生物化学	2
◎ 生体防御学実験Ⅰ	1	生物科学特別講義Ⅱ	2	※ 知的財産論	2
◎ 生物科学原著講読Ⅲ	2	生物科学特別講義Ⅲ	2		
◎ 生物科学原著講読Ⅳ	2	生物科学特別講義Ⅳ	2		
◎ 転写制御学	2	代謝学Ⅰ	2		
◎ ゲノム進化学	2	代謝学Ⅱ	2		
◎ 細胞生物学Ⅱ	2	神経生物学	2		
◎ 発生工学	2	生物物理学序論	2		
◎ ゲノム発生学	2	生物物理学Ⅰ	2		

※印は自由科目であり、卒業要件単位に含めない。

理学4群科目（生物科学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目、単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目及び総合的な能力を形成する科目	
※ 海外短期留学プログラム	1

※印は自由科目であり、卒業要件単位に含めない。

医療衛生学1群科目（保健衛生学科 環境保健学コース）

人間形成の基礎科目	経済のしくみA	2	※ 数学の基礎	2
文化の領域	経済のしくみB	2	◎ 統計学B I	2
哲学の楽しみA	個人と社会A	2	情報科学A	2
哲学の楽しみB	個人と社会B	2	情報科学B	2
科学を考えるA	政治のしくみA	2	情報科学C	2
科学を考えるB	政治のしくみB	2	◎ 情報演習	1
芸術の楽しみA	健康の領域		自然科学系	
芸術の楽しみB	健康の科学A	2	物理学	4
文学の楽しみA	健康の科学B	2	物理学実験	1
文学の楽しみB	健康の科学C	2	◎ 化学	4
信仰と救いA	健康とスポーツ演習	2	◎ 化学実験	1
信仰と救いB	※ ライフスポーツ演習A	2	生物学	4
倫理学A	※ ライフスポーツ演習B	2	生物学実験	1
倫理学B	※ ライフスポーツ演習C	2	※ 物理学要習	1
社会の領域	総合領域科目		※ 化学要習	1
心理学A（心理学概論）	総合領域		※ 生物学要習	1
心理学B	北里の世界	1	教養演習系科目	
歴史と人間A	仕事と人生	1	教養演習系	
歴史と人間B	農医連携論	1	教養演習A	2
文化人類学A	基礎教育科目		教養演習B	1
文化人類学B	外国語系		教養演習C	1
日本と国際社会A	◎ 英語A I	1	大学基礎演習	1
日本と国際社会B	◎ 英語A II	1	言語と文化A	2
環境を考えるA	◎ 英語B I	1	言語と文化B	2
環境を考えるB	◎ 英語B II	1		
日本国憲法A	数理・情報系			
日本国憲法B	◎ 数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件 単位に含まない。	
法律の役割A	※ 発展数学A	2		
法律の役割B	※ 発展数学B	2		

医療衛生学2群科目（保健衛生学科 環境保健学コース）

◎ 解剖学 I	◎ 有機化学	2		
◎ 解剖学 II	◎ 微生物学	2		
◎ 解剖学実習	◎ 微生物学実習	1		
◎ 生理学 I	血液・免疫学	2		
◎ 生理学 II	◎ 食品衛生学	2		
◎ 生理学実習	◎ 労働生理学	2		
病理学	リスク管理学	2		
◎ 生化学	保健栄養学	2		
◎ 生化学実習	◎ 衛生統計学	2		
◎ 公衆衛生学 I	食品衛生法規	2		
◎ 公衆衛生学 II	サスティナビリティ学入門	2		
◎ 公衆衛生学実習	医療学概論	2		
◎ 労働衛生学 I	発達心理学	2		
◎ 労働衛生学 II	◎ 精神保健学	1		
◎ 分析化学				
◎ 環境保健学概論				

医療衛生学3群科目（保健衛生学科 環境保健学コース）

◎ 労働行政	2	※ インターンシップ	1	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。
◎ 作業環境管理学	2	環境予防医学	2	
◎ 産業衛生管理学	2	環境予防医学実習	1	
◎ 産業衛生管理学実習	1	生命医科学	2	
◎ 環境衛生学Ⅰ	2	生体分子情報学	2	
◎ 環境衛生学Ⅱ	2	分子生物学入門	2	
環境工学Ⅰ	2	◎ 卒業研究Ⅰ	4	
◎ チーム医療論(演習含)	1	◎ 卒業研究Ⅱ	8	
薬理・毒性学	2			
健康食品学	2			
健康食品学実習	1			
環境工学Ⅱ	2			
生物・生態環境工学	2			
生物・生態環境工学実習	1			
◎ 環境衛生学・工学実習	1			
障害者・障害児心理学	2			
臨床心理学概論	2			

医療衛生学4群科目（保健衛生学科 環境保健学コース）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

※ ディープラーニング演習Ⅰ	1	※ 医療に利用される最新科学	1	※ 医用治療機器学特論	2
※ ディープラーニング演習Ⅱ	1	※ 生体表面電位計測概論	1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座	1
※ 生体医用光学概論	1	※ 生命科学	1	※ 初学者のための生体防御のしくみ	1
※ ボランティア社会学	1	※ くすりと毒の歴史と生理学	1		

医療衛生学1群科目（保健衛生学科 臨床心理学コース）

人間形成の基礎科目	経済のしくみA	2	※ 数学の基礎	2
文化の領域	経済のしくみB	2	◎ 統計学B I	2
哲学の楽しみA	個人と社会A	2	情報科学A	2
哲学の楽しみB	個人と社会B	2	情報科学B	2
科学を考えるA	政治のしくみA	2	情報科学C	2
科学を考えるB	政治のしくみB	2	◎ 情報演習	1
芸術の楽しみA	健康の領域		自然科学系	
芸術の楽しみB	健康の科学A	2	物理学	4
文学の楽しみA	健康の科学B	2	物理学実験	1
文学の楽しみB	健康の科学C	2	◎ 化学	4
信仰と救いA	健康とスポーツ演習	2	◎ 化学実験	1
信仰と救いB	※ ライフスポーツ演習A	2	生物学	4
倫理学A	※ ライフスポーツ演習B	2	生物学実験	1
倫理学B	※ ライフスポーツ演習C	2	※ 物理学要習	1
社会の領域	総合領域科目		※ 化学要習	1
◎ 心理学A（心理学概論）	総合領域		※ 生物学要習	1
◎ 心理学B（知覚・認知心理学）	北里の世界	1	教養演習系科目	
歴史と人間A	仕事と人生	1	教養演習系	
歴史と人間B	農医連携論	1	教養演習A	2
文化人類学A	基礎教育科目		教養演習B	1
文化人類学B	外国語系		教養演習C	1
日本と国際社会A	◎ 英語A I	1	大学基礎演習	1
日本と国際社会B	◎ 英語A II	1	言語と文化A	2
環境を考えるA	◎ 英語B I	1	言語と文化B	2
環境を考えるB	◎ 英語B II	1		
日本国憲法A	数理・情報系			
日本国憲法B	◎ 数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件 単位に含まない。	
法律の役割A	※ 発展数学A	2		
法律の役割B	※ 発展数学B	2		

医療衛生学2群科目（保健衛生学科 臨床心理学コース）

◎ 生理学 I	2	サステナビリティ学入門	2
◎ 生理学 II	2	医療学概論	2
病理学	2	◎ 発達心理学	2
生化学	2	◎ 感情・人格心理学	2
公衆衛生学 I	2	◎ 神経・生理心理学	2
公衆衛生学 II	2	◎ 社会・集団・家族心理学	2
◎ 労働衛生学 I	2	◎ 公認心理師の職責	2
◎ 労働衛生学 II	2	◎ 心理学実験（卒業研究 II）	2
微生物学	2	◎ 学習・言語心理学	2
血液・免疫学	2	◎ 関係行政論	2
食品衛生学	2	◎ 人体の構造と機能及び疾病 I	2
◎ 労働生理学	2	◎ 人体の構造と機能及び疾病 II	2
リスク管理学	2	◎ 心理学研究法（卒業研究 I）	2
◎ 心理学統計法	2	◎ 精神疾患とその治療	2
食品衛生法規	2		

医療衛生学3群科目（保健衛生学科 臨床心理学コース）

◎ 労働行政	2	環境予防医学	2	
◎ 作業環境管理学	2	心理実習Ⅱ	1	
◎ 産業衛生管理学	2	◎ 心理的アセスメント	2	
◎ 産業衛生管理学実習	1	◎ 心理学的支援法	2	
環境衛生学Ⅰ	2	心理演習	2	
環境衛生学Ⅱ	2	◎ 健康・医療心理学	2	
環境工学Ⅰ	2	◎ 福祉心理学	2	
◎ チーム医療論(演習含)	1	◎ 教育・学校心理学	2	
薬理・毒性学	2	◎ 司法・犯罪心理学	2	
健康食品学	2	環境予防医学実習	1	
心理実習Ⅰ	1	生命医科学	2	
環境工学Ⅱ	2	生体分子情報学	2	
生物・生態環境工学	2	分子生物学入門	2	
◎ 卒業研究Ⅲ	6			
◎ 障害者・障害児心理学	2			
◎ 臨床心理学概論	2			
◎ 産業・組織心理学	2			※印は自由科目であり、卒業要件 単位に含まない。

医療衛生学4群科目（保健衛生学科 臨床心理学コース）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
※ ディープラーニング演習Ⅰ	1	※ 医療に利用される最新科学	1	※ 医用治療機器学特論	2
※ ディープラーニング演習Ⅱ	1	※ 生体表面電位計測概論	1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座	1
※ 生体医用光学概論	1	※ 生命科学	1	※ 初学者のための生体防御のしくみ	1
※ ボランティア社会学	1	※ くすりと毒の歴史と生理学	1		

医療衛生学1群科目（医療検査学科）

人間形成の基礎科目	経済のしくみA	2	※ 数学の基礎	2
文化の領域	経済のしくみB	2	◎ 統計学B I	2
哲学の楽しみA	個人と社会A	2	情報科学A	2
哲学の楽しみB	個人と社会B	2	情報科学B	2
科学を考えるA	政治のしくみA	2	情報科学C	2
科学を考えるB	政治のしくみB	2	◎ 情報演習	1
芸術の楽しみA	健康の領域		自然科学系	
芸術の楽しみB	健康の科学A	2	物理学	4
文学の楽しみA	健康の科学B	2	物理学実験	1
文学の楽しみB	健康の科学C	2	化学	4
信仰と救いA	健康とスポーツ演習	2	化学実験	1
信仰と救いB	※ ライフスポーツ演習A	2	◎ 生物学	4
倫理学A	※ ライフスポーツ演習B	2	◎ 生物学実験	1
倫理学B	※ ライフスポーツ演習C	2	※ 物理学要習	1
社会の領域	総合領域科目		※ 化学要習	1
心理学A	総合領域		※ 生物学要習	1
心理学B	北里の世界	1	教養演習系科目	
歴史と人間A	仕事と人生	1	教養演習系	
歴史と人間B	農医連携論	1	教養演習A	2
文化人類学A	基礎教育科目		教養演習B	1
文化人類学B	外国語系		教養演習C	1
日本と国際社会A	◎ 英語A I	1	大学基礎演習	1
日本と国際社会B	◎ 英語A II	1	言語と文化A	2
環境を考えるA	◎ 英語B I	1	言語と文化B	2
環境を考えるB	◎ 英語B II	1		
日本国憲法A	数理・情報系			
日本国憲法B	数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件 単位に含まない。	
法律の役割A	発展数学A	2		
法律の役割B	発展数学B	2		

医療衛生学2群科目（医療検査学科）

◎ 英語C	2	◎ 生化学	4	◎ 医用工学実習	1
◎ 医療学概論	2	◎ 生化学実習	1	◎ 保健医療福祉総論	1
◎ 解剖学	2	◎ 組織細胞学	2	◎ 臨床検査学概論	1
◎ 解剖学実習	1	◎ 組織細胞学実習	1	◎ 薬理学	2
◎ 生理学 I	2	◎ 公衆衛生学 I	1		
◎ 生理学 II (実習含)	2	◎ 公衆衛生学 II (実習含)	1		
◎ 病理学(演習含)	1	◎ 医用工学概論(演習含)	1		

医療衛生学 3 群科目 (医療検査学科)

◎ 病理検査学	2	◎ 臨床化学 I	2	◎ 医療安全管理学	1
◎ 病理検査学実習	1	◎ 臨床化学 II	2	◎ 臨床実習	11
◎ 寄生虫検査学(実習含)	2	◎ 臨床化学実習	1	◎ テュートリアル教育	1
◎ 一般検査学	2	◎ 免疫検査学 I	2	◎ 卒業研究	5
◎ 臨床検査学特論 II	8	◎ 免疫検査学 II	2	◎ チーム医療論(演習含)	1
◎ 一般検査学実習	1	◎ 免疫検査学実習	1	◎ 医療安全管理学演習	1
◎ 遺伝子・染色体検査学	2	◎ 臨床生理学 I A	2	◎ 臨床検査学特論 I	1
◎ 微生物検査学	4	◎ 臨床生理学 I B	2	◎ 臨床実習前実技確認(演習含)	1
◎ 微生物検査学実習	1	◎ 臨床生理学 II (画像検査学含)	2	◎ 遺伝子・染色体検査学実習	1
◎ 放射線科学(実習含)	1	◎ 臨床生理学実習	1	※ 細胞検査士コース	5
◎ 臨床病態学	4	◎ 検査機器学	1	※ 学術国際交流プログラムA	2
◎ 血液学 I	2	◎ 検査管理学	1		
◎ 血液学 II	2	◎ 臨床細胞学	2		
◎ 血液学実習	1	◎ 臨床細胞学実習	1		

※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。

医療衛生学 4 群科目 (医療検査学科)

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
※ ディープラーニング演習 I	1	※ 医療に利用される最新科学	1	※ 医用治療機器学特論	2
※ ディープラーニング演習 II	1	※ 生体表面電位計測概論	1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座	1
※ 生体医用光学概論	1	※ 生命科学	1	※ 初学者のための生体防御のしくみ	1
※ ボランティア社会学	1	※ くすりと毒の歴史と生理学	1		

医療衛生学1群科目（医療工学科 臨床工学専攻）

人間形成の基礎科目	経済のしくみA	2	※ 数学の基礎	2
文化の領域	経済のしくみB	2	◎ 統計学B I	2
哲学の楽しみA	個人と社会A	2	※ 統計学B II	2
哲学の楽しみB	個人と社会B	2	※ 情報科学A	2
科学を考えるA	政治のしくみA	2	※ 情報科学B	2
科学を考えるB	政治のしくみB	2	※ 情報科学C	2
芸術の楽しみA	健康の領域		◎ 情報演習	1
芸術の楽しみB	健康の科学A	2	自然科学系	
文学の楽しみA	健康の科学B	2	◎ 物理学	4
文学の楽しみB	健康の科学C	2	◎ 物理学実験	1
信仰と救いA	健康とスポーツ演習	2	◎ 化学	4
信仰と救いB	※ ライフスポーツ演習A	2	◎ 化学実験	1
倫理学A	※ ライフスポーツ演習B	2	◎ 生物学	4
倫理学B	※ ライフスポーツ演習C	2	◎ 生物学実験	1
社会の領域	総合領域科目		※ 物理学要習	1
心理学A	総合領域		※ 化学要習	1
心理学B	北里の世界	1	※ 生物学要習	1
歴史と人間A	仕事と人生	1	教養演習系科目	
歴史と人間B	農医連携論	1	教養演習系	
文化人類学A	基礎教育科目		※ 教養演習A	2
文化人類学B	外国語系		※ 教養演習B	1
日本と国際社会A	◎ 英語A I	1	※ 教養演習C	1
日本と国際社会B	◎ 英語A II	1	※ 大学基礎演習	1
環境を考えるA	◎ 英語B I	1	※ 言語と文化A	2
環境を考えるB	◎ 英語B II	1	※ 言語と文化B	2
日本国憲法A	数理・情報系			
日本国憲法B	数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件	
法律の役割A	発展数学A	2	単位に含まない。	
法律の役割B	発展数学B	2		

医療衛生学2群科目（医療工学科 臨床工学専攻）

◎ 解剖学 I	◎ 応用数学 I	2	◎ 情報処理工学 II (演習含)	2
◎ 解剖学 II	◎ 応用数学 II (演習含)	1	◎ システム工学	2
◎ 生理学 I	◎ 電気工学 I	2	◎ システム工学実習	1
◎ 生理学 II (演習含)	◎ 電気工学 II	2	※ 医療情報学	4
◎ 解剖学実習	◎ 電気工学実習	1		
◎ 生理学実習	◎ 電子工学 I	2		
◎ 公衆衛生学	◎ 電子工学 II	2		
◎ 病理学	◎ 電子工学実習	1		
◎ 生化学	◎ 医用機械工学	3	※印は自由科目であり、卒業要件	
◎ 薬理学	◎ 情報処理工学 I	2	単位に含まない。	

医療衛生学3群科目（医療工学科 臨床工学専攻）

◎ 英語C	2	◎ 医用治療機器学	4	◎ 機器安全管理学実習	1
◎ 英語D	1	◎ 医用治療機器学実習	1	◎ 医療ケア安全管理学	2
◎ 医用工学総論	2	◎ 生体機能代行装置学Ⅰ	4	◎ 臨床医療学Ⅰ	4
◎ 計測工学	2	◎ 生体機能代行装置学Ⅱ	4	◎ 臨床医療学特論	2
◎ 物性・材料工学	4	◎ 生体機能代行装置学Ⅲ	4	◎ 臨床工学総合演習	1
◎ 医用機器学Ⅰ（演習含）	1	◎ 生体機能代行装置学実習Ⅰ	1	◎ 臨床実習	7
◎ 医用機器学Ⅱ（演習含）	1	◎ 生体機能代行装置学実習Ⅱ	1	◎ 卒業研究	6
◎ 生体計測装置学（演習含）	2	◎ 生体機能代行装置学実習Ⅲ	1	◎ チーム医療論（演習含）	1
◎ 生体計測装置学実習	1	◎ 機器安全管理学	4		

医療衛生学4群科目（医療工学科 臨床工学専攻）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
※ ディープラーニング演習Ⅰ	1	※ 医療に利用される最新科学	1	※ 医用治療機器学特論	2
※ ディープラーニング演習Ⅱ	1	※ 生体表面電位計測概論	1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座	1
※ 生体医用光学概論	1	※ 生命科学	1	※ 初学者のための生体防御のしくみ	1
※ ボランティア社会学	1	※ くすりと毒の歴史と生理学	1		

医療衛生学1群科目（医療工学科 診療放射線技術科学専攻）

人間形成の基礎科目		経済のしくみA	2	※ 数学の基礎	2
文化の領域		経済のしくみB	2	◎ 統計学B I	2
哲学の楽しみA	2	個人と社会A	2	※ 統計学B II	2
哲学の楽しみB	2	個人と社会B	2	※ 情報科学A	2
科学を考えるA	2	政治のしくみA	2	※ 情報科学B	2
科学を考えるB	2	政治のしくみB	2	※ 情報科学C	2
芸術の楽しみA	2	健康の領域		◎ 情報演習	1
芸術の楽しみB	2	健康の科学A	2	自然科学系	
文学の楽しみA	2	健康の科学B	2	物理学	4
文学の楽しみB	2	健康の科学C	2	物理学実験	1
信仰と救いA	2	健康とスポーツ演習	2	化学	4
信仰と救いB	2	※ ライフスポーツ演習A	2	化学実験	1
倫理学A	2	※ ライフスポーツ演習B	2	生物学	4
倫理学B	2	※ ライフスポーツ演習C	2	生物学実験	1
社会の領域		総合領域科目		※ 物理学要習	1
心理学A	2	総合領域		※ 化学要習	1
心理学B	2	北里の世界	1	※ 生物学要習	1
歴史と人間A	2	仕事と人生	1	教養演習系科目	
歴史と人間B	2	農医連携論	1	教養演習系	
文化人類学A	2	基礎教育科目		※ 教養演習A	2
文化人類学B	2	外国語系		※ 教養演習B	1
日本と国際社会A	2	◎ 英語A I	1	※ 教養演習C	1
日本と国際社会B	2	◎ 英語A II	1	※ 大学基礎演習	1
環境を考えるA	2	◎ 英語B I	1	※ 言語と文化A	2
環境を考えるB	2	◎ 英語B II	1	※ 言語と文化B	2
日本国憲法A	2	数理・情報系			
日本国憲法B	2	数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件	
法律の役割A	2	発展数学A	2	単位に含まない。	
法律の役割B	2	発展数学B	2		

医療衛生学2群科目（医療工学科 診療放射線技術科学専攻）

◎ 英語C	1	◎ 応用数学I	2		
◎ 解剖学I	2	◎ 医用工学	2		
◎ 解剖学II	1	◎ 医用工学実習	1		
◎ 生理学I	2	◎ 臨床医療学I	4		
◎ 生理学II（演習含）	1	◎ 放射線臨床病態薬理学	1		
◎ 病理学	2	医療学概論	2		
◎ 生化学	2	情報処理工学	1		

医療衛生学 3 群科目 (医療工学科 診療放射線技術科学専攻)

◎ 診療放射線技術科学概論	2	◎ 核医学技術学・放射化学実習	1	◎ チーム医療論(演習含)	1
◎ 診療技術英語	1	◎ 放射線腫瘍学	2	放射線基礎講義 I	1
◎ 放射線物理学	4	◎ 放射線治療機器学	1	◎ 画像検査技術学	1
◎ 医用物理学	1	◎ 放射線治療技術学 I	2	放射線治療物理学	1
◎ 放射線生物学 I	2	◎ 放射線治療技術学 II	2	放射線基礎講義 II	2
◎ 放射線生物学 II	1	◎ 放射線治療技術学実習	1	※ 学術国際交流プログラム B	1
◎ 放射線計測学 I	2	◎ 画像工学	2		
◎ 放射線計測学 II	1	◎ 医療情報工学	2		
◎ 放射化学	2	◎ 医療画像処理	1		
◎ 画像解剖学	2	◎ 画像情報学	1		
◎ 画像診断学	4	◎ 放射線管理学	2		
◎ 診療画像技術学 I	2	◎ 放射線管理学・計測学実習	1		
◎ 診療画像技術学 II	2	◎ 放射線関係法規	1		
◎ 診療画像技術学 III	2	◎ 臨床実習 I	1		
◎ 診療画像技術学 IV	2	◎ 臨床実習 II	1		
◎ 画像診断機器工学 I	2	◎ 臨床実習 III	10		
◎ 画像診断機器工学 II	1	◎ 実践臨床画像学	2		
◎ 画像診断機器工学実習	1	◎ 医療安全管理学	2		
◎ 核医学技術学 I	2	◎ 診療放射線技術科学総合演習	7		
◎ 核医学技術学 II	2	◎ 卒業研究	6		

医療衛生学 4 群科目 (医療工学科 診療放射線技術科学専攻)

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
※ ディープラーニング演習 I	1	※ 医療に利用される最新科学	1	※ 医用治療機器学特論	2
※ ディープラーニング演習 II	1	※ 生体表面電位計測概論	1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座	1
※ 生体医用光学概論	1	※ 生命科学	1	※ 初学者のための生体防御のしくみ	1
※ ボランティア社会学	1	※ くすりと毒の歴史と生理学	1		

医療衛生学1群科目（リハビリテーション学科 理学療法学専攻）

人間形成の基礎科目	経済のしくみA	2	※ 数学の基礎	2
文化の領域	経済のしくみB	2	◎ 統計学A	4
哲学の楽しみA	個人と社会A	2	※ 情報科学A	2
哲学の楽しみB	個人と社会B	2	※ 情報科学B	2
科学を考えるA	政治のしくみA	2	※ 情報科学C	2
科学を考えるB	政治のしくみB	2	◎ 情報演習	1
芸術の楽しみA	健康の領域		自然科学系	
芸術の楽しみB	※ 健康の科学A	2	◎ 物理学	4
文学の楽しみA	※ 健康の科学B	2	◎ 物理学実験	1
文学の楽しみB	◎ 健康の科学C	2	化学	4
信仰と救いA	※ 健康とスポーツ演習	2	化学実験	1
信仰と救いB	※ ライフスポーツ演習A	2	生物学	4
倫理学A	※ ライフスポーツ演習B	2	生物学実験	1
倫理学B	※ ライフスポーツ演習C	2	※ 物理学要習	1
社会の領域	総合領域科目		※ 化学要習	1
心理学A	総合領域		※ 生物学要習	1
心理学B	北里の世界	1	教養演習系科目	
歴史と人間A	仕事と人生	1	教養演習系	
歴史と人間B	農医連携論	1	※ 教養演習A	2
文化人類学A	基礎教育科目		※ 教養演習B	1
文化人類学B	外国語系		※ 教養演習C	1
日本と国際社会A	◎ 英語A I	1	大学基礎演習	1
日本と国際社会B	◎ 英語A II	1	※ 言語と文化A	2
環境を考えるA	◎ 英語B I	1	※ 言語と文化B	2
環境を考えるB	◎ 英語B II	1		
日本国憲法A	数理・情報系			
日本国憲法B	数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件 単位に含まない。	
法律の役割A	発展数学A	2		
法律の役割B	発展数学B	2		

医療衛生学2群科目（リハビリテーション学科 理学療法学専攻）

◎ 解剖学 I	◎ 医療学概論	2	◎ 医療統計学	2
◎ 解剖学 II	◎ 臨床医療学 I	4	◎ 薬理学	2
◎ 解剖学実習 I	◎ 臨床医療学 II	1	◎ 社会系医療学	1
◎ 解剖学実習 II	◎ 臨床医療学 III	1	臨床心理学 I	2
◎ 生理学 I	◎ 整形外科学	1	医療情報学	2
◎ 生理学 II	◎ 臨床心理学 II	2	公衆衛生学	2
◎ 生理学実習	◎ 発達心理学	2	心理学測定法	2
◎ 病理学	◎ 生体運動分析学	1	学習・認知心理学	2
◎ リハビリテーション概論	◎ 生体運動分析学実習	2		
◎ リハビリテーション医学	◎ 臨床運動学(実習含)	1		

医療衛生学3群科目（リハビリテーション学科 理学療法学専攻）

◎ 理学療法学概論	2	◎ 日常生活活動学	1	◎ 臨床実習Ⅰ	1
◎ 基礎理学療法学(実習含)	2	◎ 日常生活活動学実習	1	◎ 臨床実習Ⅱ	1
◎ 理学療法研究法	2	◎ 物理療法学(実習含)	2	◎ 臨床実習Ⅲ	1
◎ 理学療法評価学	1	◎ 整形外科系理学療法学	2	◎ 臨床実習Ⅳ	17
◎ 理学療法評価学実習	2	◎ 整形外科系理学療法学実習	1	◎ 卒業研究	5
◎ 高次脳機能学	1	◎ 内部障害系理学療法学	2	◎ チーム医療論(演習含)	1
◎ 高次脳機能障害理学療法学(実習含)	1	◎ 内部障害系理学療法学実習	1	生体運動学特論	1
◎ 臨床理学療法学Ⅰ(実習含)	1	◎ 中枢神経系理学療法学	1	小児理学療法学特論(実習含)	1
◎ 臨床理学療法学Ⅱ	2	◎ 中枢神経系理学療法学実習	1	整形外科系理学療法学特論(実習含)	1
◎ 臨床理学療法学Ⅱ実習	2	◎ 理学療法管理学	1	内部障害系理学療法学特論	1
◎ 小児理学療法学	2	◎ 理学療法学特論(実習含)	1	中枢神経系理学療法学特論	1
◎ 小児理学療法学実習	1	◎ 老年理学療法学	1	老年理学療法学特論(実習含)	1
◎ 義肢装具学	1	◎ 老年理学療法学実習	1	地域理学療法学特論(実習含)	1
◎ 義肢装具学実習	1	◎ 地域理学療法学	1	※ 学術国際交流プログラムB	1

医療衛生学4群科目（リハビリテーション学科 理学療法学専攻）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
※ ディープラーニング演習Ⅰ	1	※ 医療に利用される最新科学	1	※ 医用治療機器学特論	2
※ ディープラーニング演習Ⅱ	1	※ 生体表面電位計測概論	1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座	1
※ 生体医用光学概論	1	※ 生命科学	1	※ 初学者のための生体防御のしくみ	1
※ ボランティア社会学	1	※ くすりと毒の歴史と生理学	1		

医療衛生学1群科目（リハビリテーション学科 作業療法学専攻）

人間形成の基礎科目	経済のしくみA	2	※ 数学の基礎	2
文化の領域	経済のしくみB	2	◎ 統計学A	4
哲学の楽しみA	個人と社会A	2	情報科学A	2
哲学の楽しみB	個人と社会B	2	情報科学B	2
科学を考えるA	政治のしくみA	2	情報科学C	2
科学を考えるB	政治のしくみB	2	◎ 情報演習	1
芸術の楽しみA	健康の領域		自然科学系	
芸術の楽しみB	健康の科学A	2	物理学	4
文学の楽しみA	健康の科学B	2	物理学実験	1
文学の楽しみB	健康の科学C	2	化学	4
信仰と救いA	健康とスポーツ演習	2	化学実験	1
信仰と救いB	※ ライフスポーツ演習A	2	生物学	4
倫理学A	※ ライフスポーツ演習B	2	生物学実験	1
倫理学B	※ ライフスポーツ演習C	2	※ 物理学要習	1
社会の領域	総合領域科目		※ 化学要習	1
◎ 心理学A	総合領域		※ 生物学要習	1
◎ 心理学B	北里の世界	1	教養演習系科目	
歴史と人間A	仕事と人生	1	教養演習系	
歴史と人間B	農医連携	1	教養演習A	2
文化人類学A	基礎教育科目		教養演習B	1
文化人類学B	外国語系		教養演習C	1
日本と国際社会A	◎ 英語A I	1	◎ 大学基礎演習	1
日本と国際社会B	◎ 英語A II	1	言語と文化A	2
環境を考えるA	◎ 英語B I	1	言語と文化B	2
環境を考えるB	◎ 英語B II	1		
日本国憲法A	数理・情報系			
日本国憲法B	◎ 数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件 単位に含まない。	
法律の役割A	※ 発展数学A	2		
法律の役割B	※ 発展数学B	2		

医療衛生学2群科目（リハビリテーション学科 作業療法学専攻）

◎ 解剖学 I	2	◎ リハビリテーション概論	1	公衆衛生学	2
◎ 解剖学 II	2	◎ リハビリテーション医学	2	社会系医療学	1
◎ 解剖学実習 I	1	◎ 作業療法概論	2	発達心理学	2
◎ 解剖学実習 II	1	◎ 医療学概論	2	心理学測定法	2
◎ 生理学 I	2	◎ 臨床医療学 I	4	学習・認知心理学	2
◎ 生理学 II	2	◎ 臨床医療学 II	1	医療情報学	2
◎ 生理学実習	1	◎ 臨床医療学 III	1	医療統計学	2
◎ 病理学	2	◎ 整形外科学	1		
◎ 臨床心理学 I	2	◎ 精神医学	1		
◎ 臨床心理学 II	2	薬理学	2		

医療衛生学3群科目（リハビリテーション学科 作業療法学専攻）

◎ 基礎作業学	1	◎ 老年期作業療法学実習	1	◎ 作業療法管理学Ⅰ	1
◎ 基礎作業学実習	1	◎ 生活活動学	1	◎ 作業療法管理学Ⅱ	1
◎ 作業療法評価学	2	◎ 生活活動学実習	1	◎ 臨床実習Ⅰ	1
◎ 作業療法評価学実習	1	◎ 生活環境調整学	1	◎ 臨床実習Ⅱ	2
◎ 運動学	2	◎ 生活環境調整学実習	1	◎ 臨床実習Ⅲ	4
◎ 運動学実習	1	◎ 高次脳機能学	1	◎ 臨床実習Ⅳ	16
◎ 身体障害作業療法学	2	◎ 高次脳機能作業療法学	1	◎ 卒業研究	6
◎ 身体障害作業療法学実習	1	◎ 地域作業療法学	1	◎ チーム医療論(演習含)	1
◎ 精神保健作業療法学	2	◎ 地域作業療法学実習	1	作業療法技術論Ⅰ	1
◎ 精神保健作業療法学実習	1	◎ 職業活動学	1	作業療法技術論Ⅱ	1
◎ 発達障害作業療法学	2	◎ 職業活動学実習	1	作業療法技術論Ⅲ	1
◎ 発達障害作業療法学実習	1	◎ 作業療法研究法	1	作業療法技術論Ⅳ	1
◎ 老年期作業療法学	1	◎ 作業療法学総合	2	※ 学術国際交流プログラムB	1

医療衛生学4群科目（リハビリテーション学科 作業療法学専攻）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
※ ディープラーニング演習Ⅰ	1	※ 医療に利用される最新科学	1	※ 医用治療機器学特論	2
※ ディープラーニング演習Ⅱ	1	※ 生体表面電位計測概論	1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座	1
※ 生体医用光学概論	1	※ 生命科学	1	※ 初学者のための生体防御のしくみ	1
※ ボランティア社会学	1	※ くすりと毒の歴史と生理学	1		

医療衛生学1群科目（リハビリテーション学科 言語聴覚療法学専攻）

人間形成の基礎科目	経済のしくみA	2	数学の基礎	2
文化の領域	経済のしくみB	2	◎ 統計学A	4
哲学の楽しみA	個人と社会A	2	※ 情報科学A	2
哲学の楽しみB	個人と社会B	2	※ 情報科学B	2
科学を考えるA	政治のしくみA	2	※ 情報科学C	2
科学を考えるB	政治のしくみB	2	◎ 情報演習	1
芸術の楽しみA	健康の領域		自然科学系	
芸術の楽しみB	健康の科学A	2	物理学	4
文学の楽しみA	健康の科学B	2	物理学実験	1
文学の楽しみB	健康の科学C	2	化学	4
信仰と救いA	健康とスポーツ演習	2	化学実験	1
信仰と救いB	※ ライフスポーツ演習A	2	生物学	4
倫理学A	※ ライフスポーツ演習B	2	生物学実験	1
倫理学B	※ ライフスポーツ演習C	2	※ 物理学要習	1
社会の領域	総合領域科目		※ 化学要習	1
心理学A	総合領域		※ 生物学要習	1
心理学B	北里の世界	1	教養演習系科目	
歴史と人間A	仕事と人生	1	教養演習系	
歴史と人間B	農医連携論	1	※ 教養演習A	2
文化人類学A	基礎教育科目		※ 教養演習B	1
文化人類学B	外国語系		※ 教養演習C	1
日本と国際社会A	◎ 英語A I	1	大学基礎演習	1
日本と国際社会B	◎ 英語A II	1	※ 言語と文化A	2
環境を考えるA	◎ 英語B I	1	※ 言語と文化B	2
環境を考えるB	◎ 英語B II	1		
日本国憲法A	数理・情報系			
日本国憲法B	数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件 単位に含まない。	
法律の役割A	※ 発展数学A	2		
法律の役割B	※ 発展数学B	2		

医療衛生学2群科目（リハビリテーション学科 言語聴覚療法学専攻）

◎ 解剖学 I	2	◎ 歯科・口腔外科学	1	◎ 音響学演習	2
◎ 解剖学 II	2	◎ 音声言語医学	1	◎ 言語発達学	1
◎ 生理学 I	2	◎ 聴覚医学	1	◎ 社会系医療学	1
◎ 生理学 II	2	◎ 高次脳機能学	1	薬理学	2
◎ 病理学	2	◎ 臨床心理学 I	2	医療統計学	2
◎ 医療学概論	2	◎ 臨床心理学 II	2		
◎ リハビリテーション概論	1	◎ 発達心理学	2		
◎ リハビリテーション医学	2	◎ 心理学測定法	2		
◎ 臨床医療学 I	4	◎ 学習・認知心理学	2		
◎ 臨床医療学 III	1	◎ 言語学	2		
◎ 耳鼻咽喉科学	1	◎ 音声学演習	2		
◎ 形成外科学	1	◎ 聴覚心理学	1		

医療衛生学3群科目（リハビリテーション学科 言語聴覚療法学専攻）

◎ 言語聴覚療法学概論(実習含)	3	◎ 重複障害学	1	◎ 聴覚障害学	2
◎ 基礎言語聴覚療法学(実習含)	1	◎ 構音障害学Ⅰ(実習含)	3	◎ 聴覚障害学実習	1
◎ 地域言語聴覚療法学	1	◎ 構音障害学Ⅱ(実習含)	2	◎ 補聴器・人工内耳(実習含)	2
◎ 言語聴覚療法学総合演習	3	◎ 音声障害学(実習含)	2	◎ 臨床実習Ⅰ	1
◎ 失語・高次脳機能障害学	3	◎ 嚥下障害学(実習含)	2	◎ 臨床言語聴覚療法学実習	2
◎ 失語・高次脳機能障害学実習	3	◎ 吃音学(実習含)	2	◎ 臨床実習Ⅱ	12
◎ 言語発達障害学	3	◎ 聴覚検査学	1	◎ 卒業研究	4
◎ 言語発達障害学実習	3	◎ 聴覚検査学実習	1	◎ チーム医療論(演習含)	1

医療衛生学4群科目（リハビリテーション学科 言語聴覚療法学専攻）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
※ ディープラーニング演習Ⅰ	1	※ 医療に利用される最新科学	1	※ 医用治療機器学特論	2
※ ディープラーニング演習Ⅱ	1	※ 生体表面電位計測概論	1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座	1
※ 生体医用光学概論	1	※ 生命科学	1	※ 初学者のための生体防御のしくみ	1
※ ボランティア社会学	1	※ くすりと毒の歴史と生理学	1		

医療衛生学1群科目（リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻）

人間形成の基礎科目	経済のしくみA	2	※ 数学の基礎	2
文化の領域	経済のしくみB	2	◎ 統計学A	4
哲学の楽しみA	個人と社会A	2	※ 情報科学A	2
哲学の楽しみB	個人と社会B	2	※ 情報科学B	2
科学を考えるA	政治のしくみA	2	※ 情報科学C	2
科学を考えるB	政治のしくみB	2	◎ 情報演習	1
芸術の楽しみA	健康の領域		自然科学系	
芸術の楽しみB	健康の科学A	2	◎ 物理学	4
文学の楽しみA	健康の科学B	2	◎ 物理学実験	1
文学の楽しみB	健康の科学C	2	化学	4
信仰と救いA	健康とスポーツ演習	2	※ 化学実験	1
信仰と救いB	※ ライフスポーツ演習A	2	生物学	4
倫理学A	※ ライフスポーツ演習B	2	※ 生物学実験	1
倫理学B	※ ライフスポーツ演習C	2	※ 物理学要習	1
社会の領域	総合領域科目		※ 化学要習	1
心理学A	総合領域		※ 生物学要習	1
心理学B	北里の世界	1	教養演習系科目	
歴史と人間A	仕事と人生	1	教養演習系	
歴史と人間B	農医連携論	1	※ 教養演習A	2
文化人類学A	基礎教育科目		※ 教養演習B	1
文化人類学B	外国語系		※ 教養演習C	1
日本と国際社会A	◎ 英語A I	1	※ 大学基礎演習	1
日本と国際社会B	◎ 英語A II	1	※ 言語と文化A	2
環境を考えるA	◎ 英語B I	1	※ 言語と文化B	2
環境を考えるB	◎ 英語B II	1		
日本国憲法A	数理・情報系			
日本国憲法B	数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件 単位に含まない。	
法律の役割A	発展数学A	2		
法律の役割B	発展数学B	2		

医療衛生学2群科目（リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻）

◎ 英語C I (TOEIC basic)	2	◎ 臨床医療学 I	4	◎ 視覚機能療法学概論 I	2
◎ 眼科英語	1	◎ 臨床医療学 III	1	◎ 視覚機能療法学概論 II	2
◎ 解剖学 I	2	◎ 臨床心理学 I	2	◎ 視覚機能療法学概論 III	2
◎ 解剖学 II	2	◎ 発達心理学	2	◎ 視覚矯正工学	2
◎ 生理学 I	2	◎ 社会系医療学	1	※ 英語C II (TOEIC intermediate)	1
◎ 生理学 II	2	◎ 医療統計学	2	※ 学習・認知心理学	2
◎ 病理学	2	◎ 基礎医療情報学	2		
◎ リハビリテーション概論	1	◎ 社会福祉実習	1	※印は自由科目であり、卒業要件 単位に含まない。	
◎ 医療学概論	2	◎ 保育	2		
◎ 薬理学	2	◎ 保育実習	2		

医療衛生学3群科目（リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻）

◎ 基礎生理光学	2	◎ 生理光学	2	◎ 視能矯正学特論実習Ⅱ	2
◎ 視器解剖・病理学	2	◎ 生理光学実習	1	◎ 臨床実習Ⅰ	1
◎ 視器解剖・病理学実習	1	◎ 視能訓練学	2	◎ 卒業研究	6
◎ 視覚臨床生理学	2	◎ 視能矯正学総論Ⅰ	2	◎ チーム医療論(演習含)	1
◎ 視覚臨床生理学実習	1	◎ 視能矯正学総論Ⅱ	2	視覚科学(Visual science)	1
◎ 眼科学Ⅰ	1	◎ 視能矯正学総論実習Ⅰ	1	視覚科学演習(Visual science)	1
◎ 眼科学Ⅱ	2	◎ 視能矯正学総論実習Ⅱ	2	臨床実習Ⅱ(Orthoptics)	10
◎ 眼科薬理学	1	◎ 視能矯正学各論Ⅰ	2	臨床実習Ⅱ(Visual science)	8
◎ 眼科臨床機器学	1	◎ 視能矯正学各論Ⅱ	2		
◎ 神経眼科学	2	◎ 視能矯正学特論	2		
◎ 神経眼科学実習	1	◎ 視能矯正学特論実習Ⅰ	1		

医療衛生学4群科目（リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
※ ディープラーニング演習Ⅰ	1	※ 医療に利用される最新科学	1	※ 医用治療機器学特論	2
※ ディープラーニング演習Ⅱ	1	※ 生体表面電位計測概論	1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座	1
※ 生体医用光学概論	1	※ 生命科学	1	※ 初学者のための生体防御のしくみ	1
※ ボランティア社会学	1	※ くすりと毒の歴史と生理学	1		

未来工学1群科目(データサイエンス学科)

人間形成の基礎科目	経済のしくみA	2	情報科学C	2
文化の領域	経済のしくみB	2	自然科学系	
哲学の楽しみA	個人と社会A	2	◎ 物理学	4
哲学の楽しみB	個人と社会B	2	◎ 物理学実験	1
科学を考えるA	政治のしくみA	2	◎ 生物学	4
科学を考えるB	政治のしくみB	2	◎ 生物学実験	1
芸術の楽しみA	健康の領域		※ 物理学要習	1
芸術の楽しみB	健康の科学A	2	※ 生物学要習	1
文学の楽しみA	健康の科学B	2	教養演習系科目	
文学の楽しみB	健康の科学C	2	教養演習系	
信仰と救いA	健康とスポーツ演習	2	※ 教養演習A	2
信仰と救いB	総合領域科目		※ 教養演習B	1
倫理学A	総合領域		※ 教養演習C	1
倫理学B	北里の世界	1	※ 大学基礎演習	1
社会の領域	仕事と人生	1	※ 言語と文化A	2
心理学A	農医連携論	1	※ 言語と文化B	2
心理学B	基礎教育科目			
歴史と人間A	外国語系			
歴史と人間B	◎ 英語A I	1		
文化人類学A	◎ 英語A II	1		
文化人類学B	◎ 英語B I	1		
日本と国際社会A	◎ 英語B II	1		
日本と国際社会B	数理・情報系			
環境を考えるA	◎ 微分積分学A	2		
環境を考えるB	◎ 微分積分学B	2		
日本国憲法A	◎ ベクトルと行列	2		
日本国憲法B	◎ 統計学B I	2		
法律の役割A	統計学B II	2		
法律の役割B	◎ 情報科学A	2		

※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。

未来工学2群科目(データサイエンス学科)

◎ 未来工学データサイエンス概論	2	◎ 情報倫理学	2	線形代数演習	2
◎ データサイエンスイノベーション演習	2	◎ 人工知能・機械学習入門	2	◎ 情報セキュリティ	2
◎ 情報の基礎	2	◎ 科学英語 I	1	◎ 科学英語 II	1
◎ プログラミング I	3	歴史から見るデータサイエンス	2		
◎ プログラミング II	3	線形代数	2		

未来工学3群科目(データサイエンス学科)

《データサイエンティストを支える教養とスキル》	《データのモデリング》	《ライフサイエンスの基礎科学》
IoT電子工作実習 1	◎ データハンドリングと可視化 2	◎ ライフサイエンス I 2
◎ プログラミングⅢ 3	◎ データエンジニアリング演習 2	◎ ライフサイエンスⅡ 2
インターンシップ 1	◎ データ解析とその数理Ⅰ 3	物質科学 2
プログラミングⅣ 3	◎ データ解析とその数理Ⅱ 3	生命系の情報理論 2
データサイエンス教育法 2	◎ シミュレーションの基礎 2	生命科学データ測定技術 2
アントレプレナーシップ 1	ネットワーク科学 2	統計の物理学 2
◎ データサイエンス研究入門 1	データモデリング演習 2	イメージングと画像解析 2
		ケモインフォマティクス 2
		神経系の情報処理 2
		立体構造予測 2
《データサイエンスのための数理》	《医療データの取扱い》	《データサイエンティストとしての価値の創造》
◎ 確率の数理 2	◎ 医学・医療概論 2	◎ 未来工学特別講義 2
◎ アルゴリズム 2	医療の質・安全管理論 2	◎ 輪講(ゼミナール) 4
微分方程式と力学系 2	医療統計分類論 2	◎ 卒業研究 8
◎ バイオインフォマティクス 2	メディカルインフォマティクス 2	
◎ 深層学習入門 2		
テキストマイニング 1		
尤度とモデリングの数理 2		

未来工学4群科目(データサイエンス学科)

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

健康科学 1 群科目 (看護学科)

◎ 情報処理 I	1	数学	1	◎ 日本国憲法	2
情報処理 II	1	基礎化学	1	◎ まちづくり論	2
情報処理 III	1	基礎生物学	1	◎ ボランティア活動論	2
◎ データサイエンス基礎	2	基礎物理学	1	国際交流論	1
◎ 生命倫理学	1	基礎分析化学実習	1	◎ 生涯発達論	2
◎ 心理学	1	スポーツと健康 I	1	◎ コミュニケーション演習	2
◎ 英語 I	2	スポーツと健康 II	1	北里の世界	1
英語 II	2	◎ 教育学	1	農医連携論	1
◎ 医療英語	1	◎ 対人関係論	1		

健康科学 2 群科目 (看護学科)

◎ 看護形態機能学 I	2	◎ 症候・疾病論 I	2	◎ 公衆衛生学	2
◎ 看護形態機能学 II	2	◎ 症候・疾病論 II	2	◎ 看護関係法規	2
◎ 看護形態機能学 III	2	◎ 症候・疾病論 III	2	◎ 社会保障と社会福祉	1
◎ 栄養学	1	◎ 症候・疾病論 IV	1	◎ ヘルスプロモーション	1
◎ 臨床栄養学	1	◎ 臨床薬理学	2		

健康科学 3 群科目 (看護学科)

◎ 看護学原論	2	◎ 成人看護学概論	2	◎ 成人看護学実習 II (慢性期)	2
◎ 基礎技術演習 I	1	◎ 成人看護学 I	2	◎ 集中治療ケア実習	1
◎ 基礎技術演習 II	1	◎ 成人看護学 II	2	◎ 老年看護学実習	2
◎ 基礎技術演習 III	1	◎ 老年看護学概論	2	◎ NICU/PICU実習	1
◎ 看護過程演習	1	◎ 老年看護学	2	◎ 小児看護学実習	1
◎ フィジカルアセスメント I	1	◎ 小児看護学概論	2	◎ 母性看護学実習	2
◎ フィジカルアセスメント II	1	◎ 小児看護学各論	2	◎ 精神看護学実習	2
◎ 感染看護学	1	◎ 母性看護学概論	2	◎ 統合実習	4
◎ 地域アセスメント演習	1	◎ 母性看護学各論	2	◎ 地域実習	2
◎ チーム医療論演習 I	1	◎ 精神看護学概論	2	※ 公衆衛生看護支援技術 I	2
◎ 緩和ケア	1	◎ 精神看護学方法論	2	※ 公衆衛生看護支援技術 II	2
◎ 地域・在宅看護概論	1	◎ 看護管理・政策論	1	※ 公衆衛生看護対象論 I	1
◎ 地域・在宅看護総論	2	◎ 医療安全	1	※ 公衆衛生看護対象論 II	1
◎ 地域・在宅援助技術 I	1	◎ 災害看護	1	※ 公衆衛生看護展開論	2
◎ 地域・在宅援助技術 II	1	◎ チーム医療論演習 II	1	※ 公衆衛生看護管理論	1
◎ 地域の健康と看護	1	◎ 課題研究 I	1	※ 地域健康危機管理論	1
疫学	2	◎ 課題研究 II	2	※ 学校保健・産業保健	1
保健統計学	2	◎ 看護基礎実習 I	1	※ 保健医療福祉行政論 II	1
公衆衛生看護学概論	2	◎ 看護基礎実習 II	2	※ 公衆衛生看護学実習	5
健康政策論	2	◎ 在宅看護学実習	2		
保健医療福祉行政論 I	1	◎ 成人看護学実習 I (急性期)	2		

※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。

健康科学 4 群科目 (看護学科)

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

健康科学 1 群科目 (医療検査学科)

◎ 情報処理 I	1	◎ 数学	1	◎ 日本国憲法	2
◎ 情報処理 II	1	◎ 基礎化学	1	◎ まちづくり論	2
◎ 情報処理 III	1	◎ 基礎生物学	1	◎ 国際交流論	1
◎ 生命倫理学	1	◎ 基礎物理学	1	北里の世界	1
◎ 心理学	1	◎ 基礎分析化学実習	1	農医連携論	1
◎ 英語 I	2	◎ スポーツと健康 I	1		
◎ 英語 II	2	◎ スポーツと健康 II	1		
◎ 専門英語	2	◎ コミュニケーション学	1		

健康科学 2 群科目 (医療検査学科)

◎ 医療学概論	2	◎ 分子細胞生物学	1	◎ 保健看護学概論	1
◎ 解剖学 I	1	◎ 薬理学	1	◎ 医用工学概論	1
◎ 解剖学 II	1	◎ 臨床栄養学	1	◎ 医用工学実習	1
◎ 生理学 I	1	◎ 病理学	1	◎ 検査機器学	1
◎ 生理学 II	1	◎ 微生物学	1	◎ 在宅医療論	1
◎ 解剖生理学実習	1	◎ 臨床検査基礎実習	1		
◎ 生化学 I	1	◎ 公衆衛生学 I	1		
◎ 生化学 II	1	◎ 公衆衛生学 II	1		

健康科学 3 群科目 (医療検査学科)

◎ 臨床医学総論	1	◎ 免疫検査学 I	2	◎ 画像検査学実習	1
◎ 臨床病態学 I	2	◎ 免疫検査学 II	2	◎ 検査管理学	1
◎ 臨床病態学 II	2	◎ RI検査学	1	◎ 精度保証管理学	1
◎ チーム医療論	1	◎ 遺伝子染色体検査学	2	◎ 医療統計学	1
◎ 血液検査学 I	2	◎ 遺伝子染色体検査学実習	1	◎ 医療安全管理学	2
◎ 血液検査学 II	2	◎ 輸血移植検査学 I	2	◎ 臨地実習	11
◎ 血液検査学実習	1	◎ 輸血移植検査学 II	1	◎ 臨床検査総合実習	1
◎ 凝固止血検査学実習	1	◎ 輸血移植検査学実習	1	◎ テュートリアル教育	1
◎ 病理細胞検査学 I	2	◎ 臨床微生物学 I	2	◎ 臨床検査学特論	8
◎ 病理細胞検査学 II	2	◎ 臨床微生物学 II	2	◎ 卒業研究	5
◎ 病理細胞検査学実習 I	1	◎ 臨床微生物学実習 I	1	◎ データサイエンス概論	1
◎ 病理細胞検査学実習 II	1	◎ 臨床微生物学実習 II	1	◎ 在宅検査演習	1
◎ 臨床基礎検査学	1	◎ 生理機能検査学 I	2	※ 食品機能学	2
◎ 臨床基礎検査学実習	1	◎ 生理機能検査学 II	2	※ 食品関連法規	1
◎ 寄生虫学	1	◎ 生理機能検査学 III	2		
◎ 臨床化学 I	2	◎ 生理機能検査学 IV	2		
◎ 臨床化学 II	2	◎ 生理機能検査学実習 I	1		
◎ 生体分析化学実習 I	1	◎ 生理機能検査学実習 II	1	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
◎ 生体分析化学実習 II	1	◎ 画像検査学	2		

健康科学 4 群科目 (医療検査学科)

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

別表 4-①

教職課程（獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科、海洋生命科学部、理学部、未来工学部）

教育の基礎的理解に関する科目等

単位数はすべて必修

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			本大学の授業科目	
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理Ⅰ	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職概論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育原理Ⅱ	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論	1
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法<中学校教諭のみ>	中10 高8	道徳教育論	2
	総合的な学習の時間の指導法 *		特別活動及び総合的な学習の時間指導論（※理学部・海洋生命科学部・未来工学部必修）	*2
	特別活動の指導法 *		総合的な学習の指導論（獣医学部必修）	*1
	総合的な学習の時間の指導法 *		特別活動論（獣医学部必修）	*1
	特別活動の指導法 *		教育方法論	1
	教育の方法及び技術		I C T活用の理論と方法	1
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		生徒指導論	2
	生徒指導の理論及び方法		教育相談・進路指導論	2
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	教育実習講義	1
			教育実習（動物資源科学科・海洋生命科学部・理学部必修）	4
			教育実習（生物環境科学科・未来工学部必修）	2
	教職実践演習	2	教職実践演習（中・高）	2

*は、学部によって履修科目が異なる

教職課程（獣医学部動物資源科学科、海洋生命科学部、理学部）

教科及び教科の指導法に関する科目

・中学校教諭一種免許状（理科）

単位数はすべて必修

免許教科	授 業 科 目	単 位 数
教科及び教科の指導法に関する科目	物理学	それぞれ1単位以上 計20単位以上
	物理学実験（コンピュータ活用を含む。）	
	化学	
	化学実験（コンピュータ活用を含む。）	
	生物学	
	生物学実験（コンピュータ活用を含む。）	
	地学	
	地学実験（コンピュータ活用を含む。）	
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	-	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	8単位	

教職課程（獣医学部動物資源科学科、海洋生命科学部、理学部）

教科及び教科の指導法に関する科目

・高等学校教諭一種免許状（理科）

単位数はすべて必修

免許教科	授 業 科 目	単 位 数
教科及び教科の指導法に関する科目	物理学	それぞれ1単位以上 計20単位以上
	化学	
	生物学	
	地学	
	物理学実験（コンピュータ活用を含む。）、化学実験（コンピュータ活用を含む。）、生物学実験（コンピュータ活用を含む。）、地学実験（コンピュータ活用を含む。）	
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	-	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	8単位	

教職課程（獣医学部生物環境科学科）

教科及び教科の指導法に関する科目

・高等学校教諭一種免許状（農業）

単位数はすべて必修

免許教科		授 業 科 目	単 位 数
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	農業の関係科目	それぞれ1単位以上 計20単位以上
		職業指導	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		-
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		4単位

教職課程（未来工学部）

教科及び教科の指導法に関する科目

・高等学校教諭一種免許状（情報）

単位数はすべて必修

免許教科		授 業 科 目	単 位 数
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会・情報倫理	それぞれ1単位以上 計20単位以上
		コンピュータ・情報処理（実習を含む。）	
		情報システム（実習を含む。）	
		情報通信ネットワーク（実習を含む。）	
		マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）	
		情報と職業	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		-
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		4単位	

別表 4-②

教職課程（看護学部）

教育の基礎的理解に関する科目等

単位数はすべて必修

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			本大学の授業科目	
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育原論	2 (*)
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職概論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		（教育原論）	(*)
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論	1
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		カリキュラム論	1
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳の理論並びに特別活動及び総合的な学習の時間の指導論	2
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法論	1
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導論	1
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談論	2
教育実践に関する科目	養護実習	5	養護実習	5
	教職実践演習	2	教職実践演習（養護）	2

*教育原論は、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」と「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」を含む科目

養護に関する科目

単位数はすべて必修

教育職員免許法施行規則に定める科目	単位数
衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）	4
学校保健	2
養護概説	2
健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	2
栄養学（食品学を含む。）	2
解剖学・生理学	2
「微生物学、免疫学、薬理概論」	2
精神保健	2
看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）	10

別表 5

学芸員資格を付与する課程（海洋生命科学部海洋生命科学科）

単位数はすべて必修

博物館法施行規則に定める博物館に関する科目・単位数		本大学の授業科目	
科 目	単位数	授 業 科 目	単位数
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2
博物館概論	2	博物館概論	2
博物館経営論	2	博物館経営論	2
博物館資料論	2	博物館資料論	2
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2
博物館展示論	2	博物館展示論	2
博物館教育論	2	博物館教育論	2
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2
博物館実習	3	博物館実習Ⅰ	1
		博物館実習Ⅱ	2

別表 6-① 入学検定料及び学費（※は初年度のみ納入を表す。）

薬 学 部		
	薬学科	生命創薬科学科
入学検定料	35,000 円	35,000 円
※入 学 金	400,000 円	400,000 円
授 業 料	1,100,000 円	850,000 円
施設設備費 (2年次以降)	850,000 円 (950,000 円)	820,000 円

獣 医 学 部			
	獣医学科	動物資源科学科	生物環境科学科
入学検定料	33,000 円	33,000 円	33,000 円
※入 学 金	300,000 円	250,000 円	250,000 円
授 業 料 (2年次以降)	1,500,000 円	830,000 円 (930,000円)	830,000 円 (930,000円)
施設設備費 (2年次以降)	530,000 円 (630,000 円)	270,000 円 (370,000 円)	270,000 円 (370,000 円)

医 学 部	
入学検定料	60,000 円
※入 学 金	1,500,000 円
授 業 料 (1年次9月入学) (2年次以降)	3,000,000 円 1,750,000 円 (3,500,000 円)
施設設備費 (1年次9月入学) (2年次以降)	1,000,000 円 580,000 円 (1,200,000 円)
教育充実費 (1年次9月入学) (2年次以降) (4年次以降)	3,500,000 円 2,040,000 円 (1,700,000 円) (1,000,000 円)

海 洋 生 命 科 学 部	
入学検定料	33,000 円
※入 学 金	300,000 円
授 業 料 (2年次以降)	900,000 円 (1,080,000 円)
施設設備費 (2年次以降)	200,000 円 (370,000 円)

看 護 学 部	
入学検定料	33,000 円
※入 学 金	400,000 円
授 業 料 (2年次以降)	1,200,000 円 (1,400,000 円)
施設設備費	300,000 円
助産師教育課程指定科目履修料 (履修者のみ)	350,000 円
保健師教育課程指定科目履修料 (履修者のみ)	80,000 円

理 学 部			
	物理学科	化学科	生物科学科
入学検定料	33,000 円	33,000 円	33,000 円
※入 学 金	200,000 円	200,000 円	200,000 円
授 業 料 (2年次以降)	1,012,500 円 (1,062,500 円)	1,012,500 円 (1,062,500 円)	1,062,500 円 (1,162,500 円)
施設設備費	450,000 円	450,000 円	450,000 円

医 療 衛 生 学 部	
入学検定料	33,000 円
※入 学 金	300,000 円
授 業 料 (2年次以降)	950,000 円 (1,200,000 円)
施設設備費	550,000 円
細胞検査士コース履修料 (医療検査学科・履修者のみ)	150,000 円

未 来 工 学 部	
入学検定料	33,000 円
※入 学 金	250,000 円
授 業 料 (2年次以降)	950,000 円 (1,150,000 円)
施設設備費	450,000 円
(2年次以降)	(450,000 円)

健 康 科 学 部		
	看護学科	医療検査学科
入学検定料	33,000 円	33,000 円
※入 学 金	300,000 円	300,000 円
授 業 料	1,300,000 円	1,200,000 円
施設設備費	200,000 円	200,000 円

別表6-② 科目等履修生の審査料及び学費

	薬学部	獣医学部	医学部	海洋生命科学部	看護学部	理学部	医療衛生学部	未来工学部	健康科学部
審査料	15,000 円	15,000 円	50,000 円	15,000 円					
登録料	25,000 円	25,000 円	50,000 円	25,000 円					
科目等履修料	1単位 25,000 円	1単位 25,000 円	1単位 50,000 円	1単位 25,000 円					

本大学卒業生の科目等履修料は1単位あたり20,000円とする。ただし、医学部を除く。

別表6-③ 教職課程及び学芸員養成課程履修料

学 部 等 課 程	獣医学部		海洋生命科学部	看護学部	理学部	未来工学部
	動物資源科学科	生物環境科学科				
教職課程	50,000 円	30,000 円	50,000 円	100,000 円	100,000 円	30,000 円
学芸員養成課程			50,000 円			

学則の変更事項を記載した書類

附則に以下の内容を規定する。

- 1 施行年月日（2024年4月1日）を規定する。
- 2 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、2024年度の医学部の入学定員を126名とすることを規定する。
- 3 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部の収容定員の学年進行について規定する。

以上

2024年度（新）							2023年度（旧）									
北里大学学則							北里大学学則									
第1章 総 則							第1章 総 則									
（目 的）							（目 的）									
第1条 本大学は、北里柴三郎博士の精神に則り、生命科学及び医療科学分野における学術研究と人材育成を通して、広く社会の発展のために寄与することを目的とする。							第1条 本大学は、北里柴三郎博士の精神に則り、生命科学及び医療科学分野における学術研究と人材育成を通して、広く社会の発展のために寄与することを目的とする。									
<略>							<略>									
（入学定員、編入学定員及び収容定員）							（入学定員、編入学定員及び収容定員）									
第8条 学生の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。							第8条 学生の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。									
学部	学科・専攻	入学定員	（編入学定員）			編入学 収容定員	収容定員	学部	学科・専攻	入学定員	（編入学定員）			編入学 収容定員	収容定員	
			2年次編入	3年次編入	4年次編入						2年次編入	3年次編入	4年次編入			
薬学部	薬学科	260名						薬学部	薬学科	260名					1,560名	
	生命創薬科学科	35名							生命創薬科学科	35名					140名	
	学部計	295名							学部計	295名					1,700名	
獣医学部	獣医学科	120名						獣医学部	獣医学科	120名					720名	
	動物資源科学科	130名							動物資源科学科	130名					520名	
	生物環境科学科	90名							生物環境科学科	90名					360名	
	学部計	340名							学部計	340名					1,600名	
医学部	医学科	110名						医学部	医学科	110名					660名	
	学部計	110名							学部計	110名					660名	
海洋生命科学部	海洋生命科学科	180名						海洋生命科学部	海洋生命科学科	180名					720名	
	学部計	180名							学部計	180名					720名	
看護学部	看護学科	125名						看護学部	看護学科	125名					500名	
	学部計	125名							学部計	125名					500名	
理学部	物理学科	53名						理学部	物理学科	53名					212名	
	化学科	80名							化学科	80名					320名	
	生物科学科	80名							生物科学科	80名					320名	
	学部計	213名							学部計	213名					852名	
医療衛生学部	保健衛生学科	40名						医療衛生学部	保健衛生学科	40名					160名	
	医療検査学科	105名							医療検査学科	105名					420名	
	医療工学科	臨床工学専攻	45名							臨床工学専攻	45名					180名
		診療放射線技術科学専攻	70名							診療放射線技術科学専攻	70名					280名
		学部計	115名							学部計	115名					460名
	リハビリテーション学科	理学療法専攻	45名							理学療法専攻	45名					180名
		作業療法専攻	40名							作業療法専攻	40名					160名
		言語聴覚療法専攻	30名							言語聴覚療法専攻	30名					120名
		視覚機能療法専攻	30名							視覚機能療法専攻	30名					120名
		学部計	145名							学部計	145名					580名
	学部計	405名							学部計	405名					1,620名	
未来工学部	データサイエンス学科	100名						未来工学部	データサイエンス学科	100名					400名	
	学部計	100名							学部計	100名					400名	
健康科学部	看護学科	80名							看護学科	80名					320名	
	医療検査学科	80名							医療検査学科	80名					320名	
	学部計	160名							学部計	160名					640名	
計		1,928名						計		1,768名					8,052名	

<略>

附則

- 1 この学則は、昭和 54 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 43 条（学費）並びに第 47 条第 2 項については、昭和 54 年度入学者から適用する。

<略>

附則（北学総第 2019-01219 号、北学総第 2019-03539 号、北学総第 2019-07123 号、北学総第 2019-07444 号、北学総第 2019-13334 号）

- 1 この学則は、2020 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、2020 年度から 2021 年度までの医学部の入学定員を 118 名とする。また、2022 年度から 2023 年度までの医学部の入学定員を 109 名とする。
- 3 第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部及び看護学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
医学部	医学科	713名	712名	702名	692名	683名	674名	666名	658名	659名	660名
看護学部	看護学科	505名	500名	495名	500名						

- 4 第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2 及び別表 3 について、獣医学部動物資源科学科にあっては 2020 年度入学者から、医学部にあっては 2020 年度入学者及び在学者から、理学部及び医療衛生学部にあつては 2020 年度入学者及び一部在学者から適用する。

<略>

附則（北学総第 2021-03403 号、北学総第 2021-04597 号、北学総第 2021-06352 号、北学総第 2021-10214 号、北学総第 2021-11472 号）

- 1 この学則は、2022 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、2022 年度の医学部の入学定員を 120 名とする。また、2023 年度の医学部の入学定員を 109 名とする。
- 3 第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
医学部	医学科	713名	703名	694名	685名	677名	669名	659名	660名

<略>

附則（北学総第 2022-05067 号、北学総第 2022-15518 号）

- 1 この学則は、2023 年 4 月 1 日から施行する。

<略>

附則

- 1 この学則は、昭和 54 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 43 条（学費）並びに第 47 条第 2 項については、昭和 54 年度入学者から適用する。

<略>

附則（北学総第 2019-01219 号、北学総第 2019-03539 号、北学総第 2019-07123 号、北学総第 2019-07444 号、北学総第 2019-13334 号）

- 1 この学則は、2020 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、2020 年度から 2021 年度までの医学部の入学定員を 118 名とする。また、2022 年度から 2023 年度までの医学部の入学定員を 109 名とする。
- 3 第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部及び看護学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
医学部	医学科	713名	712名	702名	692名	683名	674名	666名	658名	659名	660名
看護学部	看護学科	505名	500名	495名	500名						

- 4 第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2 及び別表 3 について、獣医学部動物資源科学科にあっては 2020 年度入学者から、医学部にあっては 2020 年度入学者及び在学者から、理学部及び医療衛生学部にあつては 2020 年度入学者及び一部在学者から適用する。

<略>

附則（北学総第 2021-03403 号、北学総第 2021-04597 号、北学総第 2021-06352 号、北学総第 2021-10214 号、北学総第 2021-11472 号）

- 1 この学則は、2022 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、2022 年度の医学部の入学定員を 120 名とする。また、2023 年度の医学部の入学定員を 109 名とする。
- 3 第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
医学部	医学科	713名	703名	694名	685名	677名	669名	659名	660名

<略>

附則（北学総第 2022-05067 号、北学総第 2022-15518 号）

- 1 この学則は、2023 年 4 月 1 日から施行する。

2 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、2023年度の医学部の入学定員を125名とする。

3 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部及び未来工学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
医学部	医学科	719名	710名	701名	693名	685名	675名	660名
未来工学部	データサイエンス学科	100名	200名	300名	400名			

<略>

附則（北学総第2023-****号）

1 この学則は、2024年4月1日から施行する。

2 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、2024年度の医学部の入学定員を126名とする。

3 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる**医学部**、健康科学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
医学部	医学科	726名	717名	709名	701名	691名	676名	660名
健康科学部	看護学科	80名	160名	240名	320名			
	医療検査学科	80名	160名	240名	320名			

2 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、2023年度の医学部の入学定員を125名とする。

3 第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部及び未来工学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
医学部	医学科	719名	710名	701名	693名	685名	675名	660名
未来工学部	データサイエンス学科	100名	200名	300名	400名			

<略>

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目次

ア	学則変更（収容定員変更）の内容.....	2
イ	学則変更（収容定員変更）の必要性.....	2
	（ア）収容定員変更の背景.....	2
	（イ）収容定員変更の必要性.....	3
ウ	学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容.....	3
	（ア）教育課程の変更内容.....	3
	（イ）教育方法及び履修指導方法.....	3
	1）教育方法.....	3
	2）履修指導方法.....	6
	（ウ）教員組織の変更.....	6
	（エ）施設・設備の変更内容.....	7
(添付資料)		
	・教育課程等の概要.....	8
	・令和6年度入学定員増員計画（写）.....	13

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

北里大学学則第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定（医学部入学定員 110名）にかかわらず、2024（令和6）年度の医学部の入学定員を 126 名とする。

○収容定員の学年進行

年度	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
収容定員	726	717	709	701	691	676	660

○収容定員の年度・学年別内訳

年度	恒久定員	地域枠	入学定員	1年	2年	3年	4年	5年	6年	収容定員
2019	110	9	119	119	119	119	119	119	119	714
2020	109	9	118	118	119	119	119	119	119	713
2021	109	9	118	118	118	119	119	119	119	712
2022	109	11	120	120	118	118	119	119	119	713
2023	109	16	125	125	120	118	118	119	119	719
2024	110	16	126	126	125	120	118	118	119	726
2025	110	0	110	110	126	125	120	118	118	717
2026	110	0	110	110	110	126	125	120	118	709
2027	110	0	110	110	110	110	126	125	120	701
2028	110	0	110	110	110	110	110	126	125	691
2029	110	0	110	110	110	110	110	110	126	676
2030	110	0	110	110	110	110	110	110	110	660

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

(7) 収容定員変更の背景

学校法人北里研究所 北里大学（以下、「本学」という。）は、世界的な細菌学者であり、我が国の近代医学と衛生行政の発展に多大な貢献を果たした北里柴三郎を学祖と仰ぎ、1962（昭和 37）年に北里研究所創立 50 周年を記念して創設された。北里柴三郎の業績は、「科学者としての真の学問追求」、「社会事業家としての国創」、「教育者としての人材育成」に集約される。北里は常々、「事を処してパイオニアたれ。人に交わって恩を思え。そして叡智をもって実学の人として、不撓不屈の精神を貫け。」と門下生に説いており、本学は、北里柴三郎が成した学統を受け継ぎ、顕現した「開拓」「報恩」「叡智と実践」「不撓不屈」を建学の精神としている。本学は、北里柴三郎の精神に則り、生命科学及び医療科学分野における学術研究と人材育成を通して、広く社会の発展のために寄与することを目的としており、「いのちを尊（たつと）び、生命の真理を探究し、実学の精神をもって社会に貢献する。」を法人・大学の理念とし、現在、創立 60 年を迎え 8 学部 16 学科（大学院 6 研究科 1 学府）と同一法人内に 2 併設校を設置している。

医学部は、1970（昭和 45）年に設置され、「人間性豊かで優れた医師の養成」、「学際領域を含む医学研究の推進」、「国際貢献の推進と地域医療への協力」、「予防医学の推進」からなる 4 つの基本理念を北里医学スピリットとし、地域の人々や多くのステークホルダーの理解と支援を受けながら今日に至る。医学部設置時、医局制・講座制を廃止し、6 年間一貫教育、研究単位を超えて横断的に医学を学ぶことができる器官系別総合教育、ベッドサイド教育の重視などを特徴とした。現在もこの教育体制を維持しつつ、更に人間性豊

かで優れた医師を養成するために、1年次の医学原論演習での牧場実習や農村実習、大学病院での体験当直実習、2年次の介護施設、保育施設などの命を支える現場での早期体験学習、2～4年次の問題解決能力やコミュニケーション能力を養うテュートリアル教育、行動科学・医療面接、5～6年次の医療系全学部学生とのチーム医療教育プログラムや海外選択実習などの独自の取り組みを続けてきた。

(イ) 収容定員変更の必要性

地域の医師確保等に早急に対応するために設定している地域枠16名について、2023(令和5)年度で認可期限が満了となったが、文部科学省高等教育局医学教育課から、2024(令和6)年度に限り16名(山梨県2名、茨城県4名、神奈川県5名、埼玉県2名、新潟県3名)として、学則変更の手続きを進めることを認める旨の通知があった。

このことに基づき、医師不足解消に貢献することを目的とし、医学部の収容定員変更に係る学則変更を行う。

ウ 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容

(7) 教育課程の変更内容

収容定員変更に伴う教育課程の変更は行わない。

(イ) 教育方法及び履修指導方法

1) 教育方法

①授業形式

本学の教育課程は、大きく「1群科目(一般教育科目)」「2群科目(基礎的知識・技術を形成する科目群)」「3群科目(高度の専門的知識・技術を形成する科目群)」と「教職科目に関する科目群」の4つの区分で構成し、それぞれ講義科目、演習科目、実習科目によって実施される。

②講義、演習、実験・実習の考え方

講義科目は、座学にて理論の修得を目指すことを基本とするが、授業の性質によりアクティブ・ラーニング手法を積極的に用い、効果的な授業を展開する。

演習科目は、座学だけでは習得できない知識や技術を定着させることを目的として、学生・教員又は学生同士が双方向にコミュニケーションをとりながら「教え教わる」環境を醸成し、学習効果を高める。

実験・実習科目は、学内外において自らの体験と行動を通して、学習の結果をより確実に定着させることを目的としている。

③配当年次等

医学部では、人間性豊かで優れた医師として、生涯を通じて医学的知識・技能・真理を探究し、地域や国際社会に貢献することができるよう、高い倫理観とコミュニケーション能力、自らの学びを振り返り能動的に学習をする力など、卒業時までに必要な能力（ディプロマ・ポリシーに掲げたコンピテンシー）を段階的に習得できる一貫教育のカリキュラムとしている。

各段階のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに掲げたコンピテンシーを踏まえ、知識・技能・態度の様々な面から、段階ごとに達成されるべきレベルに合わせて編成している。

(1) 教養教育と初年次からのチーム医療教育とプロフェッショナリズム教育

自然科学のみならず、社会科学や人文科学についての幅広い知識や教養を身に付けるため、人間形成の基礎科目を配するとともに、生命科学の総合大学としての特徴を活かし、薬学部、医療衛生学部、看護学部等の他学部の学生とともに受講する「チーム医療論」を開講している。

医学原論では、人間の尊厳、医療者の責務など、医学生が将来直面する可能性の高い事柄について思考を深め、倫理観やプロフェッショナリズムを涵養する。また、医学原論演習として、獣医学部附属フィールドサイエンスセンター八雲牧場（資源循環型畜産）や学祖北里柴三郎博士の故郷熊本県阿蘇郡小国町における実習を通じ、いのちに対する真摯な姿勢を養う。

さらに、早期体験学習として、大学病院体験当直や一次救命処置など、医療者としての視点に立って感じ、考え、身に付けるべき技術を学ぶ機会を1年次から設けている他、2年次には医療・福祉・介護施設、法律事務所、消防署などで体験実習を行い、生命・健康・人権を守る様々な専門職と、その専門職が関わる当事者との触れ合いを通じた学びは、ポートフォリオ作成や指導者からのフィードバックにより、自らの学びを振り返る習慣づけに結びつくように工夫している。

(2) 基礎医学から臨床医学へ

医学的知識と技術の修得は1年次から開始される。基礎医学では、科目相互に関連を持ちながら、段階的に知識を習得する“らせん型カリキュラム”として編成している。

1年次から2年次にかけて人体の正常の構造と機能を学ぶ科目が配置され、2年次後半からは開学時から導入している器官系別総合教育が開講され、基礎医学と臨床医学との縦断的統合カリキュラムが組まれている。

2年次から4年次前期までは、器官ごとに教育単位を超えて横断的に臨床医学を学ぶ科目が配置され、疾患を基礎的な概念から疫学・症候・診断・治療まで統合的に学ぶことを目標としている。また、北里大学ならではの特徴ある科目として東洋医学を理論から診察法までを系統的に学ぶ機会を設けている。

3年次から臨床実習開始前の期間には、実習に必要とされる基本的な診療手技を週ごとに学ぶ機会を設けており、臨床実習に向けた準備を進めるカリキュラム編成としている。

(3) 学年の壁を越えて段階的に学ぶ科目の設定

基礎医学・臨床医学はもちろん、社会医学においても学年を跨いで科目を設置し、科目相互に連携をとる構成としている。例えば、1年次・3年次で医療安全・管理学が開講される。予防医学に関しては、2年次の微生物学、免疫学から、3年次の感染症・免疫学、4年次の予防医学系と、段階的に開講される他、臨床実習（4年～6年次）として衛生・公衆衛生実習においては、地域保健所との連携、産業医実習など広い視野で学んでいく。

また、診療の基礎となる医療面接については、1年次の早期体験学習でのコミュニケーション、2～4年次の行動科学・医療面接、2年次での臨床実習入門と、一般的なコミュニケーション論から臨床実地に至るまで、他の科目の知識と連動して段階的に学ぶことで、より効果的にコミュニケーション能力を習得できるカリキュラムとなっている。

1年次の医学原論、早期体験学習及び3年次の内科学総論では、ライフイベントを意識したキャリアデザインを考える機会を設けている。

医療のグローバル化に対応し、国際貢献できるよう、1年次から3年次までのネイティブスピーカーを含む実践的な医学英語教育により、英語での基本的な診療や文献読解の力を養っていく。

(4) 課題発見・解決法を習得し、研究マインドを涵養する

“課題発見・問題解決”の学習法を学び、生涯自律した学習者・能動的な学習者になる姿勢を養うために、1年、3年次にテュートリアル教育を配置している。また、2年次の医学研究入門では、論文の構成、文献検索の基本、研究立案の過程、研究倫理等を学び、3年次の研究室配属（基礎・臨床・社会医学）により2年次の学びを実践につなげ、研究マインドを涵養している。

(5) 診療参加型臨床実習と自主性をはぐくむ選択実習

学校法人内3病院及び地域医療機関における診療参加型臨床実習では、地域医療を含むプライマリケアから高度な専門医療まで学ぶ機会がある。

5年次には北里大学の医療系学部合同で実施する「オール北里チーム医療演習」をはじめ、臨床実習の現場においてチーム医療の実際を学んでいく。6年次の選択実習では、学内外の他、欧米の大学と提携し、海外選択実習として最大15週間実習を行う機会を設けている。

(6) 学習方法と評価

Moodleなどの教育支援システムの活用や、ロールプレイ、グループワークなど、能動的な学習方法を随所に取り入れ、主体的な学びを促すとともに、自身の振り返り、

指導者からのフィードバックなどを通じて成長できるようになっている。

学習中に適宜形成的評価を行うとともに、科目の終了時には到達目標に適した評価方法（論述試験、客観式試験、レポート、実技試験、観察記録、ルーブリックを明示したポートフォリオなど）を用いて総括的評価を行い、進級及び卒業の認定に反映している。

2) 履修指導方法

①指導体制

学年ごとに学年主任及びクラス担任を配置することで、学生に対して履修指導や学修支援、進学・就職に関するキャリアアドバイスをを行う。学年主任及びクラス担任は、専任教員のなかから学年の特性を考慮した上で、教授会において選定する。また、学部事務室には専属の職員を配置し、大学生生活全般に関する相談にも対応できるよう、教職員が一体となって学生を支援できるよう体制を整備する。

②シラバス

シラバスには授業の目的、教育内容、授業方法、講義の内容、到達目標、評価基準、準備学習、関連科目、参考文献の各情報を明記する。学生に対しては、年度ごとに冊子の配布もしくは Web サイトにおいて常時閲覧ができるよう整備するとともに、学部事務室に学修要項を常備し、いつでも学生が確認・相談ができるよう、環境を整える。

また、シラバスをはじめとする授業に関する質問・相談などについて、教員と自由に懇談することを目的に、オフィスアワー制度も導入する。

③オリエンテーション、ガイダンスの実施

学年進行に合わせて、各年度の開始時にガイダンスを実施し、学生生活をはじめ履修等に関する指導を行う。特に、1年次については、単位選択及び履修登録に慣れていない学生が多いため、オリエンテーション期間を設け、大学生生活全般における諸注意点なども含めて、説明・レクチャーを行い支援する。

学生の進路、履修等、個人的相談にはクラス担任、学年主任及び全学年の学生が横断的に所属する少人数制の一般懇和会が中心となって対応する。また、第1学年から第4学年の学業不振者及び留年者を対象とした、特定懇和会は、学習方法等に特化した相談及び指導による対応を行っている。

(ウ) 教員組織の変更

収容定員変更に伴う教員組織の変更は計画していない。授業を担当する教員数は469人（うち、教授71人）で構成され、収容定員数における教員1人当たりの学生数（ST比）については約1.55人となり、教育の質は十分担保できる。

(I) 施設・設備の変更内容

収容定員変更に伴う施設・設備の変更は行わない。過去10年間の各学年の在学者数は下表のとおりである。留年生を含む平均在籍者数は、全学年を通し120名前後で、最大在籍者数は、2021（令和3）年度の第6学年の137名であった。これらの実績から、収容定員変更後も、授業・実習については、現状の施設・設備で十分対応できる。

各学年の在籍者数（単位：名 当該年度5月1日現在）

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
H26	126	133	113	112	120	129
H27	123	136	120	115	109	125
H28	123	126	126	125	115	112
H29	124	125	120	135	118	123
H30	125	123	124	122	126	130
R1	129	124	115	131	119	129
R2	125	127	122	117	124	128
R3	121	128	118	128	115	137
R4	130	116	118	123	123	128
R5	131	127	117	118	119	130
平均	125.7	126.5	119.3	122.6	118.8	127.1

以上

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学部医学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
文化の領域	哲学の楽しみA	1前		2		○								兼1	
	哲学の楽しみB	1後		2		○								兼1	
	科学を考えるA	1前		2		○								兼1	
	科学を考えるB	1後		2		○								兼1	
	芸術の楽しみA	1前		2		○								兼2	複数クラス
	芸術の楽しみB	1後		2		○								兼2	複数クラス
	倫理学A	1前		2		○								兼3	複数クラス
	倫理学B	1後		2		○								兼1	
	文学の楽しみA	1前		2		○								兼1	
	文学の楽しみB	1後		2		○								兼1	
人間形成の基礎科目	信仰と救いA	1前		2		○								兼1	
	信仰と救いB	1後		2		○								兼1	
	日本国憲法A	1前		2		○								兼1	
	日本国憲法B	1後		2		○								兼2	複数クラス
	法律の役割A	1前		2		○								兼1	
	法律の役割B	1後		2		○								兼1	
	経済のしくみA	1前		2		○								兼1	
	経済のしくみB	1後		2		○								兼1	
	個人と社会A	1前		2		○									未開講
	個人と社会B	1後		2		○									未開講
社会の領域	政治のしくみA	1前		2		○									未開講
	政治のしくみB	1後		2		○								兼1	
	文化人類学A	1前		2		○								兼1	
	文化人類学B	1後		2		○									未開講
	日本と国際社会A	1前		2		○									未開講
	日本と国際社会B	1後		2		○									未開講
	環境を考えるA	1前		2		○									未開講
	環境を考えるB	1後		2		○									未開講
	歴史と人間A	1前		2		○									未開講
	歴史と人間B	1後		2		○									未開講
健康の領域	心理学A	1前		2		○								兼2	複数クラス
	心理学B	1後		2		○								兼3	複数クラス
	健康の科学A	1前		2		○								兼1	
	健康の科学B	1後		2		○								兼1	
総合領域科目	健康の科学C	1前・後		2		○								兼10	複数クラス・オムニバス
	健康とスポーツ演習	1通	2				○							兼3	複数クラス
総合領域科目	北里の世界	1前・後		1		○								兼5	オムニバス
	仕事と人生	1前		1		○								兼8	オムニバス
	農医連携論	1後		1		○			1	1				兼7	オムニバス
基礎教育科目	英語A I	1前	1				○							兼2	複数クラス
	英語A II	1後	1				○							兼2	複数クラス
	英語B I	1前	1				○							兼2	複数クラス
	英語B II	1後	1				○							兼2	複数クラス

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
1群科目	情報系・数理系	数学	1前	4			○								兼2	複数クラス
		統計学A	1通	4			○								兼1	複数クラス
	自然科学系	物理学	1前	3			○								兼1	
		物理学実験	1後	1								○			兼6	
		化学	1前	3			○								兼1	
		化学実験	1前	1								○			兼7	
		生物学	1前	3			○								兼1	
		生物学実験	1前	1								○			兼14	
	教養演習系科目	教養演習A	1通			2		○								未開講
		教養演習B	1前			1		○							兼3	複数クラス
		教養演習C	1後			1		○							兼1	
		大学基礎演習	1前・後			1		○							兼5	複数クラス
		言語と文化A	1通	2				○							兼5	複数クラス
	小計(56科目)	—	28	73	5		—		1	1				兼79		
2群科目	医学原論・医学原論演習	1通	3			○			2	1	2			兼13	複数クラス・オムニバス	
	生化学序説	1前	1			○			1		1				オムニバス	
	細胞生物学	1前	2			○			5	1	1			兼1	オムニバス	
	タンパク質化学	1後	1			○			2	1	2				オムニバス	
	放射線健康リスク科学	3前	1			○			2						オムニバス	
	医学英語Ⅰ	2前・後	2			○								兼4	複数クラス・オムニバス	
	医学英語Ⅱ	3通	2			○			3		1			兼5	複数クラス・オムニバス	
	小計(7科目)	—	12			—		12	2	7				兼21		
3群科目	組織学	2前	2			○			1	1	1			兼1	オムニバス	
	組織学実習	2前	1					○	1	1	2				オムニバス	
	解剖・発生学Ⅰ	1後	2			○			2	2	2				オムニバス	
	解剖・発生学Ⅱ	1後	1			○			1	1					オムニバス	
	解剖・発生学Ⅲ	2前	1			○			1	2	2				オムニバス	
	解剖学実習	2前	4					○	1	2	2			兼1	オムニバス	
	神経解剖学・実習	2前	1					○	1	1	2				オムニバス	
	生理学	2前	5			○			2	1	1	1		兼2	オムニバス	
	生理学実習	2後	1					○	2	1	1	1		兼2	オムニバス	
	代謝学	1後	2			○			1		2				オムニバス	
	医化学・栄養学	2前	2			○			1	1	1				オムニバス	
	分子医化学実習	1後	1					○	4	1	8				オムニバス	
	微生物学総論・実習	2後	1					○	1			1		兼3	オムニバス	
	寄生虫学・熱帯医学	2後	1			○			1	1				兼1	オムニバス	
	病理学総論	2後	1			○			3		1			兼2	オムニバス	
	病理学総論実習	2後	1					○	3		4	5		兼2	オムニバス	
	薬理学総論	2前	2			○			1	1	2	1		兼2	オムニバス	
	薬理学実習	2後	1					○	1	1	2	1		兼3	オムニバス	
	臨床遺伝学	2後	1			○			1		4			兼6	オムニバス	
	遺伝子学	1後	2			○			1		4				オムニバス	
	免疫学総論・実習	2後	1					○	2		2	1		兼3	オムニバス	
実験動物学・実習	1後	1					○	1	1		1			オムニバス		
統合基礎医学	2後	1			○			14		3	1			オムニバス		
神経系	2後	2			○			2	1	3			兼4	オムニバス		
循環器系	2後	2			○			7	3	3	3		兼1	オムニバス		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
3 群 科 目	呼吸器系	2後	2			○			5		5			兼6	オムニバス
	消化器系	3前	2			○			4	3	4	3		兼3	オムニバス
	血液造血器系	3前	1			○			3	1	1	4			オムニバス
	内分泌・代謝系	3前	1			○			3	2	3				オムニバス
	生殖機能妊娠分娩系	2後	1			○			2	1	1	5		兼4	オムニバス
	運動器系	3前	1			○			2	2	2	1		兼1	オムニバス
	腎尿路系	3前	1			○			1	2	4	3		兼1	オムニバス
	基礎腫瘍系	3前	1			○			4		2			兼1	オムニバス
	臨床腫瘍系	3後	1			○			6		2			兼4	オムニバス
	老年医学	4前	1			○			1					兼5	オムニバス
	感染症・免疫系診断・治療学	3前	2			○			3	2	5	2		兼1	オムニバス
	神経系診断・治療学	3後	3			○			2	3	6	3			オムニバス
	循環器系診断・治療学	3前	4			○			5	4	5	7		兼1	オムニバス
	呼吸器系診断・治療学	3前	2			○			4		2	1		兼7	オムニバス
	消化器系診断・治療学	3後	4			○			6	5	7	9		兼5	オムニバス
	血液造血器系診断・治療学	3後	1			○			2		1	6			オムニバス
	内分泌・代謝系診断・治療学	3後	2			○			2		2	5		兼6	オムニバス
	生殖機能妊娠分娩系診断・治療学	4前	3			○			3		2	7		兼4	オムニバス
	成長発達系診断・治療学	3後	3			○			2	2	1	11		兼5	オムニバス
	運動器系診断・治療学	3後	1			○			2	2	5	1		兼1	オムニバス
	腎尿路系診断・治療学	3後	1			○			3	2	4	2		兼2	オムニバス
	画像・臨床検査診断学	4前	1			○			5	1	4				オムニバス
	精神系診断・治療学	3後	2			○			1	1	3	3		兼6	オムニバス
	皮膚系診断・治療学	3後	1			○			1		4	3			オムニバス
	視覚系診断・治療学	4前	1			○			1	2	4	2		兼4	オムニバス
	耳鼻咽喉・頭頸部系診断・治療学	4前	1			○			2	1	3	2		兼2	オムニバス
	救急侵襲医療系診断・治療学	4前	2			○			5	2	6	6		兼1	オムニバス
	予防医学系	4前	3			○			2		5	2		兼5	オムニバス
	衛生・公衆衛生実習	5通	1					○	2		5	1		兼7	複数クラス・オムニバス
	公衆衛生実習（選択実習）	5後・6前		3				○	2		4			兼1	複数クラス・オムニバス
	法医学系	4前	2				○		1		2	1		兼5	オムニバス
	法医学実習（選択実習）	5後・6前		3				○	1		2	1			複数クラス・オムニバス
	医療安全・管理学	1前・3前	1				○		1			1		兼6	オムニバス
	内科学総論（臨床実習入門含）	3・4前	8				○		4	1	5	3		兼5	オムニバス
	消化器内科実習	4後・5通	2					○	1	2	5	12			複数クラス・オムニバス
	内分泌・代謝内科実習	4後・5通	2					○	1		2	4			複数クラス・オムニバス
	循環器内科実習	4後・5通	2					○	1	1	4	15			複数クラス・オムニバス
	脳神経内科実習	4後・5通	2					○	1	2	2	8			複数クラス・オムニバス
	血液内科実習	4後・5通	2					○	1		1	5			複数クラス・オムニバス
	腎臓内科実習	4後・5通	2					○	2	1	5	3			複数クラス・オムニバス
	呼吸器内科実習	4後・5通	2					○	2		2	7		兼4	複数クラス・オムニバス
	膠原病・感染内科実習	4後・5通	2					○	1	1	2	3			複数クラス・オムニバス
消化器内科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	1	2	5	12			複数クラス・オムニバス	
内分泌・代謝内科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	1		2	4			複数クラス・オムニバス	
循環器内科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	1	1	4	15			複数クラス・オムニバス	
脳神経内科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	1	2	2	8			複数クラス・オムニバス	
血液内科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	1		1	6			複数クラス・オムニバス	
腎臓内科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	2	1	4	5		兼2	複数クラス・オムニバス	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
3 群 科 目	呼吸器内科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	3		2	4		兼4	複数クラス・オムニバス
	膠原病・感染内科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	1	1	2	2			複数クラス・オムニバス
	外科学総論	3後	1			○			6	2	1	1		兼1	オムニバス
	外科実習	4後・5通	4					○	7	3	4	11			複数クラス・オムニバス
	外科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	7	3	4	11			複数クラス・オムニバス
	小児科実習	4後・5通	3					○	2	2	1	15			複数クラス・オムニバス
	小児科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	2	2	1	15			複数クラス・オムニバス
	産婦人科実習	4後・5通	3					○	2		1	15			複数クラス・オムニバス
	産婦人科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	2			14			複数クラス・オムニバス
	臨床検査診断学実習	5通	1					○	2		2	2			複数クラス・オムニバス
	臨床検査診断学実習（選択実習）	5後・6前		3				○	1		2	2			複数クラス・オムニバス
	形成外科・美容外科実習	5通	1					○	1	1	3	6			複数クラス・オムニバス
	形成外科・美容外科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	1	1	3	6			複数クラス・オムニバス
	救命救急医学実習	5通	1					○	1	1	1	12			複数クラス・オムニバス
	救命救急医学実習（選択実習）	5後・6前		3				○	1	1	1	12			複数クラス・オムニバス
	心臓血管外科実習	5通	1					○	2	1	2	3			複数クラス・オムニバス
	心臓血管外科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	2	1	2	3			複数クラス・オムニバス
	呼吸器外科実習	5通	1					○	2		2	2			複数クラス・オムニバス
	呼吸器外科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	2		2	4			複数クラス・オムニバス
	脳神経外科実習	5通	1					○	1	1	3	3			複数クラス・オムニバス
	脳神経外科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	1	1	3	3			複数クラス・オムニバス
	放射線科実習	5通	1					○	3	1	3	1			複数クラス・オムニバス
	画像診断学実習（選択実習）	5後・6前		3				○	2	1	2	1			複数クラス・オムニバス
	放射線腫瘍学実習（選択実習）	5後・6前		3				○	1		1				複数クラス・オムニバス
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科実習	5通	1					○	2	1	5	11			複数クラス・オムニバス
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	2	1	4	9			複数クラス・オムニバス
	眼科実習	5通	1					○	1	1	2	7		兼2	複数クラス・オムニバス
	眼科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	1	1	2	8		兼2	複数クラス・オムニバス
	整形外科実習	5通	1					○	2	2	8	10			複数クラス・オムニバス
	整形外科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	2	2	8	8			複数クラス・オムニバス
	泌尿器科実習	5通	1					○		1	4	5		兼1	複数クラス・オムニバス
	泌尿器科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	1	2	4	4		兼1	複数クラス・オムニバス
	皮膚科実習	5通	1					○	1		4				複数クラス・オムニバス
	皮膚科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	1		4				複数クラス・オムニバス
	精神科実習	4後・5通	3					○	1		3	6		兼1	複数クラス・オムニバス
	精神科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	1		4	7		兼1	複数クラス・オムニバス
	麻酔科実習	5通	1					○	4		3	13			複数クラス・オムニバス
	麻酔科実習（選択実習）	5後・6前		3				○	4		3	13			複数クラス・オムニバス
	病理学臨床実習	5通	1					○	3		4	6		兼1	複数クラス・オムニバス
	病理実習（選択実習）	5後・6前		3				○	3		4	6		兼1	複数クラス・オムニバス
総合診療医学実習	4後・5通	3					○	1		1	6			複数クラス・オムニバス	
総合診療医学実習（選択実習）	5後・6前		3				○	1		1	5			複数クラス・オムニバス	
東洋医学実習（選択実習）	5後・6前		3				○			1			兼13	複数クラス・オムニバス	
臨床解剖学実習（選択実習）	6前		3				○		1					複数クラス	
学外実習Ⅰ（選択実習）	5後・6前		3				○	1						複数クラス・オムニバス	
学外実習Ⅱ（選択実習）	5後・6前		3				○	1						複数クラス・オムニバス	
学外実習Ⅲ（選択実習）	5後・6前		3				○	1						複数クラス・オムニバス	
学外実習Ⅳ（選択実習）	5後・6前		3				○	1						複数クラス・オムニバス	
学外実習Ⅴ（選択実習）	5後・6前		3				○	1						複数クラス・オムニバス	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
3群科目	学外実習Ⅵ（選択実習）	5後・6前		3				○	1						兼24 複数クラス・オムニバス 複数クラス・オムニバス オムニバス 複数クラス・オムニバス 複数クラス・オムニバス オムニバス 複数クラス・オムニバス 複数クラス・オムニバス 複数クラス・オムニバス 複数クラス・オムニバス オムニバス
	臨床実習（KMC・北研病院）（選択実習）	5後・6前		3				○	18	4	5	22			
	総合講義	6通	13			○			2						
	チュートリアル教育Ⅰ	1後	1			○			4	3	10	11			
	チュートリアル教育Ⅱ	3後	1			○			4	1	9	15			
	医学研究入門Ⅰ	2後	1			○			4	2	2				
	医学研究入門Ⅱ	3後	1			○			19	8	20	14	兼2		
	早期体験学習Ⅰ	1通	1			○			1	1	1	1	兼3		
	早期体験学習Ⅱ	2後	4			○			1	1	1		兼3		
	行動科学・医療面接	2後・3後・4前	1			○			2		2		兼5		
	医用情報学	1後	1			○			1				兼3		
	チーム医療論	1後	1			○			3	1	1		兼11		
	小計（134科目）	—	173	117				—	71	36	119	243		兼163	
合計（196科目）		—	213	190	5		—	71	36	119	243		兼263		
学位又は称号		学士（医学）		学位又は学科の分野			医学関係								
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等								
○卒業要件 本学部に6年以上在学し、所定の単位を修得し、総合試験、共用試験医学系臨床実習後OSCEに合格した者は卒業とし、学士（医学）の学位を授与する。（合計234単位） ○履修方法 1. 第1学年は、人間形成の基礎科目を除く当該学年の開講科目の全てに合格し、人間形成の基礎科目から4科目8単位以上修得する。 2. 第2学年及び第3学年は、配当科目の全てに合格する。 3. 第4学年は、当該学年の臨床実習科目を除く配当科目の全てに合格し、共用試験医学系CBT及び共用試験医学系臨床実習前OSCEに合格し、臨床実習科目の不合格科目が3科目以下であること。なお、臨床実習科目の不合格科目を有して進級した場合は、第5学年で当該科目を再履修しなければならない。 4. 第5学年は、配当科目及び前号に定める第4学年の再履修科目のうち、不合格科目が1科目以下であり、かつ総合試験に合格する。なお、臨床実習科目の不合格科目を有して進級した場合は、第6学年で当該科目を再履修しなければならない。 5. 第6学年は、当該学年の開講科目（必修科目及び選択必修科目6科目）を修得する他、共用試験医学系臨床実習後OSCE及び総合試験に合格する。なお、第5学年次の不合格科目を有する者については、当該科目を再履修、合格する。							1 学年の学期区分			2 学期					
							1 学期の授業期間			前期：1～19週 後期：22～50週					
							1 時限の授業時間			1群科目：90分 2・3群科目：80分					

（注）

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨床実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

令和6年度
医学部入学定員増員計画

令和5年8月21日

文部科学省高等教育局長 殿

学校法人北里研究所 理事長 小林 弘 祐

「地域の医師確保等の観点からの令和6年度医学部入学定員の増加について（令和5年8月8日文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

<連絡先>

責任者連絡先	職名・氏名	医学部事務室 教務課 安藤圭介
	TEL	042-778-7926
	FAX	042-778-9262
	E-mail	kske@kitasato-u.ac.jp

大学名	国公立
北里大学	私立

1. 現在（令和5年度）の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
125			719

↑
(収容定員計算用)

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
(ア) 入学定員	119	119	118	118	120	125	719
(イ) 2年次編入学定員							
(ウ) 3年次編入学定員							
計	119	119	118	118	120	125	719

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和6年度の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
110			660

↑
(収容定員計算用)

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	計
(ア) 入学定員	110	110	110	110	110	110	660
(イ) 2年次編入学定員							
(ウ) 3年次編入学定員							
計	110	110	110	110	110	110	660
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

3. 令和6年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
126			676

↑
(収容定員計算用)

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	計
(ア) 入学定員	126	110	110	110	110	110	676
(イ) 2年次編入学定員							
(ウ) 3年次編入学定員							
計	126	110	110	110	110	110	676
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

増員希望人数 **16**

↑
(内訳)

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増（地域枠）	16
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増（研究医枠）	
計	16

1. 地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数 **16**

(1) 対象都道府県名及び増員希望人数

都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県	神奈川県 5
	茨城県 4
	山梨県 2
大学所在地以外の都道府県	埼玉県 2
	新潟県 3
計	16

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	R4地域枠定員 (※1)	R4貸与者数 (※2)	R5地域枠 定員 (※1)	R5貸与者数 (※2)	R4とR5の貸与 者数のうち多い 方の数
神奈川県	5	5	5	5	5
茨城県	4	4	4	4	4
山梨県	2	2	2	2	2
埼玉県	0	0	2	2	2
新潟県	0	0	3	3	3
計	11	11	16	16	16

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(3) 令和6年度地域の医師確保のための入学定員増について

1. 大学が講ずる措置

1-1. 地域枠学生の選抜

①令和4年度に実施した地域枠学生(令和5年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	診療科の限定の有無	(診療科の限定(推奨)がある場合)その診療科名	開始年度	備考
			うち臨時定員分							
学校推薦型選抜試験(地域枠指定校)	(i) 学校推薦型選抜	別枠(先行型)	5	5	・基礎学力検査 ・論文 ・面接 ・調査書 ・推薦状 ・入学志願者面接票 により入学志願者の能力・適性等を総合して判定します。	本学部が過去の実績等に基づく「選定基準」に従って本年度指定する全日制の高等学校若しくは中等教育学校の在籍学生で、学校長が次のすべてに該当する人物として責任をもって推薦する者 (1)2022年4月1日から2023年3月31日までに卒業した者及び卒業見込みの者 (2)医学・医療分野に対する深い関心と、自己研鑽を積む意欲を有する者 (3)品行方正、情操豊かな者 (4)出願する各地域枠の趣旨を十分理解し、その趣旨に基づく地域医療に貢献することができる者 (5)成績優秀にして大学専門教育に適する者(全体の評定平均値が4.0以上) (6)神奈川県内の高等学校または中等教育学校を卒業(見込みを含む)した者または大学に入学した時点において神奈川県内に1年以上居住したことがある者	有	産科、小児科、麻酔科、外科、内科、救急科及び総合診療科	R1	神奈川県
学校推薦型選抜試験(地域枠指定校)	(i) 学校推薦型選抜	別枠(先行型)	4	4	・基礎学力検査 ・論文 ・面接 ・調査書 ・推薦状 ・入学志願者面接票 により入学志願者の能力・適性等を総合して判定します。	本学部が過去の実績等に基づく「選定基準」に従って本年度指定する全日制の高等学校若しくは中等教育学校の在籍学生で、学校長が次のすべてに該当する人物として責任をもって推薦する者 (1)2022年4月1日から2023年3月31日までに卒業した者及び卒業見込みの者 (2)医学・医療分野に対する深い関心と、自己研鑽を積む意欲を有する者 (3)品行方正、情操豊かな者 (4)出願する各地域枠の趣旨を十分理解し、その趣旨に基づく地域医療に貢献することができる者 (5)成績優秀にして大学専門教育に適する者(全体の評定平均値が4.0以上) (6)茨城県内の高等学校を卒業(見込みを含む)した者または茨城県内に3年(基準日は出願受付期間の最終日)以上居住する者の子	無		R1	茨城県
学校推薦型選抜試験(地域枠指定校)	(i) 学校推薦型選抜	別枠(先行型)	2	2	・基礎学力検査 ・論文 ・面接 ・調査書 ・推薦状 ・入学志願者面接票 により入学志願者の能力・適性等を総合して判定します。	本学部が過去の実績等に基づく「選定基準」に従って本年度指定する全日制の高等学校若しくは中等教育学校の在籍学生で、学校長が次のすべてに該当する人物として責任をもって推薦する者 (1)2022年4月1日から2023年3月31日までに卒業した者及び卒業見込みの者 (2)医学・医療分野に対する深い関心と、自己研鑽を積む意欲を有する者 (3)品行方正、情操豊かな者 (4)出願する各地域枠の趣旨を十分理解し、その趣旨に基づく地域医療に貢献することができる者 (5)成績優秀にして大学専門教育に適する者(全体の評定平均値が4.0以上) (6)下記の①または②の条件を満たす者 ①本学が指定した山梨県内の高等学校(中等教育学校、特別支援学校の後期課程を含む)を卒業(見込みを含む)した者。 ②保護者が山梨県内に居住している者で、本学が指定した山梨県外の高等学校(中等教育学校、特別支援学校の後期課程を含む)を卒業(見込みを含む)した者。	無		R1	山梨県

学校推薦型選抜試験（地域枠指定校）	(i) 学校推薦型選抜	別枠（先行型）	2	2	・基礎学力検査 ・論文 ・面接 ・調査書 ・推薦状 ・入学志願者面接票 により入学志願者の能力・適性等を総合して判定します。	本学部が過去の実績等に基づく「選定基準」に従って本年度指定する全日制の高等学校若しくは中等教育学校の在籍学生で、学校長が次のすべてに該当する人物として責任をもって推薦する者 (1)2022年4月1日から2023年3月31日までに卒業した者及び卒業見込みの者 (2)医学・医療分野に対する深い関心と、自己研鑽を積む意欲を有する者 (3)品行方正、情操豊かな者 (4)出願する各地域枠の趣旨を十分理解し、その趣旨に基づく地域医療に貢献することができる者。 (5)成績優秀にして大学専門教育に適する者（全体の評定平均値が4.0以上）	有	産科、小児科、救命救急センター（ただし、特定地域の公的医療機関に医師として勤務（特定地域の公的医療機関以外の埼玉県内の臨床研修病院で臨床研修を受講する場合を含む。）をしたときは診療科の指定なし）	R4	埼玉県
学校推薦型選抜試験（地域枠指定校）	(i) 学校推薦型選抜	別枠（先行型）	3	3	・基礎学力検査 ・論文 ・面接 ・調査書 ・推薦状 ・入学志願者面接票 により入学志願者の能力・適性等を総合して判定します。	本学部が過去の実績等に基づく「選定基準」に従って本年度指定する全日制の高等学校若しくは中等教育学校の在籍学生で、学校長が次のすべてに該当する人物として責任をもって推薦する者 (1)2022年4月1日から2023年3月31日までに卒業した者及び卒業見込みの者 (2)医学・医療分野に対する深い関心と、自己研鑽を積む意欲を有する者 (3)品行方正、情操豊かな者 (4)出願する各地域枠の趣旨を十分理解し、その趣旨に基づく地域医療に貢献することができる者。 (5)成績優秀にして大学専門教育に適する者（全体の評定平均値が4.0以上）	有	内科、外科、総合診療科又は小児科	R4	新潟県
合計			16	16						

(※1) 貴大学において作成した学生募集要項に記載の内容をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②令和5年度に実施する地域枠学生(令和6年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。

また、参考としてPRのために作成した文書（リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等）の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法（※1）	出願要件（※1）	診療科の限定の有無	（診療科の限定（推奨）がある場合）その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
学校推薦型選抜試験（地域枠指定校）	(i) 学校推薦型選抜	別枠（先行型）	5	5	・基礎学力検査 ・論文 ・面接 ・調査書 ・推薦状 ・入学志願者面接票 により入学志願者の能力・適性等を総合して判定します。	本学部が過去の実績等に基づく「選定基準」に従って本年度指定する全日制の高等学校若しくは中等教育学校の在籍学生で、学校長が次のすべてに該当する人物として責任をもって推薦する者 (1)2023年4月1日から2024年3月31日までに卒業した者及び卒業見込みの者 (2)医学・医療分野に対する深い関心と、自己研鑽を積む意欲を有する者 (3)品行方正、情操豊かな者 (4)出願する各地域枠の趣旨を十分理解し、その趣旨に基づく地域医療に貢献することができる者 (5)成績優秀にして大学専門教育に適する者（全体の評定平均値が4.0以上） (6)神奈川県内の高等学校または中等教育学校を卒業（見込みを含む）した者または大学に入学した時点において神奈川県内に1年以上居住したことがある者	有	産科（産婦人科）、小児科、麻酔科、外科、脳神経外科、内科、救急科及び総合診療科	R1	神奈川県
学校推薦型選抜試験（地域枠指定校）	(i) 学校推薦型選抜	別枠（先行型）	4	4	・基礎学力検査 ・論文 ・面接 ・調査書 ・推薦状 ・入学志願者面接票 により入学志願者の能力・適性等を総合して判定します。	本学部が過去の実績等に基づく「選定基準」に従って本年度指定する全日制の高等学校若しくは中等教育学校の在籍学生で、学校長が次のすべてに該当する人物として責任をもって推薦する者 (1)2023年4月1日から2024年3月31日までに卒業した者及び卒業見込みの者 (2)医学・医療分野に対する深い関心と、自己研鑽を積む意欲を有する者 (3)品行方正、情操豊かな者 (4)出願する各地域枠の趣旨を十分理解し、その趣旨に基づく地域医療に貢献することができる者 (5)成績優秀にして大学専門教育に適する者（全体の評定平均値が4.0以上） (6)茨城県内の高等学校を卒業（見込みを含む）した者または茨城県内に3年（基準日は出願受付期間の最終日）以上居住する者の子	無		R1	茨城県

学校推薦型選抜試験（地域枠指定校）	(i) 学校推薦型選抜	別枠（先行型）	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力検査 ・論文 ・面接 ・調査書 ・推薦状 ・入学志願者面接票 により入学志願者の能力・適性等を総合して判定します。	本学部が過去の実績等に基づく「選定基準」に従って本年度指定する全日制の高等学校若しくは中等教育学校の在籍生で、学校長が次のすべてに該当する人物として責任をもって推薦する者 (1)2023年4月1日から2024年3月31日までに卒業した者及び卒業見込みの者 (2)医学・医療分野に対する深い関心と、自己研鑽を積む意欲を有する者 (3)品行方正、情操豊かな者 (4)出願する各地域枠の趣旨を十分理解し、その趣旨に基づく地域医療に貢献することができる者。 (5)成績優秀にして大学専門教育に適する者（全体の評定平均値が4.0以上） (6)下記の①または②の条件を満たす者 ①本学が指定した山梨県内の高等学校（中等教育学校、特別支援学校の後期課程を含む）を卒業（見込みを含む）した者。 ②保護者が山梨県内に居住している者で、本学が指定した山梨県外の高等学校（中等教育学校、特別支援学校の後期課程を含む）を卒業（見込みを含む）した者。	無		R1	山梨県	
学校推薦型選抜試験（地域枠指定校）	(i) 学校推薦型選抜	別枠（先行型）	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力検査 ・論文 ・面接 ・調査書 ・推薦状 ・入学志願者面接票 により入学志願者の能力・適性等を総合して判定します。	本学部が過去の実績等に基づく「選定基準」に従って本年度指定する全日制の高等学校若しくは中等教育学校の在籍生で、学校長が次のすべてに該当する人物として責任をもって推薦する者 (1)2023年4月1日から2024年3月31日までに卒業した者及び卒業見込みの者 (2)医学・医療分野に対する深い関心と、自己研鑽を積む意欲を有する者 (3)品行方正、情操豊かな者 (4)出願する各地域枠の趣旨を十分理解し、その趣旨に基づく地域医療に貢献することができる者。 (5)成績優秀にして大学専門教育に適する者（全体の評定平均値が4.0以上）	有	産科、小児科、救命救急センター（ただし、特定地域の公的医療機関に医師として勤務（特定地域の公的医療機関以外の埼玉県内の臨床研修病院で臨床研修を受講する場合を含む。）をしたときは診療科の指定なし）	R4	埼玉県	
学校推薦型選抜試験（地域枠指定校）	(i) 学校推薦型選抜	別枠（先行型）	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力検査 ・論文 ・面接 ・調査書 ・推薦状 ・入学志願者面接票 により入学志願者の能力・適性等を総合して判定します。	本学部が過去の実績等に基づく「選定基準」に従って本年度指定する全日制の高等学校若しくは中等教育学校の在籍生で、学校長が次のすべてに該当する人物として責任をもって推薦する者 (1)2023年4月1日から2024年3月31日までに卒業した者及び卒業見込みの者 (2)医学・医療分野に対する深い関心と、自己研鑽を積む意欲を有する者 (3)品行方正、情操豊かな者 (4)出願する各地域枠の趣旨を十分理解し、その趣旨に基づく地域医療に貢献することができる者。 (5)成績優秀にして大学専門教育に適する者（全体の評定平均値が4.0以上）	有	内科、外科、総合診療科又は小児科	R4	新潟県	
合計			16	16							

(※1) 貴大学において、PRのために作成した文書（リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等）に記載の内容（貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容）をご記入ください。
 ※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

1-2. 教育内容

①地域枠学生が卒後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要（令和6年度）について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。

第3学年「内科学総論」では、総合診療・地域医療・在宅医療の役割、超高齢社会において求められる医師について学んでいる。第4学年「予防医学系」では、地域医療の実際と地位における研究、及び保健所の機能を含む地域医療行政について学んでいる。第4～第6学年の臨床実習（必修・選択必修）「総合診療医学実習」では、地域医療、在宅診療、訪問診療、地域包括ケアシステムの意義と必要性等を学ぶ。	（参考：記入例） 1～2年次には、「○○」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、～～を学んでいる。3～4年次には、××実習を行い、～～を学んでいる。またキャリア支援として□□を実施している。令和4年度からは、■●を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。
---	--

②（過去に地域枠を設定したことがある場合）これまでの取組・実績を、3～5行程度で簡潔にご記入ください。

平成22年度から地域枠による増員を開始し、令和3年度までに55名の地域枠学生を確保し、15名が卒業、14名が現在地域医療に貢献している。	（参考：記入例） 平成○年度から地域枠による増員を開始し、□□、■●などの取組を行ってきた。令和4年度までに△名の地域枠学生を確保し、そのうち▲名が現在～～として地域医療に貢献している。
--	--

③上記①の教育内容（正規科目）について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 (※1)	必修／選択の別		講義／実習の別	単位数	開始年度
			地域枠学生	その他の学生			
3	内科学総論	全員	必修	必修	講義	8	H21以前
4	予防医学系	全員	必修	必修	講義	3	H21以前
5	総合診療医学実習	全員	必修	必修	実習	3	H21以前
6	総合診療医学実習	全員	選択必修	選択必修	実習	3	H21以前

（※1）対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。（地域枠学生の希望者のみの場合は、対象者を「地域枠学生」、必修／選択の別を「選択」とご記載ください。）

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	都道府県との連携	期間 (例：○週間)	プログラムの概要（1～2行程度）	開始年度

（※1）対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。（令和4年度以前から継続する取組を含む）（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度
相模原市地域医療医師修学資金貸与制度	相模原市旧津久井地域の医師不足を解消することを目的としている	H26

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

2. 都道府県等との連携

①都道府県が設定する奨学金について、以下をご記入ください。併せて、都道府県が厚生労働省に提出する予定の地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」(平成元年法律第64号)第4条に規定する都道府県計画等に位置づけることを約束する文書を添付して下さい。

なお、複数の奨学金を設定している場合は、それぞれ記入ください。

奨学金の設定主体	貸与人数	貸与対象	貸与額 (例: 200,000)		返還免除要件	選抜方法		診療科の限定の有無	(診療科の限定(推奨)がある場合)その診療科名	備考
			月額	総貸与額		選抜時期	大学の関与の有無(※1)			
神奈川県	5	新入生	100,000	7,200,000	大学卒業後、初期臨床研修を含む9年間知事が指定する医療機関、診療科に従事	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	○	○	産科、小児科、麻酔科、外科、内科、救急科及び総合診療科	
茨城県	4	新入生	250,000	18,000,000	大学卒業後1年6か月以内に医師免許を取得した後、直ちに茨城県知事の指定する医療機関で9年間従事	④その他(備考欄に記入)	○	×		大学における選抜前に、県において、地域枠制度の理解徹底を目的とした「eラーニング」を全出願者に対して実施
山梨県	2	新入生	130,000	9,360,000	医師免許取得後、15年間の間に9年間知事が指定する山梨県内の特定公立病院に勤務	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	○	×		
埼玉県	2	新入生	200,000	14,400,000	医師免許を得た後、直ちに奨学金貸与期間の1.5倍の期間(通常は6年間の貸与期間に対して9年間)、特定地域の公的医療機関に医師として引き続いて勤務(特定地域の公的医療機関以外の埼玉県の臨床研修病院で臨床研修を受講する場合を含む。)をしたときまたは特定診療科等(埼玉県の病院の産科、小児科、救命救急センター)に医師として勤務したとき	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	○	○	産科、小児科、救命救急センター(ただし、特定地域の公的医療機関に医師として勤務(特定地域の公的医療機関以外の埼玉県の臨床研修病院で臨床研修を受講する場合を含む。)をしたときは診療科の指定なし)	
新潟県	3	新入生	500,000	36,600,000	以下の要件を全て満たした場合、返還が免除される。 ・大学卒業後、2年以内に医師免許を取得すること ・医師免許取得後、直ちに新潟県が指定する医療機関等に9年間勤務すること(注) 注1:9年間には、臨床研修の2年間を含む。9年間勤務することで、修学資金の返還が全額免除される。 注2:9年間のうち5年間は新潟県内の次の医療機関に勤務すること。(医療機関は調整中) 注3:臨床研修修了後、内科、外科、総合診療科又は小児科の医師として勤務すること。 ・新潟県内で夏季休暇等を利用して行う地域医療実習(2~3日間程度)に毎年(1~5年生まで)必ず参加すること。	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	○	○	内科、外科、総合診療科又は小児科	貸与開始月のみ貸与額は1,100,000円

(※1) 診療科の限定または推奨がある場合は、備考欄に詳細をご記入ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②その他、都道府県と連携した取組があれば、簡潔にご記入ください。(例: 在学中の学生に対する都道府県と連携した相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援) (1~2行程度)

取組の名称	取組の概要(1~2行程度)	開始年度
地域枠医師ガイダンス	県内医師による説明会	H27
地域枠医師進路面談	進路についての面談	H29

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

3. その他

1~2に記入したものでない、その他、地域の医師確保の観点から大学の今後の取組があれば、簡潔にご記入ください。(1~3行程度)

特に、都道府県からの奨学金の貸与を受ける者、地域枠入学者を確保するために貴大学で取り組まれていることや今後の取組み予定がありましたら、ご記入ください。

2. 研究医養成のための入学定員増について

増員希望人数

(1) 令和6年度研究医養成のための入学定員増について

大学が講ずる措置

※令和5年度までの取組を継続して行う場合には、必要に応じて見直しを行ったうえで、当該取組も記載すること。

1. コンソーシアムの形成

①以下をご記入ください。複数のコンソーシアムを形成している場合には、コンソーシアムごとにご記入ください。

	連携大学	取組の概要（1～3行程度）	（連携先大学が研究医枠による増員を行っている場合） 連携大学との役割分担（※1）	開始年度
No.1				
No.2				
No.3				

2. 特別コース（※）の設定

（※）「特別コース」とは、学部・大学院教育を一貫して見通した研究医養成のための重点的プログラムを指します。

①特別コースの概要について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。その際、平成22年度～令和5年度に実施した取組で継続して行うもののほか、令和6年度に新たに行おうとする取組についてもご記入ください。

（選抜の時期、授業内容、特別コースに入ることにより大学院進学が促進される仕組み（MD-PhD、単位の先行履修、論文認定、キャリア支援の取組など）

	<p>（参考：記入例） MD-PhDコースや▲年次での大学院進学を促すとともに、○年次に選抜を行い、「○○」という科目等を開講して～～を学んでいる。学部・大学院で一貫した研究を促すため、△△、□□を行っている。またキャリア支援として、～～を実施している。令和4年度からは、■ ■を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。</p>
--	---

②研究医養成のための一貫した特別コースについて、以下をご記入ください。併せて、概要がわかる資料をご提出ください。

選抜の時期（※1）	コースの名称	年次	募集定員（※2）	大学院への進学時期（※3）	開始年度	備考
選抜入試						
特定の学年次に希望者を募集						
その他（備考欄に詳細を記入）						

（※1）複数段階に分けて選抜を行っている場合には、該当する全てに○をご記入ください。

（※2）最低人数を定めている場合には、「○名以上」という形でご記入ください。

（※3）特別コースの学生の大学院進学時期について全てご記載ください。（例：5年次（MD-PhD）／卒後直後に進学／卒後、臨床研修後に進学／卒後、臨床研修と並行して進学）

③研究医養成のための選抜入試について、以下をご記入ください。

研究医養成のために特別な入試を実施しているか。

（「○」を選択した場合）以下をご記入するとともに、募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	募集人数		選抜方法（※1）	開始年度	備考
			うち臨時定員分			
合計		0	0			

（※1）貴大学において、PRのために作成した文書（リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等）に記載の内容（貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容）をご記入ください。

※複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

④研究医養成のための教育内容（正規科目）について、以下をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 (※1)	必修／選択の別		講義／実 習の別	単位数	開始年度
			研究医コース 学生	その他の 学生			

(※1) 対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「研究医コース学生」「全員」のうちから選択ください。(研究医コース学生の希望者のみの場合は、対象者を「研究医コース学生」、必修／選択の別を「選択」とご記載ください。)

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑤大学の正規科目以外で、研究医養成プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	期間 (例：○週)	プログラムの概要（1～2行程度）	開始年度

(※1) 対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「研究医コース学生」「全員」のうちから選択ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑥特別コースに関する取組のうち、以下の項目に関連するものについてご記入ください。なお、必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。

(項目：専用の入試枠の設定による選抜の実施、学生が研究活動を実施するために必要となる研究費の予算措置、学生の学会発表、論文発表の機会の設定及び指導体制の構築、臨床研修により研究活動が中断されることのないようにするための配慮、研究医となった際の常勤ポストの確保、海外での研修の機会(1か月以上))

(項目)	概要(1~2行程度)	開始年度

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑦上記②~⑥以外に、研究医養成の特別コースに関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。

(令和5年度以前から継続する取組を含む)(1~2行程度)

取組の名称	取組の概要(1~2行程度)	開始年度

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑧特別コースの履修者の確保状況について、以下をご記入ください。

	R3	R4	R5	直近3年間の平均
人数(名)				#DIV/0!

※当該年度の新規履修者のみを計上してください。

3. 奨学金の設定

①卒後一定期間の研究医としての従事を要件とする奨学金の設定について、以下をご記入ください。

複数の奨学金を設定している場合には、それぞれについてご記入ください。

	名称	設定主体 (例：大 学、〇〇財)	給付／貸与 の別	支給対象	募集人数	選抜の有無	支給期間 (例：大学院1～3年次 (3年間))
No.1							
No.2							
No.3							

(続き)

	支給額 (例：200,000)		返還免除要件	開始年度	備考
	月額	総支給額			
No.1					
No.2					
No.3					

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

(2) 研究医養成拠点として相応しい実績

①-1. 継続的に大学院生を輩出してきた客観的な実績について、以下をご記入ください。

(入学年度)	R3	R4	R5	直近3年間の平均
基礎・社会系大学院進学者数 (【A】)				#DIV/0!
臨床系大学院進学者数 (【B】)				#DIV/0!

(博士課程修了年度)	R3	R4	R5	直近3年間の平均
【A】の修了者数 (【C】)				#DIV/0!
【B】のうち、基礎・社会学系の論文 (又は共著論文) を執筆した修了者数 (【D】)				#DIV/0!
合計	0	0	0	0

①-2. その他、継続的に大学院生を輩出してきた客観的な実績があれば、簡潔にご記入ください。(1~3行程度)

②-1. 継続的に研究医を輩出してきた客観的な実績について、以下をご記入ください。

(博士課程修了年度)	R2	R3	R4	直近3年間の平均
【C】【D】のうち、基礎・社会学研究分野の就職者数				#DIV/0!
【C】【D】のうち、臨床系に就職したが基礎・社会学研究に従事する者等の数 (※1)				#DIV/0!
合計	0	0	0	0

(※1) 一度臨床系 (基礎系以外) に進んだものの実態としては研究に従事している又は従事する見込みがある者の数。

(例: 臨床医として働きながら研究活動を行っている者、常勤ポストではないが大学の身分を有し研究活動を行っている者、現在臨床医として勤務しているが将来的に研究に従事する意思を大学が確認している者)

②-2. その他、継続的に研究医を輩出してきた客観的な実績があれば、簡潔にご記入ください。(1~3行程度)

③大学教育改革の支援に関する補助事業の採択実績等

※必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。

採択事業名	採択年度 (○年度 ～○年)	概要(1～3行程度)

④他大学と比較した際に研究医養成拠点として相応しいと考えられる客観的な実績(科学研究費採択率等)

※必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。

概要(1～3行程度)

(3) 過去に研究医枠による入学定員増を実施した場合の令和5年度における状況

①過去に入学定員増を実施した際に計画していた研究医養成に関する取組について、その有効性が高いことを確認している旨を、確認方法等とともにご記入ください。

(例: 第三者による評価、学内委員会による評価)

--

大学別医学部入学定員一覧

大学名	属性 (国公私)	R5年度定員	本増員計画による 入学定員増を行わ ない場合の令和4 年度の入学定員	R6年度 増員数	R6年度 定員 (計画)
北里大学	私立	125	110	16	126

大学名	令和5年度 定員	本増員計画による 入学定員増を行わ ない場合の令和6 年度の入学定員	令和6年度増員計画			令和6年度 定員 (計画)	令和6年度増員計画
				増員数	都道府県ごとの内訳		教育内容の概要
北里大学	125	110	地域枠	16	神奈川県	5	第3学年「内科学総論」では、総合診療・地域医療・在宅医療の役割、超高齢社会において求められる医師について学んでいる。第4学年「予防医学系」では、地域医療の実際と地位における研究、及び保健所の機能を含む地域医療行政について学んでいる。第4～第6学年の臨床実習（必修・選択必修）「総合診療医学実習」では、地域医療、在宅診療、訪問診療、地域包括ケアシステムの意義と必要性等を学ぶ。
					茨城県	4	
					山梨県	2	
埼玉県	2						
新潟県	3						
0	0	0					
研究医枠	0						

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況.....	2
ア 本学の現状把握・分析	2
イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析.....	2
ウ 定員を変更する学部学科の趣旨目的、教育内容、定員設定等.....	3
A. 趣旨目的と教育内容	3
B. 地域・社会への貢献	5
C. 定員設定.....	6
D. 必要とされる理由	6
E. 入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠	6
エ 学生確保の見通し.....	7
A. 学生確保の見通しの調査結果.....	7
B. 新設学部等の分野の動向	7
C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等	7
D. 競合校の状況	8
E. 既設学部等の学生確保の状況.....	8
F. その他、申請者において検討・分析した事項.....	9
オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果.....	9
(2) 人材需要の動向等社会の要請.....	10
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	10
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの 客観的な根拠.....	11

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 本学の現状把握・分析

学校法人北里研究所 北里大学（以下、「本学」という。）は、世界的な細菌学者であり、我が国の近代医学と衛生行政の発展に多大な貢献を果たした北里柴三郎を学祖と仰ぎ、1962（昭和 37）年に北里研究所創立 50 周年を記念して創設された。北里柴三郎の業績は、「科学者としての真の学問追求」、「社会事業家としての国創」、「教育者としての人材育成」に集約される。北里は常々、「事を処してパイオニアたれ。人に交わって恩を思え。そして叡智をもって実学の人として、不撓不屈の精神を貫け。」と門下生に説いており、本学は、北里柴三郎が成した学統を受け継ぎ、顕現した「開拓」「報恩」「叡智と実践」「不撓不屈」を建学の精神としている。本学は、北里柴三郎の精神に則り、生命科学及び医療科学分野における学術研究と人材育成を通して、広く社会の発展のために寄与することを目的としており、「いのちを尊（たつと）び、生命の真理を探究し、実学の精神をもって社会に貢献する。」を法人・大学の理念とし、現在、創立 60 年を迎え 8 学部 16 学科（大学院 6 研究科 1 学府）と同一法人内に 2 併設校を設置している。

医学部は、1970（昭和 45）年に設置され、「人間性豊かで優れた医師の養成」、「学際領域を含む医学研究の推進」、「国際貢献の推進と地域医療への協力」、「予防医学の推進」からなる 4 つの基本理念を北里医学スピリットとし、地域の人々や多くのステークホルダーの理解と支援を受けながら今日に至る。医学部設置時、医局制・講座制を廃止し、6 年間一貫教育、研究単位を超えて横断的に医学を学ぶことができる器官系別総合教育、ベッドサイド教育の重視などを特徴とした。現在もこの教育体制を維持しつつ、更に人間性豊かで優れた医師を養成するために、1 年次の医学原論演習での牧場実習や農村実習、大学病院での体験当直実習、2 年次の介護施設、保育施設などの命を支える現場での早期体験学習、2～4 年次の問題解決能力やコミュニケーション能力を養うテュートリアル教育、行動科学・医療面接、5～6 年次の医療系全学部学生とのチーム医療教育プログラムや海外選択実習などの独自の取り組みを続けてきた。

イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

医療は、国民の健康と生活を守る上で欠かすことのできないものである。わが国ではこれまで様々な政策で医療の質を維持し、また、国民皆保険制度等によって、全国どこでも一定の医療サービスが受けられるよう政策が進められてきた。

その医療現場の中心となる医師の教育については、国内政策だけでなく、世界医学教育連盟（WFME）の国際基準の導入が広く国内医学部において進められ、質の高い医療教育の必要性はだれの目にも明らかとなっている。

一方、2004（平成 16）年の臨床研修制度の変更以降、医師配置の偏在化が進み、地域

間、診療科間の格差が顕在化するようになった。

全国の医学部では、これまで以上に高度な医学教育と併せて、地方の医師不足の声に応えるため、質の高い多くの医師を社会に送り出すことが求められている。

ウ 定員を変更する学部学科の趣旨目的、教育内容、定員設定等

A. 趣旨目的と教育内容

1) 趣旨目的

医学部では、4つの基本理念（人間性豊かで優れた医師の養成、学際領域を含む医学研究の推進、国際貢献の推進と地域医療への協力、予防医学の推進）の通り、専門的知識や技術とともに豊かな人間性を持ち、地域や国際社会の様々な分野に貢献できる医師の育成を目的としている。

こうした人材を育成するために、以下の9領域からなるアウトカムを設定し、これを修得した者に学位を授与する。

- (1) プロフェッショナリズムと倫理
- (2) コミュニケーション能力
- (3) 医学的知識と技術
- (4) 知的探究と自律的学習
- (5) チーム医療
- (6) 医療の質と安全
- (7) 予防医学
- (8) 地域医療
- (9) 国際貢献

2) 教育内容

医学部では、人間性豊かで優れた医師として、生涯を通じて医学的知識・技能・真理を探究し、地域や国際社会に貢献することができるよう、高い倫理観とコミュニケーション能力、自らの学びを振り返り能動的に学習をする力など、卒業時までに必要な能力（ディプロマ・ポリシーに掲げたコンピテンシー）を段階的に習得できる一貫教育のカリキュラムとしている。

各段階のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに掲げたコンピテンシーを踏まえ、知識・技能・態度の様々な面から、段階ごとに達成されるべきレベルに合わせて編成している。

- (1) 教養教育と初年次からのチーム医療教育とプロフェッショナリズム教育
自然科学のみならず、社会科学や人文科学についての幅広い知識や教養を身に付

けるため、人間形成の基礎科目を配するとともに、生命科学の総合大学としての特徴を活かし、薬学部、医療衛生学部、看護学部等の他学部の学生とともに受講する「チーム医療論」を開講している。

医学原論では、人間の尊厳、医療者の責務など、医学生が将来直面する可能性の高い事柄について思考を深め、倫理観やプロフェッショナリズムを涵養する。また、医学原論演習として、獣医学部附属フィールドサイエンスセンター八雲牧場（資源循環型畜産）や学祖北里柴三郎博士の故郷熊本県阿蘇郡小国町における実習を通じ、いのちに対する真摯な姿勢を養う。

さらに、早期体験学習として、大学病院体験当直や一次救命処置など、医療者としての視点に立って感じ、考え、身に付けるべき技術を学ぶ機会を1年次から設けている他、2年次には医療・福祉・介護施設、法律事務所、消防署などで体験実習を行い、生命・健康・人権を守る様々な専門職と、その専門職に関わる当事者との触れ合いを通じた学びは、ポートフォリオ作成や指導者からのフィードバックにより、自らの学びを振り返る習慣づけに結びつくように工夫している。

(2) 基礎医学から臨床医学へ

医学的知識と技術の修得は1年次から開始される。基礎医学では、科目相互に関連を持ちながら、段階的に知識を習得する“らせん型カリキュラム”として編成している。

1年次から2年次にかけて人体の正常の構造と機能を学ぶ科目が配置され、2年次後半からは開学時から導入している器官系別総合教育が開講され、基礎医学と臨床医学との縦断的統合カリキュラムが組まれている。

2年次から4年次前期までは、器官ごとに教育単位を超えて横断的に臨床医学を学ぶ科目が配置され、疾患を基礎的な概念から疫学・症候・診断・治療まで統合的に学ぶことを目標としている。また、北里大学ならではの特徴ある科目として東洋医学を理論から診察法までを系統的に学ぶ機会を設けている。

3年次から臨床実習開始前の期間には、実習に必要とされる基本的な診療手技を週ごとに学ぶ機会を設けており、臨床実習に向けた準備を進めるカリキュラム編成としている。

(3) 学年の壁を越えて段階的に学ぶ科目の設定

基礎医学・臨床医学はもちろん、社会医学においても学年を跨いで科目を設置し、科目相互に連携をとる構成としている。例えば、1年次・3年次で医療安全・管理学が開講される。予防医学に関しては、2年次の微生物学、免疫学から、3年次の感染症・免疫学、4年次の予防医学系と、段階的に開講される他、臨床実習（4年～6年次）として衛生・公衆衛生実習においては、地域保健所との連携、産業医実習など広い視野で学んでいく。

また、診療の基礎となる医療面接については、1年次の早期体験学習でのコミュニ

ケーション、2～4年次の行動科学・医療面接、2年次での臨床実習入門と、一般的なコミュニケーション論から臨床実地に至るまで、他の科目の知識と連動して段階的に学ぶことで、より効果的にコミュニケーション能力を習得できるカリキュラムとなっている。

1年次の医学原論、早期体験学習及び3年次の内科学総論では、ライフイベントを意識したキャリアデザインを考える機会を設けている。

医療のグローバル化に対応し、国際貢献できるよう、1年次から3年次までのネイティブスピーカーを含む実践的な医学英語教育により、英語での基本的な診療や文献読解の力を養っていく。

(4) 課題発見・解決法を習得し、研究マインドを涵養する

“課題発見・問題解決”の学習法を学び、生涯自律した学習者・能動的な学習者になる姿勢を養うために、1年、3年次にチュートリアル教育を配置している。また、2年次の医学研究入門では、論文の構成、文献検索の基本、研究立案の過程、研究倫理等を学び、3年次の研究室配属（基礎・臨床・社会医学）により2年次の学びを実践につなげ、研究マインドを涵養している。

(5) 診療参加型臨床実習と自主性をはぐくむ選択実習

学校法人内3病院及び地域医療機関における診療参加型臨床実習では、地域医療を含むプライマリケアから高度な専門医療まで学ぶ機会がある。

5年次には北里大学の医療系学部合同で実施する「オール北里チーム医療演習」をはじめ、臨床実習の現場においてチーム医療の実際を学んでいく。6年次の選択実習では、学内外の他、欧米の大学と提携し、海外選択実習として最大15週間実習を行う機会を設けている。

(6) 学習方法と評価

Moodleなどの教育支援システムの活用や、ロールプレイ、グループワークなど、能動的な学習方法を随所に取り入れ、主体的な学びを促すとともに、自身の振り返り、指導者からのフィードバックなどを通じて成長できるようになっている。

学習中に適宜形成的評価を行うとともに、科目の終了時には到達目標に適した評価方法（論述試験、客観式試験、レポート、実技試験、観察記録、ルーブリックを明示したポートフォリオなど）を用いて総括的評価を行い、進級及び卒業の認定に反映している。

B. 地域・社会への貢献

医学部においては、予防医学の知見を活用し、患者や地域住民の生活習慣の改善に努めることができる医師及び地域住民の健康増進を目指し、積極的に活動できる医師の養成を目指している。

必修科目である「予防医学系」では、予防医学の推進の具現化のために「予防医学の重要

性：予防医学上の課題を自ら解決できる医師を養成」、「地域の行政機関との連携：地域や行政と連携し病気を未然に防ぐ試み」、「調査研究活動：予防医学の調査研究を社会に還元」、「産業医実習：職場環境の整備にあたる産業医の役割を学ぶ」の4つのポイントを定めて教育を行っている。また、第4～6学年の臨床実習では、地域の病院やクリニックでの学外実習を実施している。

C. 定員設定

地域の医師確保等に早急に対応するために設定している地域枠16名について、2023(令和5)年度で認可期限が満了となったが、文部科学省高等教育局医学教育課から、2024(令和6)年度に限り16名(山梨県2名、茨城県4名、神奈川県5名、埼玉県2名、新潟県3名)として、学則変更の手続きを進めることを認める旨の通知があった。

このことに基づき、医師不足解消に貢献することを目的とし、医学部の2024(令和6)年度の入学定員を126人と設定した。

D. 必要とされる理由

2021(令和3)年3月4日開催の厚生労働省医療従事者の需給に関する検討会第37回医師需給分科会において提示された「これまでの医師偏在対策について」【資料1】では、平成20年度以降、全国医学部の入学定員が過去最大規模まで増員され、医学部定員に占める地域枠等の数・割合も、増加してきていることと併せ、平成26年の前後で比較すると、医師少数都道府県の若手の医師数は、医師多数都道府県と比較し、大きく伸びていることが示されている。一方、医師の地域偏在・診療科偏在は依然として存在することが同分科会第5次中間とりまとめ【資料2】において述べられている。

引き続き医師が不足している地域からの地域枠設定の声は根強く、これに応えるためにも大学において地域枠入試による医師確保が重要と思われる。

E. 入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

私立大学として継続的な学校運営を行っていくにあたり必要となる財務的な状況、本学部と同分野である他私立大学の学生納付金の設定状況、入学者・在学者への負担とならないよう十分な配慮、これらを総合的に踏まえて、学費を設定している。

入学初年度の学生納付金については、9,000,000円(内訳：入学金1,500,000円、授業料3,000,000円、施設設備費1,000,000円、教育充実費3,500,000円)及び諸会費等438,000円に設定した。

本学科と同分野である私立大学の初年次納付金の平均(20学部・学科の平均)は8,728,413円【資料3】であり、平均よりもやや高額であるが、本学医学部4つの基本理念である「人間性豊かで優れた医師の養成」を目指し、最新の医療設備や学外施設の協力の下で行う実習、学生や保証人の高い要望により実施する共用試験や国家試験対策講座など、社会的要請や

学生等からの要望により様々な教育施策を行っており、これらの施策を実施するためにも、引き続き現在の学納金を維持する必要があると考えている。

エ 学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

①定員充足の見込み

過去5年間（2019年度～2023年度）の内、2019年度は、医学部地域枠入学者は山梨県・茨城県は手上げ方式事前型、神奈川県は手上げ方式事後型で一般入試として実施し、充足できていなかった。その後、2020年度～2023年度は別枠方式先行型で実施し、定員を全て充足しており（2023年度より実施の埼玉県及び新潟県も同様）、今後も同様の方式で実施することで、引き続き定員の充足が見込まれる。【資料4】

②定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

過去の入学状況や入学者の学修状況を踏まえて作成した「指定校選定基準」に則り、毎年指定校の選定を行っている。

地域枠指定校に関しては、今年度の指定校に過去10年間の指定校と山梨県、茨城県、埼玉県、新潟県からの推薦のあった高校を追加し、全151校を地域枠指定校として指定し、学生募集の案内や説明会を予定している。【資料5】

B. 新設学部等の分野の動向

日本私立学校振興・共済事業団による「令和4（2022）年度私立大学・短期大学等入学志願動向」【資料6】によると、本学科が含まれる医学部（看護学科を除く）の2018（平成30）年度から2022（令和4）年度にかけて、志願倍率は減少傾向にあるが、依然20倍以上である。

C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等

文部科学省が公表する学校基本調査の「大学年齢別入学者」によると、2022（令和4）年度における私立大学への入学者502,006人のうち、82.2%にあたる412,890人が18歳となっている状況を踏まえると、学生確保において、予測される我が国の18歳人口減少の影響は少なくないと考えている。

2022（令和4）年の18歳人口を軸に、その後の推計を算出したところ【資料7】、全国の18歳人口は2022（令和4）年から2032（令和14）年にかけて8.68ポイントの減少が推測され

ている。特に2029（令和11）年から2032（令和14）年の4年間で約4ポイントと、短期間で大幅な減少となる可能性が高いことが伺える。一方で、本学部が位置する神奈川県を含めた南関東地域（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県の4都県）の18歳人口は2022（令和4）年の299,356人から2032（令和14）年には288,670人と、減少傾向であるものの3.57ポイントの減少に留まることから、全国と比較して、安定的な募集活動を行える地域であると考えられる。

D. 競合校の状況

過去3年間の神奈川県内競合校の入試状況を調べたところ、本学を含む4大学は年度により志願者倍率に変動はあるものの、目立った増加・減少はなく、志願者を安定して確保していると言える。【資料8】

E. 既設学部等の学生確保の状況

本学では、2023（令和5）年度時点で8学部16学科を設置しており、白金キャンパス（東京都港区）、相模原キャンパス（神奈川県相模原市）、十和田キャンパス（青森県十和田市）の3つのキャンパスにおいて教育を展開している。

過去5年間（2019（平成31）年度から2023（令和5）年度）における既設学部の充足状況【資料9】【資料10】から、本学では安定的な学生確保が行われていると言える。募集は一部の専攻を含めた20の学科・専攻で行っており、そのうち18学科・専攻は5年平均の充足率が100%を超えている状況である。2023（令和5）年度より新たに設置した未来工学部データサイエンス学科の初年度の募集状況は志願者451人、入学定員充足率105.0%となり、本学の特色・魅力が受験生に十分に理解されている結果が示されたと認識している。

なお、5年平均の充足率において未充足となっている獣医学部の2学科（動物資源科学科と生物環境科学科）については、新型コロナウイルス感染症に伴う受験対象者との接触の減少もあり、近年は苦戦が続いている。特に生物環境科学科については、過去3年間で未充足が続くのみならず、2年間で充足率が50%台となっていることから、早急な対応が必要であると認識している。

具体的な対応として、動物資源科学科については、2024（令和6）年度から適切な入学定員とするため、収容定員変更に係る学則変更届出を行う予定である。生物環境科学科については、キャンパス移転とともに、社会的に強く求められるGX（グリーン・トランスフォーメーション）・DX（デジタル・トランスフォーメーション）に関連する学科への改組を行う計画である。

F. その他、申請者において検討・分析した事項

特になし

オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

1) 入試制度の変更

引き続き別枠方式先行型に改め、各地域枠（山梨県、茨城県、神奈川県、埼玉県、新潟県）指定校推薦入学試験を実施する。また、当該試験により地域枠を充足できない場合は、地域枠一般入学試験を実施する。

2) 入試広報の充実

A. 広報媒体の活用

本学では大学及び各学部・学科等の特色や魅力についてわかりやすく説明するために、『大学ガイドブック』を毎年度作成し、受験生を中心に配布を行っている。2022 年度は 115,000 部を発行するとともに、本学の入試情報 Web サイトでもデジタルパンフレットとしていつでも閲覧が可能となっている。

B. Web サイトでの情報発信

本学では、学部ごとに個別の Web サイトを用意し、情報発信を行っている。サイトでは、「養成する人材像」、「主な授業科目」、「教員組織」、「取得可能な資格・免許」、「特色」、「卒業後の進路」等について掲載している。

今後も進学イベントやオープンキャンパス等の情報を積極的に発信することで、引き続き受験生の確保につなげる。

C. オープンキャンパス・進学相談会の実施

オープンキャンパスでは、本学の紹介や学部・学科の紹介、キャンパス案内、施設見学、模擬授業、入試に関する説明会、在籍学生との座談会など、時期に応じて適宜プログラムを組み、受験生等に対して本学における教育環境を紹介している。また、オープンキャンパスでは、受験生や保護者の受験・進学における疑問や不安に対応できるように、各学部の個別相談会場を設けており、積極的な情報発信を行っている。

D. 学外における説明会・相談会の実施参加

受験生に本学をより深く理解してもらうことを目的に、学外の進学説明会・相談会に多数参加している。説明会・相談会では、本学専用のブースを設け、受験生・保護者等に対して本学の特色や入試等について説明を行う。また、オープンキャンパス同様に個別相談にも対応している。

例年、主に5月から10月にかけて、北海道・東北地区、関東・首都圏地区、北陸・甲信越地区、東海地区、近畿地区、中国・四国地区、九州地区の各主要都市で開催される説明会・相談会に参加している。2023年度も大学全体及び各学部への理解を深めてもらい、その後の受験につなげられるよう同数の参加を予定している。

E. 高校への訪問活動

各学部の教育内容や入試情報の認知向上を目的に、高校への訪問活動を実施している。訪問は各高校の進路指導部へ赴き、募集に関する案内を行うとともに、当該高校の生徒に興味を持ってもらえるようポスターやリーフレット、ガイドブックの配架依頼を行っている。訪問活動は複数名の人員を配置し、本学既設学部・学科等への進学実績がある高校を中心に訪問を行った。今後も更なる訪問活動に努める予定である。

F. 出張講義の実施

本学では「生命科学の総合大学」として、生命科学の魅力を伝えることを目的に、高校生を対象とした出張講義を実施している。講義テーマは高校の要望に詳細に対応できるよう学部学科ごとに定め、2023（令和5）年6月時点では100テーマ程度の講義が提供可能となっている。

出張講義は高校生や高校教員に対して、本学の教員が専門分野における講義を直接行うことは本学での学びを体感してもらう機会と捉えており、今後も積極的に実施を行う計画としている。

（2）人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

医学部では、広く体系的な知識と確実な技術を持ち、それを深化させるよう最先端の医学知識を意欲的に吸収できるような自己研鑽学習を継続する人材を育成するとともに、開学以来実践されてきた「チーム医療」の実践家となるため、他者に共感し、協働して物事に取り組むことができ、倫理観を持って広く社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

そのための教育研究上の目的として、(1) 人間性豊かで優れた医師の養成 (2) 学際領域を含む医学研究の推進 (3) 国際貢献の推進と地域医療への協力 (4) 予防医学の推進、の4項目をあげ、教育の基本理念としている。

上記に加え、ディプロマポリシーに定める9つのアウトカムである「プロフェッショナリズムと倫理」「コミュニケーション能力」「医学知識と技術」「知的探求と自律的教育」「チーム医療」「医療の質と安全」「予防医学」「地域医療」「国際貢献」の各項目に定める

コンピテンシーを、医学部を卒業して医師となるものが身につけていることを目標としている。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

2021(令和3)年3月4日開催の厚生労働省医療従事者の需給に関する検討会第37回医師需給分科会において提示された資料「これまでの医師偏在対策について」では、2014(平成26)年の前後で比較すると、医師少数都道府県の若手の医師数は、医師多数都道府県と比較し、大きく伸びていることが示されている。一方、医師の地域偏在・診療科偏在は依然として存在することが同分科会第5次中間とりまとめにおいて述べられている。

文部科学省により策定された「医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)」では、「医師として求められる基本的な資質・能力」【資料11】として、「プロフェッショナルリズム」、「専門知識に基づいた問題解決能力」、「患者ケアのための診療技能」、「コミュニケーション能力」、「多職種連携能力」などが求められており、上記①はこれらに合致している。

以上から、上記①に記載した人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的・目標は、引き続き社会のニーズに応えるものであると考える。

本学医学部の過去6年間の医師国家試験合格状況は【資料12】のとおりである。新卒の合格率は全ての年で全国平均や私立大学平均を上回っており、本学の教育体制は社会的な要請に応えうるものであることが結果として現れていると考える。

以上

学生確保の趣旨等を記載した書類（資料）

目次

【資料1】	厚生労働省医療従事者の需給に関する検討会第37回医師需給分科会 資料抜粋	P	13
【資料2】	医療従事者の需給に関する検討会 医師需給分科会第5次中間とりまとめ (案)	P	26
【資料3】	医学部競合校学費一覧	P	33
【資料4】	過去5年間（2019（平成31）年度～2023（令和5）年度）の医学部入学試験状況	P	34
【資料5】	2024年度 医学部指定校・地域枠指定校一覧	P	36
【資料6】	日本私立学校振興・共済事業団「令和4（2022）年度私立大学・短期大学等 入学志願動向」（抜粋）	P	40
【資料7】	18歳人口の将来推計	P	42
【資料8】	医学部神奈川県内競合校の状況	P	43
【資料9】	本学既設学部・学科の学生募集の状況	P	44
【資料10】	本学既設学部・学科の志願者数（実数）	P	48
【資料11】	「医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」（抜粋）	P	52
【資料12】	北里大学医学部 医師国家試験合格状況（新卒）	P	54

これまでの医師偏在対策について

1

第35回医師需給分科会(8/31)における主なご意見について

医療従事者の需給に関する検討会
第36回 医師需給分科会
令和2年11月18日 資料1一部改変

- 地方の立場としては、令和4年度の臨時定員の設定方法について、現在、新型コロナウイルス感染対応のため様々な保健衛生業務が停滞していることもあり、暫定的に令和2・3年度と同様の方法で行っていただけるとはありがたい。
- 元来、臨時定員はいずれ削減を行うという取り扱いであり、臨時定員を減少させつつ地域枠を維持するのであれば、恒久定員の中に組み込んでいかなければならないのは、当然のことではないか。
- 地域枠が、偏在問題を解決していくための大きな手段であることを踏まえ、恒久定員内に地域枠を設定するということは、医師の需給問題、地域の偏在問題を考えていく上では、妥当であることから、現行の方針通り進めていくべきではないか。
- 令和4年度の恒久定員枠内に設置する地域枠の数については、令和5年度以降の地域枠等の議論に対する影響が考えられるため、令和5年度以降の地域枠等の議論を並行して行うべきではないか。
- 恒久定員枠内への地域枠の設置方法は、医師確保計画に基づき、都道府県が自ら将来的な医師確保の計画を立てる必要があるため、都道府県は、地対協で、各大学と、今後の地域枠のあり方をよく協議をしていただくというのが原則であるのではないか。
- 偏在対策を行う前提のもと、総医師数を抑えていくことであることから、偏在対策がどの程度進行したのかという検証を行いながら地域枠についての議論を進めていくのが良いではないか。

2

医師の需給と医師養成課程における偏在対策について議論する場の整理

医療従事者の需給に関する検討会
第34回 医師需給分科会
令和2年3月12日 資料1 一部改変

医療従事者の需給に関する検討会 医師需給分科会

総合的な医師の需給バランス・偏在対策の在り方を議論する。

地域枠の設定（地域・診療科偏在対策）

地域枠の設定数、地域枠の在り方

臨床研修制度における地域偏在対策

臨床研修定員の配置による偏在是正の在り方

専門医制度における地域・診療科偏在対策

診療科別・都道府県別・必要医師数の算出

総合診療医の在り方、必要数について検討

医道審議会 医師分科会

臨床研修部会

・具体的な都道府県別定員の設定による偏在是正
・医師のプライマリアケア能力向上のための研修制度の検討

専門研修部会

・地域医療提供体制確保の観点から専門研修の在り方に対する検討
・検討結果を踏まえた採用数上限（シーリング）等に関する日本専門医機構および各学会への意見・要請

日本専門医機構

専門研修の内容を検討、専門医シーリングの検討・実施

都道府県

地域医療対策協議会で協議の上、都道府県知事が地域枠の設定を大学へ要請する。

地域医療対策協議会において、臨床研修病院の指定、各病院の臨床研修定員の設定を行う。

地域医療対策協議会において、各都道府県における専門研修について議論し、厚生労働大臣に意見を提出する。

3

医療法及び医師法の一部を改正する法律（平成30年法律第79号）の概要

改正の趣旨

地域間の医師偏在の解消等を通じ、地域における医療提供体制を確保するため、都道府県の医療計画における医師の確保に関する事項の策定、臨床研修病院の指定権限及び研修医定員の決定権限の都道府県への移譲等の措置を講ずる。

改正の概要

1. 医師少数区域等で勤務した医師を評価する制度の創設【医療法】

医師少数区域等における一定期間の勤務経験を通じた地域医療への知見を有する医師を厚生労働大臣が評価・認定する制度の創設や、当該認定を受けた医師を一定の病院の管理者として評価する仕組みの創設

2. 都道府県における医師確保対策の実施体制の強化【医療法】

都道府県においてPDCAサイクルに基づく実効的な医師確保対策を進めるための「医師確保計画」の策定、都道府県と大学、医師会等が必ず連携すること等を目的とした「地域医療対策協議会」の機能強化、効果的な医師の配置調整等のための地域医療支援事務の見直し 等

3. 医師養成過程を通じた医師確保対策の充実【医師法、医療法】

医師確保計画との整合性の確保の観点から医師養成過程を次のとおり見直し、各過程における医師確保対策を充実

- ・医学部：都道府県知事から大学に対する地域枠・地元出身入学者枠の設定・拡充の要請権限の創設
 - ・臨床研修：臨床研修病院の指定、研修医の募集定員の設定権限の国から都道府県への移譲
 - ・専門研修：国から日本専門医機構等に対し、必要な研修機会を確保するよう要請する権限の創設
- 都道府県の意見を聴いた上で、国から日本専門医機構等に対し、地域医療の観点から必要な措置の実施を意見する仕組みの創設 等

4. 地域の外来医療機能の偏在・不足等への対応【医療法】

外来医療機能の偏在・不足等の情報を可視化するため、二次医療圏を基本とする区域ごとに外来医療関係者による協議の場を設け、夜間救急体制の連携構築など地域における外来医療機関間の機能分化・連携の方針と併せて協議・公表する仕組みの創設

5. その他【医療法等】

- ・地域医療構想の達成を図るための、医療機関の開設や増床に係る都道府県知事の権限の追加
- ・健康保険法等について所要の規定の整備 等

施行期日

2019年4月1日。（ただし、2のうち地域医療対策協議会及び地域医療支援事務に係る事項、3のうち専門研修に係る事項並びに5の事項は公布日、1の事項及び3のうち臨床研修に係る事項は2020年4月1日から施行。）

4

医師養成課程を通じた医師偏在対策

長期的には医師供給が需要を上回ると考えられるが、地域偏在や診療科偏在に引き続き対応する必要があることから、医師養成過程の様々な段階で医師の地域偏在・診療科偏在対策を進めている。

医師養成課程

6年

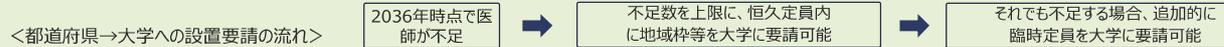
学部教育

大学医学部 - 地域枠の設定 (地域・診療科偏在対策)

医師需給分科会

■ 大学が特定の地域や診療科で診療を行うことを条件とした選抜枠を設け、都道府県が学生に対して奨学金を貸与する仕組みで、都道府県の指定する区域で一定の年限従事することにより返還免除される (一部例外あり)

● 将来的に医師供給量過剰とならないように、令和5年(2023年)からの地域枠に係る医学部定員の設定・奨学金貸与について検討中



2年

臨床研修

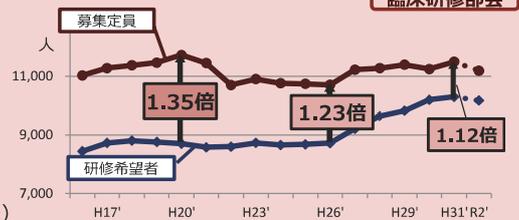
臨床研修 - 臨床研修制度における地域偏在対策

臨床研修部会

■ 都道府県別採用枠上限数の設定
■ 全国の研修希望者に対する募集定員の倍率を縮小

● 医師少数区域へ配慮した都道府県ごとの定員設定方法への変更
● 地域医療重点プログラムの新設 (2022年～)

※臨床研修病院の指定、募集定員の設定権限を都道府県へ移譲する (2020年4月～)



3年以上

専門研修

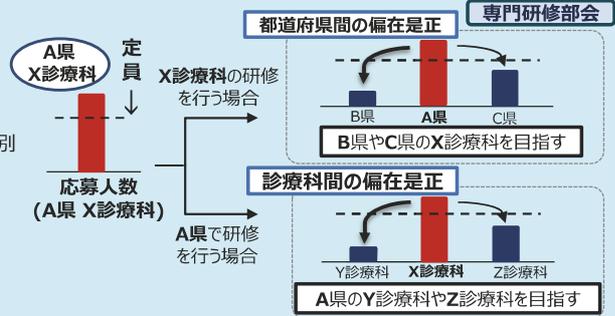
専門研修 - 専門医制度における地域・診療科偏在対策

専門研修部会

■ 日本専門医機構が、都道府県別・診療科別採用上限数を設定 (シーリング)

※5大都市を対象としたシーリング→厚生労働省が算出した都道府県別・診療科別必要医師数に基づいたシーリングへ変更されている (2020年度研修～)

● 医師法の規定により、都道府県の意見を踏まえ、厚生労働大臣から日本専門医機構等に意見・要請を実施
● 2022年度に向けては、日本専門医機構において検討中



医学部臨時定員増に係る方針について

医療従事者の需給に関する検討会
第35回 医師需給分科会
令和2年8月31日 資料2

平成18年度からの医学部臨時定員増に係る方針

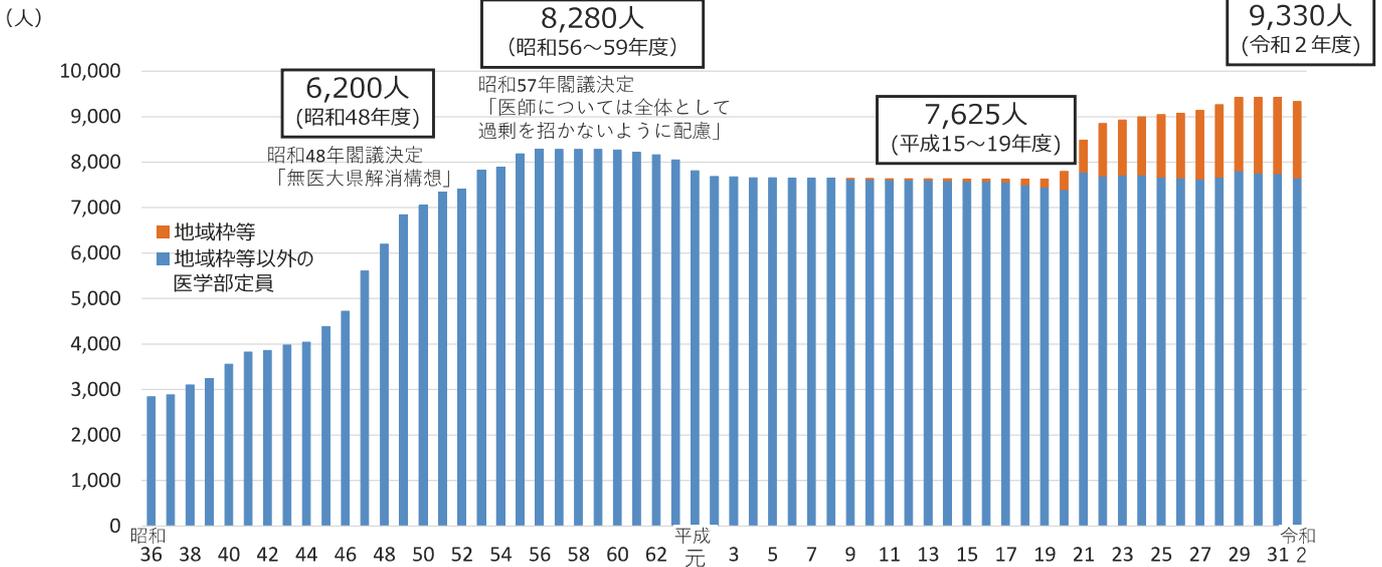
- ① 「**新医師確保総合対策**」(平成18年8月31日4大臣※合意→地域医療に関する関係省庁連絡会議決定)に基づき、**平成20～29年度まで**の間、医師不足が特に深刻と認められる10県について、各県10名(加えて自治医科大学も10名)までの暫定的な増員
※4大臣: 総務大臣、財務大臣、文科大臣、厚労大臣
- ② 「**緊急医師確保対策**」(平成19年5月31日政府・与党決定)に基づき、原則**平成21～29年度まで**の間、医師確保が必要な地域や診療科に医師を確保・配置するため、都道府県ごとに5名まで(北海道は15名まで)の暫定的な増員
- ③ 「**経済財政改革の基本方針2009**」(平成21年6月23日閣議決定)及び「**新成長戦略**」(平成22年6月18日閣議決定)に基づき、平成21年度から都道府県が策定することとされた地域医療再生計画等に基づき、**平成22～31年度までの間**、地域枠による都道府県ごとに毎年原則10名までの暫定的な増員等
- ④ 「**経済財政運営と改革の基本方針2018**」(平成30年6月15日閣議決定)
2020年度、2021年度については、2019年度の医学部定員を超えない範囲で、その必要性を慎重に精査しつつ、暫定的に現状の医学部定員を概ね維持する。**2022年度以降については、定期的に医師需給推計を行った上で、働き方改革や医師偏在の状況等に配慮しつつ、将来的な医学部定員の減員に向け、医師養成数の方針について検討する。**
- ⑤ 「**経済財政運営と改革の基本方針2019**」(令和元年6月21日閣議決定)
医師偏在指標を活用し、臨床研修や専門研修を含む医師のキャリアパスも踏まえた実効性のある地域及び診療科の医師偏在対策を推進する。**2022年度以降の医学部定員について、定期的に医師需給推計を行った上で、医学部定員の減員に向け、医師養成数の方針について検討する。**

新型コロナウイルス感染拡大の影響

当初、大学医学部の定員設定に向けた準備期間を十分にとる観点から、2020年4月までを目途に、医師需給推計の結果を踏まえ、2022年以降の医師養成数の方針を示す予定としていた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、2020年4月までの間に十分な議論を行うことができなかった。

医学部入学定員と地域枠の年次推移

- 平成20年度以降、**医学部の入学定員を過去最大規模まで増員**。
- 医学部定員に占める**地域枠等***の数・割合も、**増加**してきている。
(平成19年度183人(2.4%) → 令和2年1679人(18.2%))
 - ・地域枠等* : 地域医療に従事する医師を養成することを主たる目的とした学生を選抜する枠であり、地元出身者を選抜する枠や大学とその関連病院に勤務することを目的とした枠も含む。奨学金貸与の有無を問わない。



	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
医学部定員	7625	7793	8486	8846	8923	8991	9041	9069	9134	9262	9420	9419	9420	9330
地域枠等以外の医学部定員	7452	7395	7780	7697	7709	7713	7670	7649	7628	7667	7807	7757	7745	7651
地域枠等	173	398	706	1149	1214	1278	1371	1420	1506	1595	1613	1662	1675	1679
地域枠等の割合	2.3%	5.2%	8.4%	13.2%	13.8%	14.4%	15.4%	15.9%	16.7%	17.5%	17.3%	17.9%	18.0%	18.2%

※自治医科大学は、設立の趣旨に鑑み地域枠等からは除く。

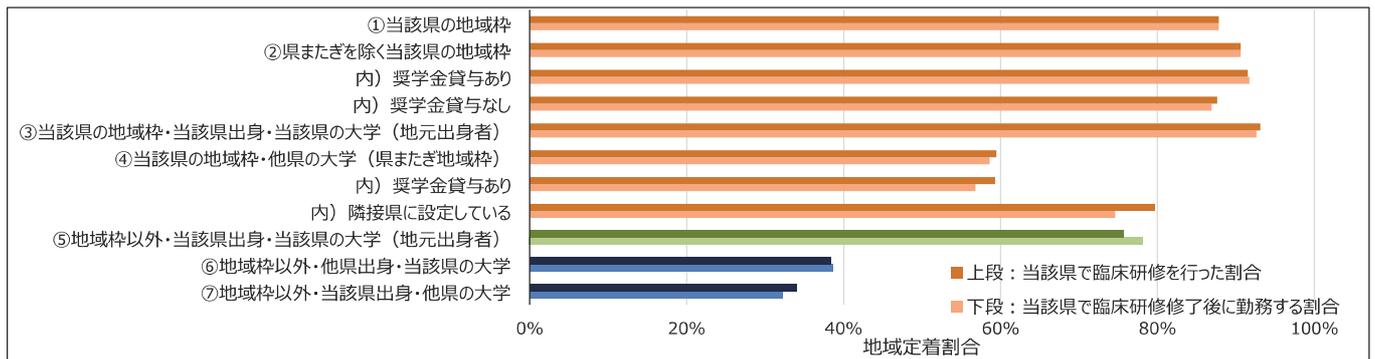
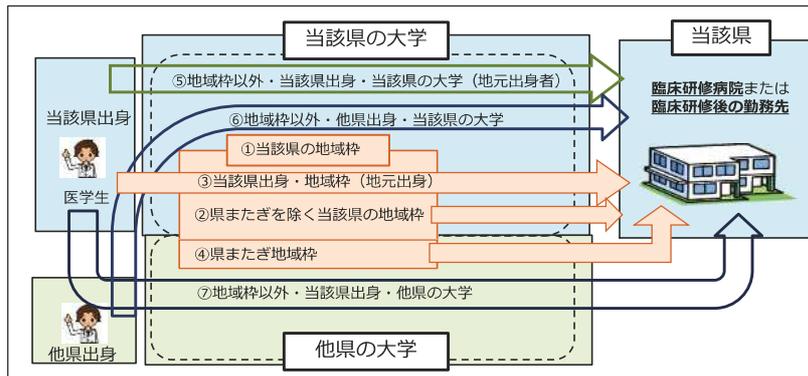
(地域枠等及び地域枠等を要件とした臨時定員の人数について、文部科学省医学教育課調べ)

7

地域枠・地域枠以外の地域定着割合

医療従事者の需給に関する検討会
第35回 医師需給分科会
令和2年8月31日 資料2 一部改変

- 医学部卒業後の医師定着割合を比較すると、**地域枠以外の医師の地域定着割合は低い**。
- 地域枠以外であっても、**当該県出身かつ当該県の大学出身の場合、医師の地域定着割合は比較的高い**。



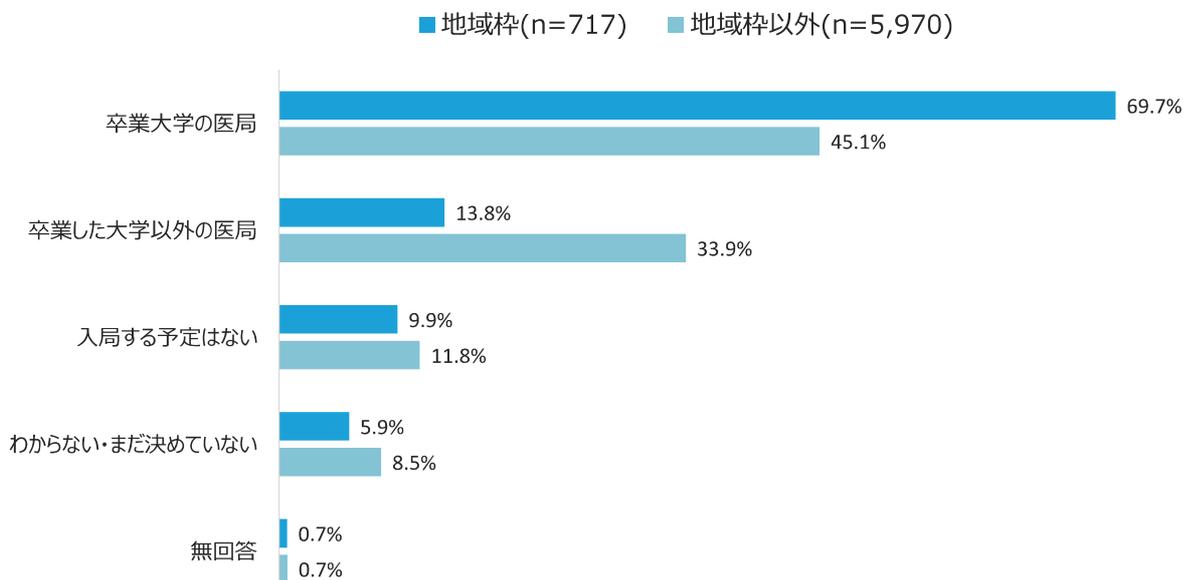
※ 出身地又は大学が海外の場合及び当該項目について無回答の場合は除外。
 ※ 出身地：高校等を卒業する前までに過ごした期間が最も長い都道府県。
 ※ 県またぎ地域枠：出身大学の所在地以外の都道府県(当該県)における勤務義務がある地域枠。
 ※ 防衛医科大学及び産業医科大学は除外。自治医科大学については県またぎ地域枠についてのみ除外。

出典：臨床研修修了者アンケート調査(平成29～31年) 厚生労働省調べ

8

臨床研修修了後の大学の医局への入局予定 (地域枠・地域枠以外の入学者別)

地域枠入学者は地域枠以外の入学者に比べ、臨床研修修了後に卒業大学の医局に入局する割合が高い。



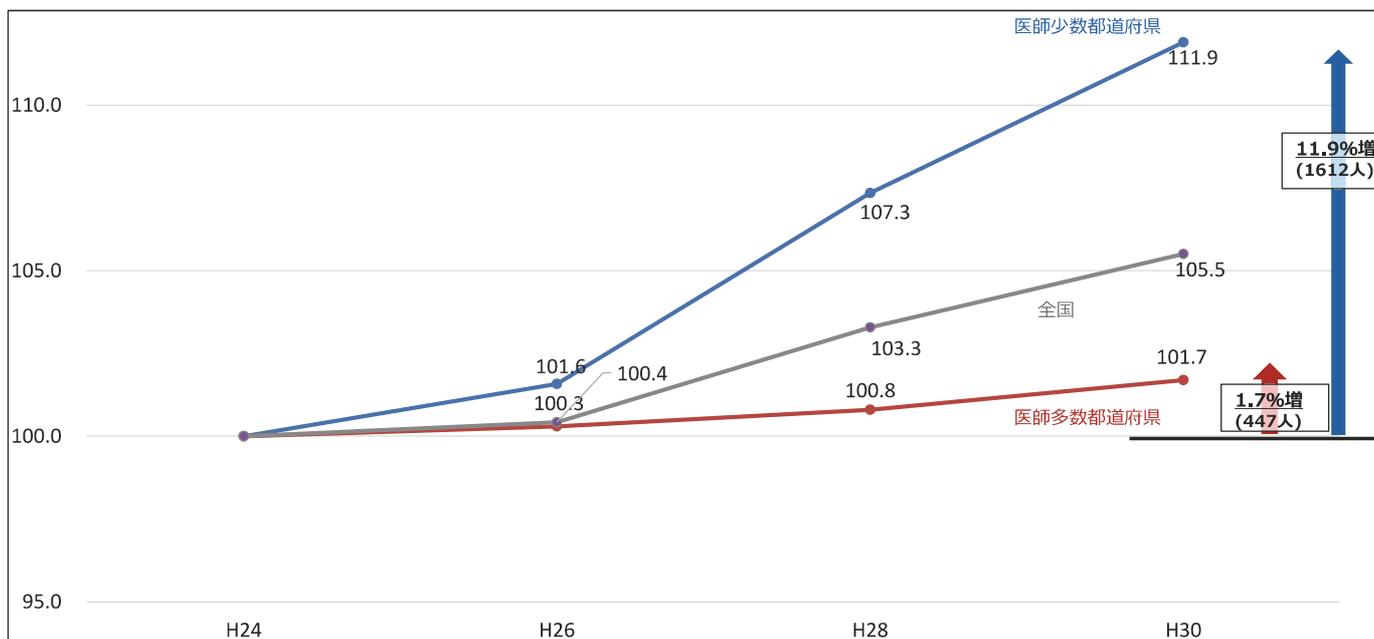
出典：平成31年臨床研修アンケート

9

35歳未満の医療施設従事医師数推移（平成24年を100とした場合）

医療従事者の需給に関する検討会 第36回 医師需給分科会
令和2年11月18日 資料1 一部改変

- 平成20年からの臨時定員（地域枠）の増員による地域偏在是正効果は、平成26年より顕在化する。
- 平成26年の前後で比較すると、医師少数都道府県の若手の医師数は、医師多数都道府県と比較し、大きく伸びている。



※医師多数都道府県：医師偏在指標の上位33.3%の都道府県
 医師少数都道府県：医師偏在指標の上位33.3%の都道府県
 医師少数・多数以外都道府県：医師偏在指標の上位・下位33.3%以外の都道府県

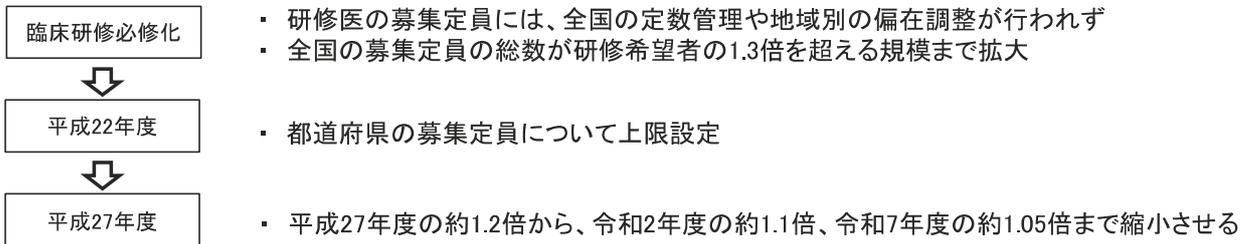
出典：医師・歯科医師・薬剤師調査（厚生労働省）

10

臨床研修医の募集定員倍率

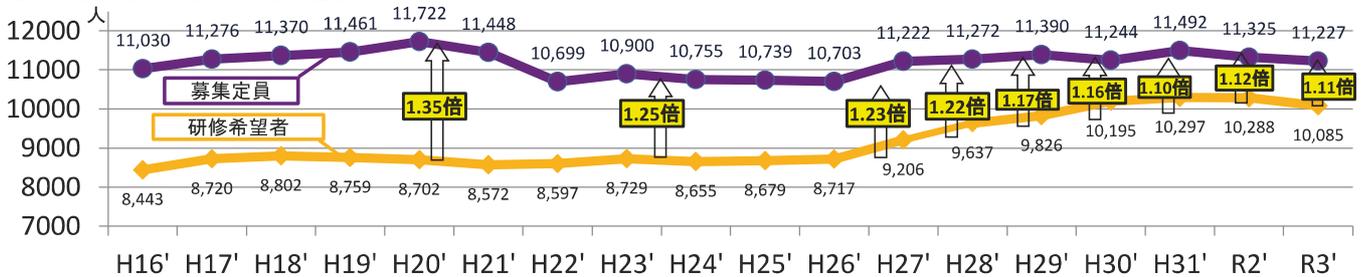
第31回医師需給分科会
令和元年11月27日
一部改変

○ 臨床研修の必修化後、研修医の募集定員が研修希望者の1.3倍を超える規模まで拡大し、研修医が都市部に集中する傾向が続いた。平成22年度の研修から都道府県別の募集定員上限を設定し、平成27年度には1.22倍まで縮小。今後、令和2年度には約1.1倍まで、令和7年度には約1.05倍まで縮小させる。



$$\frac{\text{全国の臨床研修募集定員数}}{\text{全国の臨床研修希望者数}} = \text{臨床研修医の募集定員倍率 (平成27年度 約1.2倍)}$$

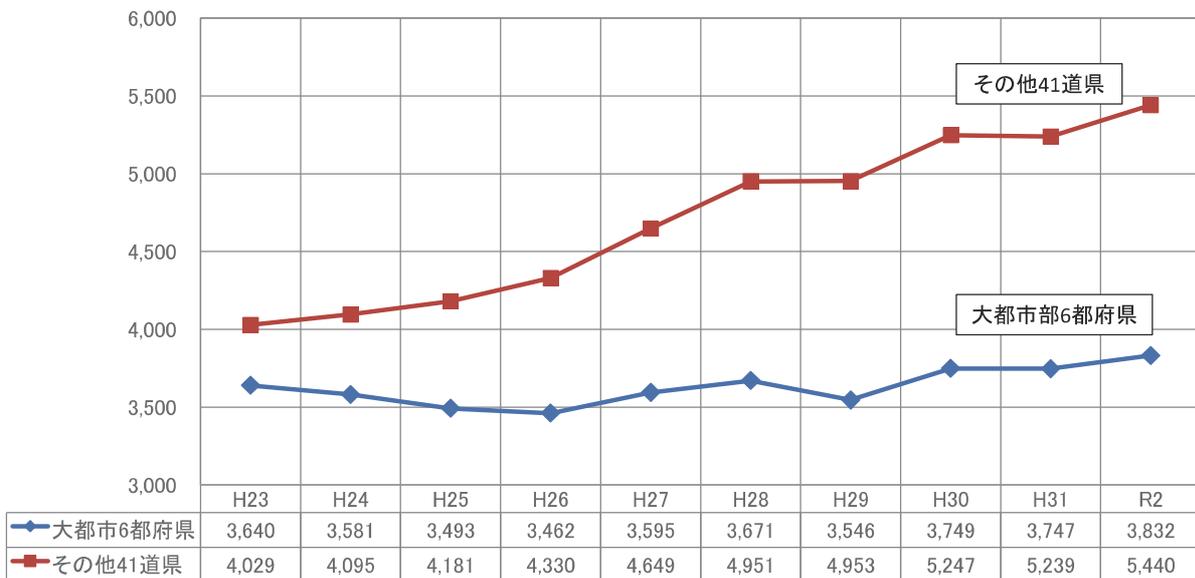
研修医の募集定員・研修希望者数の推移



臨床研修医の採用実績について

大都市部6都府県(東京、神奈川、愛知、京都、大阪、福岡)とその他41道県の採用数を比較すると、後者の採用実績が大きく増加。

採用者数の推移



令和3年度からの臨床研修医募集における都道府県別の募集定員上限の見直しについて

背景

- 平成16年度に新たな医師臨床研修制度が導入されて以降、**研修医が特定の地域に集中しやすい状況にあるとの指摘**がされていた。
- 平成22年度から都道府県別の募集定員上限を設けられ、平成27年度の研修からは全国の募集定員の合計を研修希望者数に徐々に近づける目標設定をすることで、**研修医の都市部への集中が是正されるよう取り組みが行われていた。**

今回の見直しに至る経緯

- 令和3年度からの定員の算出については、平成30年の医師臨床研修部会報告書において、医学部入学定員による募集定員の算定に当たっては一定の上限を設けること、地理的条件等の加算を増加させること等により、**全体として大都市圏の都府県の募集定員を圧縮し、それ以外の道県の募集定員を確保することとされた。**
- さらに、令和元年11月の医師需給分科会で、臨床研修内定者数の傾向から現行の定員配置の方法では、**偏在是正効果が弱まっている事が指摘されたことを受け**、平成30年の医師臨床研修部会報告書とりまとめ後に医師偏在指標等のより精緻な指標が公表されたこと等を考慮し、**令和2年1月の医師臨床研修部会において、下記の計算方法の見直しが決**定された。

令和3年度研修からの都道府県ごとの定員の算出方法

※1 令和7年までに段階的に1.05まで縮小
※2 令和7年までに段階的に縮小・廃止

■全国の募集定員上限

研修希望者数 × 1.09^{※1} + 前年度の定員上限と募集定員の差分 × 4/5^{※2}

倍率の外側での加算を縮小し、厳格な定員管理を可能とする

■各都道府県の募集定員上限

①人口分布

都道府県の人口/全国の総人口

②医師養成状況

医学部の入学定員/全国の医学部入学定員

研修医総数を①と②の多い方の割合で按分

③地域枠による加算

奨学金貸与者数 × 1.09^{※1}

採用実績による加算を廃止し、新規に導入

④地理的条件等の加算

- (1)100kmあたり医師数^{※3}
- (2)離島の人口^{※3}
- (3)医師少数区域の人口^{※4}
- (4)都道府県間の医師偏在状況^{※5}

より精緻な指標による加算に変更

人口分布による算出の1.2倍を限度とする

前年度採用数±5から変更

⑤激変緩和(前年度の採用数保障)

①~④の合計が前年度の採用実績に満たない場合、前年度採用数を当該都道府県の上限とする

※3 それぞれに一定の係数をかけた値を加算
※4 残りの定数に 都道府県の医師少数区域の人口/全国の人口 をかけた数を加算
※5 さらに残った数を、都道府県間の医師偏在状況に応じて按分

13

新専門医制度の採用数上限設定(シーリング)にかかる経緯

2018年度より開始された新専門医制度では、下記の通り採用数の上限設定(シーリング)が設定されている。

(2018年度開始専攻医)

- ・ 日本専門医機構により、**五大都市(東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、福岡県)**について、各診療科(外科、産婦人科、病理、臨床検査および総合診療科以外)のシーリング数として**過去5年間の採用数の平均**が設定された。

(2019年度開始専攻医)

- ・ 引き続き五都府県に2018年度と同様のシーリングを実施。ただし、2018年度専攻医が東京都に集中したことを受け、**東京都のシーリング数を5%削減した。**

(2020年度開始専攻医)

- ・ 厚生労働大臣からの意見・要請を踏まえ、日本専門医機構が、厚生労働省の発表した**都道府県診療科別必要医師数を基に**、各都道府県別診療科の必要医師数に達している診療科に対して、**一定のシーリングを設定し**、募集を行った。

(2021年度開始専攻医)

- ・ 日本専門医機構がシーリングを検討するための協議体を設置し、各学会や都道府県からのヒアリング等を踏まえ検討がなされ、**2020年度と同様の考え方**に基づき、一部修正を加えたシーリングを設定した。

必要医師数と2021年度専攻医募集におけるシーリングの考え方

日本専門医機構資料一部引用

必要医師数の 計算方法 (厚生労働省試算)

①

2018年 都道府県別 各診療科 医師数 (平成30年医師・歯科医師・薬剤師統計)					
	内科	小児科	...	形成外科	リハビリテーション科
北海道	4944	631		101	108
青森県	937	130		16	12
岩手県	926	142		24	18

	2018年	2024年	2030年	2036年	必要養成数に係る推計				
	② 2018年医師数 (仕事量)	③ 必要医師数 (勤務時間調整後)	④ 必要医師数 (勤務時間補正後)	必要医師数 (勤務時間補正後)	⑤ 維持するための年間養成数 (2018年の医師数を維持)	⑥ 達成するための年間養成数 (2024年の必要医師数を達成)	達成するための年間養成数 (2030年の必要医師数を達成)	達成するための年間養成数 (2036年の必要医師数を達成)	
北海道	4,824	5,614	5,820	5,913	5,845	106	253	190	160
青森県	899	1,435	1,446	1,424	1,383	21	102	61	46

①→②：性年齢階級別勤務時間比を掛け、診療科別に性年齢構成を調整した仕事量を算出

②→③：診療科別に週60時間以上の勤務時間が削減された場合の医師数を計算

③→④：診療科別の推計患者数を用いて必要医師数を計算（各診療科の対応表等に将来人口推計を用いて診療科ごとの将来の患者数を推計）

⑤、⑥：診療科別の生残率などを考慮し、将来時点の必要医師数が満たされるよう年間必要養成数を算出

2021年度専攻医におけるシーリングの基本的な考え方

2018年度、2019年度においては、過去5年間の採用数の平均を用い、5大都市のみにシーリングの設定を行ったが、2020年度においては、必要医師数および必要養成数を基に根拠ある新しいシーリングの考え方を導入を厚生労働省は提案し、日本専門医機構がシーリング案をまとめた。日本専門医機構は、2021年度についても2020年度と同様の考え方に基づいたシーリング案をまとめた。

シーリングの対象

- 「2018年医師数」が「2018年の必要医師数」および「2024年の必要医師数」と同数あるいは上回る都道府県別診療科
- 例外として、外科・産婦人科・病理・臨床検査・救急・総合診療科の6診療科はシーリングの対象外とする

シーリング数

「2018年,2019年,2020年の平均採用数」から

（「2018年,2019年,2020年の平均採用数」－「2024年の必要医師数を達成するための年間養成数」）×20% を除いた数とする

※実際は、日本専門医機構が激変緩和策として、連携プログラムなどをシーリング数の外枠で設けている

15

2020年専攻医募集 都道府県別一覧表

都道府県 (※1)	2019年 採用実績	2020年 応募者 (※2)	2020年 採用者	増減率
1 北海道	317	309	305	-3.8%
2 青森県	72	68	68	-5.6%
3 岩手県	65	74	71	9.2%
4 宮城県	142	172	172	21.1%
5 秋田県	49	56	55	12.2%
6 山形県	66	58	57	-13.6%
7 福島県	76	87	87	14.5%
8 茨城県	142	135	134	-5.6%
9 栃木県	121	122	122	0.8%
10 群馬県	78	85	84	7.7%
11 埼玉県	256	351	343	34.0%
12 千葉県	332	382	381	14.8%
13 東京都	1770	1827	1783	0.7%
14 神奈川県	516	553	546	5.8%
15 新潟県	95	124	123	29.5%
16 富山県	53	52	52	-1.9%
17 石川県	122	117	113	-7.4%
18 福井県	50	57	57	14.0%
19 山梨県	57	53	53	-7.0%
20 長野県	109	124	124	13.8%
21 岐阜県	85	111	111	30.6%
22 静岡県	150	174	173	15.3%
23 愛知県	476	524	520	9.2%
24 三重県	94	102	102	8.5%

	2019年 採用実績	2020年 応募者	2020年 採用者	増減率
25 滋賀県	89	88	87	-2.2%
26 京都府	269	260	260	-3.3%
27 大阪府	652	702	683	4.8%
28 兵庫県	381	456	454	19.2%
29 奈良県	97	115	115	18.6%
30 和歌山県	67	90	90	34.3%
31 鳥取県	55	54	53	-3.6%
32 島根県	44	46	46	4.5%
33 岡山県	221	244	243	10.0%
34 広島県	141	147	145	2.8%
35 山口県	46	59	59	28.3%
36 徳島県	65	50	48	-26.2%
37 香川県	59	37	37	-37.3%
38 愛媛県	65	85	85	30.8%
39 高知県	36	44	44	22.2%
40 福岡県	444	450	424	-4.5%
41 佐賀県	53	53	53	0.0%
42 長崎県	111	87	87	-21.6%
43 熊本県	122	113	113	-7.4%
44 大分県	61	58	58	-4.9%
45 宮崎県	52	45	45	-13.5%
46 鹿児島県	107	106	105	-1.9%
47 沖縄県	85	113	112	31.8%
計	8615	9219	9082	5.4%

※1 赤字は2020年の採用数の伸びが全国平均(5.4%)以上の増加率の都道府県

※2 一次募集～最終調整期間までのうち、最後に応募した都道府県でカウント

16

2020年専攻医募集 診療科別一覧表

	内科	小児科	皮膚科	精神科	外科	整形外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	泌尿器科
2018採用数	2670	573	271	441	805	552	441	328	267	274
2019採用数	2794	548	321	465	826	514	436	334	282	255
2020採用数	2923	565	304	517	829	671	476	344	266	323

	脳神経外科	放射線科	麻酔科	病理	臨床検査	救急科	形成外科	リハビリ科	総合診療
2018採用数	224	260	495	114	6	267	163	75	184
2019採用数	252	234	489	118	19	286	193	69	180
2020採用数	247	247	455	102	14	279	215	83	222

※赤字は2020年の採用数が2019年から増加した診療科

17

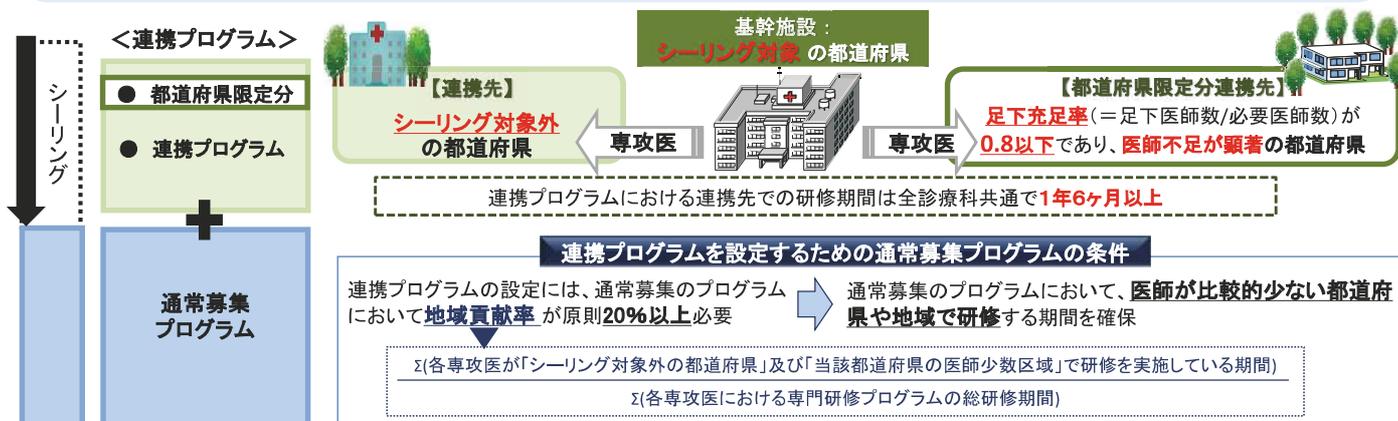
専門研修における連携プログラム

連携プログラムの概要

基幹施設がシーリング対象の都道府県において、一定の条件の下、通常のプログラムに加え、シーリング対象外の都道府県において1年6ヵ月以上研修を行うプログラム(連携プログラム)を策定できるとされている。

<見込まれる効果>

- ① 基幹施設としては十分な研修体制を整備できない都道府県において、研修プログラムの一貫として勤務する専攻医が増加する。
- ② 連携プログラムを設置する前提条件を満たすため、通常プログラムにおける医師が比較的少ない都道府県や地域での研修期間が長くなる。
- ③ 多様な地域での経験を積んだ専門医が多く養成され、医師の質の向上にもつながり得る。



連携プログラムの計算方法

- 連携(地域研修)プログラム採用数=

(過去3年の平均採用数 - 2024年の必要医師数を達成するための年間養成数) ×

- 20% : (専攻医充足率^{※1} ≤ 100%の診療科の場合)
- 15% : (100% < 専攻医充足率 ≤ 150%の診療科の場合)
- 10% : (専攻医充足率 > 150%の診療科の場合)

- 都道府県限定分=上記連携(地域研修)プログラムのうちの**5%分**

【2020年度の連携(地域研修プログラム)の実績】

シーリング対象となった都道府県別診療科は77

・そのうち、連携(地域研修)プログラムを設定した都道府県別診療科は41

・そのうち、都道府県限定分を設定した都道府県診療科は29

※1 診療科の専攻医充足率 = $\frac{\text{過去3年の専攻医採用数の平均}}{\text{2024年の必要医師数を達成するための年間養成数} \times \text{補正項}^{※2}}$

※2 補正項 = $\frac{\text{過去3年の平均数の全診療科合計}}{\text{年間養成数の全診療科合計}}$

18

臨床研修

(令和元年度第2回医道審議会医師分科会医師臨床研修部会資料 (R1/7/3) より抜粋)

- 県や大学に十分に確認することなく、**県や大学が地域枠離脱を妥当と評価していない研修希望者を採用決定した臨床研修病院に対して**、臨床研修部会でヒアリングを行った上で、規定に則り**医師臨床研修費補助金の減額等を行うこと**について、どう考えるか。(→ 令和元年度より開始した。)
- 上記補助金の減額等に加えて、募集定員の減員^(※)又は臨床研修病院の指定の取消しを行うことについて、どう考えるか。(→ 今後検討予定。)

※ 改正医師法(平成30年法律第79号)に基づき、令和2年度からは各臨床研修病院の募集定員設定は都道府県が行うことになるが、例えば、国が都道府県毎の募集定員の上限定の際に、他県の地域枠の研修希望者を採用した臨床研修病院の所在する都道府県の定員上限を減員する、などの対応が考えられる。

専門研修

(厚生労働大臣から日本専門医機構への意見及び要請 (H30/10/16) より抜粋)

- 地域枠医師が、各都道府県内の専門研修プログラムに優先的に採用され、**他の都道府県の基幹病院による採用を制限される等の仕組みを整えること。**

(厚生労働大臣から日本専門医機構への意見及び要請 (R2/10/5) より抜粋)

- 今後、都道府県の同意を得ずに地域枠を離脱し、専門研修を開始した者については、原則、日本専門医機構の専門医の認定を行わないこと。認定する場合も、都道府県の上承を得ること。(→ 日本専門医機構が実施。)

19

地域枠医師への対応についての意見・要請

大臣から日本専門医機構への意見・要請及び機構からの回答(令和2年10月)

- 今後、都道府県の同意を得ずに地域枠を離脱し、専門研修を開始した者については、原則、日本専門医機構の専門医の認定を行わないこと。認定する場合も、都道府県の上承を得ること。

【回答】

都道府県の同意を得ずに地域枠を離脱し、専門研修を開始した専攻医への取り扱いについては、基本領域学会との協議し、原則、日本専門医機構の専門医の認定をおこないません。認定する場合も都道府県の上承を得られた場合に限ることといたします。

- 採用プロセス及び研修開始後において、専攻医が都道府県の同意を得ずに地域枠から離脱をしていないことを都道府県に確認すること。

【回答】

日本専門医機構のプログラムシステムに登録された専攻医について、都道府県の同意を得ずに離脱したものがいないことを都道府県に確認をいたします。

- 研修開始後に都道府県の同意を得ていないことが判明した場合は、専門研修中に従事要件を満たした研修を行うよう、プログラム統括責任者が指導し、ローテーションにおいても変更することを含め配慮するよう努めること。

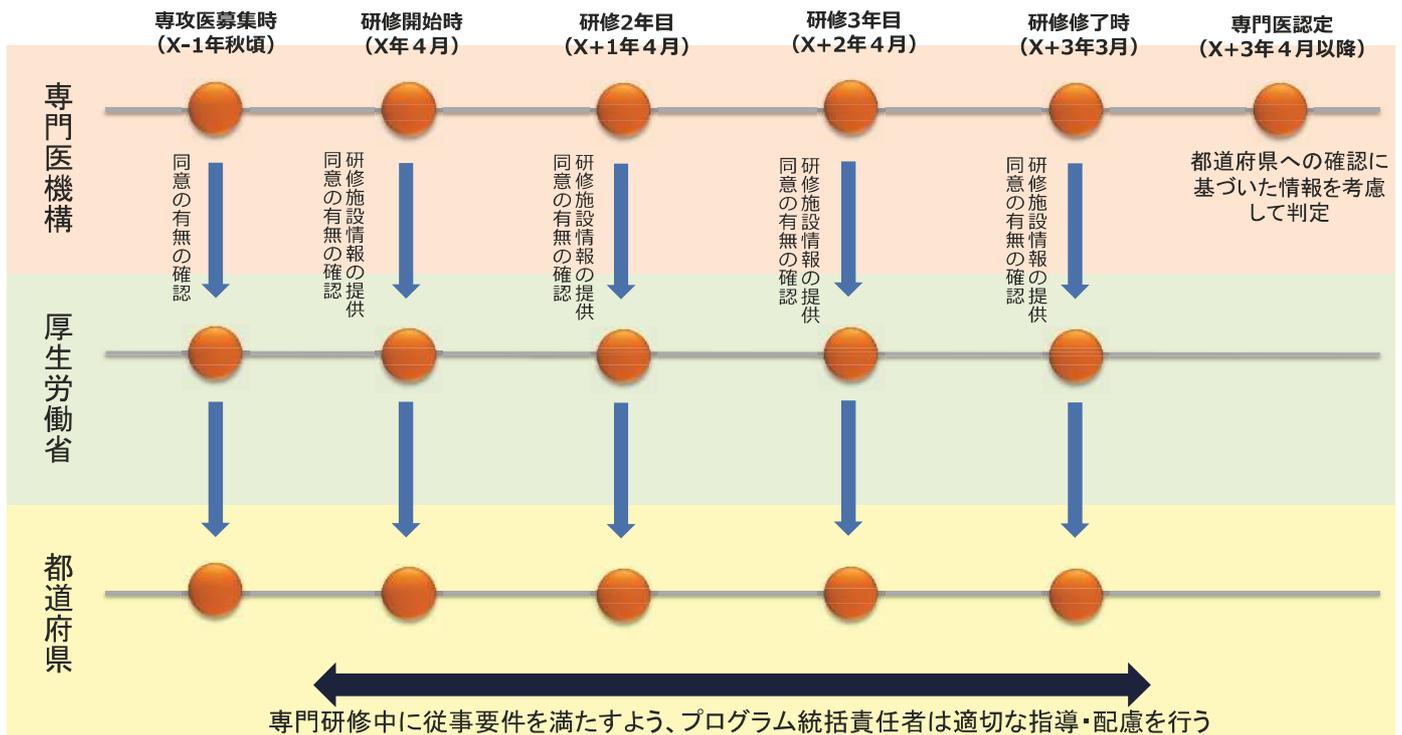
【回答】

研修開始後に都道府県の同意を得ていないことが判明した場合につきましては、プログラム統括責任者と専攻医に対し、従事要件を満たした研修を行うよう、当機構からも働きかけをさせていただきたいと思っております。

20

従事要件の確認のイメージ(案)

令和2年度 第2回
医師専門研修部会 資料3
令和2年7月17日



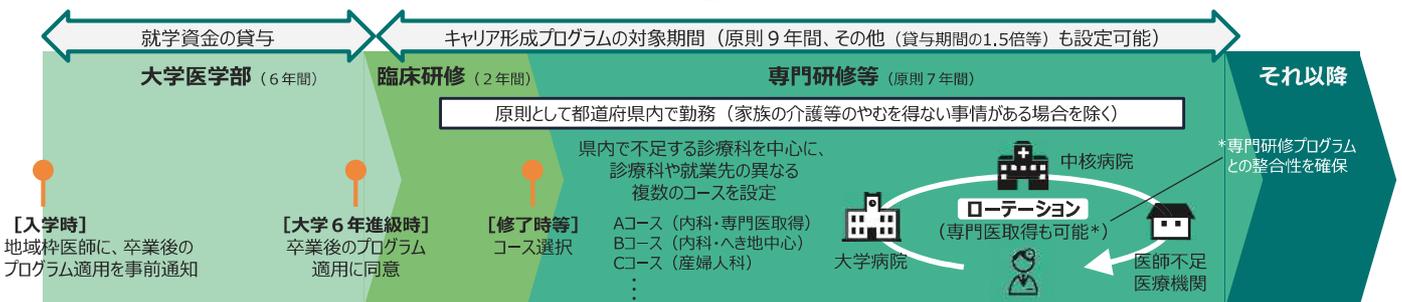
キャリア形成プログラムについて

医療従事者の資格に関する検討会
第23回 医事審議分科会
平成30年10月24日
資料2

都道府県は、地域医療対策協議会において協議が調った事項に基づき、「医師不足地域における医師の確保」と「医師不足地域に派遣される医師の能力開発・向上の機会の確保」の両立を目的とするキャリア形成プログラムを策定することとされている。

※医療法及び医師法の一部を改正する法律（平成30年法律第79号）により地域医療支援事務として医療法に明記
キャリア形成プログラムの詳細については、医療法施行規則（省令）及びキャリア形成プログラム運用指針（通知）に規定

<キャリア形成プログラムに基づくキャリア形成のイメージ>



<キャリア形成プログラムの対象者>

- 都道府県が修学資金を貸与した地域枠医師
- それ以外の地域枠医師（任意適用）
- 自治医科大学卒業医師（平成30年度入学者までは任意適用）
- その他プログラムの適用を希望する医師

<キャリア形成プログラムに基づく医師派遣>

大学による医師派遣との整合性を確保するため、地域医療対策協議会で派遣計画案を協議
※地域医療構想における機能分化・連携の方針との整合性を確保する
※理由なく公立・公的医療機関に偏らないようにする

対象者の地域定着促進のための方策

<対象者の納得感の向上と主体的なキャリア形成の支援>

- 都道府県は、学部生段階から地域医療や職業選択について考える機会を対象者に提供し、適切なコース選択を支援する
- 都道府県は、対象者の希望に対応したプログラムとなるよう努め、診療科や就業先の異なる複数のコースを設定する
- 都道府県は、コースの設定・見直しに当たって、対象者からの意見を聴き、その内容を公表し反映するよう努める
- 出産、育児等のライフイベントや、海外留学等の希望に配慮するため、プログラムの一時中断を可能とする（中断可能事由は都道府県が設定）

<プログラム満了前の離脱の防止>

- キャリア形成プログラムは都道府県と対象者との契約関係であり、対象者は満了するよう真摯に努力しなければならないことを通知で明示
- 一時中断中は、中断事由が継続していることを定期的な面談等により確認（中断事由が虚偽の場合は、契約違反となる）
- 都道府県は、キャリア形成プログラムを満了することを、修学資金の返還免除要件とする（家族の介護等のやむを得ない事情がある場合を除く）
- 都道府県は、修学資金について適切な金利を設定する

医師確保計画を通じた医師偏在対策について

医療従事者の需給に関する検討会
第23回 医師需給分科会（平成30年10月24日）
資料1（抜粋・一部改変）

背景

- ・ 人口10万人対医師数は、医師の偏在の状況を十分に反映した指標となっていない。
- ・ 都道府県が主体的・実効的に医師確保対策を行うことができる体制が十分に整っていない。

医師の偏在の状況把握

医師偏在指標の算出

三次医療圏・二次医療圏ごとに、**医師の偏在の状況を全国ベースで客観的に示す**ために、地域ごとの医療ニーズや人口構成、医師の性年齢構成等を踏まえた**医師偏在指標**の算定式を国が提示する。

医師偏在指標で考慮すべき「5要素」

- ・ 医療需要（ニーズ）及び将来の人口・人口構成の変化
- ・ 医師の性別・年齢分布
- ・ 患者の流入等
- ・ 医師偏在の種別（区域、診療科、入院/外来）
- ・ へき地等の地理的条件

医師多数区域・医師少数区域の設定

全国の335二次医療圏の医師偏在指標の値を一律に比較し、上位の一定の割合を医師多数区域、下位の一定の割合を医師少数区域とする基準を国が提示し、それに基づき都道府県が設定する。



国は、都道府県に医師確保計画として以下の内容を策定するよう、ガイドラインを通知。

『医師確保計画』（＝医療計画に記載する「医師の確保に関する事項」）の策定

医師の確保の方針

（三次医療圏、二次医療圏ごとに策定）

医師偏在指標の大小、将来の需給推計などを踏まえ、地域ごとの医師確保の方針を策定。

- （例）
- ・ 短期的に医師が不足する地域では、医師が多い地域から医師を派遣し、医師を短期的に増やす方針とする
 - ・ 中長期的に医師が不足する地域では、地域枠・地元出身者枠の増員によって医師を増やす方針とする等

確保すべき医師の数の目標（目標医師数）

（三次医療圏、二次医療圏ごとに策定）

医師確保計画策定時に、3年間の計画期間の終了時点で確保すべき目標医師数を、医師偏在指標を踏まえて算出する。

目標医師数を達成するための施策

医師の確保の方針を踏まえ、目標医師数を達成するための具体的な施策を策定する。

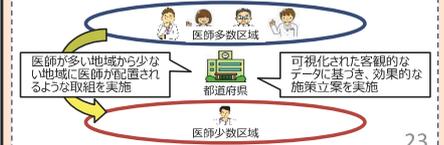
- （例）
- ・ 大学医学部の地域枠を15人増員する
 - ・ 地域医療対策協議会で、医師多数区域のA医療圏から医師少数区域のB医療圏へ10人の医師を派遣する調整を行う

3年*ごとに、都道府県において計画を見直し（PDCAサイクルの実施）



* 2020年度からの最初の医師確保計画のみ4年（医療計画全体の見直し時期と合わせるため）

都道府県による医師の配置調整のイメージ



医師少数区域等で勤務した医師を認定する制度について

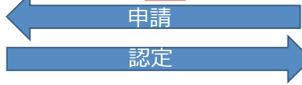
- 医師少数区域等における勤務の促進のため、医師少数区域等に一定期間勤務し、その中で医師少数区域等における医療の提供のために必要な業務を行った者を厚生労働大臣が認定する。

認定に必要な勤務期間や業務内容



厚生労働省

申請に基づき、**厚生労働大臣**が医師少数区域等における医療に関する経験を**認定**



医師

医師少数区域等における6か月以上*¹の勤務*²

- *¹ 医師免許取得後10年以内の場合は、原則として連続して勤務（妊娠・出産等による中断は可）するが、10年目以降の場合は、断続的な勤務の積算も可。
- *² 認定の対象となるのは、2020年度以降の勤務とする。（臨床研修中の期間を除く。）



医師少数区域等の医療機関

【申請内容】

- 勤務した医療機関名と所在地
 - 勤務した期間
 - 業務内容等
- 申請の際には、医師少数区域等での医師の勤務状況に対する認定制度の影響を測るため、認定の対象となる勤務の直前の勤務地等についても申告する。

<認定に必要な業務>

- (1) 個々の患者の生活背景を考慮し、幅広い病態に対応する継続的な診療や保健指導（患者の専門的な医療機関への受診の必要性の判断を含む。）
 - ・ 地域の患者への継続的な診療
 - ・ 診療時間外の患者の急変時の対応
 - ・ 在宅医療
- (2) 他の医療機関や、介護・福祉事業者等との連携
 - ・ 地域ケア会議や退院カンファレンス等への参加
- (3) 地域住民に対する健康診査や保健指導等の地域保健活動
 - ・ 健康診査や保健指導等の実施

認定医師等に対するインセンティブ

① 一定の病院の管理者としての評価

- ・ 地域医療支援病院のうち医師派遣・環境整備機能を有する病院*の管理者は、認定医師でなければならないこととする。（2020年度以降に臨床研修を開始した医師を管理者とする場合に限る。）

* 管理者要件に認定医師であることを加える病院の範囲については、施行後の認定制度の普及状況等を踏まえ見直しの必要性について検討する。

② 認定医師に対する経済的インセンティブ

- ・ 認定を取得した医師が医師少数区域等で診療を実施する際の医療レベルの向上や取得している資格等の維持に係る経費（研修受講料、旅費等）について支援を行う。

都道府県が主体的・実効的に医師偏在対策を講じることができる体制整備

基本的な考え方

- 都道府県が、地域の医療ニーズを踏まえて、地域医療構想等の地域の医療政策と整合的に、医師確保対策を主体的に実施することができるような仕組みとしていく必要。
- 特に、今後臨床研修を終える地域枠の医師が増加し、医師派遣等において都道府県の役割が増加することも踏まえ、都道府県が大学、医師会等の管内の関係者と連携して医師偏在対策を進めていくことができる体制を構築する必要。

対策のコンセプト

(1) 医師確保に関する施策立案機能の強化

○医師偏在指標の導入

- ・医師偏在の度合いを示すことによって、都道府県内で**医師が多い地域と少ない地域が可視化**されることになる。
- ・医師偏在指標を用いて、都道府県知事が医師偏在の度合いに応じて、都道府県内の「医師少数区域（仮称）」「医師多数区域（仮称）」を指定し、**具体的な医師確保対策に結びつけて実行**できるようにする。

○「医師確保計画」の策定

- ・医師偏在指標に基づき、地域ごとに医師確保の目標／目標達成のための対策を策定し、PDCAサイクルの下で進捗管理を行う。

(2) 医師養成過程への関与の法定化

【医学部】

- ・医師が少ない都道府県の知事が、大学に対し、**入学枠に地域枠・地元出身者枠の設定・増員を要請**

【臨床研修】

- ・**臨床研修病院の指定・定員設定権限**を国から**都道府県に移譲**

【専門研修】

- ・**都道府県**の意見を聴いた上で国が地域医療の観点から、**日本専門医機構等に対して意見を述べる仕組み**を法定

(3) 関係機関と一体となった体制の整備

○地域医療対策協議会の機能強化

- ・具体的な医師確保対策の実施を担う医療機関を中心に**構成員を再構成**。
- ・都道府県・大学・医師会・主要医療機関等が合意の上、**医師派遣方針、研修施設・研修医の定員等を決定**。

○地域医療支援事務の見直し

- ・地域医療支援事務の実効性を強化するため、**必ず大学医学部・大学病院との連携の下に**実施されるよう、地域医療対策協議会における協議に基づいて実施。

25

論点

- 一連の医師偏在対策の中で、今後の地域枠医師の活用について、どのように考えるか。
- それ以外の医師偏在対策として、どのような対策を強化するべきと考えるか。

26

【資料2】

医療従事者の需給に関する検討会 医師需給分科会 第5次中間とりまとめ（案）

令和4年〇月〇日
医療従事者の需給に関する検討会
医師需給分科会

1. はじめに

- 医師需給分科会（以下「分科会」という。）は、平成27年12月10日の第1回会合から計39回にわたり開催され、人口構造の変化や地域の実情に応じた医療提供体制を構築するため、将来の医師需給推計（全国レベル）、医師偏在対策等について検討を重ね、これまで4つの中間とりまとめを公表し、これらのとりまとめを踏まえて、関係者において様々な取組が行われてきている。
- とりわけ、平成29年に発出した第2次中間とりまとめによる新たな医師偏在対策への提言は、翌年の医療法、医師法の改正につながり、さらに平成31年3月の第4次中間とりまとめは、医師偏在指標の算出や多数地域・少数地域の設定等を通して具体的方策を提案するなど、医師の地域偏在対策の新たな展開をもたらした。
- 第4次中間とりまとめ以降、「経済財政運営と改革の基本方針2019」（令和元年6月21日閣議決定）において、令和4年度以降の医学部定員について、定期的に医師需給推計を行った上で、医学部定員の減員に向け、医師養成数の方針について検討することとされたこと等を踏まえ、医師需給推計や地域枠の考え方等について継続的に検討を重ねてきた。今回の第5次中間とりまとめでは、これまでの取組を総括するとともに、令和5年度の臨時定員を含め、今後の医師需給の考え方について整理を行う。

2. 医師の養成数と医師需給推計について

- 医師養成数については、平成20年度より、特定の地域や診療科での勤務を条件とした地域枠等を中心に、段階的に医学部定員を増員（令和2年度臨時定員933名、総定員9,330名）することにより、全国レベルで医師数は毎年3,500人～4,000人ずつ増加しており（平成30年12月時点で327,210人）、現行定数であれば今後もこの傾向が続くことが見込まれる。
- 将来時点での医師の需給バランスをより正確に予測するため、従来の需給推計方法を精緻化した上で、令和2年に医師需給推計の見直しを行った。具体的には、供給推計においては、今後の医学部定員を令和2年度の9,330人とし、海外医学部卒医師の将来的な伸びなどについて一定の仮定をおくとともに、需要推計においては、地域医療構想を踏まえ、病床の機能区分ごとに、必要な医師数を見込み、「医師の働き方改革に関する検討会 報告書」を踏まえ、労働時間上限について3つのパターンに分けて仮定をおいて需給推計を行った。その結果、医師の需給は、労働時間を一般労働者に適応される同程度の水準である週60時間を上限とする等の仮定をおく「需要ケース2」において、令和5年度の医学部入学者が医師となると予想される令和11年頃に均衡すると推計される。

3. 医師偏在対策の概要について

- 各地域の医療ニーズに見合った医療提供体制を構築し、医療資源の最適配置を実現する観点から、地域医療構想の推進と合わせて、良質な医師の養成を図りつつ医師の地域偏在や診療科偏在に対処する取組を進めてきた。
- 本分科会にて、地域枠の在り方、臨床研修定員の偏在是正の在り方、診療科別・都道府県別必要医師数等について一体的に検討を行っており、それを踏まえて医道審議会医師分科会医師臨床研修部会における臨床研修医の都道府県別定員の設定や医道審議会医師分科会医師専門研修部会における診療科別・都道府県別の専攻医採用数の上限設定等について検討が行われている。

(1) 医学部における「地域枠等」から「地域枠」の設定へ

- 地域枠等については、特定の地域や診療科で診療を行うことを条件とした選抜枠として設けられてきたが、臨時定員に係る地域枠等については、不適切な運用実態が判明したため、令和2年度入学者から、一般枠と別の試験を実施する別枠方式による選抜及び医師不足地域の医師確保と医師の能力開発・向上に資する都道府県のキャリア形成プログラムの適用等を行うこととした。
- また、これまで用いられてきた「地域枠等」という呼称については定義が曖昧であり、都道府県ごとで運用が異なっていたため、令和4年度以降は、臨時定員に係る地域枠は、別枠方式により選抜した上で、原則として、医師として勤務開始直後より当該都道府県内で9年以上従事すること及び、キャリア形成プログラムに参加することを要件とした。

(2) 臨床研修制度における地域偏在対策

- 平成16年の臨床研修必修化後、研修医の募集定員が研修希望者の1.3倍を超える規模まで拡大し、研修医が都市部に集中する傾向が続いた。平成22年度の研修から都道府県別の募集定員上限を設定し、面積当たりの医師数や、人口当たりの医師数等を勘案することで医師が比較的少ない都道府県の定員を確保しつつ、研修希望者よりも多く確保している全国の募集定員を絞っていくことにより、地域偏在対策を講じた。平成27年度には募集定員倍率を1.22倍まで縮小し、将来的には、令和7年度までに約1.05倍まで縮小する方針である。

(3) 専門医制度における地域・診療科偏在対策

- 平成30年に開始した新専門医制度においては、地域偏在と診療科偏在について配慮されるべきとされ、日本専門医機構が、都道府県別・診療科別の専攻医の採用数の上限を設定した(シーリング)。当初は、5大都市を対象としていたが、令和2年度以降は、各都道府県別診療科の必要医師数に達している診療科に対して、一定のシーリングが設定されている。このシーリングの設定に当たっては、地域の実態にも配慮しつつ実効性のある偏在対策となるよう、都道府県の意見を踏まえ、厚生労働大臣から日本専門医機構へ意見・要請を行っている。

(4) 都道府県における地域偏在対策

- 都道府県においては、平成30年に改正された医療法・医師法に基づき、地域ごとの医師の多寡を全国ベースで客観的に比較・評価可能な医師偏在指標により、自県の偏

在状況を把握するとともに、目標とする医師数や医師確保の方針などを盛り込んだ医師確保計画を策定し、地域医療介護総合確保基金を活用しつつ、大学と連携した地域枠の設定（自都道府県以外の大学に設定する地域枠を含む）、地域枠学生等への修学資金の貸与、地域医療支援センターの運営、キャリア形成プログラムの作成と充実等の取組により、偏在解消に向けた対策を講じている。

- また、医師多数区域から医師少数区域への医師の流れを促進するために、医師確保計画において医師少数区域における医師の勤務環境の改善に努めるとともに、医師少数区域等での一定期間の勤務経験を厚生労働大臣が認定・評価する制度を創設し、認定を受けた医師について、地域医療支援病院の管理者要件や医師少数区域等で診療を実施する際の支援等のインセンティブを設定している。
- 地域における外来医療機能の不足・偏在等については、外来医療機能に関する情報の可視化、外来医療機能に関する協議等について盛り込んだ外来医療計画を策定するとともに、新規開業希望者に対し、地域に必要とされる医療機能を担うよう求める等の対策を講じている。

4. 将来の医師需給に関する本分科会の考え方

(1) 医師需給を取り巻く状況と認識

- 本分科会では、日本全体で将来的な医師の過剰や不足が起こることなく将来にわたり良質な医療が提供されるよう、医師の需給推計を行い、それに基づき医師養成数や医師偏在対策等について議論を重ねてきた。
- 中長期的な医療ニーズや医師の働き方改革を織り込んだ医師の需給推計を踏まえると、これまで地域枠を中心に段階的に医学部定員を増員してきたことにより、全国レベルで毎年3,500人～4,000人ずつ増加しているが、令和11年頃に需給が均衡し、その後も医師数は増加を続ける一方で、人口減少に伴い将来的には医師需要が減少局面になるため、医師の増加のペースについては見直しが必要である。しかし、医師の地域偏在・診療科偏在は依然として存在することから、これら医師偏在への対応策を講じることが引き続き重要である。
- 中長期のマクロの医師需給の見通しに大きな変化はないと考えられるが、今般の新型コロナウイルス感染症の流行によって、一時的、局所的に医療提供体制が逼迫する事態が生じ、緊急時に柔軟に、また、機動的に対応できる医療提供体制（人材の確保も含む）の構築があわせて求められている。
- このため、今後は、地域医療構想の推進及びマクロの需給推計に基づく医師養成数の見直しに加え、令和3年に改正された医療法により位置付けられた新興感染症対策が盛り込まれた医療計画とその一部を構成する医師確保計画等の策定を通じて、適切な医療提供体制や適正な医師の配置について議論を深め、必要な措置を講じていくことが重要となる。

(2) 令和5年度以降の医師養成数について

- 医師需給を取り巻く状況を考慮した上で、令和5年度以降の具体的な医師養成数に関する対応方針については、マクロの医師需給推計に基づく医師養成数の見直しの必

要性に留意しながら、都道府県等との協力のもと一層の医師偏在対策等を進めつつ検討し、決定する必要があると考える。その際は医学部定員の変更が実際に地域の医師数に反映される時期も踏まえるべきである。

- 平成 22 年度以降、歯学部入学定員の削減を行う大学に対し、一定数の医学部臨時定員の増加が認められてきたが、当該枠組みに期待された役割は一定程度果たされたと考えられる。そのため、令和 5 年度の医学部定員については、当該枠組みを廃止するとともに、地域枠制度の中で、地域医療や社会におけるニーズに対応するための枠組みを充実させるために活用すべきである。
- 令和 6 年度以降の医学部定員については、医療計画の策定を通じた医療提供体制や医師の配置の適正化とともに検討する必要があることから、「第 8 次医療計画等に関する検討会」等における議論の状況を踏まえ、検討する必要がある。
- その際、各都道府県が地域枠に対して課している勤務地域や診療科に関する従事要件についての実態を把握するとともに、医師の地域への定着が図られ、地域偏在・診療科偏在対策に資する従事要件の設定方法についても検討することが重要である。

5. 今後の偏在対策等に関する提言

- 本分科会での議論を踏まえ、新たな医師養成課程を通じた医師偏在対策や都道府県における偏在対策が開始された。地域枠医師の高い地域定着割合、医師少数都道府県の若手医師の増加、都市部以外の臨床研修医数の増加、大都市周辺都市の専攻医採用数の増加といったデータからは、偏在対策に一定の効果が現れ始めていると考えられるが、医師の養成には時間を要し、現時点での効果は限定的であるため、十分に効果検証を行った上で、偏在対策について検討を行うべきである。その際、本分科会として、特に留意すべきであると確認した事項は以下のとおり。

(1) 医師養成過程における地域・診療科偏在対策

- 大学医学部、臨床研修、専門医制度における医師偏在対策を進めてきたが、大学医学部における地域枠の設定は、地域における医師の確保を図るために有効な手段の一つと考えられるため、地域の実情に応じて地域枠の設置・増員を進めると共に、現行の臨時定員の数や都道府県・大学に対する配分を見直した上でその活用を図ることも必要である。その際、安定した運用の観点からは、恒久定員内で措置することが望ましく、自治体や大学の状況や考えを十分に踏まえながら、各都道府県の医学部定員内に必要な数の地域枠を確保し、地域における医師の確保を図ることが重要である。
- 医師養成過程における偏在対策については、実効性のある取組となるよう、今後も、大学医学部の地域枠に関する議論と連携しながら、臨床研修制度における偏在対策は医道審議会医師分科会医師臨床研修部会で、専門医制度における偏在対策は同分科会医師専門研修部会及び日本専門医機構において引き続き検討が進められることが必要である。
- 併せて、キャリア形成プログラムについては、地域医療に従事する医師を増やす取組、学生時から地域医療に貢献・従事したいという意識を涵養・醸成させる取組、及び地域医療の従事と医師としての研鑽を両立可能とする取組を進める観点から、各都道

府県において、キャリア形成プログラムの対象者の満足度等の意見聴取も踏まえながら、更なる充実・魅力化を積極的に進めていくことが重要である。国は、都道府県における効果的な取組を促進するため、先進的な事例やノウハウを全国に展開していくための技術的支援や地域医療介護総合確保基金による支援等を行うことが必要である。

(2) 医師確保計画及び外来医療計画

- これまで本分科会で議論を進めてきた医師確保計画及び外来医療計画については、今後、「第8次医療計画等に関する検討会」において、医療計画や地域医療構想と一体的に議論されることが望ましい。
- 具体的には、令和6年度から開始される次期計画の策定に向け、令和3年度から令和4年度にかけて、現行計画の取組状況や効果を把握・評価した上で、「医師確保計画策定ガイドライン」及び「外来医療に係る医療提供体制の確保に関するガイドライン」の改正に向けた検討が行われることとなっており、引き続き検討していただきたい。
- また、医師不足地域での勤務に対するインセンティブを高める観点から、医師少数区域経験認定医師制度についても、必要な対応を「第8次医療計画等に関する検討会」などにて引き続き検討していくとともに、このような取組の一層の推進により、医師養成課程を通じた対策だけでは長時間かかると予想される医師偏在の是正を加速することが重要である。

(3) 総合的な診療能力を有する医師の養成

- 診療科偏在の背景には、医師の専門分化が進んだことが一因として考えられる。疾患の治療に高い専門性が求められる領域への対応は今後も必要である一方、今後、偏在対策を進める上では、限られた医療資源において、幅広い地域のニーズに対応できる総合的な診療能力を有する医師を育成することが重要である。
- 平成30年から新専門医制度での養成が開始された総合診療専門医については、この領域を目指す医師のためにも、専門医を取得した後のキャリアパスや、ロールモデルになるような医師像を示すことが重要である。
- 医学部教育を含む、臨床研修、専門医研修などの医師養成課程において、このような総合的な診療能力を有する医師の養成をさらに推し進めるとともに、既に特定の領域の専門性を有する医師が総合的な診療能力を身につけることを促すことで、幅広い世代において総合的な診療能力を有する医師数を増やすことも重要である。
- 一方で、医師の診療科偏在の是正のためには、総合的な診療能力を有する医師のあり方だけでなく、既存の偏在対策や地域の実態も加味し、総合的に検討する視点も重要である。

(4) 医師の働き方改革との連動

- 地域で必要とされる医師を確保する上で、地域医療を担う勤務医の勤務環境を改善することは重要である。今般、勤務医の労務管理の徹底や健康確保措置の整備を行うなどの医師の働き方改革に対応する事項を盛り込んだ改正医療法が成立したところであり、今後、都道府県・医療勤務環境改善支援センター等による医療機関への支援を通

じて、適切な労務管理や労働時間短縮などの医師の働き方改革が推進されることとなる。

- その中で、ICT・AI といった技術の進歩やタスク・シフト/シェアが推進されることで医療提供体制が変容し、医師の働き方の変化や多様化が進むと考えられる。一方で、働き方改革を推進する上では、出産・育児・介護などを経験する医師が、仕事と家庭を両立できるような勤務環境の改善が重要である。今後は、このような医師の働き方をめぐる新たな要因も踏まえた偏在対策を検討する事が必要である。

6. おわりに

- 平成 27 年 12 月発足時の本分科会の最大の問題意識は、地域の医師不足を背景に、それまでの約 10 年間医学部定員の暫定的な増員が行われてきたものの、医師の地域偏在、診療科偏在の解消につながっていないのではないかという点であった。本分科会では、医師の偏在対策を最重要課題として位置づけ、6 年にわたって対応策の検討を重ね、それまでの偏在対策から一步を踏み出し、客観的指標に基づく偏在対策の実施につなげることができたが、今後、医師偏在の解消を目指し、施策の実効性を高め、より一層取組を推進する必要がある。
- その際、医師確保計画をはじめとする新たな医師偏在対策の成果を実効性の観点から分析し、さらなる改善につなげる必要があるとともに、第 2 次中間とりまとめにおいて将来に向けた課題として整理した、①専門研修における診療科ごとの都道府県別定員設定、②医師少数区域経験認定医師を管理者の要件とする医療機関の拡大、③無床診療所の開設に対する新たな制度上の枠組みの導入等については、これまでの取組みの効果をみるとともに、これらが及ぼす様々な影響等を考慮したうえで、改めて検討されることを期待する。
- 本分科会の当初からのミッションであった医師の需給推計に基づく今後の医学部定員の在り方については、未だ最終結論を得られていない。少子高齢化や人口減少に伴い医療ニーズが変化する中、医師の働き方改革を踏まえた労働時間短縮の影響を加味した場合においても、推計上将来のマクロの医療需要が減少する傾向は大きく変わらないと考えられる。
- 今後の医学部定員については、現在、「第 8 次医療計画等に関する検討会」の下、地域医療構想や医師の働き方改革の推進、将来の新興感染症への対応の観点から、医師を含めた医療提供体制の確保に関する方針について議論が進められている状況を踏まえて、改めて検討する必要があると考える。
- その際、地域偏在対策の切り札の一つと考えられる地域枠定員数の将来時点における必要医師数に基づく都道府県間の調整についても、同一の三次医療圏にあっても二次医療圏ごとに医療提供体制が大きく異なること等を踏まえ、改めて検討する必要がある。また、都道府県は、地域医療対策協議会での協議内容を踏まえ、地域医療支援センターを活用するなどにより、地域の実情に応じた施策を実施することが重要である。
- これらの検討が行われる際、本分科会における 6 年間の議論がその中で活かされる

とともに、関係者が自身の視点に加えて、他の関係者の多様な意見も理解し、我が国の医療を最適化する上で最も合理的と考えられる結論が得られなければならない。本分科会としても、今後の検討における役割や体制の見直しを含め、会の在り方を再整理する必要がある。

1 (書類等の題名)

○競合校学費一覧

(本文 6 ページ、資料 33 ページ【資料 3】)

2 (出典)

○北里大学、各大学ホームページ等

3 (引用範囲)

○医学部の競合校 計 19 大学について、各大学ホームページ等から 2022 年度初年度納付金を引用した。

【資料4】

過去5年間（2019（平成31）年度～2023（令和5）年度）の医学部入学試験状況

学校推薦型選抜試験（指定校）（単位：人）

	志願者	受験者	合格者	入学者	倍率
2023(R5)	64	64	35	35	1.83
2022(R4)	57	57	35	35	1.63
2021(R3)	74	74	35	35	2.11
2020(R2)	78	78	35	35	2.23
2019(H31)	71	71	38	38	1.87

学校推薦型選抜試験（神奈川県地域枠指定校）（単位：人）

	志願者	受験者	合格者	入学者	倍率
2023(R5)	15	15	5	5	3.00
2022(R4)	7	7	5	5	1.40
2021(R3)	13	13	5	5	2.60
2020(R2)	11	11	5	5	2.20

学校推薦型選抜試験（茨城県地域枠指定校）（単位：人）

	志願者	受験者	合格者	入学者	倍率
2023(R5)	7	7	4	4	1.75
2022(R4)	4	4	4	4	1.00
2021(R3)	7	7	2	2	3.50
2020(R2)	2	2	2	2	1.00

学校推薦型選抜試験（山梨県地域枠指定校）（単位：人）

	志願者	受験者	合格者	入学者	倍率
2023(R5)	3	3	2	2	1.50
2022(R4)	1	1	1	1	1.00
2021(R3)	3	3	2	2	1.50
2020(R2)	3	3	2	2	1.50

学校推薦型選抜試験（埼玉県地域枠指定校）（単位：人）

	志願者	受験者	合格者	入学者	倍率
2023(R5)	5	5	2	2	2.50

学校推薦型選抜試験（新潟県地域枠指定校）（単位：人）

	志願者	受験者	合格者	入学者	倍率
2023(R5)	10	10	3	3	3.33

一般選抜試験

(単位：人)

	志願者	受験者	合格者	入学者	倍率
2023 (R5)	2016	1907	308	74	6.19
2022 (R4)	2186	2078	327	75	6.35
2021 (R3)	1915	1826	401	73	4.55
2020 (R2)	1970	1902	235	74	8.09
2019 (H31)	1902	1823	290	81	6.29

医学部入学試験状況（学校推薦型選抜試験及び一般選抜試験の合計）（単位：人）

	志願者	受験者	合格者	入学者	倍率	定員超過率
2023 (R5)	2120	2011	359	125	5.60	1.00
2022 (R4)	2255	2147	372	120	5.77	1.00
2021 (R3)	2012	1923	445	117	4.32	0.99
2020 (R2)	2064	1996	279	118	7.15	1.00
2019 (H31) ※	1973	1894	328	119	5.77	1.00

※2018 (H30) 年度追加合格者 4 人については除く。

1 (書類等の題名)

- 2023 年度医学部指定校・地域枠指定校一覧
(本文 7 ページ、資料 36～39 ページ【資料 5】)

2 (出典)

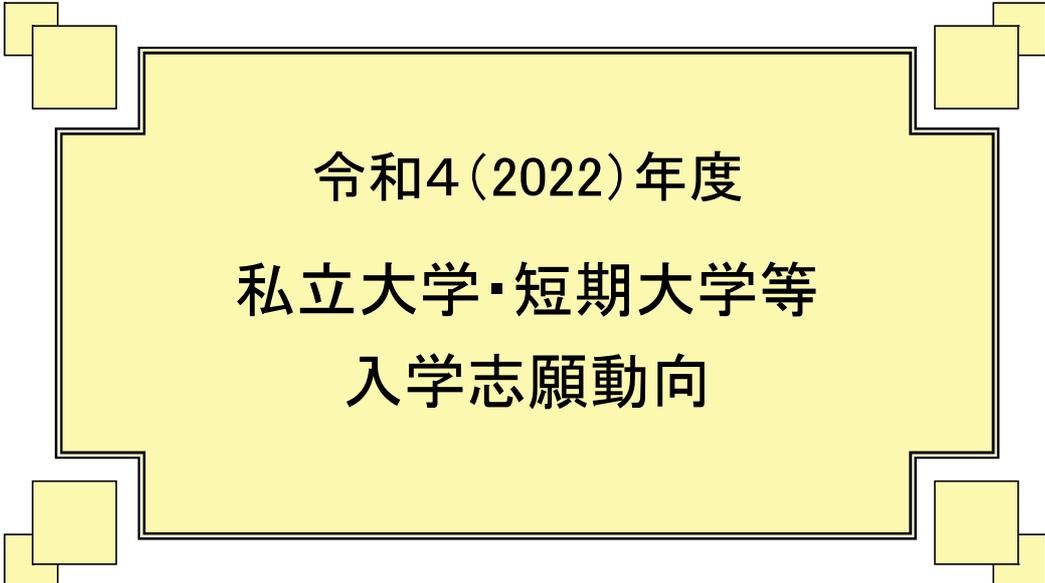
- 北里大学

3 (引用範囲)

- 指定校の学校名や募集人数を一覧にしたものであるが、一般に公表していない内容であるため、本書類に差し替える。

【資料6】日本私立学校振興・共済事業団

「令和4(2022)年度私立大学・短期大学等入学志願動向」(抜粋)



令和4(2022)年度
私立大学・短期大学等
入学志願動向

 日本私立学校振興・共済事業団

4. 学部系統別の動向（大学）

全学部を『今日の私学財政』の系統区分と同様に区分した（学部系統区分については、27ページを参照）。

系統区分	年度	集計 学部数	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願倍率 B/A	合格率 D/C	歩留率 E/D	入学定員 充足率 E/A
		学部	人	人	人	人	人	倍	%	%	%
医学	R3	31	4,091	98,563	91,218	9,693	4,099	24.09	10.63	42.29	100.20
	R4	31	4,125	97,957	90,253	9,634	4,146	23.75	10.67	43.04	100.51
	増減	0	34	△ 606	△ 965	△ 59	47	△ 0.34	0.04	0.75	0.31
歯学	R3	17	2,015	7,564	6,832	3,563	1,528	3.75	52.15	42.89	75.83
	R4	17	2,015	7,773	7,038	3,800	1,534	3.86	53.99	40.37	76.13
	増減	0	0	209	206	237	6	0.11	1.84	△ 2.52	0.30
薬学	R3	60	11,501	73,580	68,606	32,506	10,191	6.40	47.38	31.35	88.61
	R4	60	11,391	76,635	71,916	33,351	10,798	6.73	46.37	32.38	94.79
	増減	0	△ 110	3,055	3,310	845	607	0.33	△ 1.01	1.03	6.18
保健系	R3	254	38,143	188,155	180,494	80,307	38,130	4.93	44.49	47.48	99.97
	R4	266	39,789	184,961	177,173	81,466	39,444	4.65	45.98	48.42	99.13
	増減	12	1,646	△ 3,194	△ 3,321	1,159	1,314	△ 0.28	1.49	0.94	△ 0.84
理・工学系	R3	162	62,626	751,179	719,116	281,649	63,192	11.99	39.17	22.44	100.90
	R4	166	62,294	777,971	742,101	296,505	65,001	12.49	39.95	21.92	104.35
	増減	4	△ 332	26,792	22,985	14,856	1,809	0.50	0.78	△ 0.52	3.45
農学系	R3	25	9,042	78,039	72,644	34,714	8,717	8.63	47.79	25.11	96.41
	R4	25	8,875	79,742	73,968	33,437	9,110	8.99	45.20	27.25	102.65
	増減	0	△ 167	1,703	1,324	△ 1,277	393	0.36	△ 2.59	2.14	6.24
人文科学系	R3	245	68,184	520,901	501,151	199,642	67,710	7.64	39.84	33.92	99.30
	R4	250	68,634	498,562	477,398	212,472	67,898	7.26	44.51	31.96	98.93
	増減	5	450	△ 22,339	△ 23,753	12,830	188	△ 0.38	4.67	△ 1.96	△ 0.37
社会科学系	R3	526	171,506	1,379,159	1,317,801	490,212	174,183	8.04	37.20	35.53	101.56
	R4	528	171,944	1,379,719	1,316,040	518,999	176,636	8.02	39.44	34.03	102.73
	増減	2	438	560	△ 1,761	28,787	2,453	△ 0.02	2.24	△ 1.50	1.17
家政学	R3	83	16,133	60,407	56,819	33,126	15,183	3.74	58.30	45.83	94.11
	R4	82	15,758	57,535	54,387	31,209	15,015	3.65	57.38	48.11	95.28
	増減	△ 1	△ 375	△ 2,872	△ 2,432	△ 1,917	△ 168	△ 0.09	△ 0.92	2.28	1.17
教育学	R3	104	17,832	100,983	96,453	40,613	16,834	5.66	42.11	41.45	94.40
	R4	108	18,165	97,469	93,063	43,021	16,950	5.37	46.23	39.40	93.31
	増減	4	333	△ 3,514	△ 3,390	2,408	116	△ 0.29	4.12	△ 2.05	△ 1.09
体育学	R3	11	5,040	12,680	12,240	7,480	5,106	2.52	61.11	68.26	101.31
	R4	11	5,190	12,619	12,271	7,751	5,409	2.43	63.17	69.78	104.22
	増減	0	150	△ 61	31	271	303	△ 0.09	2.06	1.52	2.91
芸術系	R3	56	14,069	53,218	51,128	23,318	14,742	3.78	45.61	63.22	104.78
	R4	56	14,083	56,788	54,183	23,611	14,858	4.03	43.58	62.93	105.50
	増減	0	14	3,570	3,055	293	116	0.25	△ 2.03	△ 0.29	0.72
その他	R3	304	74,980	510,432	489,458	201,086	74,593	6.81	41.08	37.10	99.48
	R4	308	75,756	494,778	473,325	212,945	75,400	6.53	44.99	35.41	99.53
	増減	4	776	△ 15,654	△ 16,133	11,859	807	△ 0.28	3.91	△ 1.69	0.05
合計	R3	1,878	495,162	3,834,860	3,663,960	1,437,909	494,208	7.74	39.24	34.37	99.81
	R4	1,908	498,019	3,822,509	3,643,116	1,508,201	502,199	7.68	41.40	33.30	100.84
	増減	30	2,857	△ 12,351	△ 20,844	70,292	7,991	△ 0.06	2.16	△ 1.07	1.03

【資料7】18歳人口の将来推計

※注：割合は、未来工学部の1期生となる令和4(2022)年度の18歳人口を“100”と設定した

		R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R4→R14の ポイント差
全国	人数	1,167,348	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,062,870	1,089,970	1,092,118	1,086,573	1,070,466	1,068,289	1,049,877	1,034,548	1,023,963	-8.68
	割合	104.11	101.77	100.00	97.87	94.79	97.21	97.40	96.90	95.47	95.27	93.63	92.26	91.32	
南関東	人数	305,457	301,999	299,356	294,497	286,935	296,205	298,790	297,810	295,937	295,254	289,575	289,332	288,670	-3.57
	割合	102.04	100.88	100.00	98.38	95.85	98.95	99.81	99.48	98.86	98.63	96.73	96.65	96.43	
埼玉県	人数	65,634	64,508	63,542	62,543	61,183	62,797	62,864	62,858	62,493	61,849	60,036	59,723	59,587	-6.22
	割合	103.29	101.52	100.00	98.43	96.29	98.83	98.93	98.92	98.35	97.34	94.48	93.99	93.78	
千葉県	人数	55,220	54,908	53,904	53,438	51,411	52,883	52,926	53,796	52,669	52,233	51,260	50,271	49,742	-7.72
	割合	102.44	101.86	100.00	99.14	95.38	98.11	98.19	99.80	97.71	96.90	95.09	93.26	92.28	
東京都	人数	105,200	104,150	104,018	102,330	100,133	104,347	106,120	103,176	103,784	104,068	103,144	104,317	105,791	1.70
	割合	101.14	100.13	100.00	98.38	96.27	100.32	102.02	99.19	99.78	100.05	99.16	100.29	101.70	
神奈川県	人数	79,403	78,433	77,892	76,186	74,208	76,178	76,880	77,980	76,991	77,104	75,135	75,021	73,550	-5.57
	割合	101.94	100.69	100.00	97.81	95.27	97.80	98.70	100.11	98.84	98.99	96.46	96.31	94.43	

出典：文部科学省 学校基本調査より

出典：リクルート総研 18歳人口推移、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向 2020より

1（書類等の題名）

○神奈川県内競合校の状況

（本文 8 ページ、資料 43 ページ【資料 8】）

2（出典）

○株式会社玄文社

3（引用範囲）

○神奈川県内競合校の志願者・合格者・志願者倍率を引用した。

【資料9】本学既設学部・学科の学生募集の状況

〔薬学部 薬学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	260	260	260	260	260	260
志願者数	2,176	1,497	1,431	1,690	1,808	1,720
受験者数	2,107	1,436	1,379	1,627	1,763	1,662
合格者数	542	461	532	507	533	515
入学者数	273	265	265	265	264	266
充足率	105.0%	101.9%	101.9%	101.9%	101.5%	102.5%

〔薬学部 生命創薬科学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	35	35	35	35	35	35
志願者数	356	207	220	291	326	280
受験者数	353	197	210	286	321	273
合格者数	144	99	98	120	125	117
入学者数	35	37	37	36	37	36
充足率	100.0%	105.7%	105.7%	102.9%	105.7%	104.0%

〔獣医学部 獣医学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	120	120	120	120	120	120
志願者数	2,260	2,227	1,882	2,012	2,077	2,092
受験者数	2,184	2,139	1,807	1,947	2,010	2,017
合格者数	538	440	474	420	430	460
入学者数	124	132	131	131	131	130
充足率	103.3%	110.0%	109.2%	109.2%	109.2%	108.2%

〔獣医学部 動物資源科学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	130	130	130	130	130	130
志願者数	827	850	684	695	535	718
受験者数	745	762	592	597	478	635
合格者数	429	550	573	588	505	529
入学者数	133	130	115	140	118	127
充足率	102.3%	100.0%	88.5%	107.7%	90.8%	97.8%

〔獣医学部 生物環境科学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	90	90	90	90	90	90
志願者数	711	553	414	451	351	496
受験者数	667	509	384	406	319	457
合格者数	430	514	373	406	326	410
入学者数	99	91	45	71	48	71
充足率	110.0%	101.1%	50.0%	78.9%	53.3%	78.7%

〔医学部 医学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	119	118	119	120	125	120
志願者数	1,973	2,064	2,012	2,255	2,120	2,085
受験者数	1,894	1,996	1,923	2,147	2,011	1,994
合格者数	328	279	445	372	359	357
入学者数	123	118	117	120	125	121
充足率	103.4%	100.0%	98.3%	100.0%	100.0%	100.3%

〔海洋生命科学部 海洋生命科学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	180	180	180	180	180	180
志願者数	2,204	1,892	1,641	1,711	1,579	1,805
受験者数	2,028	1,685	1,496	1,519	1,393	1,624
合格者数	670	632	645	657	599	641
入学者数	192	193	192	196	202	195
充足率	106.7%	107.2%	106.7%	108.9%	112.2%	108.3%

〔看護学部 看護学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	120	125	125	125	125	124
志願者数	928	746	669	759	706	762
受験者数	890	724	647	737	689	737
合格者数	276	230	274	250	300	266
入学者数	130	140	125	125	136	131
充足率	108.3%	112.0%	100.0%	100.0%	108.8%	105.8%

〔理学部 物理学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	53	53	53	53	53	53
志願者数	552	619	475	498	382	505
受験者数	541	604	463	482	373	493
合格者数	278	237	260	259	242	255
入学者数	52	56	58	64	50	56
充足率	98.1%	105.7%	109.4%	120.8%	94.3%	105.7%

〔理学部 化学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	80	80	80	80	80	80
志願者数	831	879	796	819	741	813
受験者数	815	855	773	799	723	793
合格者数	372	360	328	402	430	378
入学者数	84	88	88	80	97	87
充足率	105.0%	110.0%	110.0%	100.0%	121.3%	109.3%

〔理学部 生物科学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	80	80	80	80	80	80
志願者数	862	842	778	753	792	805
受験者数	844	820	756	722	777	784
合格者数	300	347	375	326	330	336
入学者数	83	88	87	87	83	86
充足率	103.8%	110.0%	108.8%	108.8%	103.8%	107.0%

〔医療衛生学部 保健衛生学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	40	40	40	40	40	40
志願者数	150	181	103	74	69	115
受験者数	123	176	94	69	64	105
合格者数	103	90	114	127	102	107
入学者数	41	40	42	32	49	41
充足率	102.5%	100.0%	105.0%	80.0%	122.5%	102.0%

〔医療衛生学部 医療検査学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	105	105	105	105	105	105
志願者数	639	666	452	426	427	522
受験者数	601	633	437	413	411	499
合格者数	208	236	216	253	195	222
入学者数	110	110	110	110	108	110
充足率	104.8%	104.8%	104.8%	104.8%	102.9%	104.4%

〔医療衛生学部 医療工学科 臨床工学専攻〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	45	45	45	45	45	45
志願者数	214	208	171	158	126	175
受験者数	196	195	161	151	122	165
合格者数	65	71	82	76	69	73
入学者数	47	47	47	47	46	47
充足率	104.4%	104.4%	104.4%	104.4%	102.2%	104.0%

〔医療衛生学部 医療工学科 診療放射線技術科学専攻〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	70	70	70	70	70	70
志願者数	424	535	436	400	430	445
受験者数	401	507	417	388	413	425
合格者数	151	146	137	120	157	142
入学者数	73	73	73	73	71	73
充足率	104.3%	104.3%	104.3%	104.3%	101.4%	103.7%

〔医療衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	45	45	45	45	45	45
志願者数	415	445	318	263	316	351
受験者数	390	416	309	256	312	337
合格者数	118	109	109	96	95	105
入学者数	46	47	47	47	46	47
充足率	102.2%	104.4%	104.4%	104.4%	102.2%	103.6%

〔医療衛生学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	40	40	40	40	40	40
志願者数	121	150	101	75	77	105
受験者数	114	144	93	71	75	99
合格者数	84	76	88	80	105	87
入学者数	42	42	41	45	38	42
充足率	105.0%	105.0%	102.5%	112.5%	95.0%	104.0%

〔医療衛生学部 リハビリテーション学科 言語聴覚療法学専攻〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	30	30	30	30	30	30
志願者数	94	70	76	39	53	66
受験者数	87	66	74	37	51	63
合格者数	43	42	46	37	44	42
入学者数	32	32	31	30	30	31
充足率	106.7%	106.7%	103.3%	100.0%	100.0%	103.3%

〔医療衛生学部 リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	30	30	30	30	30	30
志願者数	61	81	49	42	50	57
受験者数	55	71	48	41	49	53
合格者数	43	43	47	41	35	42
入学者数	32	32	32	31	33	32
充足率	106.7%	106.7%	106.7%	103.3%	110.0%	106.7%

〔未来工学部 データサイエンス学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員					100	100
志願者数					451	451
受験者数					441	441
合格者数					301	301
入学者数					105	105
充足率					105.0%	105.0%

※上記は推薦、一般、共通テスト利用、総合型、帰国生徒、地域枠、社会人の合計値

1 (書類等の題名)

- 本学既設学部・学科の志願者数 (実数)
(本文 8 ページ、資料 48～51 ページ【資料 10】)

2 (出典)

- 北里大学

3 (引用範囲)

- 本学の志願者実数や学内の併願状況を示した資料であるが、一般に公表していない情報であるため、本書類に差し替える。

【資料11】「医学教育モデル・コア・カリキュラム
(令和4年度改訂版)」(抜粋)

第1章 医師として求められる基本的な資質・能力

医師は、医師としての基本的な価値観を備えたうえ、安全で質の高い医療を提供し、また、医学に新たな知見を積み重ねることができるよう、以下の資質・能力について、生涯にわたって研鑽していくことが求められる。

PR: プロフェッショナリズム (Professionalism)

人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたりながら、医師としての道を究めていく。

GE: 総合的に患者・生活者をみる姿勢 (Generalism)

患者の抱える問題を臓器横断的に捉えた上で、心理社会的背景も踏まえ、ニーズに応じて柔軟に自身の専門領域にとどまらずに診療を行い、個人と社会のウェルビーイングを実現する。

LL: 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (Lifelong Learning)

安全で質の高い医療を実践するために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続け、積極的に教育に携わっていく。

RE: 科学的探究 (Research)

医学・医療の発展のための医学研究の重要性を理解し、科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動に関与して医学を創造する。

PS: 専門知識に基づいた問題解決能力 (Problem Solving)

医学及び関連する学問分野の知識を身に付け、根拠に基づいた医療を基盤に、経験も踏まえながら、患者の抱える問題を解決する。

IT: 情報・科学技術を活かす能力 (Information Technology)

発展し続ける情報化社会を理解し、人工知能等の情報・科学技術を活用しながら、医学研究・医療を実践する。

CS: 患者ケアのための診療技能 (Clinical Skills)

患者の苦痛や不安感に配慮し、確実に信頼される診療技能を磨き、患者中心の診療を実践する。

CM: コミュニケーション能力 (Communication)

患者及び患者に関わる人たちと、相手の状況を考慮した上で良好な関係性を築き、患者の意思決定を支援して、安全で質の高い医療を実践する。

IP: 多職種連携能力 (Interprofessional Collaboration)

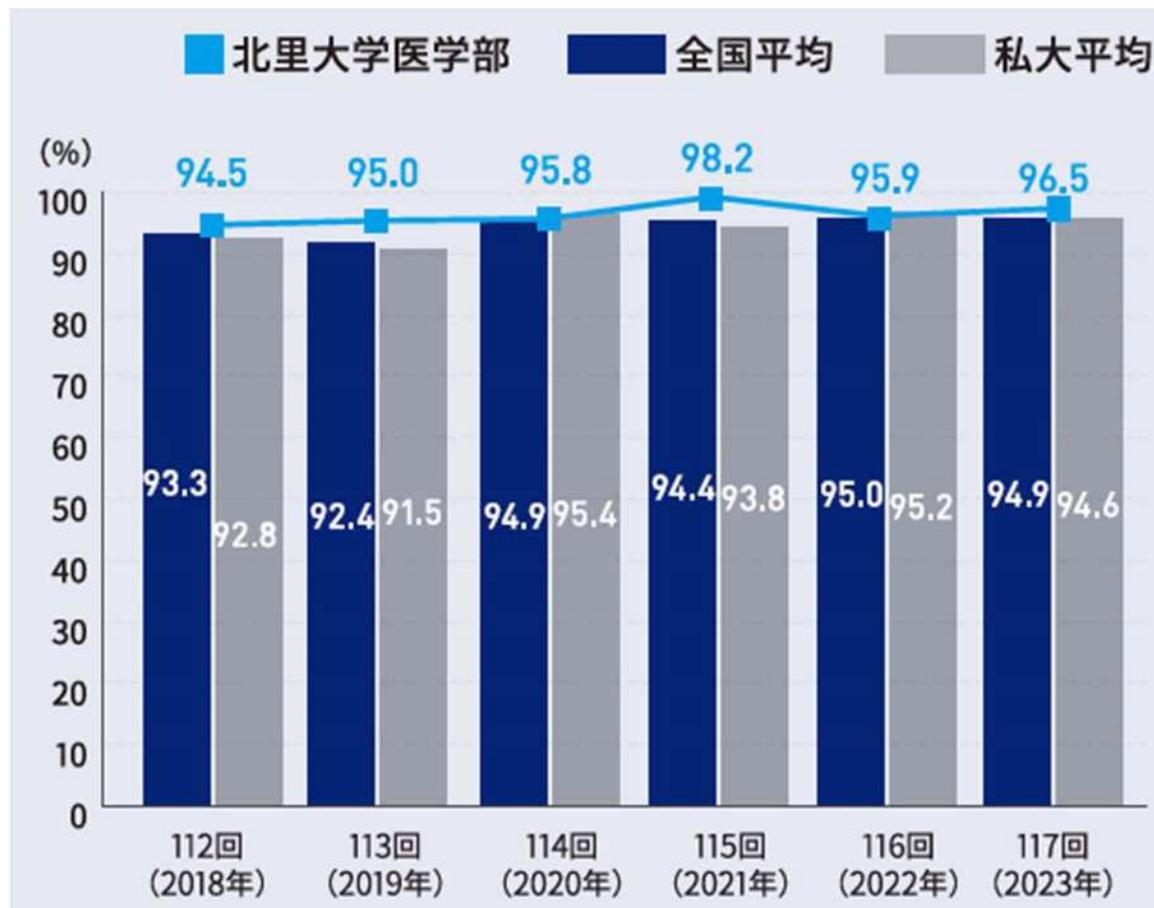
医療・保健・福祉・介護など患者・家族に関わる全ての人々の役割を理解し、お互いに良好な関係を築きながら、患者・家族・地域の課題を共有し、関わる人々と協働することができる。

SO: 社会における医療の役割の理解 (Medicine in Society)

医療は社会の一部であるという認識を持ち、経済的な観点・地域性の視点・国際的な視野なども持ちながら、公正な医療を提供し、健康の代弁者として公衆衛生の向上に努める。



医師国家試験合格状況(新卒)



2023年(117回)結果

新卒 **96.5%**

(受験者数114名、合格者数110名)

⇒全国平均94.9%(82校中34位)

⇒私大平均94.6%(31校中14位)

卒業生累計	5,444名
合格者累計	5,410名
合格率	99.7%

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	シマブクロ キョウコ 島袋 香子 <令和2年7月>		博士 (看護学)		北里大学長 (令和2年7月1日 ～令和6年6月30日)